

令和4年度

病 院 年 報

第 20 号



日本赤十字社

高槻赤十字病院

理 念

私たちは人道・博愛の赤十字精神に基づき、高度で安全な医療を提供し、地域の人々が誇りにする病院となるよう努めます。

方 針

1. 患者さんの人権と意思を尊重し、患者さん中心の医療をおこないます。
2. 一人ひとりの患者さんを全職員が支援する、チーム医療をおこないます。
3. 患者さんのホームドクターと緊密に連携し、地域で完結する医療をおこないます。
4. 常に向上心と研究心をもち、最高最善の医療が実現できるように努めます。
5. 健全な病院経営と地域に貢献できる医療従事者の育成に努めます。
6. 災害救護活動をはじめとする赤十字にかせられた使命を果たします。

患者さんの権利の尊重

1. 患者さんは個人として常にその人格を尊重される権利があります。
2. 患者さんは良質な医療を平等に受ける権利があります。
3. 患者さんは自分が受ける治療や検査の効果や危険性、他の治療法の有無等について、分かりやすい説明を受ける権利があります。
4. 患者さんは自分が受ける治療計画を立てる過程に参加し、自分の意見を表明し、自己決定する権利があります。医療機関を選択し、転院・退院する権利があります。
5. 患者さんは自分が受けている医療について知る権利があります。
6. 患者さんは自分の情報を自分の承諾無くして第三者に開示されない権利があります。

看護部の理念

赤十字の理念に基づき、療養生活支援の専門家として、根拠に基づいた安心・安全な看護を提供し、看護の対象者がその人なりの生活ができるよう支援します。

令和 4 年度病院年報出版にあたり

令和4年度(2022.4～2023.3)版病院年報がまとまりました。高槻赤十字病院のホームページにてアップしています(<https://www.takatsuki.jrc.or.jp>)。

令和4年度を振り返りますと、高槻赤十字病院は前年に引き続き病棟でのクラスターの発生や職員の感染など新型コロナ感染症に振り回されました。しかし、活用できる医療資源を最大活用してPCR検査など数万件の検査を行い、発熱外来などを通じて地域医療に貢献できました。

一方病院の経営改革を継続し経営上はキャッシュフローの黒字化を維持しました。その結果令和5年3月にはMRI装置の更新を行いました。今後老朽化した医療機器を適宜更新し良質で安全な医療を提供し、地域の方々に信頼される病院となるよう努めます。

令和6年1月末日

院長 玉田 尚

目 次

I 病院の沿革

病院の沿革	1
-------------	---

II 病院の現況

1. 病院の特色	6
2. 施設の概要	7
3. 各種法律に基づく医療制度指定・承認	7
4. 各学会認定の認定医・専門医教育指定等状況	8
5. 診療体系	9
6. 施設基準	10
7. 配置図	13
8. 付近見取図	14
9. 主な施設・機器	15
10. 年 表（沿革）	18
11. 整備医療器械備品	22

III 組織及び職員

1. 高槻赤十字病院組織図	23
2. 幹部職員	24
3. 職員現況表	25
4. 職種別・年齢別・職員構成表	25
5. 会議及び委員会	26

IV 統 計

1. 令和4年度実績表	27
2. 入院患者数	28
3. 入院稼働額	29
4. 入院単価	30
5. 外来患者数	31
6. 外来稼働額	32
7. 外来単価	33
8. 科別患者構成比	59
9. 診療科年齢別構成表	60

10. 救急患者数	61
11. 剖検件数	62
12. 紹介率・逆紹介率	63
13. 食事別給食数	64
14. 栄養指導件数	65
15. 手術件数	66
16. 医業収益・費用及び医業外収益・費用の構成について	67
17. 病院利益（損失）	68
18. 年間購入雑誌一覧	69
19. 医療社会事業年報	70

V 退院患者疾病統計

1. 月別退院患者数	71
2. 科別・月別退院患者数	72
3. 科別・転帰別退院患者数	73
4. 疾病大分類別・性別退院患者数	74
5. 疾病大分類別・診療科別退院患者数	75
6. 疾病大分類別・転帰別退院患者数	76
7. 科別死亡数および剖検数	77

VI 診療科・部門別活動実績

総合診療科	78
緩和ケア科	79
血液腫瘍内科	80
循環器科	81
消化器科・消化器内視鏡センター	82
神経内科	85
呼吸器外科	86
呼吸器科	87
小児科	91
外科	93
脳神経外科	97
整形外科	98
形成外科	100
皮膚科	101
泌尿器科	104

産婦人科	106
眼 科	107
耳鼻咽喉科	108
放射線科部 及び 核医学科部	109
リハビリテーション科	112
麻酔科	116
救急部	118
医療技術部	119
薬剤部	123
検査部	129
病理診断科部	132
看護部	133
医療社会事業部	145
医療安全推進室	170
教育研修推進室	176
事務部	177
Ⅶ 委員会活動	
委員会	179
Ⅷ 誌上・講演発表	
誌 上	247
講 演	255

I 病院の沿革

I. 病院の沿革

当院は、昭和 16 年 11 月 2 日、「日本赤十字社大阪支部病院分院阿武野勝景園」として誕生しました。

日本赤十字社大阪支部は、大正から昭和にかけて蔓延し、「亡国病」とまでいわれた結核の予防と治療という国家的見地に立って、昭和 10 年頃から大規模な結核療養所の建設を計画していました。この計画を知った東洋紡績株式会社からの寄付金を基金とし、各方面からの援助も得て、昭和 15 年 6 月より大規模な建設工事が始まりました。

生駒連峰を望み、北摂平野を見下ろす、林間景勝の地（当時の三島郡阿武野村、土室・奈佐原・塚原の三大字にわたる地域）にちなみ「阿武野勝景園」と命名され、敷地は約 20 万坪、近世式木造平屋建、一部 2 階建 71 棟、134 室、250 床を有し、非常時には 400 床の収容が可能な結核療養所が完成しました。

しかしながら、竣工式の一ヵ月後の 12 月 8 日に太平洋戦争が始まり、当院も時代の大きな渦に飲み込まれて行くこととなりました。

昭和 17 年 5 月 20 日からは「大阪陸軍病院阿武野赤十字病院」として、軍患者を収容することとなり、昭和 20 年 6 月 6 日以降は「大阪第二陸軍病院阿武野赤十字病院」として中部軍所属となり 475 名の傷病兵を受け入れ救護にあたりました。

終戦後の昭和 20 年 11 月 30 日、軍病院は解除され、12 月 1 日からは「大阪赤十字病院阿武野勝景園」として軍患者以外の一般診療を開始し、昭和 22 年 9 月 1 日には、分院から昇格し「大阪阿武野赤十字病院」と改称し独立しました。

戦後の厳しい状況下にあっても、患者の食糧や燃料の欠乏を補うため、農作業や薪炭作りの勤労奉仕にあたり、また府下の有力大病院が結束して結成した結核病院協会に参画する一方、近接地域に結核相談部を開設して巡回診療を実施するなど、事業進展に最大限の努力を行った時代でもありました。

戦後 20 年を経て高度経済成長の時代の中、千里丘陵での万国博覧会の開催と相まって高槻市、茨木市などは京阪神のベッドタウンとして大きな発展を見せはじめました。病院の周辺においても宅地造成が進み、隣接地域に約 3000 戸の公団住宅が建つなど目ざましいものがありました。住民の地域医療に対する渴望に応えることが求められるようになり、時を同じくして結核患者の急速な減少が見られるようになったことから、一般各科の診療を開始し、総合病院への転換を図ることになりました。

昭和 45 年 1 月 1 日、病院名を現在の「高槻赤十字病院」に改称し、同年 2 月より第一次病院整備事業として外来診療棟を中心とした、一般科患者の入院設備も有する鉄筋コンクリート造り、地下 1 階地上 3 階の新館において診療を開始しました。とはいえ、当院の設立のいきさつもあり、この時点では、一般病床 99 床に対し、結核病床は 559 床でした。

新薬の開発など、結核の予防と治療は飛躍的に進歩しました。結核患者の減少傾向は一層加速し、懸命な経営改善への取り組みにも関わらず財政は悪化の一途をたどることとなり、ますます一般病床への移行が重要な課題となってきました。

昭和 53 年 10 月 31 日、鉄筋コンクリート 6 階建て、延床面積 22,991㎡の新病棟の完成により、

二次にわたった病院整備事業は一つの区切りを迎えることができました。この新病棟の完成により同年 11 月 21 日より名実ともに総合病院としての診療業務が開始されました。この時、一般病床 322 床、結核病床 197 床、合計 519 床と一般病床が結核病床を上回ることとなりました。その後も結核患者の減少と疾病構造の多様化に対応するため、結核病床の削減と一般病床の開設を順次行い、昭和 61 年 2 月には、一般病床 454 床、結核病床 65 床に、そして平成 9 年 3 月末には、この 65 床も廃止し、厚生省（当時）の結核患者収容モデル事業による陰圧室の病床（6 床）を設置することにより、一般病床 446 床、結核病床 0 床の病院となりました。

地域医療への取り組みでは、平成 4 年 4 月の医療法改定を受けて、平成 8 年 7 月には「高槻赤十字訪問看護ステーション」を開設、平成 10 年 10 月には「開放型病院」認定、平成 11 年 8 月には介護保険法の制定により「高槻赤十字病院居宅介護支援事業所」を設置するなど、訪問看護の充実、在宅介護支援、地域診療所との連携を図りつつ、地域住民への医療サービスの提供に努めてきました。

こうした中、がんの増加とそれを受けての終末期医療の充実を求める声の高まりを受けて、平成 14 年 5 月に緩和ケア病棟『Lakeside Home』（20 床）を尾広池の辺に開設しました。豊かな自然環境を生かした癒しの空間が特徴であり、「第 1 回癒しと安らぎの環境賞」の最優秀賞（ホスピス部門）を受賞しました。

また、当院の病院機能等への評価・格付けに関するところでは、平成 11 年 4 月には「臨床研修病院」の指定を受け、研修医の育成に貢献するとともに、平成 14 年 12 月には「地域がん診療拠点病院」に指定され、地域のがん診療の中核を担うこととなり、更に平成 16 年 2 月には第三者による医療機関の評価である「病院機能評価（Ver.3.1 一般病院 B）」の認定を受けました。

また、医療の I T 化が叫ばれる中、平成 17 年 11 月に電子カルテシステムを稼働することができました。

医療機器の高度化・医療の I T 化に伴い、安定した電力供給は必要不可欠なものとなり、環境保全・省エネルギー・省コストとともに、商用電力との併用による電力の二重化により、万一の際にも一定の電力が確保できるように、自家発電装置以外の発電設備としてガスコージェネレーションシステムを平成 18 年 6 月から稼働させました。

更に平成 17 年度にはこれらと並行し、老朽化・狭隘化という問題を抱えていた手術室を新たに外来正面玄関前に新築移転することになり、2 階部分にバイオクリーンルーム 2 室を含む計 7 室の手術室、1 階部分には生理機能検査室と外科の外来診察室、更には緩和ケア病棟や高槻市街が眼下に広がる場所に『外来化学療法室』を持つ新手術棟・外来棟が平成 18 年 3 月に竣工しました。

続いて平成 18 年 10 月には、旧手術室を内視鏡室・血液浄化療法室などに改修するとともに、眼科・整形外科を中心に外来部門も整備改修し、診療機能の整備とアメニティの向上にも努めました。併せて病院建物全体の耐震補強工事を行い、万一の際にも赤十字病院としての医療機能を保持できるようにしました。

この病棟改修、手術棟・内視鏡室の新設・改修、外来部門の整備にあわせ、診療機能・管理体制の充実にも努めました。平成 16 年 4 月には、それまで皮膚科の中に含まれていた形成外科部門を独立した診療科として標榜するとともに、呼吸器科についても呼吸器科（呼吸器アレルギー内科）と呼吸器外科に分科し、それぞれの専門性を発揮できる体制としました。続いて平成 18 年 7 月に

は、「糖尿病・内分泌・生活習慣病科部」「緩和ケア科部」「血液・腫瘍内科部」「消化器外科部」「乳腺外科部」「がん統合治療科部」を院内標榜し、患者により分かりやすい診療体制をめざしました。同時に、院長直属の機関として「医療安全推進室」を設置、専任リスクマネジャーを配置し、複雑化する医療への安全管理と患者への安心の提供のために専門に取り組む体制を強化しました。平成19年2月には、患者・家族のがんに関する不安や悩みの相談に応え、各種の要望に迅速かつ適切に対応するために、『がん相談支援センター』を設置しました。

この目まぐるしい病院運営の中にありながら、平成18年11月には、全国の赤十字病院が集う『第42回日本赤十字社医学会総会』を「地域の人々が感動し、誇りにする病院」をメインテーマに、当院の主催で国立京都国際会館にて開催し、全国から様々な職種が集い、1,000名余りの参加を得て大成功を収めることができました。

近年急性期病院としての必須の機能であり、長年の懸案であったICUについて、施設基準としての特定集中治療室管理料は届出しないものの、その機能を十分に持った6床を平成19年10月に3病棟の一画に開設することができました。

また、看護師確保対策として“看護職員が働きやすい職場を作り上げる”を主軸とした、院内保育所（高槻日赤保育園『すくすく』）と病児保育室を院内に開設するなどの対策を施し、看護師の採用を積極的に行うことで平成20年2月には念願の7対1入院基本料を算定できるようになりました。

更に同年7月にはDPC対象病院として承認されました。厚生労働省では平成15年4月より大学病院などを中心とした「特定機能病院」で診断群分類別包括支払（DPC）と呼ばれる診療報酬の包括評価制度を導入し、以後徐々にその対象を広げ、当院でも導入の必要性を認めたことから、平成17年1月、事務部内に「診療情報管理課」を設置し、平成18年より“DPC準備病院”として調査データの提出を厚生労働省に対して行っていました。

平成20年度より導入を進めてきた「放射線治療装置リニアック」も平成22年度4月には文部科学省の認可が下り、同年10月には厚生労働省“高エネルギー放射線治療”の稼働が許可され放射線治療を開始。翌年2月には正式に施設基準として認可され、大阪府がん診療拠点病院として癌治療に対する近代医療を提供することが可能となりました。

平成23年11月25日、医療機能の役割分担と連携、自院の役割の明確化と地域医療への貢献を主旨とし、予ねてより計画していた「地域医療支援病院」を取得。救急、紹介、特殊な技術を要する高機能外来など、急性期を中心とした医療提供体制を構築することができました。

平成24年2月には、より高度な内視鏡検査・治療に対応するため、消化器内視鏡センターを開設。また平成24年8月には緩和ケア診療科を開設し、緩和サポートチームが入院・外来を問わず患者のさまざまな苦痛の緩和、ご家族の抱える負担や気がかりへの関わり、治療方針や治療の場の選択にかかる意思決定などの支援を行い、ホスピスを提供する緩和ケア病棟と合わせ、緩和ケアにおける診療機能を充実させました。

平成 26 年 1 月 26 日には高槻市制 70 周年記念事業高槻市全域大防災訓練が開催され、当院から救護班として 25 名が参加、消防や各機関と連携して災害救護活動を実施し、赤十字病院としての使命を果たしました。

病院機能評価としては平成 16 年において病院機能評価 Ver.3.1 の認定、平成 21 年において病院機能評価 Ver.5.0 の認定を受けてから 5 年が経過し、平成 26 年 3 月に機能種別版評価項目 3rd G : Ver.1.0 の医療機関として改めて認定されました。

平成 26 年度から新たに「医療の質の評価を継続的に向上させる事業」Q I プロジェクトに参加を開始し、他の参加病院から医療の質改善の事例やノウハウを学ぶなど、病院経営や運営管理に生かす動きを行っています。

平成 26 年 7 月から患者支援センターを開設し、地域医療の中核病院としてかかりつけ医である開業医の先生方や回復期医療・福祉関連施設との連携を図り、地域における良質な医療を提供できる体制を確保し、紹介患者増加に努めています。

平成 26 年 7 月 26 日には医療の現場を知ってもらうことを目的として地域の中学生・高校生を対象にブラックジャックセミナー（手術体験セミナー）を開催し、地域社会への医療教育の貢献を行いました。

平成 26 年 8 月にはフェイスブック (SNS) を開設、11 月には病院診療科案内の冊子を初めて発行するなど様々な病院情報を発信し、広報戦略を展開させました。

平成 27 年 3 月から新たに眼科二次救急当直を毎週木曜日に開始し、医業収益の増収を図るとともに、地域に必要とされる医療提供を行っています。

平成 29 年 9 月に J R 摂津富田～病院間にてシャトルバスの運行を開始、また平成 30 年 6 月には JR 総持寺駅へ運行エリアを拡大し、病院へのアクセス改善を行っています。

平成 30 年 12 月には無菌治療室を 9 床（個室 1 室、4 人部屋 2 室）増床、これまでの個室 3 室を合わせ合計 12 床とし、免疫機能が低下した造血幹細胞移植やがん化学療法の患者さんの入院受入体制を充実させました。

平成 31 年 4 月に電子カルテシステムを更新し、業務の効率化、迅速化を図りました。

令和元年 5 月には老朽化及び大阪府北部地震による損傷のため使用が困難な 2 病棟を 8 病棟に移動し、新たにレディース病棟としてリニューアルオープンし、新入院患者の増加を図りました。

令和 2 年 8 月に新型コロナウイルス感染症拠点病院「重点医療機関」と認定される。

令和 3 年 3 月には、老朽化及び大阪府北部地震による損傷のため使用が困難な 2 病棟及び休棟となっていました 4 病棟併せて 104 床分を返還し、ダウンサイジングすることで、当院の身の丈にあった病床数 335 床へ変更となりました。

令和３年１１月には創立８０周年を迎え、新型コロナウイルス感染症に対して積極的な立ち位置を堅持して地域医療に貢献してきました。

今後も赤十字の使命として災害救護活動をもとに、災害医療対応も地域と共同して推進し「人道・博愛」の精神に基づいた、安全・安心な医療を提供するとともに、さらなる急性期医療提供体制の強化と“継続と変革”を高いレベルで補完し、永続的な発展を行える医療機関として日々邁進していきます。

Ⅱ 病院の現況

1. 病院の特色

医療機能

- ◎ 大阪府より『地域医療支援病院』に承認され、地域医療連携室を通じ、登録医の先生方との連携を密にし、地域に根差した病院として尽力しています。また、地域の登録医からの入院用に『開放病床』を49床設置しています。
- ◎ 大阪府より『がん診療拠点病院』の指定を受けており、地域のがん診療の中心的役割を担っています。また、『がん相談支援センター』の設置、平成22年10月には『放射線治療装置リニアック』の導入を行い、医療機能充実に努めています。
- ◎ 『2次救急告示病院』として地域の救急医療に貢献しています。
- ◎ 三島地区における『大阪府災害医療協力病院』として災害発生時の医療体制の提供を担っており、大規模災害時や救急時に対応できるように、ヘリコプターが離発着できるヘリポート用グラウンドを有しています。
- ◎ DPC対象病院として、平成20年7月より包括請求を実施しています。
- ◎ 看護体制を整備し、『急性期一般入院料1』を取得しています。
- ◎ 『光・水・緑』豊かな環境を生かした『緩和ケア病棟』を開設し、がん患者のケア施設として、身体的苦痛だけでなく、孤独感や不安を軽減し、患者さんがその人らしく尊厳を持って生きることのできる環境を提供しています。
- ◎ HCUを設置し、さらなる急性期医療の充実に努めています。
- ◎ 院長直属の組織として『医療安全推進室』を設置し、専任リスクマネージャーのもと、医療安全の推進に取り組んでいます。
- ◎ 一部の診療科はセンター化を行っており、より専門的な臓器別診療科や特殊外来の充実に努めています。
- ◎ 患者さんやそのご家族が住み慣れた地域で療養生活が継続できるよう他職種による協同支援体制を目的とした患者支援センターを開設しています。

その他

- ◎ 厚生労働省の臨床研修病院『基幹型臨床研修病院』として、また京都大学や大阪医科大学の臨床研修協力病院（施設）として、医師の初期研修の場として貢献しています。
- ◎ 電子カルテシステムを運用しており、診療情報の共有、医療の質の向上に努めています。
- ◎ 看護職員等の労働環境改善のために、『院内保育所』や『病児保育所』を開設しています。
- ◎ 医師職員の労働環境改善のため『医師事務補助職員』の導入を行っています。

2. 施設の概要

病 院

所 在 地	高槻市阿武野一丁目1番1号
敷 地	58,841.39㎡
建物建築面積	11,242.47㎡
建物延床面積	30,154.96㎡

付属施設

訪問看護ステーション

所 在 地 高槻市阿武野一丁目1番1号

3. 各種法律に基づく医療制度指定・承認

保険医療取扱機関	大阪府災害医療協力病院
国民健康保険療養取扱機関	母体保護法指定病院
労災保険指定病院	生活保護法指定病院
救急告示病院	第二種感染症指定医療機関
大阪府肝炎専門医療機関	公害健康被害補償法公害医療機関
児童福祉法医療給付指定医療機関	原子爆弾被爆者医療指定機関
大阪府がん診療拠点病院	地域医療支援病院
難病指定医療機関	小児慢性特定疾病指定医療機関
臨床研修指定病院	

4. 各学会認定の認定医・専門医教育指定等状況

担 当 診 療 科	名 称
	日本がん治療認定医機構認定研修施設
内 科	日本内科学会認定医制度教育病院
糖 尿 病 ・ 内 分 科 泌 ・ 生 活 習 慣 病 科	日本糖尿病学会認定教育施設
糖 尿 病 ・ 内 分 科 泌 ・ 生 活 習 慣 病 科	日本内分泌学会認定教育施設
糖 尿 病 ・ 内 分 科 泌 ・ 生 活 習 慣 病 科	日本老年医学会認定施設
緩 和 ケ ア 科 緩 和 ケ ア 診 療 科	日本緩和医療学会認定研修施設
血 液 ・ 腫 瘍 内 科	日本血液学会認定血液研修施設
循 環 器 科	日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
消 化 器 科	日本消化器病学会専門医制度認定施設
消 化 器 科	日本消化器内視鏡学会専門医指導施設
呼 吸 器 外 科	呼吸器外科専門医合同委員会呼吸器外科専門医制度基幹施設
呼 吸 器 外 科	日本胸部外科学会認定医認定制度指定施設
呼 吸 器 外 科 呼 吸 器 科	日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設
呼 吸 器 科	日本呼吸器学会認定施設
呼 吸 器 科	日本アレルギー学会認定教育施設
外 科	日本外科学会外科専門医制度修練施設
外 科	National Clinical Database 施設会員
消 化 器 外 科	日本食道学会全国登録認定施設
乳 腺 外 科	日本乳癌学会認定医・専門医制度関連施設
乳 腺 外 科 放 射 線 科	日本乳がん検診精度管理中央機構マンモグラフィ検診施設
整 形 外 科	日本整形外科学会専門医制度研修施設
形 成 外 科	日本形成外科学会教育関連施設
皮 膚 科	日本皮膚科学会認定専門医研修施設
皮 膚 科	日本アレルギー学会認定教育研修施設
泌 尿 器 科	日本泌尿器科学会泌尿器科専門医基幹教育施設
産 婦 人 科	日本産科婦人科学会専門医制度専攻医指導施設
産 婦 人 科	日本周産期・新生児医学会周産期専門医制度暫定研修施設（補完研修施設）
眼 科	日本眼科学会専門医制度研修施設
麻 酔 科	日本麻酔科学会麻酔科認定病院
病 理 診 断 科	日本病理学会研修認定施設 B
病 理 診 断 科	日本臨床細胞学会教育研修施設
薬 剤 部	日本医療薬学会認定薬剤師制度研修施設
薬 剤 部	日本医療薬学会がん専門薬剤師研修施設
薬 剤 部	日本医療薬学会薬物療法専門薬剤師研修施設
栄 養 課	日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設

5. 診療体系

診療科目 25 科

内 科 (内科、緩和ケア科)

糖尿病・内分泌・代謝内科 (糖尿病・内分泌・生活習慣病科)

血 液 内 科 (血液・腫瘍内科)

脳 神 経 内 科 消 化 器 内 科 循 環 器 内 科 呼 吸 器 内 科 呼 吸 器 外 科

外 科 (血管外科) 消 化 器 外 科 脳 神 経 外 科 整 形 外 科

産 婦 人 科 小 児 科 眼 科 皮 膚 科 形 成 外 科

耳 鼻 咽 喉 科 リハビリテーション科 泌 尿 器 科 放 射 線 科 麻 酔 科

病 理 診 断 科 乳 腺 外 科 美 容 皮 膚 科

専門外来

内 科 リウマチ・膠原病外来、緩和ケア

糖尿病・内分泌・代謝内科 糖尿病・内分泌外来、フットケア外来

血 液 内 科 血液外来、移植後外来 (造血幹)

脳 神 経 内 科 神経内科外来

消 化 器 内 科 消化器外来

循 環 器 内 科 循環器外来

呼 吸 器 内 科 睡眠時無呼吸外来、禁煙外来、ほっとひといき看護外来

呼 吸 器 外 科

外 科 消化器外来、乳腺外来、ストマ外来

脳 神 経 外 科

整 形 外 科 脊椎外来、肩外来、リウマチ外来

産 婦 人 科 子宮癌検診

小 児 科 心臓外来、ダウン症候群・神経外来、乳児健診、1 カ月健診

小児アトピー性皮膚炎外来

眼 科 緑内障外来、ロービジョン外来、網膜外来、眼形成外来

皮 膚 科 美容皮膚科外来、褥瘡外来

形 成 外 科 レーザー外来

耳 鼻 咽 喉 科 めまい外来

リハビリテーション科 身障診断

泌 尿 器 科 排尿ケア外来

病棟

	許可病床
3 病棟	34 床
5 病棟	58 床
6 病棟	58 床
7 病棟	49 床
8 病棟	54 床
9 病棟	56 床
緩和ケア病棟	20 床
HCU	6 床
計	335 床 (3/31 末現在)

6. 施設基準

基本診療料

一般病棟入院基本料（急性期一般入院料 1）
総合入院体制加算 3
救急医療管理加算
診療録管理体制加算 1
医師事務作業補助体制加算 1（20 対 1）
急性期看護補助体制加算（50 対 1）
看護職員夜間配置加算（16 対 1 配置加算 1）
重症者等療養環境特別加算
無菌治療室管理加算 1
無菌治療室管理加算 2
栄養サポートチーム加算
医療安全対策加算 1
感染防止対策加算 1
患者サポート体制充実加算
重症患者初期支援充実加算
報告書管理体制加算
褥瘡ハイリスク患者ケア加算
ハイリスク妊娠管理加算
術後疼痛管理チーム加算
後発医薬品使用体制加算 1
病棟薬剤業務実施加算 1
病棟薬剤業務実施加算 2
データ提出加算 2 イ
入退院支援加算 1（入院時支援加算・総合機能評価加算）
認知症ケア加算 1
せん妄ハイリスク患者ケア加算
精神疾患診療体制加算

地域医療体制確保加算
ハイケアユニット入院医療管理料 1
小児入院医療管理料 4
緩和ケア病棟入院料 2
看護職員処遇改善評価料 50

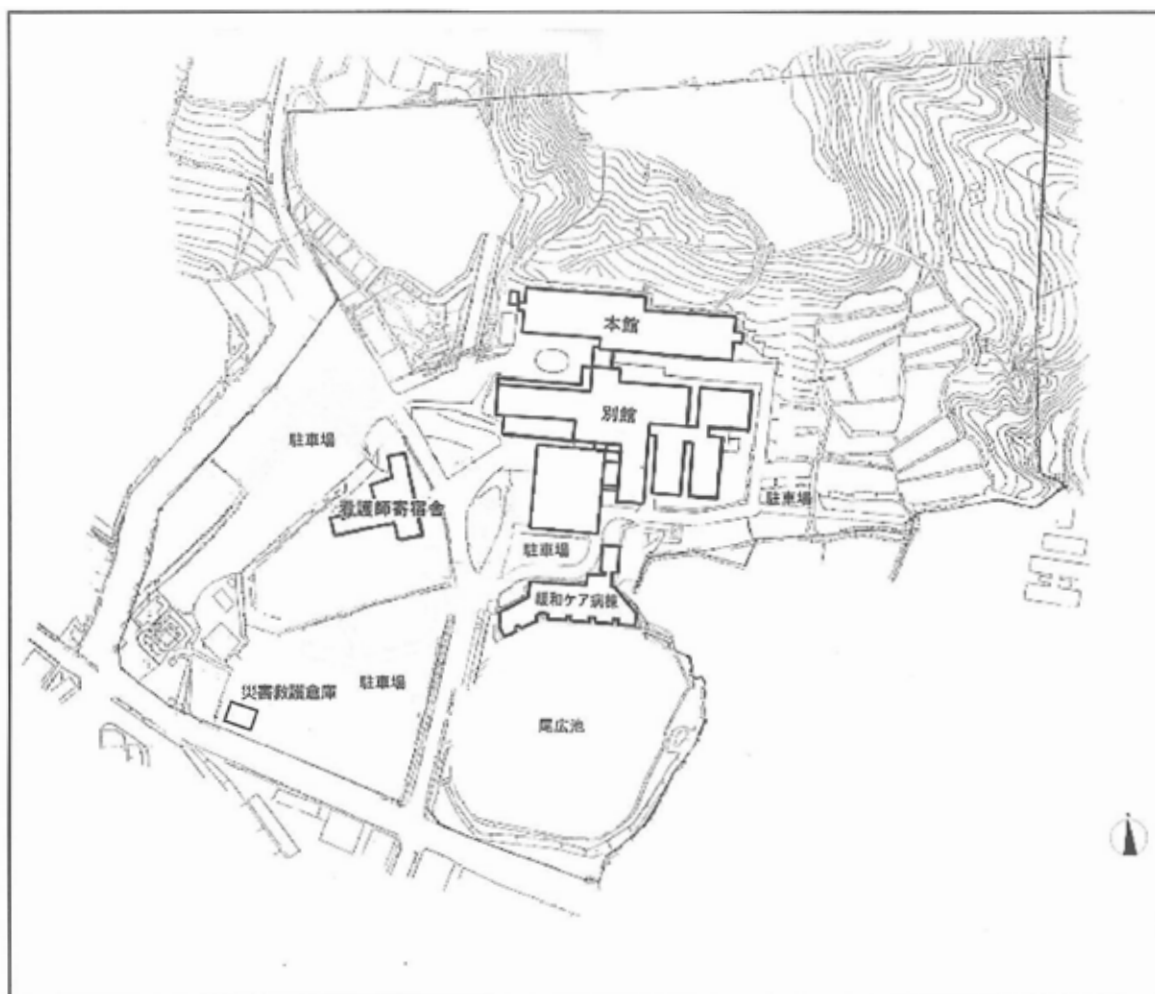
特掲診療料

外来栄養食事指導料の注 2
心臓ペースメーカー指導管理料の注 5 に掲げる遠隔モニタリング加算
糖尿病合併症管理料
がん性疼痛緩和指導管理料
がん患者指導管理料イ
がん患者指導管理料ロ
がん患者指導管理料ハ
移植後患者指導管理料（造血幹細胞移植後）
糖尿病透析予防指導管理料
院内トリージ実施料
夜間休日救急搬送医学管理料の注 3 に掲げる救急搬送看護体制加算
外来腫瘍化学療法診療料 1
連携充実加算
外来放射線照射診療料
ニコチン依存症管理料
開放型病院共同指導料
がん治療連携計画策定料
肝炎インターフェロン治療計画料
薬剤管理指導料
医療機器安全管理料 1
在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料
在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の注 2 に掲げる遠隔モニタリング加算
持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定
骨髓微小残存病変量測定
BRCA 1 / 2 遺伝子検査
HPV 核酸検出及び HPV 核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）
検体検査管理加算（Ⅰ）
検体検査管理加算（Ⅱ）
検体検査管理加算（Ⅳ）
時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
ヘッドアップティルト試験
小児食物アレルギー負荷検査
画像診断管理加算 2
CT 撮影及び MRI 撮影

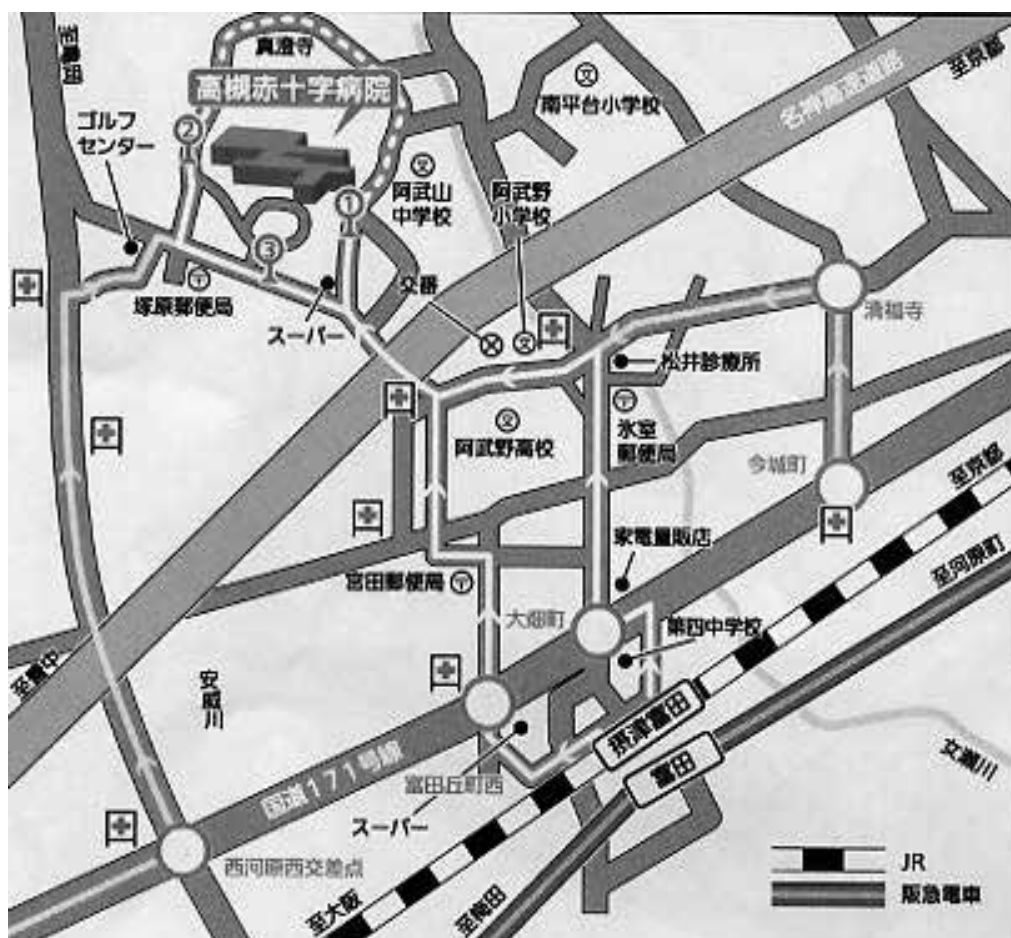
冠動脈 CT 撮影加算
心臓 MRI 撮影加算
乳房 MRI 撮影加算
小児鎮静下 MRI 撮影加算
抗悪性腫瘍剤処方管理加算
外来化学療法加算Ⅰ
無菌製剤処理料
心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ）
脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）
運動器リハビリテーション料（Ⅰ）
呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）
がん患者リハビリテーション料
集団コミュニケーション療法料
人工腎臓（慢性維持透析を行った場合Ⅰ）
導入期加算Ⅰ
透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
下肢末梢動脈疾患指導管理加算
脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
緑内障手術（緑内障治療用インプラント挿入術（プレートのあるもの））
緑内障手術（緑内障手術（流出路再建術（眼内法）及び水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術））
緑内障手術（濾過胞再建術（needle 法））
乳がんセンチネルリンパ節加算Ⅰ及びセンチネルリンパ節生検（併用）
乳がんセンチネルリンパ節加算Ⅱ及びセンチネルリンパ節生検（単独）
食道縫合術（穿孔、損傷）（内視鏡によるもの）、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、小腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、結腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、腎（腎盂）腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、尿管腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、膀胱腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、腔腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
大動脈バルーンパンピング法（IABP 法）
腹腔鏡下リンパ節群郭清術（側方）
内視鏡的逆流防止粘膜切除術
体外衝撃波胆石破碎術
腹腔鏡下肝切除術
腹腔鏡下脾腫瘍摘出術
腹腔鏡下脾体尾部腫瘍切除術
早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
人工尿道括約筋植込・置換術
腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
胃瘻造設術（経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む）（医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則の 16 に掲げる手術）

輸血管理料Ⅰ
輸血適正使用加算
自己生体組織接着剤作成術
人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
胃瘻増設時嚥下機能評価加算
麻酔管理料（Ⅰ）
周術期薬剤管理加算
高エネルギー放射線治療
病理診断管理加算Ⅰ
悪性腫瘍病理組織標本加算
（令和５年３月３１日現在）

7. 配 置 図



8. 付近見取図



 印は当院の看板
  は病院への市バス路線

 印は当院の看板
  は病院への自動車道路

9. 主な施設・機器

医療用リニアック Clinac iX	除細動器 TEC-5631
532 レーザー眼科光凝固装置 ピュアポイント	小林メディカル 電気メス 5000
AutoVue	心臓マッサージシステム Ver.3.1 LUCAS III
Class II安全キャビネット SS インテリア W1300mm パッケージ	心電計 ECG-2450
COOL-TIP RFA ジェネレーター	診断用 X 線撮影システム RADIOTEX
CUSA EXcel	人工呼吸器 HAMILTON-C1
CV5030 カバーガラス自動封入装置	瑞穂医科 分離式電動手術台
ECU4 バントルセット ECU4B1000 他 一式	据置型デジタル式汎用 X 線透視診断装置 EXAVISTA 一式
GE 超音波診断装置 Vivid E9	全自動散薬分包機 (2 枚円盤タイプ)
IABP 駆動装置 corart	全身麻酔器 Apollo
ICG 付眼底カメラ + 無散瞳システム	全身用 X 線 CT 装置 Aquilion Prime SP/i Edition
IDEAL EYES スコープ AC4cm 30° スピートロック	送信機 ZS-630P
MRI 撮影装置 Vantage Fortain 一式	多目的デジタル X 線 TV システム
NIOX MINO(一酸化窒素ガス分析装置)	体外衝撃波結石波砕装置 (ESWL)
OES ヒステロファイバースコープ	大研 ステリキープ手洗いユニット
PillCam カプセル内視鏡画像診断システム・富士フイルムメディカル デジタル内視鏡	単票式薬袋プリンター
QuantStudio5 リアルタイム PCR システム 96 ウェル PC 付パッケージ	炭酸ガスレーザー手術装置 レーザリ-
Q スイッチレーザー IB101	超音波画像診断装置 SonoSite M-Turbo
SonoSite MicroMaxx(携帯型超音波診断装置)	超音波診断装置 Affiniti70
Synergy Resection シェーバーコンソール 一式	超音波診断装置 ARIETTA50
VIO3 5 ツケットモデル (超音波切開装置)	超音波診断装置 ARIETTA70
X 線アンギオグラフィシステム Infinix Celeve - i	超音波診断装置 CX50 Xper
アキア手持眼圧計	超音波診断装置 EPIQ Elite DS
イソメディカル 脊椎外科用手術フレーム	超音波診断装置 Nemio XG
インフィニティモニタリングシステム デルタ XL	超音波診断装置 PROSOUND-6
ウォッシュ・デイスインフェクター デジタル	超音波診断装置 SONOVISTA FX premium edition
エアウェイマネジメントモバイルスコープ・ビデオスコープ 2 台	超音波診断装置 Viamo SV7
エクスケアバイク RG-EM400	超音波診断装置 X300 Premium Edition
オートレンズメーター LM1800PD	電気手術器 SHAPPER mini 一式
オリンパス 内視鏡外科手術システム	東芝 フルデジタル超音波診断装置 Xario
キセノン光線治療器 ICON	内視鏡システム VISERA PRO
キャノンメディカルシステムズ 全身用 X 線 CT 装置 Aquilion Prime SP	内視鏡ビデオシステム EVIS LUCERA SPECTRUM
クボタ ユニバーサル冷却遠心機	内視鏡ファイリングシステム SolemioEndo
クリーンパーテーション ACP-897AH	内視鏡用診察台 EX-ESD
クリーンパーテーション ACP-897CH	内臓脂肪測定装置 DualScan
サカセ オーダーリングカート	白内障手術装置インフィニティ化ビジョンシステム
サクラ精器 高圧蒸気滅菌装置	搬送用モータ BSM-1763
シラス HD-OCT	汎用超音波画像診断装置 (心臓超音波診断装置) Vivid E95
ステリキープ手洗いユニット	泌尿器科用 X 線テレビ装置 UROVISION II
ステリルガードⅢ	補助循環装置システム バイオコンソール等
スぺキュラマイクロスコープ	網膜硝子体手術器械コンステレーションビジョンシステム
スリットランプ カメラ監視装置システム	薬用冷蔵ショーケース MPR-N450FH - PJ
セントラルモータ CNS - 6201 他一式	涙道ファイバースコープ 0.9mm CK10
ソニー製 ZEISS 眼科手術顕微鏡用カメラ装置一式	連動昇降式平行棒 シンクロレル SP-735S
タカラベルモント 外科用手術台	フリップス 成人用人工呼吸器 V60 ペンフレタ Auto-Track+
タブレット超音波診断装置 Lumify	低温インキュベーター MIR-154 - PJ

デジタルマンモグラフィ CAD
 デジタル超音波診断装置 HI VISION Preirus
 デファイリター (除細動器) TEC-5631
 ドレーゲル 人工呼吸器 Savina300 一式
 バーサパルスレク 30W (ホルミウムレーザー)
 バイオメディカルフリーザー MDF-137-PJ
 バイオメディカルペースメーカーテスタ
 ハイブリッド 高速冷却遠心機 一式
 パワープロ・システム スモールハンドピース等
 ハンフリーフィールドアナライザー
 ビーライン BeeFiles for HFA(800 シリーズ)
 ヒラサワ テーハー式ウィークリー恒温器
 ヒラタニ 器械展開台
 フィリップス 経食道用カニフレーション型トランスデューサー
 フジレスピロニクス 簡易睡眠検査装置 スターダストII
 フラットパネル デジタルラジオグラフィ AeroDR 一式
 フラットパネル 画像ワークステーション 一式
 フラットパネル 大林製長尺用撮影台
 フラットパネル 島津製立位撮影台
 フリース NF-75HC (冷凍庫)
 ベッドサイドモニタ BSM-3562-Q21 一式 (BIS モニタ付)
 ベッドサイドモニタ PVM-4763-Q20 他
 ホルタ心電図解析システム
 マットフラットフォーム充電式電動昇降
 マルチカラーキャンレーザー光凝固装置 MC-500Vixi
 ミズホ マイクロサージャリー手術台
 ミズホ 分離式電動手術台 整形用
 メディカル HD レコーダー HVO-550MD/SUR
 メディカルビデオレコーダー UR-4MD
 メラ遠心血液ポンプシステム (拡張ユニット付) 一式
 メラ高頻度ジェットベンチレーター
 ユヤマ 注射薬自動払出機
 ライカ 滑走式マイクローム
 リアルタイム PCR システム QuantStudio5
 リトクラスト 2
 リューザブルエンドスコープショート
 レスピロニクス 終夜睡眠ポリグラフ検査装置
 レッグ CPM L4KD-100
 レビテーター I-LHPAMUR 623-003-01 他一式
 安全キャビネット BHG-T701 II A2-G
 移動型手術台 MEERA
 医用テレメータ WEP-1450 他一式
 一酸化窒素ガス分析装置ナイオックス NIOX VERO
 陰圧式エア Tent NP-45
 回診用 X 線撮影装置 MobileArt Evolution
 回診用 X 線撮影装置 MobileArt Evolution MX7 version
 回診用 X 線撮影装置 MobileArt Lumina
 外科用 X 線テレビシステム OPESCOPE ACTENO
 核医学ワークステーション

医用テレメータ (8 人用) WEP-1450 一式
 集細胞遠心装置 サイトスピンドル 4
 連動昇降式平行棒 シンクロレル SP-735S
 ベンチベンチマーク GX
 ハイエンドクリニカルフローサイトメーター NAVIOS EX 2 レザー 6 カラー
 Synergy RF コンソール 一式
 全自動錠剤分包機
 心電計 ECG-2450
 自動遺伝子装置 TRCReady-80 一式
 平山製作所 新高圧滅菌器
 自動染色装置 AUTOSTAINER XL
 メディウム III (高・低体温維持装置)
 センテック デジタルモニターシステム
 血圧脈波検査装置 FORM-5
 タブレット超音波診断装置 Lumify10.1 インチ LA3-SL
 電動昇降リフト式体重計 AD-6082
 ヘッドライトシステム (呼吸器外科)
 超音波診断装置 Aplio a Verfia
 東機質 サーフファイアー FA テストシステム
 散薬監査システム
 電気マス maXium (マキシム)
 体成分分析装置 InBody
 エルマン サージトロニクス EMC (フットスイッチ付) 付属品除く
 フィリップス 自動体外式徐細動器 ハートスタート
 陰圧排気 / 空気清浄機ユニット
 腎盂鏡 内視鏡 20°
 レビテーター (両支脚器) 2 個入
 Pillicam レコーダー DR3 パック
 個人用多用途透析装置 TYPE E 他 一式
 睡眠評価装置 ソムノスクリーン BT-plus
 ジンマー パワープロエアーオシレーター
 薬用冷蔵ショーケース MPR-S300H - PJ
 HEPA フィルター付パーテーション (除染除去タイプ)
 誘発電位検査装置 Neuropack S3
 C-MAC (気管支鏡)
 IDEAL EYES スコープ AC4cm 30° スピンドルロック
 ドレーゲル 人工呼吸器 Savina300 一式
 メドトロニック XPS マイクロシステム
 ハイロストレッチャー KK-728
 メラ 改良モース開胸器 0452008500
 グライト スコープビデオ咽喉頭鏡システム
 デファイリター (除細動器) TEC-5631
 陰圧ブース CL-905 他 一式
 膀胱用音波画像診断装置 ブラッダースキャン BVI6100
 人工呼吸器 Infinity EvitaV500
 ジンマー ATS2000 タニケットシステム
 一包化錠剤仕分け装置
 ケイセイ メッシュダーマートーム (形成外科)
 病院版ピッキングサポートシステム

角膜形状屈折力解析装置 OPD-Scan III (中古品)	包埋ブロック作製装置 HistCore Arcadia
患者監視装置 WEP-5208	日本光電 解析機能付心電計
感染症検査業務支援システム SMILE Honest	ガンプロ 個人用逆浸透精製水システム
感染対策空気清浄ユニット NRC-601D	タンゴ M2 ECG ボード付システム
感染防止機能付 クリオスタット	体外式ペースメーカー
眼科用 ヤグレーザー手術装置 YC-1800	抗がん薬調製支援システム
眼科用手術台メトロ4J	薬用保冷库 FMS-650L
眼科用冷凍手術システム	ベッドサイドモニタ
眼底カメラ接続取込端末一式	細隙灯 ホータブルスリットランプ
眼底観察システム Resight700	超音波診断装置 Affiniti70
気管支ビデオスコープ BF-Q290	生体情報モニタ Vital Sensor S
起立台 フィルテブル SPR-1000C	ハイスピードドリル プリマド 2 一式
吸収補正用 CT 付き 核医学診断撮影装置 (RI)	ジンマー M パワー 2 スターナムソーハンドピース一式
血液ガス分析装置 ヲットポイント 500e	骨塩量測定装置ダイクロマスキャン Dichroma Scan
顕微鏡 BX43-33	電動マイクロドリルシステム
個人用多用途透析装置 TYPE AWF	超低温フリーザー MDF-DC200V - PJ
光学視管 12° Φ 4mm	ヘモクロン レスポンス (血液凝固計)
光学式眼軸長測定装置	加温加湿フロージェネレーター Airvo2 一式
光干渉断層計 RS-3000	ヒストコアール (自動固定包埋装置)
骨手術器械 システム 8 パワーシステム 一式	全自動化学発光酵素免疫測定システム ルミパルス L2400
山田医療照明 スカイルックス ゼニス A 型	CPM ユニット レッグ用
山田医療照明 スペースラブリブラTVカメラシステム	ビジュランスヘモグロビンミックス (心拍出量測定装置)
治療台 トリートメントベッド 5 セクション 油圧	ストレートショット M4 ハンドピース
治療用電気手術器 Valleylab FT10	デスフルタン用気化器 Drager D-Vapor-desflurane
耳鼻咽喉科ファイバースコープ ENF-GP2	運動負荷血圧計 TangoM2
自動遺伝子装置 TRCReady-80 一式	注射薬自動払出装置
自動血球洗浄遠心機 MC450	心電計 ECG-2450
自動浸透圧測定装置オースモレーション	ドレーゲル 人工呼吸器 Savina300 一式

10. 年 表 (沿革)

昭和15年	6月 8日	療養所起工式並びに地鎮祭
昭和16年	11月 2日	日本赤十字社大阪支部病院分院「阿武野勝景園」竣工
昭和17年	5月20日	「大阪陸軍病院阿武野赤十字病院」として軍患者を収容。
昭和18年	1月 1日	日本赤十字社支部病院管理規則により「大阪赤十字病院阿武野分院」に改称。
昭和20年	6月 6日	「大阪第二陸軍病院阿武野赤十字病院」として中部軍属となる。
	11月30日	軍病院を解除。
	12月 1日	大阪赤十字病院分院阿武野勝景園として一般診療開始。
昭和22年	9月 1日	分院より昇格（独立）大阪阿武野赤十字病院と称す。
昭和23年	6月 9日	大阪阿武山赤十字病院と改称。
昭和26年	11月 1日	完全看護制度実施。
昭和27年	5月 6日	医療社会事業部を新設。
	10月15日	勝景園神社を阿武山神社と改称。
	11月20日	中央材料室開設。
昭和34年	4月10日	病院機関紙として「阿武山ニュース」(現：日赤たかつき)創刊号発行。
	11月 5日	手術棟（鉄筋コンクリート平屋建）竣工。
昭和35年	1月18日	北朝鮮帰還列車添乗派遣を開始。
昭和44年	12月 5日	病院第一次増改築工事竣工式。
昭和45年	1月 1日	高槻赤十字病院と改称。
	2月 2日	新館開設、一般外来及び入院診療開始。 (一般99床、結核559床)
昭和45年	9月 1日	大阪府労災指定病院に承認。
	11月 3日	大阪府救急指定病院に指定。
昭和47年	2月 1日	一般病棟（新館）「特類看護」の承認。
昭和49年	12月 3日	看護婦寄宿舎（鉄筋コンクリート4階建）竣工式。
昭和52年	7月 1日	耳鼻咽喉科の診療開始、総合病院となる。
	10月31日	病院第二次増改築工事竣工式。医療法による許可病床を421床とする。(一般224床、結核197床)
	12月 1日	理学診療科部（現：リハビリテーション科部）新設。
昭和54年	1月	放射線科部にR I 検査を新設。
昭和55年	4月16日	1病棟開設、定床37床。医療法による許可病床458床。 (一般261床、結核197床)
	4月16日	全身用東芝CT-60A型スキャナー導入。
昭和58年	8月17日	障害等級2・3級の小児転地療養事業（健康回復キャンプ）実施。
昭和61年	2月24日	8病棟（結核病棟）を閉鎖、一般科病棟に転換、実働病床 375床（一般310床、結核65床）。

昭和62年 5月11日 上の池（溜池）を埋立て、駐車場用地とする。

昭和63年 4月 1日 理学診療科（現：リハビリテーション科）に作業療法室を開設。

平成 3年11月 5日 創立50周年記念祝賀会開催。

平成 4年10月 1日 麻酔科部の設置

12月18日 外来増改築工事完成。

平成 5年 9月 1日 総合リハビリテーション承認施設。

平成 6年10月21日 許可病床数、519床より511床へ変更。

平成 7年 1月17日 兵庫県南部地震（阪神・淡路大地震）による被災者救護活動開始。

8月 1日 高槻赤十字訪問看護ステーション開所式。

平成 8年 9月 2日 「MRI棟」増改築工事完成。病院構造設備使用許可。

平成 9年 3月31日 結核病棟廃止。（一般病床446床、結核0床）

平成10年10月 1日 開放型病院の指定。（12床）
（平成11年6月～ 40床、平成13年10月～ 49床）

11月26日 剖検慰霊祭を以後毎年実施。

平成11年 4月 1日 厚生省臨床研修病院の指定。

8月31日 指定居宅介護支援事業者となる。

平成12年 1月 1日 院外処方箋の実施。

8月21日 アレルギー科の診療を開始する。

10月 1日 病診連携係（現：地域医療連携課）設置。

平成13年 3月 1日 産婦人科病棟全面改修。

4月 1日 脳神経外科開設。

7月 9日 7病棟全面改修。48床（血液内科、透析、外科、化学療法）運用開始。

平成14年 5月 7日 緩和ケア病棟開設。（全室20床）

10月 1日 業務委託による診療材料の定数管理（SPD）実施。

10月15日 駐車ゲートシステム導入、外来患者以外の駐車有料化実施。

12月 9日 地域がん診療拠点病院の指定を得る。

平成15年 1月 業務委託による検査室共同運営（FMS）実施。

7月 1日 一般病棟1群入院基本料1許可。（2対1看護）

平成16年 2月16日 病院機能評価 Ver.3.1（一般病院種別B）認定。

4月 1日 形成外科、呼吸器外科の開設。（アレルギー科の廃止）

12月 7日 4・5・6・8・9病棟の改修終了
MRI装置入れ替え実施。

平成17年 1月 1日 診療情報管理課設置
事務部総務課に医療安全係設置。

1月 4日 亜急性期病床開設（20床）

3月 1日 救急部設置。

10月27日 NST運用開始。

11月 1日 電子カルテ稼動。

平成18年 3月27日 新手術棟完成 竣工式。
(1階外科外来・生理検査部門／2階手術室・中央材料室)

平成18年 6月 1日 ガスコージェネレーションシステム運用開始

平成18年 7月 1日 「医療安全推進室」設置、「癌統合治療科部」設置。
「第一内科」を「糖尿病・内分泌・生活習慣病科部」と「緩和ケア科部」に分科。「第二内科部」を「血液・腫瘍内科部」に名称変更、「第一外科部」を「消化器外科部」に名称変更、「第二外科部」を「乳腺外科部」に名称変更。

平成18年10月 全手術部門及び外来改造工事、病院建物（本館・別館）の耐震工事、並びに3病棟改修工事完了。

平成18年10月20日 マルチスライスCT 64列の導入。

平成18年11月16日 第42回日本赤十字社医学会総会主催（於国立京都国際会館）。

平成18年12月16日 日本人間ドック学会「人間ドック健診施設機能評価」認定。

平成19年 1月 4日 院内保育所高槻日赤保育園『すくすく』開園。

平成19年 2月 1日 がん相談支援センター室設置。
病児保育室を委託開設。

平成19年 4月 1日 「医療技術部」を新設（臨床工学技術課、栄養課を設置）。
医療社会事業部地域医療連携課内に「がん相談支援センター室係」を新設。

平成19年 7月 1日 教育研修推進室設置。

平成19年10月 1日 ICU（院内基準）開設。

平成20年 2月 1日 一般病棟7対1入院基本料施設基準届出受理。

平成20年 2月 8日 地域がん診療連携拠点病院の指定更新。

平成20年 6月 1日 週休二日制実施。

平成20年 7月 1日 DPC対象病院として請求開始。
放射線画像等フィルムレス運用開始。

平成21年 2月16日 病院機能評価 Ver.5.0 認定

平成21年 8月15日 兵庫県佐用町の台風9号水害による被災者救援活動のため、医療救援班を派遣。

平成22年 3月15日 X線アンギオ装置（血管造影装置）の入れ替え実施。

平成22年 3月 災害救護倉庫の整備。

平成22年 4月 1日 事務部医療安全課設置。

平成22年 6月 エコロジーガーデン設置。

平成22年10月 患者・家族向け図書コーナー設置。

平成22年10月 1日 放射線治療システム「リニアック」導入完了・治療開始。

平成23年 3月15日 東日本大震災により、宮城県庁前・岩手県山田町へ
医療救護班を派遣（3/15～5/26）。

平成23年 3月30日 震災により石巻赤十字病院支援派遣（3/30～4/4・5/9～5/14）。

平成23年	4月	1日	神経内科開設。
平成23年	11月	25日	地域医療支援病院に承認される。
平成24年	2月	1日	消化器内視鏡センター開設。
平成24年	8月	1日	緩和ケア診療科開設。
平成24年	12月	1日	医療社会事業部地域連携推進課設置。
平成25年	4月	1日	事務部研修課設置。
平成26年	3月	7日	機能種別版日評価項目3rdG: Ver.1.0 認定。
平成26年	7月		患者支援センター開設。
平成26年	9月		病理診断科標榜。
平成28年	3月		消化器外科標榜。
平成29年	9月	1日	病院～JR 摂津富田駅間でシャトルバス運行開始。
平成30年	1月		糖尿病・内分泌内科、血液内科標榜。
平成30年	4月		事務部人事課設置。
平成30年	6月		シャトルバスの運行をJR 総持寺駅へ拡大。
平成30年	12月		無菌治療室を9床増設（合計12床）。
平成31年	4月		電子カルテシステムの更新
令和 元年	5月		病棟の再編成実施。2病棟を8病棟に移動し、レディース病棟として運用。
令和 元年	11月		乳腺外科、美容皮膚科標榜。
令和 元年	2月		駐車場リニューアル。（駐車スペース増加、一般駐車場全面舗装）
令和 2年	2月		新型コロナウイルス感染症帰国者・接触者外来設置
令和 2年	3月		新型コロナウイルス感染症入院受け入れ開始
令和 2年	4月		新型コロナウイルス感染症「重点医療機関」に指定及び発熱外来設置 病床管理室設置
令和 2年	8月		新型コロナウイルス感染症 PCR 検査委託事業を受託開始
令和 2年	12月		CT-80列装置の入れ替え実施
令和 3年	3月		2病棟、4病棟病床返還。医療法による許可病床335床
令和 3年	5月		新型コロナウイルス感染症高槻市民を対象にワクチン接種実施
令和 3年	10月		創立80周年記念号発刊
令和 4年	2月		3病棟（34床）を休棟し、稼働病床301床へ

11. 整備医療機器備品

メーカー名	固定資産名	規格型式
富士フィルム	超音波診断装置 ARIETTA50	ARIETTA50
日本光電工業	除細動器 TEC-5631	TEC-5631
日本光電工業	送信機 ZS-630P	ZS-630P
日機装	個人用多用途透析装置 TYPE AWF	DBB-200Si
その他	メディカルビデオレコーダー UR-4MD	UR-4MD
瑞穂医科工業	レビテーター（両足）2 個入	18-070-01
酒井医療	起立台 チルトテーブル SPR-1000C	SPR-1000C
酒井医療	連動昇降式平行棒 シンクロレール SP-735S	SP-735S
酒井医療	歩行訓練用階段 SP-220	SP-220
(株) A & D	電動昇降リフト式体重計 AD-6082	AD-6082
リオン	オージオメータ	AA-M1B
ライカ	包埋ブロック作製装置 HistCore Arcadia	HistCore Arcadia H
ミナト医科器	マットプラットフォーム充電式電動昇降	W1219EB
ミナト医科器	治療台 トリートメントベッド5 セクション 油圧	W3940Y
ファイバーテック(株)	涙道ファイバースコープ 0.9mm CK10	100-3170
パナソニックヘルスケア(株)	薬用冷蔵ショーケース MPR-S300H - PJ	MPR-S300H - PJ
パナソニックヘルスケア(株)	薬用冷蔵ショーケース MPR-N450FH - PJ	MPR-N450FH - PJ
ドレーゲル	ドレーゲル 人工呼吸器 Savina300 一式	savina300
テルモ	コートラック（中古品） Aj-CU0950・Aj-CU0920	Aj-CU0950・Aj-CU0920
ストライカー	IDEAL EYES スコープ AC4cm 30° スピードロック	0502-104-030
コヴィディエン	Pillicam レコーダ DR3 パック	Pillicam レコーダ DR3 パック
キャノンメディカルシステムズ(株)（旧東芝メディカルシステムズ）	MRI 撮影装置 Vantage Fortain 一式	MEXL-1550/SG
オリンパス	耳鼻咽喉科ファイバースコープ ENF-GP2	ENF-GP2
SONY	メディカル HD レコーダー HVO-550MD/SUR	HVO-550MD/SUR

Ⅲ 組織及び職員

2022. 4. 1



2. 幹部職員

(令和 4 年度末現在)

[illegible]

3. 職員現況表

会計決算書より（令和5年3月31日現在）

区 分	① 病 院																	
	医	薬	放	検	理	作	言	臨	視	栄	助	看	准	看	医	事	そ	小
	師	劑	射	査	学	業	語	床	能	管	産	護	看	護	療	務	の	計
	師	師	線	技	療	療	聴	工	訓	理	士	士	師	師	技	補	他	
	師	師	技	師	士	士	覚	学	練	養	士	士	師	師	術	助	職	
	師	師	師	師	士	士	士	技	士	士	師	師	師	手	者	員	員	計
常 勤	71.0	20.0	16.0	19.0	12.0	4.0	2.0	7.0	1.0	5.0	4.0	226.0	0.0	22.0	1.0	57.0	13.0	480.0
非常勤	7.4	0.0	0.0	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	1.1	19.7	0.0	2.5	0.0	2.3	5.8	41.0
計	78.4	20.0	16.0	20.2	12.0	4.0	2.0	7.0	2.0	5.0	5.1	245.7	0.0	24.5	1.0	59.3	18.8	521.0

② 病院（医療社会事業）					
区 分	看 護 師	管 理 栄 養 士	事 務 職 員	医 療 社 会 事 業 司	小 計
常 勤	2.0	0.0	8.0	5.0	15.0
非常勤	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
計	2.0	0.0	8.0	5.0	15.0

③ 訪問看護ステーション				
区 分	事 務 職 員	看 護 師	理 学 療 法 士	小 計
常 勤	1.0	5.0	1.0	7.0
非常勤	0.0	1.4	0.0	1.4
計	1.0	6.4	1.0	8.4

総合計	
区 分	① + ② + ③
常 勤	502.0
非常勤	42.4
計	544.4

4. 職種別・年齢別・職員構成表

（令和5年3月31日現在）

		30才未満	30才～ 40才未満	40才～ 50才未満	50才～ 55才未満	55才～ 60才未満	60才～ 62才未満	62才～ 65才未満	65才以上	計
一般職（一）	男	1	5	9	5	1	6	1	1	29
	女	7	5	15	11	3	1	3	0	45
一般職（二）	男	0	0	3	2	1	1	3	0	10
	女	1	2	6	8	12	3	2	2	36
医療職（一）	男	4	18	10	8	4	4	1	5	54
	女	5	7	5	0	0	0	1	1	19
医療職（二）	男	3	19	18	4	3	0	0	0	47
	女	6	15	15	3	5	1	0	1	46
医療職（三）	男	4	6	4	0	3	0	0	0	17
	女	37	48	83	45	26	6	5	2	252
計	男	12	48	44	19	12	11	5	6	157
	女	56	77	124	67	46	11	11	6	398
										555

5. 会議及び委員会

(令和5年3月31日現在)

◎ 会 議

4 役会議

病院連絡会議

◎ 委 員 会

DPC・診療記録管理委員会

ICT 委員会

SPD・診療材料購入審査委員会

キャンサーボード委員会

ハラスメント防止委員会

医事紛争処理委員会

医療安全管理委員会

院内感染防止対策委員会

救急委員会

患者支援センター運営委員会

研修管理委員会

広報委員会

治験審査委員会

図書委員会

病床再編成検討・検証委員会

AST 委員会

保険委員会

防火防災・災害対策委員会

輸血療法委員会

臨床検査適正化委員会

褥瘡委員会

血液浄化療法委員会

臨床倫理委員会

情報システム管理委員会

病院機能評価受審委員会

HCU 運営委員会

NST 委員会

がん診療関連機能充実委員会

クリニカルパス委員会

業務改善委員会

医療ガス安全管理委員会

医療事故院内検証委員会

化学療法委員会

給食委員会

研修運営委員会

個人情報保護委員会

購買委員会

手術室運営委員会

地域医療支援病院運営委員会

認知症ケアサポート委員会

病床管理運営委員会

放射線安全委員会

薬事委員会

倫理委員会

労働安全衛生委員会

患者サービス向上委員会

新病院新築移転構想検討委員会

医療放射線管理委員会

教育・研修推進委員会

IV 統計

1 令和4年度実績表

	入			院			外			来			合 計
	患者延数	1日平均	在院日数	診療稼働額	診療単価	患者延数	1日平均	通院日数	診療稼働額	診療単価	診療稼働額	診療単価	
内科	460	1.3	3.6	9,920,580	21,566.5	5,919	24.5	1.6	133,242,806	22,511.0	143,163,386		
糖・内・代	2,347	6.4	11.0	102,551,402	43,694.7	8,444	34.9	115.7	112,419,328	13,313.5	214,970,730		
血液内科	11,881	32.6	25.2	1,138,869,056	95,856.3	6,662	27.5	76.6	717,625,383	107,719.2	1,856,494,439		
腎臓内科	0	0.0		0	0.0	1,717	7.1	286.2	41,677,494	24,273.4	41,677,494		
消化器内科	14,831	40.6	7.2	858,261,057	57,869.4	14,686	60.7	15.8	295,027,363	20,089.0	1,153,288,420		
循環器内科	10,819	29.6	13.8	716,963,890	66,269.0	12,666	52.3	32.6	130,522,125	10,304.9	847,486,015		
脳神経内科	647	1.8	16.2	34,014,657	52,572.9	2,762	11.4	15.9	21,285,816	7,706.7	55,300,473		
呼吸器内科	15,869	43.5	13.9	1,015,071,431	63,965.7	12,834	53.0	22.9	469,999,543	36,621.4	1,485,070,974		
呼吸器外科	1,210	3.3	10.0	150,656,649	124,509.6	2,219	9.2	184.9	37,759,617	17,016.5	188,416,266		
外科	5,761	15.8	10.7	484,349,001	84,073.8	10,260	42.4	32.0	255,488,187	24,901.4	739,837,188		
脳神経外科	0	0.0		0	0.0	732	3.0	17.9	7,245,098	9,897.7	7,245,098		
整形外科	10,910	29.9	17.4	740,457,397	67,869.6	13,166	54.4	15.4	92,769,146	7,046.1	833,226,543		
産婦人科	165	0.5	5.1	14,404,103	87,297.6	2,301	9.5	20.9	16,778,394	7,291.8	31,182,497		
小児科	210	0.6	3.0	14,306,880	68,128.0	2,612	10.8	2.9	30,702,847	11,754.5	45,009,727		
眼科	870	2.4	1.0	112,877,615	129,744.4	8,187	33.8	20.1	79,862,904	9,754.8	192,740,519		
皮膚科	574	1.6	8.7	25,356,787	44,175.6	9,475	39.2	31.3	45,536,125	4,805.9	70,892,912		
形成外科	918	2.5	15.0	55,357,870	60,302.7	2,873	11.9	7.9	29,275,614	10,189.9	84,633,484		
耳鼻咽喉科	0	0.0		0	0.0	2,336	9.7	14.7	13,481,320	5,771.1	13,481,320		
リハビリテーション科	0	0.0		0	0.0	4,487	18.5		24,711,927	5,507.4	24,711,927		
泌尿器科	2,218	6.1	6.8	160,727,563	72,465.1	6,981	28.8	26.2	117,394,524	16,816.3	278,122,087		
緩和ケア	3,936	10.8	28.3	254,381,145	64,629.4	171	0.7	2.8	1,859,212	10,872.6	256,240,357		
放射線科	0	0.0		0	0.0	417	1.7	1.5	0	0.0	0		
その他	0	0.0		0	0.0	2,331	9.6	122.7	30,143,474	12,931.6	30,143,474		
合 計	83,626	229.1	11.5	5,888,527,083	70,415.0	134,238	554.7	13.5	2,704,808,247	20,149.3	8,593,335,330		

前 年 度	90,127	246.9	12.8	6,261,653,170	69,475.9	133,695	552.5	13.2	2,744,359,323	20,527.0	9,006,012,493		
増 減 率	-7.2%	-7.2%	-10.2%	-6.0%	1.4%	0.4%	0.4%	2.3%	-1.4%	-1.8%	-4.6%		

※その他は、救急科とリウマチ・膠原病とドック・健診を足したものです。

2.入院患者数

	合 計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内 科	460	52	46	41	63	34	46	22	22	22	29	28	55
糖 内 科	2,347	271	267	185	249	147	76	169	232	202	122	257	170
血 液 内 科	11,881	869	944	996	1,166	1,025	965	1,110	1,034	1,077	1,008	837	850
腎 臓 内 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
消化器内科	14,831	1,369	1,550	1,507	1,170	1,289	1,081	1,084	1,081	1,052	1,171	1,088	1,389
循環器内科	10,819	924	1,005	766	971	732	786	838	949	919	859	887	1,183
脳神経内科	647	0	9	20	64	31	39	93	109	50	94	50	88
呼吸器内科	15,869	1,370	1,132	1,125	1,414	1,529	1,308	1,238	1,228	1,433	1,566	1,279	1,247
呼吸器外科	1,210	169	144	133	178	133	70	55	82	65	41	74	66
外科	5,761	385	465	486	625	568	297	344	585	478	489	516	523
脳神経外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
整形外科	10,910	762	821	938	777	859	827	745	769	1,114	1,269	872	1,157
産婦人科	165	14	18	32	14	19	12	2	6	25	1	17	5
小児科	210	21	9	35	45	9	32	11	18	1	14	2	13
眼科	870	90	61	106	49	60	66	87	85	71	56	64	75
皮膚科	574	83	51	61	21	46	112	45	45	41	4	36	29
形成外科	918	100	74	57	61	79	101	141	134	39	41	23	68
耳鼻咽喉科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
リハビリテーション科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
泌尿器科	2,218	197	242	243	268	165	191	134	197	157	120	140	164
緩和ケア	3,936	362	348	329	331	354	316	294	326	342	269	301	364
放射線科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他の	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	83,626	7,038	7,186	7,060	7,466	7,079	6,325	6,412	6,902	7,088	7,153	6,471	7,446
1 日 平 均	229.1	234.6	231.8	235.3	240.8	228.4	210.8	206.8	230.1	228.6	230.7	231.1	240.2

前 年 度	90,127	8,024	7,555	7,456	7,611	8,280	7,377	7,116	7,405	7,924	7,174	6,863	7,342
1 日 平 均	246.9	267.5	243.7	248.5	245.5	267.1	245.9	229.5	246.8	255.6	231.4	245.1	236.8
増 減 率	-7.2%	-12.3%	-4.9%	-5.3%	-1.9%	-14.5%	-14.3%	-9.9%	-6.8%	-10.6%	-0.3%	-5.7%	1.4%

3.入院稼働額

	合 計	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
内 科	9,920,580	3,014,110	676,310	783,658	1,929,688	778,164	543,340	158,110	398,850	451,240	17,500	0	1,169,610
糖・内・代	102,551,402	12,312,859	11,248,368	8,610,764	9,068,456	7,134,018	3,040,044	8,528,462	10,561,327	8,238,104	6,841,376	9,724,828	7,242,796
血液内科	1,138,869,056	79,139,763	87,831,872	88,603,633	92,876,010	86,415,723	83,237,586	99,498,362	102,142,404	115,435,830	114,657,833	88,168,232	100,861,808
腎臓内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
消化器内科	858,261,057	79,259,243	84,050,946	80,720,181	63,985,329	73,228,714	64,893,103	64,613,397	66,028,656	67,895,911	70,698,944	62,444,217	80,442,416
循環器内科	716,963,890	56,874,261	69,121,685	50,353,176	67,679,986	54,297,417	49,654,381	57,849,892	64,764,733	59,050,609	51,483,682	57,876,479	77,957,589
脳神経内科	34,014,657	0	464,370	2,101,880	3,527,550	1,505,485	1,615,450	4,367,550	3,898,182	2,141,242	4,598,356	2,504,620	7,289,972
呼吸器内科	1,015,071,431	89,588,469	68,537,149	63,447,772	84,630,677	106,065,144	104,283,198	75,173,599	68,841,142	102,705,979	106,165,813	78,206,711	67,425,778
呼吸器外科	150,656,649	18,962,932	14,044,402	13,529,637	19,931,198	17,424,818	6,516,860	6,290,670	12,499,510	8,651,612	9,155,570	13,122,876	10,526,564
外科	484,349,001	32,667,060	35,538,815	44,889,072	53,298,356	39,349,354	21,864,940	34,303,472	45,315,530	43,466,571	46,550,325	51,249,581	35,855,925
脳神経外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
整形外科	740,457,397	46,935,757	53,755,021	58,339,912	51,764,669	68,863,819	60,291,884	45,496,340	66,022,786	76,645,595	78,322,238	54,224,480	79,794,896
産婦人科	14,404,103	1,658,430	1,603,510	2,112,165	1,696,638	1,757,330	665,910	145,800	683,810	2,252,940	75,500	1,191,840	560,230
小児科	14,306,880	1,802,180	500,860	2,043,760	2,520,560	504,800	1,876,230	626,040	1,311,290	98,140	1,158,920	148,430	1,715,670
眼科	112,877,615	10,819,378	8,349,596	12,338,584	6,459,066	7,897,677	9,000,532	12,096,402	10,675,370	10,283,580	7,155,480	7,909,750	9,892,200
皮膚科	25,356,787	3,825,444	2,131,890	2,508,661	1,444,108	1,311,550	5,042,876	2,034,272	2,158,026	1,763,122	259,584	1,640,802	1,236,452
形成外科	55,357,870	5,885,077	4,165,208	3,081,284	4,674,852	5,584,750	5,434,178	8,934,575	6,063,290	2,641,838	2,130,916	2,963,938	3,797,964
耳鼻咽喉科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
リハビリテーション科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
泌尿器科	160,727,563	13,197,452	15,786,758	20,073,943	18,740,260	14,433,915	10,654,148	11,771,444	15,256,554	11,679,193	7,042,922	10,297,126	11,793,848
緩和ケア	254,381,145	20,870,100	21,872,708	21,271,850	22,112,740	21,521,193	22,421,971	19,119,645	23,795,518	21,369,745	18,203,170	18,200,070	23,622,435
放射線科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	5,888,527,083	476,812,515	479,679,468	474,809,932	506,340,143	508,073,871	451,036,631	451,008,032	500,416,978	534,771,251	524,518,129	459,873,980	521,186,153

前 年 度	6,261,653,170	535,157,985	545,211,356	516,423,501	501,057,433	586,639,139	554,566,957	490,248,008	508,999,160	518,881,859	470,746,513	517,700,948	516,020,311
増 減 率	-6.0%	-10.9%	-12.0%	-8.1%	1.1%	-13.4%	-18.7%	-8.0%	-1.7%	3.1%	11.4%	-11.2%	1.0%

4.入院単価

	合 計	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
内 科	21,566.5	57,963.7	14,702.4	19,113.6	30,630.0	22,887.2	11,811.7	7,186.8	18,129.5	20,510.9	603.4	0.0	21,265.6
糖・内・代	43,694.7	45,434.9	42,128.7	46,544.7	36,419.5	48,530.7	40,000.6	50,464.3	45,523.0	40,782.7	56,076.9	37,839.8	42,604.7
血液内科	95,856.3	91,069.9	93,042.2	88,959.5	79,653.5	84,308.0	86,256.6	89,638.2	98,783.8	107,182.8	113,747.9	105,338.4	118,661.0
腎臓内科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
消化器内科	57,869.4	57,895.7	54,226.4	53,563.5	54,688.3	56,810.5	60,030.6	59,606.5	61,081.1	64,539.8	60,374.8	57,393.6	57,913.9
循環器内科	66,269.0	61,552.2	68,777.8	65,735.2	69,701.3	74,176.8	63,173.5	69,033.3	68,245.2	64,255.3	59,934.4	65,249.7	65,898.2
脳神経内科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
呼吸器内科	63,965.7	65,393.0	60,545.2	56,398.0	59,852.0	69,369.0	79,727.2	60,721.8	56,059.6	71,672.0	67,794.3	61,146.8	54,070.4
呼吸器外科	124,509.6	112,206.7	97,530.6	101,726.6	111,973.0	131,013.7	93,098.0	114,375.8	152,433.0	133,101.7	223,306.6	177,336.2	159,493.4
外 科	84,073.8	84,849.5	76,427.6	92,364.3	85,277.4	69,277.0	73,619.3	99,719.4	77,462.4	90,934.2	95,194.9	99,320.9	68,558.2
脳神経外科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
整形外科	67,869.6	61,595.5	65,475.1	62,196.1	66,621.2	80,167.4	72,904.3	61,068.9	85,855.4	68,802.1	61,719.7	62,184.0	68,967.1
産婦人科	87,297.6	118,459.3	89,083.9	66,005.2	121,188.4	92,491.1	55,492.5	72,900.0	113,968.3	90,117.6	75,500.0	70,108.2	112,046.0
小児科	68,128.0	85,818.1	55,651.1	58,393.1	56,012.4	56,088.9	58,632.2	56,912.7	72,849.4	98,140.0	82,780.0	74,215.0	131,974.6
眼科	129,744.4	120,215.3	136,878.6	116,401.7	131,817.7	131,628.0	136,371.7	139,039.1	125,592.6	144,839.2	127,776.4	123,589.8	131,896.0
皮膚科	44,175.6	46,089.7	41,801.8	41,125.6	68,767.0	28,512.0	45,025.7	45,206.0	47,956.1	43,003.0	64,896.0	45,577.8	42,636.3
形成外科	60,302.7	58,850.8	56,286.6	54,057.6	76,636.9	70,693.0	53,803.7	63,365.8	45,248.4	67,739.4	51,973.6	128,866.9	55,852.4
耳鼻咽喉科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
リハビリテーション科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
泌尿器科	72,465.1	66,992.1	65,234.5	82,608.8	69,926.3	87,478.3	55,780.9	87,846.6	77,444.4	74,389.8	58,691.0	73,550.9	71,913.7
緩和ケア	64,629.4	57,652.2	62,852.6	64,656.1	66,805.9	60,794.3	70,955.6	65,032.8	72,992.4	62,484.6	67,669.8	60,465.3	64,896.8
放射線科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合 計	70,415.0	67,748.3	66,751.9	67,253.5	67,819.5	71,772.0	71,310.1	70,338.1	72,503.2	75,447.4	73,328.4	71,066.9	69,995.5

前 年 度	69,475.9	66,694.7	72,165.6	69,262.8	65,833.3	70,850.1	75,175.1	68,893.8	68,737.2	65,482.3	65,618.4	75,433.6	70,283.3
増 減 率	1.4%	1.6%	-7.5%	-2.9%	3.0%	1.3%	-5.1%	2.1%	5.5%	15.2%	11.7%	-5.8%	-0.4%

5. 外来患者数

	合 計	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
内 科	5,919	389	277	265	912	1,178	641	363	432	530	531	221	180
糖・内・代	8,444	764	731	719	756	805	727	645	735	692	705	656	509
血液内科	6,662	536	508	549	539	548	590	542	570	581	550	546	603
腎臓内科	1,717	165	158	173	158	153	138	145	112	115	139	110	151
消化器内科	14,686	1,221	1,148	1,422	1,237	1,123	1,351	1,199	1,267	1,229	1,071	1,052	1,366
循環器内科	12,666	1,140	1,094	1,169	1,058	1,023	1,060	973	974	1,112	1,023	934	1,106
脳神経内科	2,762	195	202	204	240	214	239	249	219	252	234	239	275
呼吸器科	12,834	1,084	1,077	1,201	1,062	1,103	1,109	993	1,098	1,088	961	955	1,103
呼吸器外科	2,219	203	205	201	203	224	165	151	184	175	173	169	166
外科	10,260	896	861	949	881	827	880	887	736	832	819	769	923
脳神経外科	732	76	78	66	75	73	85	68	48	56	42	34	31
整形外科	13,166	990	1,008	1,255	1,125	1,210	1,152	1,096	1,017	1,153	989	1,013	1,158
産婦人科	2,301	170	179	214	181	209	223	191	202	201	155	153	223
小児科	2,612	224	176	187	291	379	211	174	178	227	172	190	203
眼科	8,187	693	688	679	689	630	653	732	700	715	611	643	754
皮膚科	9,475	754	747	835	797	874	811	765	745	832	777	687	851
形成外科	2,873	196	244	277	239	240	280	218	222	250	220	207	280
耳鼻咽喉科	2,336	202	188	193	190	217	201	205	182	176	131	198	253
リハビリテーション科	4,487	396	349	359	299	350	384	374	401	376	367	389	443
泌尿器科	6,981	619	560	654	619	509	669	571	535	616	538	475	616
緩和ケア	171	17	12	16	13	18	15	13	20	5	14	9	19
放射線科	417	133	122	162	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他の	2,331	193	175	236	176	248	182	204	223	173	158	170	193
合 計	134,238	11,256	10,787	11,985	11,740	12,155	11,766	10,758	10,800	11,386	10,380	9,819	11,406
1 日 平 均	552.4	562.8	567.7	544.8	587.0	552.5	588.3	537.9	540.0	569.3	546.3	516.8	518.5

前 年 度	133,562	11,412	10,060	11,003	10,969	11,165	11,346	11,200	10,841	11,276	11,138	10,717	12,435
1 日 平 均	551.9	543.4	558.9	500.1	548.5	531.7	567.3	533.3	542.1	563.8	586.2	595.4	565.2
増 減 率	0.5%	-1.4%	7.2%	8.9%	7.0%	8.9%	3.7%	-3.9%	-0.4%	1.0%	-6.8%	-8.4%	-8.3%

6. 外来稼働額

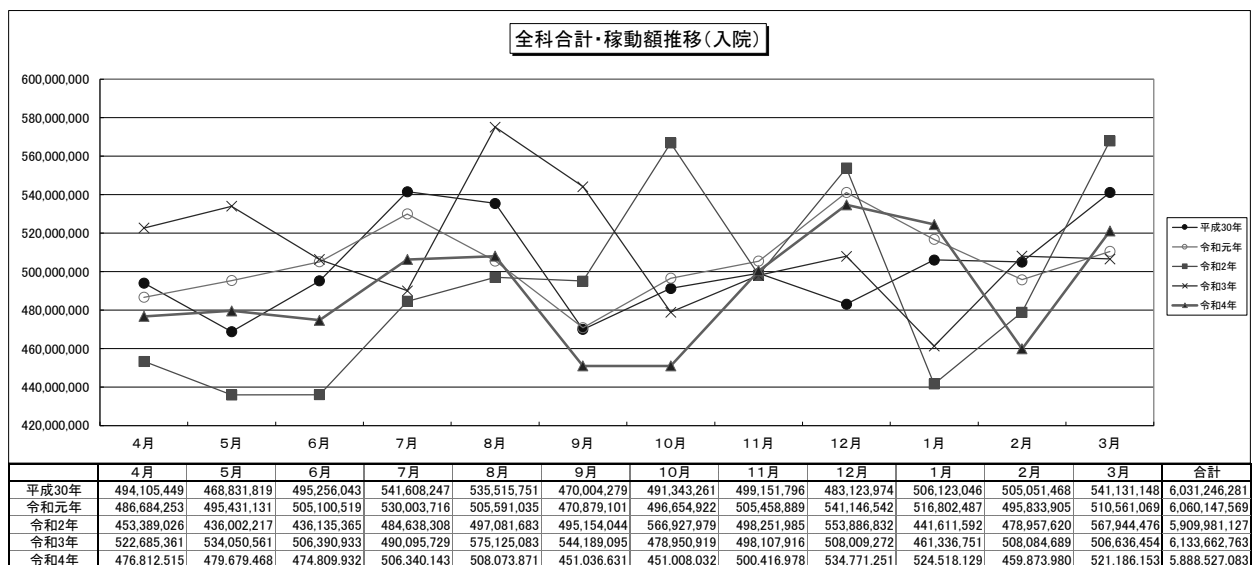
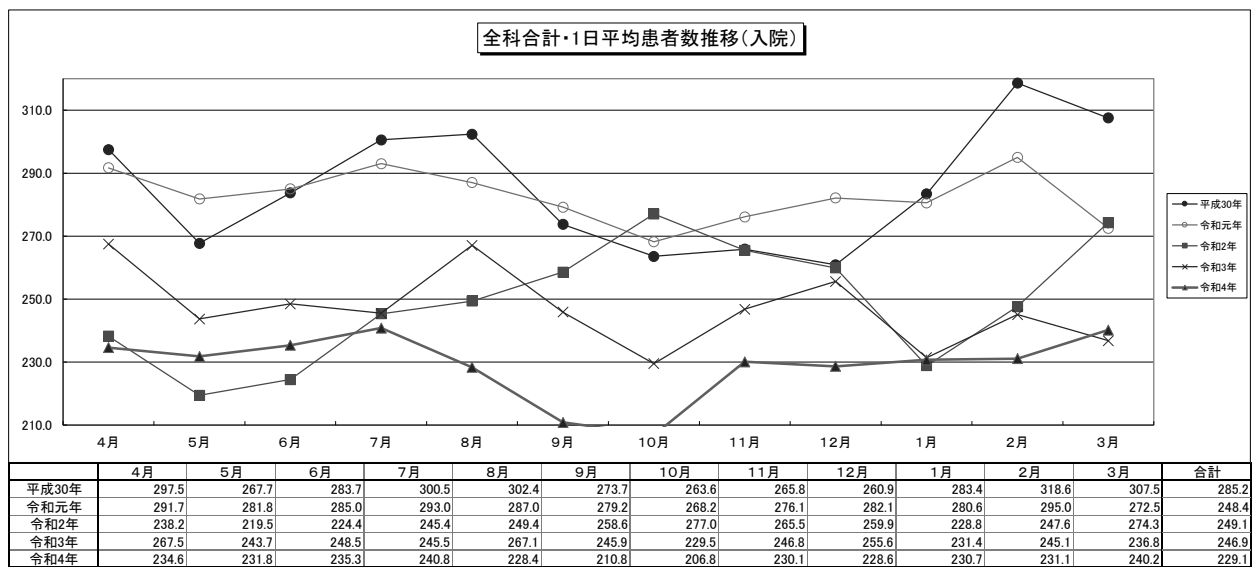
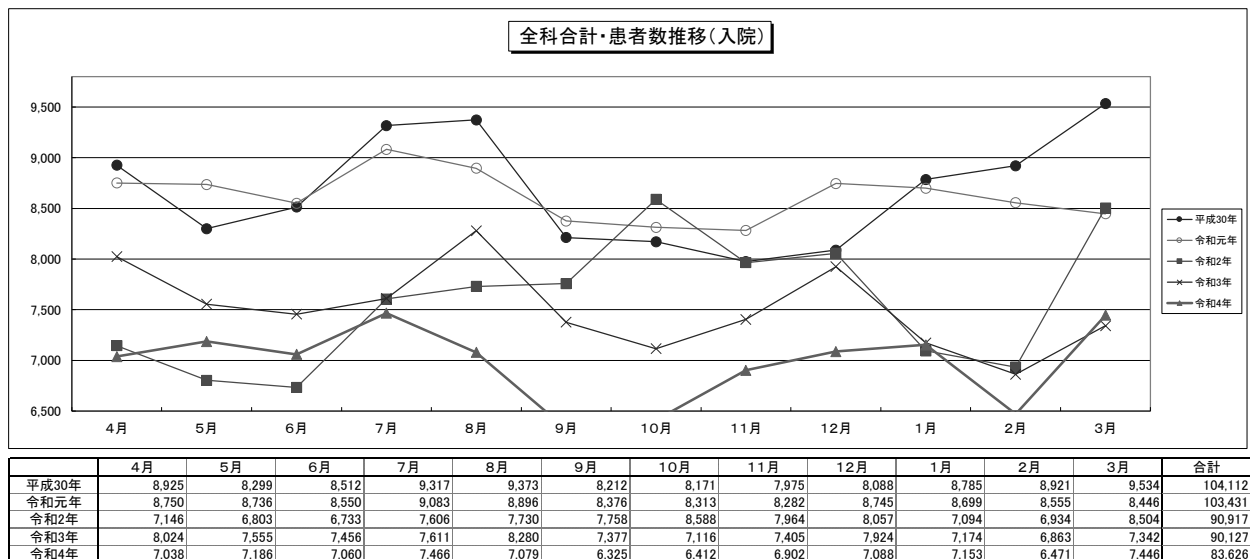
	合 計	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
内 科	133,242,806	10,739,338	8,819,807	9,958,391	17,509,734	21,865,507	12,319,467	8,018,948	10,174,771	11,328,332	12,265,904	5,732,510	4,510,097
糖・内・代	112,419,328	10,093,926	10,335,374	9,076,865	9,712,478	10,358,026	10,288,574	9,091,878	10,086,858	9,097,000	9,482,359	8,974,098	5,821,892
血液内科	717,625,383	53,236,702	64,601,432	59,458,598	59,055,132	58,221,241	65,152,471	52,092,755	57,833,557	54,532,024	59,619,849	60,449,055	73,372,567
腎臓内科	41,677,494	4,289,854	4,491,300	4,067,150	3,553,450	3,367,060	3,093,360	3,171,680	2,397,680	3,062,670	3,408,350	3,150,860	3,624,080
消化器内科	295,027,363	23,360,211	21,443,682	24,522,301	24,291,467	21,128,112	26,526,659	24,065,737	25,940,068	23,920,321	25,015,852	23,421,642	31,391,311
循環器科	130,522,125	12,920,798	11,805,782	12,338,540	10,053,237	10,170,636	9,832,929	9,968,382	10,680,642	10,966,606	10,495,377	9,841,721	11,447,475
脳神経内科	21,285,816	2,127,228	1,236,823	1,688,052	1,751,584	1,752,261	1,766,839	2,039,013	1,837,364	1,965,433	1,815,224	1,423,391	1,882,604
呼吸器科	469,999,543	39,787,069	40,549,311	41,541,195	33,706,361	43,004,156	39,959,488	37,827,346	42,830,385	41,024,989	34,287,886	35,916,869	39,564,488
呼吸器外科	37,759,617	4,105,650	3,882,730	3,634,058	3,398,740	4,354,490	2,800,559	2,153,640	2,740,840	2,941,403	3,033,450	2,468,536	2,245,521
外科	255,488,187	19,141,078	21,670,705	22,545,627	21,366,199	23,953,177	20,811,074	20,987,160	17,529,297	19,190,582	21,556,418	21,638,874	25,097,996
脳神経外科	7,245,098	726,174	891,390	615,350	741,824	737,760	827,360	870,990	436,340	521,550	332,220	330,900	213,240
整形外科	92,769,146	7,653,546	7,101,844	9,488,432	8,183,649	9,145,017	7,678,165	8,117,890	6,670,000	7,717,050	6,989,757	6,899,072	7,124,724
産婦人科	16,778,394	1,156,640	1,366,052	1,506,140	1,592,220	1,565,768	1,337,170	1,642,000	1,556,262	1,358,748	1,013,690	1,109,844	1,573,860
小児科	30,702,847	2,335,902	1,606,957	1,833,936	3,697,211	4,779,113	2,701,314	1,856,787	2,252,381	2,666,847	2,515,288	2,363,448	2,093,663
眼科	79,862,904	5,804,910	8,304,210	6,412,837	6,712,326	5,584,911	7,166,010	6,623,962	6,512,940	7,297,779	5,926,290	6,390,172	7,126,557
皮膚科	45,536,125	3,553,211	3,720,405	4,479,558	4,161,566	4,059,006	4,331,611	3,486,111	2,912,939	4,326,754	3,403,786	3,008,566	4,092,612
形成外科	29,275,614	2,437,245	2,098,760	3,057,832	1,984,248	2,682,382	3,382,327	1,966,769	2,484,780	2,614,393	1,660,312	2,435,846	2,470,720
耳鼻咽喉科	13,481,320	1,176,569	1,213,295	1,125,529	1,235,304	1,412,752	1,002,194	1,171,456	1,052,709	923,274	815,350	977,200	1,375,688
リハビリテーション科	24,711,927	1,925,871	1,965,252	1,833,749	1,453,056	1,755,645	2,088,945	2,147,470	2,431,288	2,268,767	2,092,472	2,175,068	2,574,344
泌尿器科	117,394,524	9,463,007	8,671,062	10,771,843	10,236,813	9,211,344	11,500,515	8,566,210	7,415,934	12,085,060	9,952,989	8,379,857	11,139,890
緩和ケア	1,859,212	108,890	114,630	167,450	121,600	153,960	143,418	163,920	163,430	124,980	312,004	121,320	163,610
放射線科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	30,143,474	2,505,274	2,338,578	2,763,610	2,293,654	3,314,008	2,535,720	2,661,750	2,682,250	2,281,920	1,900,726	2,351,944	2,514,040
合 計	2,704,808,247	218,649,093	228,229,381	232,887,043	226,811,853	242,576,332	237,246,169	208,691,854	218,622,715	222,216,482	217,895,553	209,560,793	241,420,979

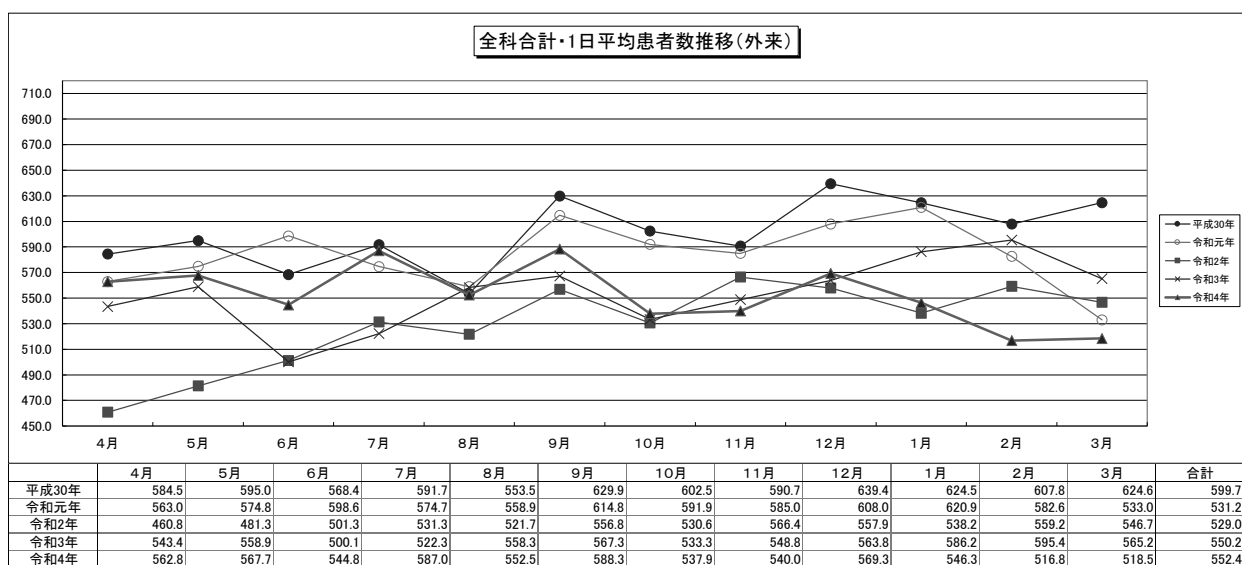
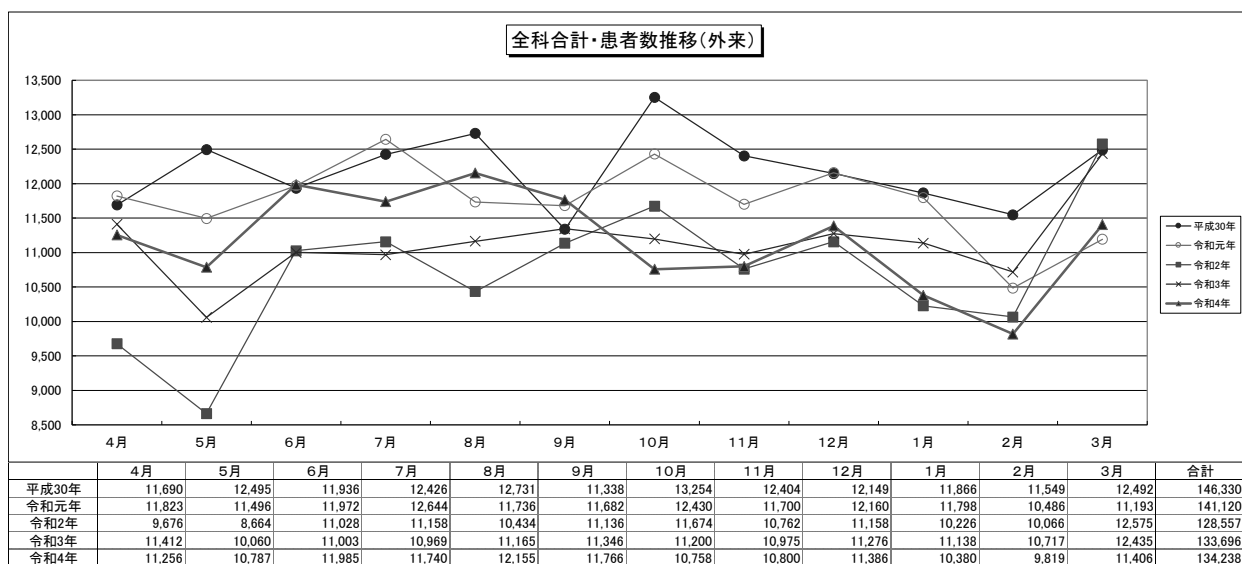
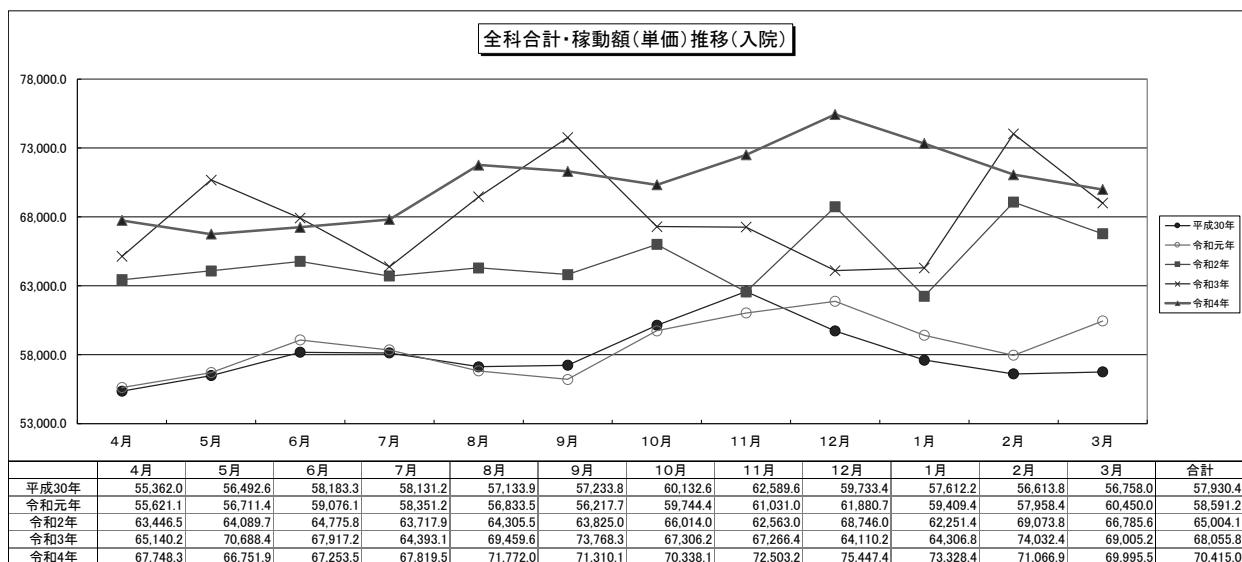
前 年 度	2,744,359,323	246,257,321	216,654,112	222,527,124	222,323,141	241,459,645	225,777,728	238,077,192	214,680,368	216,433,125	230,563,536	218,420,481	251,185,550
増 減 率	-1.4%	-11.2%	5.3%	4.7%	2.0%	0.5%	5.1%	-12.3%	1.8%	2.7%	-5.5%	-4.1%	-3.9%

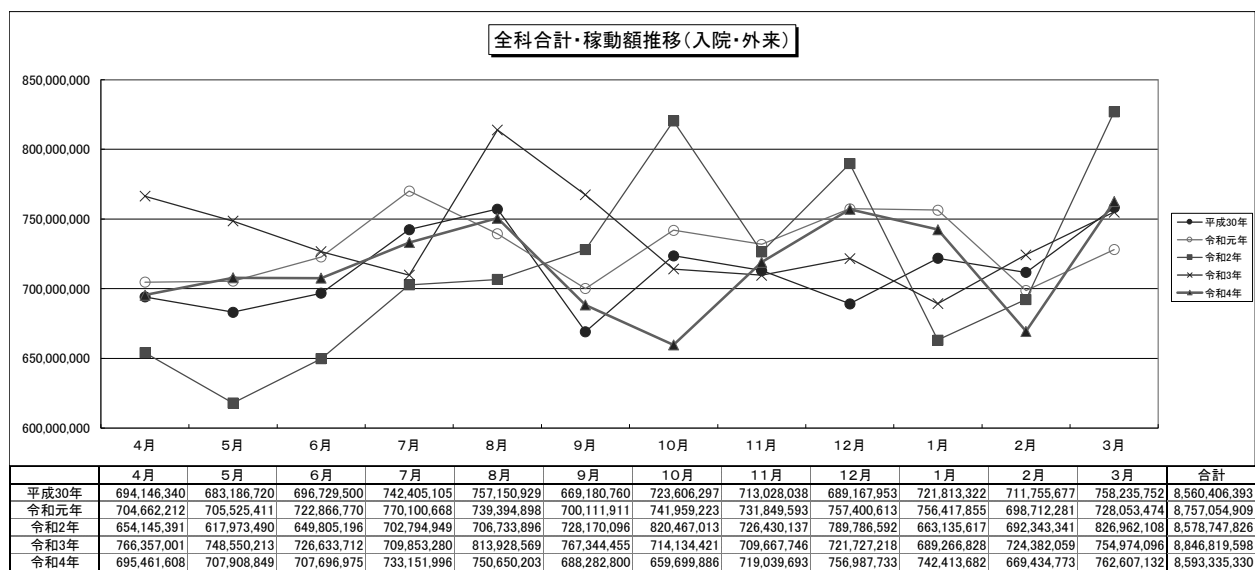
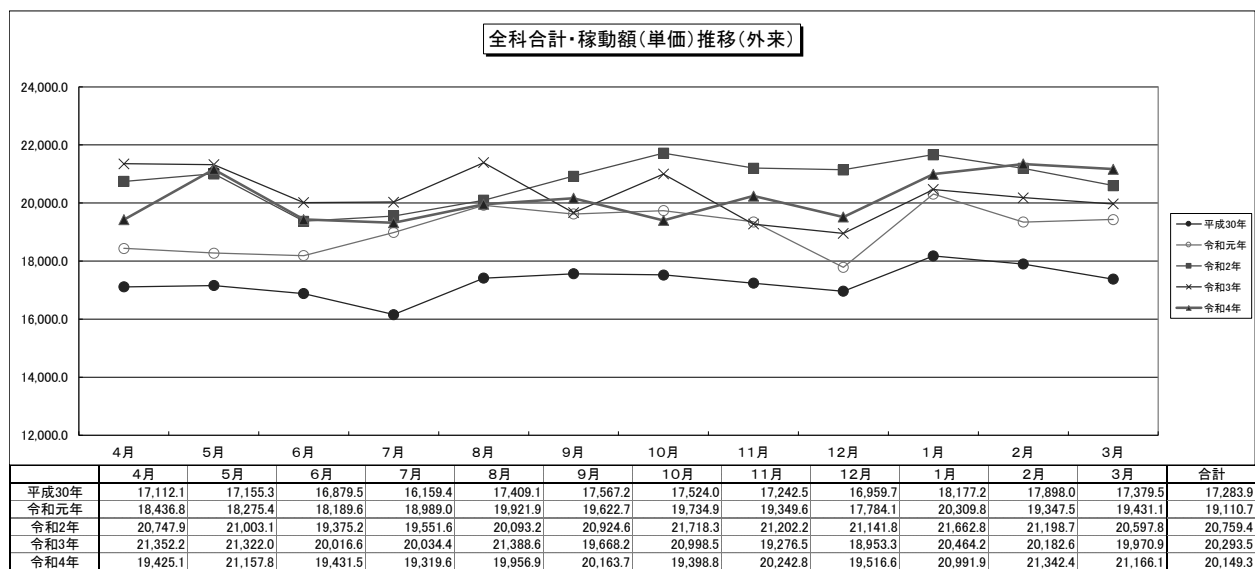
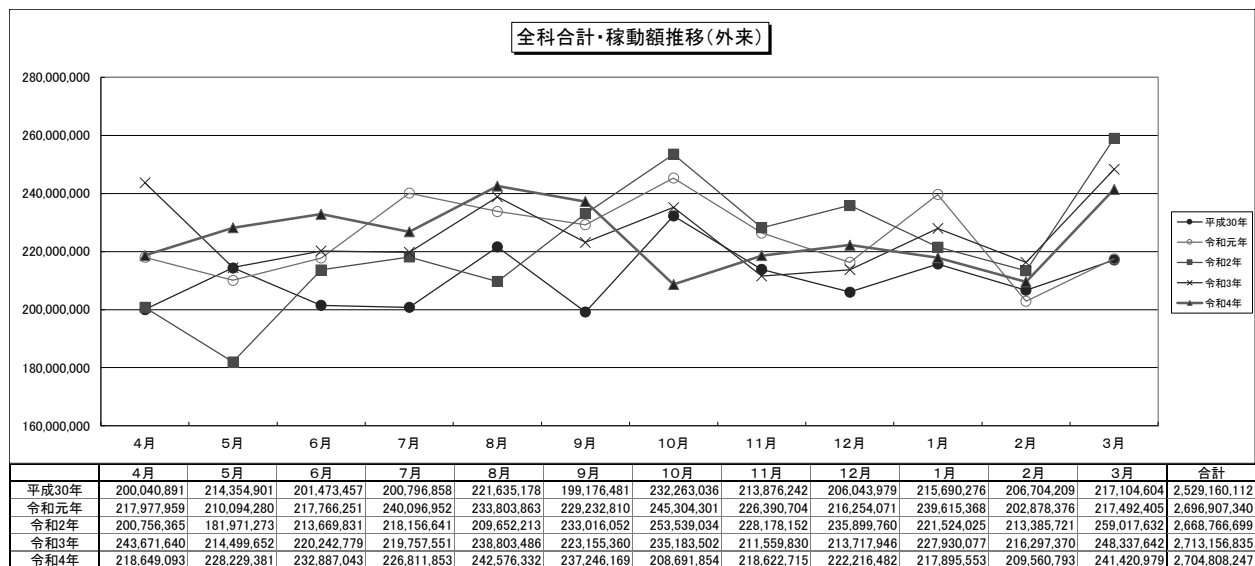
7. 外来単価

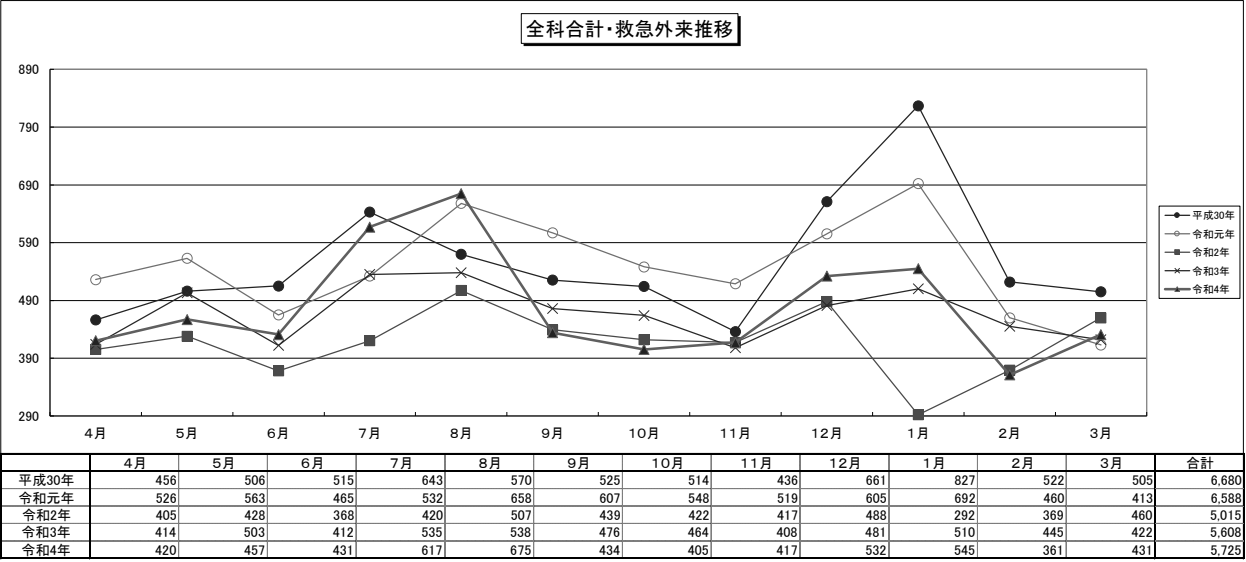
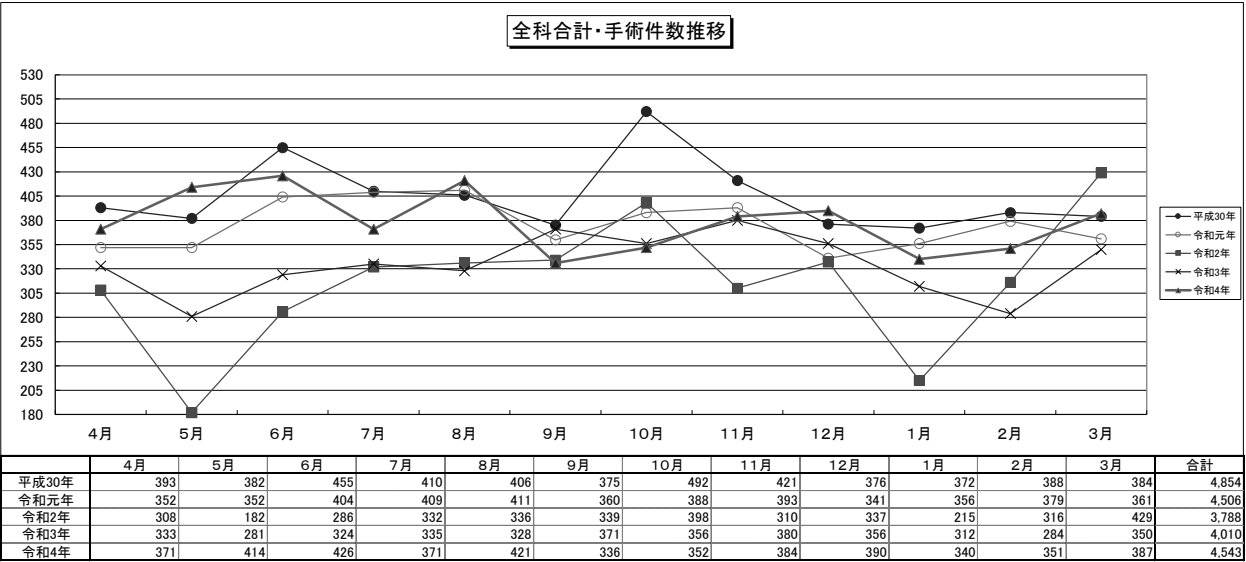
	合 計	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
内 科	22,511.0	27,607.6	31,840.5	37,578.8	19,199.3	18,561.6	19,219.1	22,090.8	23,552.7	21,374.2	23,099.6	25,939.0	25,056.1
糖・内・代	13,313.5	13,211.9	14,138.7	12,624.3	12,847.2	12,867.1	14,152.1	14,095.9	13,723.6	13,146.0	13,450.2	13,680.0	11,437.9
血液内科	107,719.2	99,322.2	127,168.2	108,303.5	109,564.3	106,243.1	110,427.9	96,112.1	101,462.4	93,858.9	108,399.7	110,712.6	121,679.2
腎臓内科	24,273.4	25,999.1	28,425.9	23,509.5	22,490.2	22,006.9	22,415.7	21,873.7	21,407.9	26,631.9	24,520.5	28,644.2	24,000.5
消化器科	20,089.0	19,132.0	18,679.2	17,244.9	19,637.4	18,814.0	19,634.8	20,071.5	20,473.6	19,463.2	23,357.5	22,263.9	22,980.5
循環器科	10,304.9	11,334.0	10,791.4	10,554.8	9,502.1	9,942.0	9,276.3	10,245.0	10,965.8	9,862.1	10,259.4	10,537.2	10,350.3
脳神経内科	7,706.7	10,908.9	6,122.9	8,274.8	7,298.3	8,188.1	7,392.6	8,188.8	8,389.8	7,799.3	7,757.4	5,955.6	6,845.8
呼吸器科	36,621.4	36,703.9	37,650.2	34,588.8	31,738.6	38,988.4	36,032.0	38,094.0	39,007.6	37,706.8	35,679.4	37,609.3	35,869.9
呼吸器外科	17,016.5	20,224.9	18,940.1	18,079.9	16,742.6	19,439.7	16,973.1	14,262.5	14,895.9	16,808.0	17,534.4	14,606.7	13,527.2
外科	24,901.4	21,362.8	25,169.2	23,757.2	24,252.2	28,963.9	23,648.9	23,660.8	23,817.0	23,065.6	26,320.4	28,139.0	27,191.8
脳神経外科	9,897.7	9,554.9	11,428.1	9,323.5	9,891.0	10,106.3	9,733.6	12,808.7	9,090.4	9,313.4	7,910.0	9,732.4	6,878.7
整形外科	7,046.1	7,730.9	7,045.5	7,560.5	7,274.4	7,557.9	6,665.1	7,406.8	6,558.5	6,693.0	7,067.5	6,810.5	6,152.6
産婦人科	7,291.8	6,803.8	7,631.6	7,038.0	8,796.8	7,491.7	5,996.3	8,596.9	7,704.3	6,759.9	6,539.9	7,253.9	7,057.7
小児科	11,754.5	10,428.1	9,130.4	9,807.1	12,705.2	12,609.8	12,802.4	10,671.2	12,653.8	11,748.2	14,623.8	12,439.2	10,313.6
眼科	9,754.8	8,376.5	12,070.1	9,444.5	9,742.1	8,864.9	10,974.0	9,049.1	9,304.2	10,206.7	9,699.3	9,938.1	9,451.7
皮膚科	4,805.9	4,712.5	4,980.5	5,364.7	5,221.5	4,644.2	5,341.1	4,557.0	3,910.0	5,200.4	4,380.7	4,379.3	4,809.2
形成外科	10,189.9	12,434.9	8,601.5	11,039.1	8,302.3	11,176.6	12,079.7	9,021.9	11,192.7	10,457.6	7,546.9	11,767.4	8,824.0
耳鼻咽喉科	5,771.1	5,824.6	6,453.7	5,831.8	6,501.6	6,510.4	4,986.0	5,714.4	5,784.1	5,245.9	6,224.0	4,935.4	5,437.5
リハビリテーション科	5,507.4	4,863.3	5,631.1	5,107.9	4,859.7	5,016.1	5,440.0	5,741.9	6,063.1	6,034.0	5,701.6	5,591.4	5,811.2
泌尿器科	16,816.3	15,287.6	15,484.0	16,470.7	16,537.7	18,096.9	17,190.6	15,002.1	13,861.6	19,618.6	18,500.0	17,641.8	18,084.2
緩和ケア	10,872.6	6,405.3	9,552.5	10,465.6	9,353.8	8,553.3	9,561.2	12,609.2	8,171.5	24,996.0	22,286.0	13,480.0	8,611.1
放射線科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	12,931.6	12,980.7	13,363.3	11,710.2	13,032.1	13,362.9	13,932.5	13,047.8	12,028.0	13,190.3	12,029.9	13,835.0	13,026.1
合 計	20,149.3	19,425.1	21,157.8	19,431.5	19,319.6	19,956.9	20,163.7	19,398.8	20,242.8	19,516.6	20,991.9	21,342.4	21,166.1

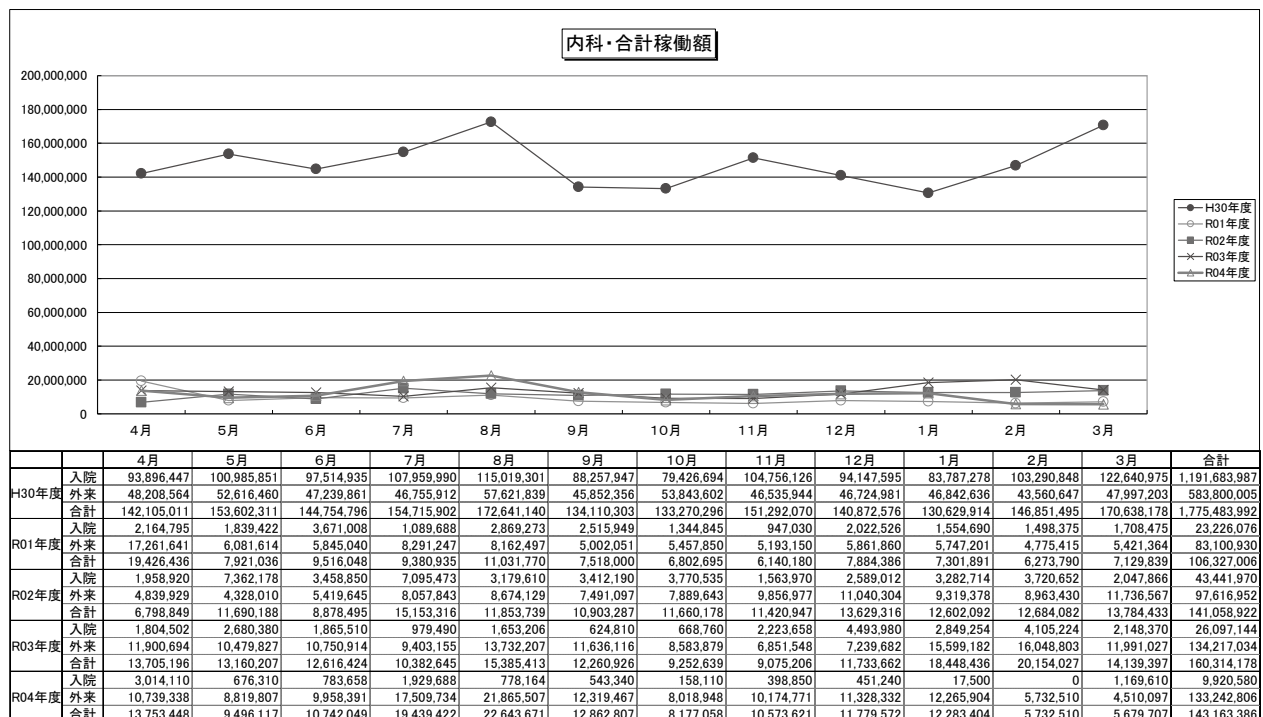
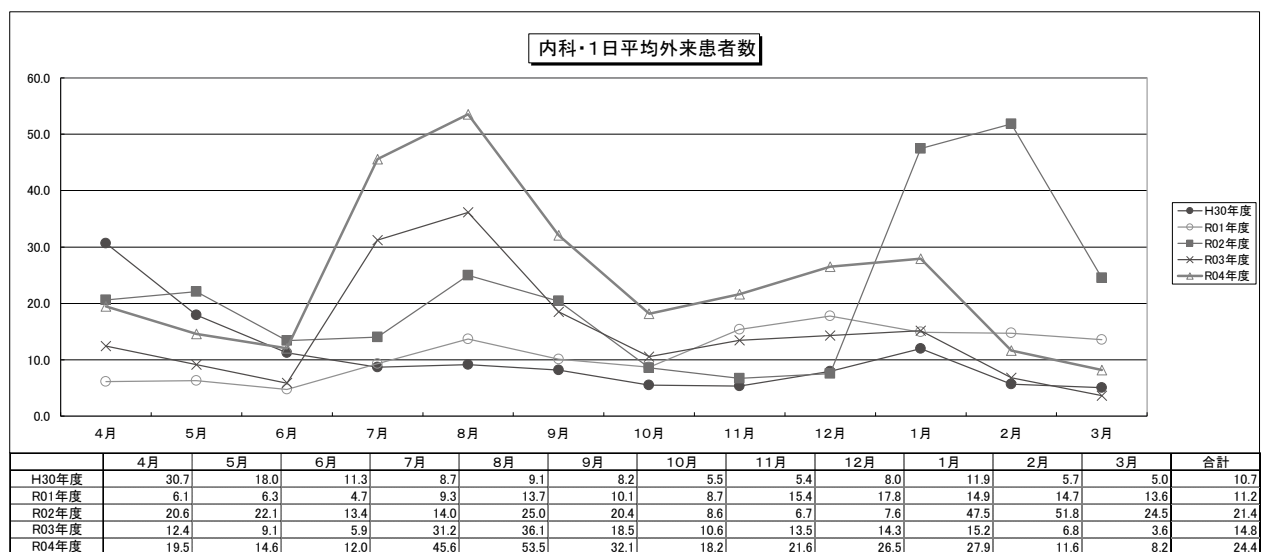
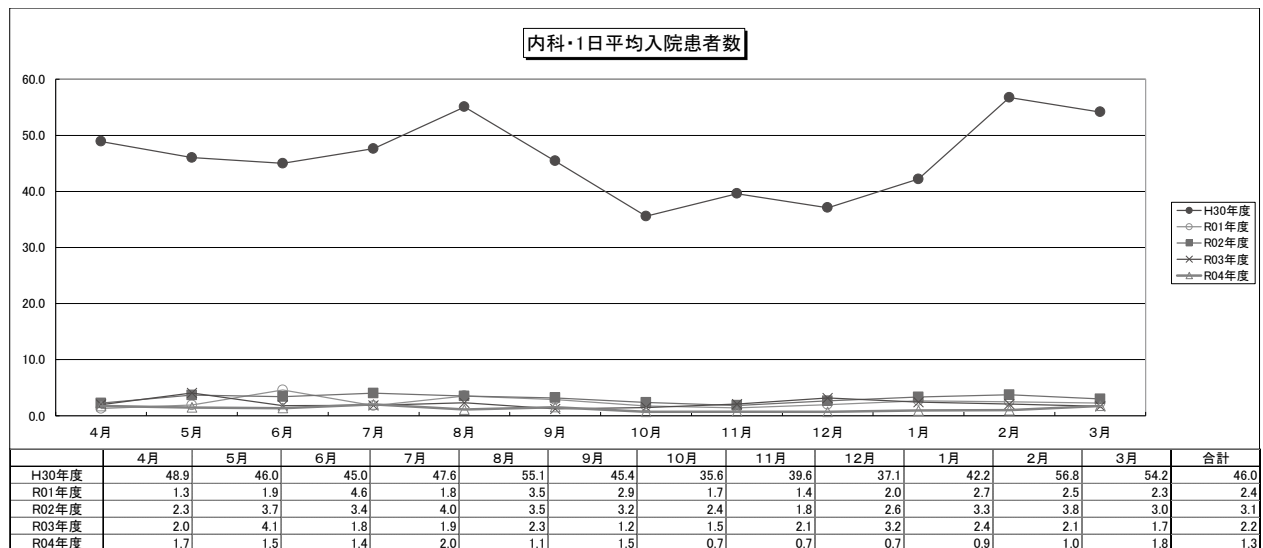
前 年 度	20,547.5	21,578.8	21,536.2	20,224.2	20,268.3	21,626.5	19,899.3	21,256.9	19,802.6	19,194.1	20,700.6	20,380.7	20,199.9
増 減 率	-1.9%	-10.0%	-1.8%	-3.9%	-4.7%	-7.7%	1.3%	-8.7%	2.2%	1.7%	1.4%	4.7%	4.8%

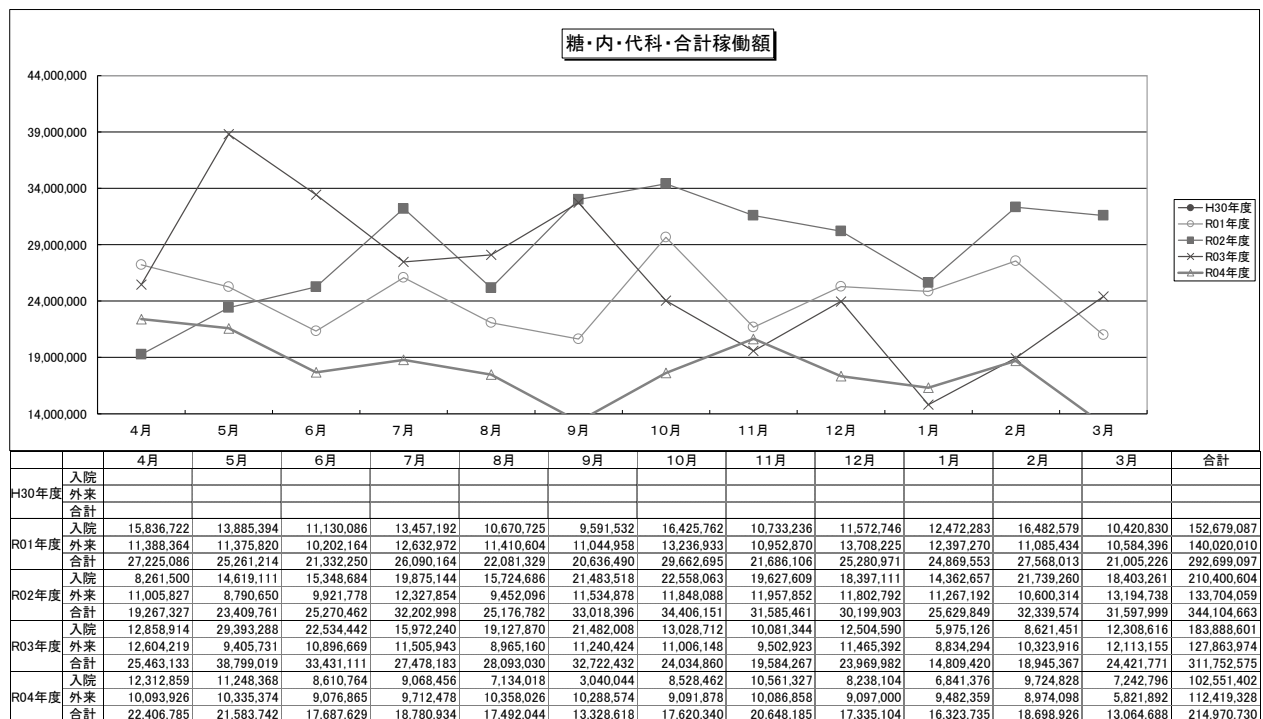
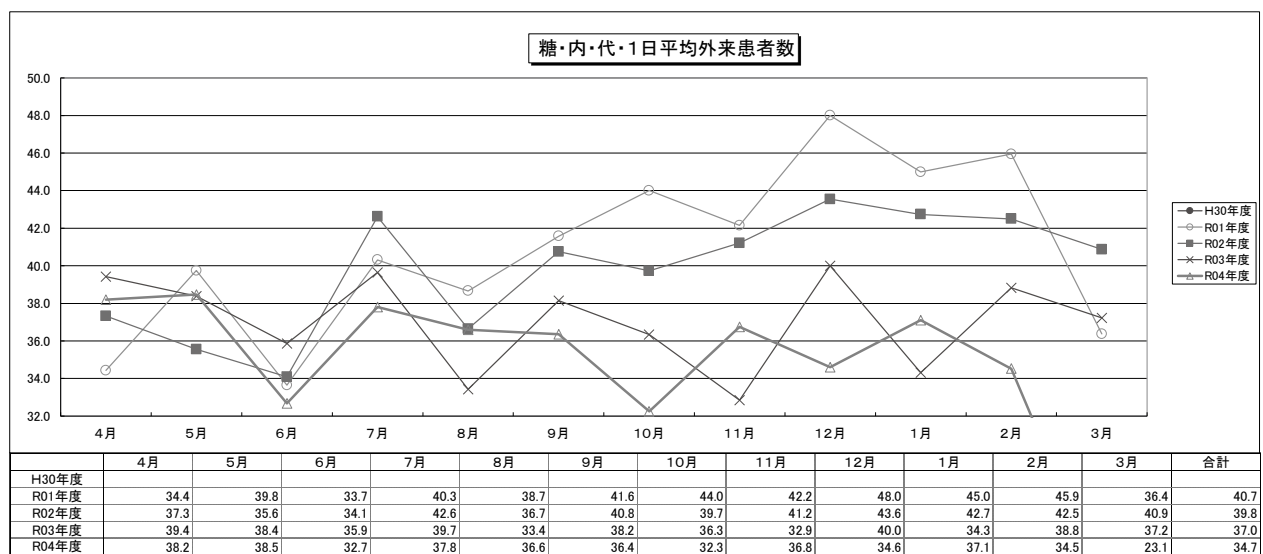
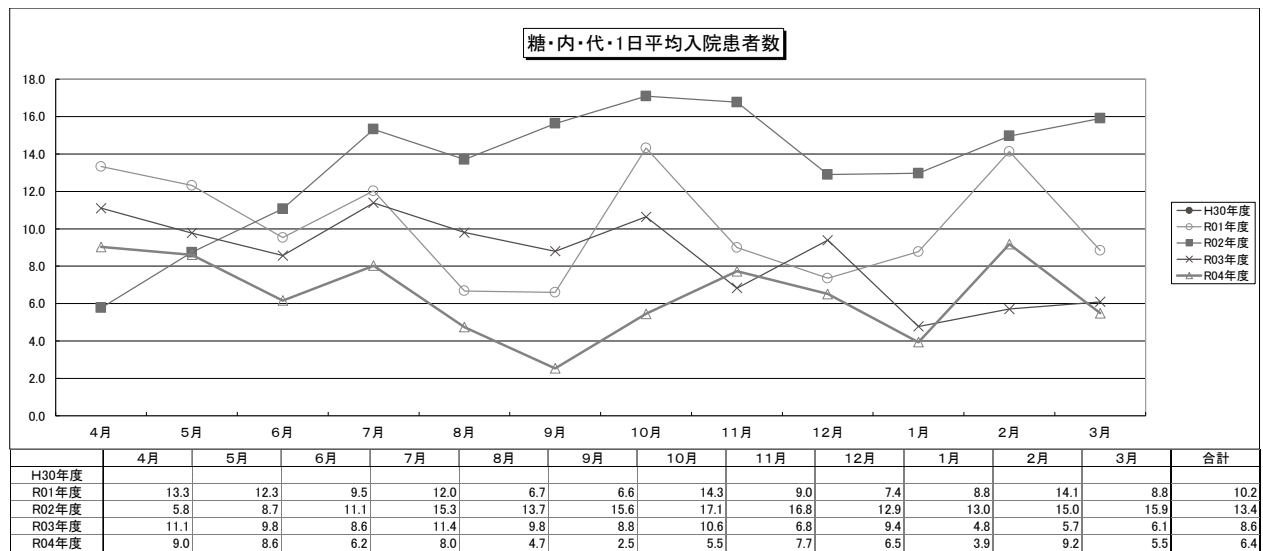


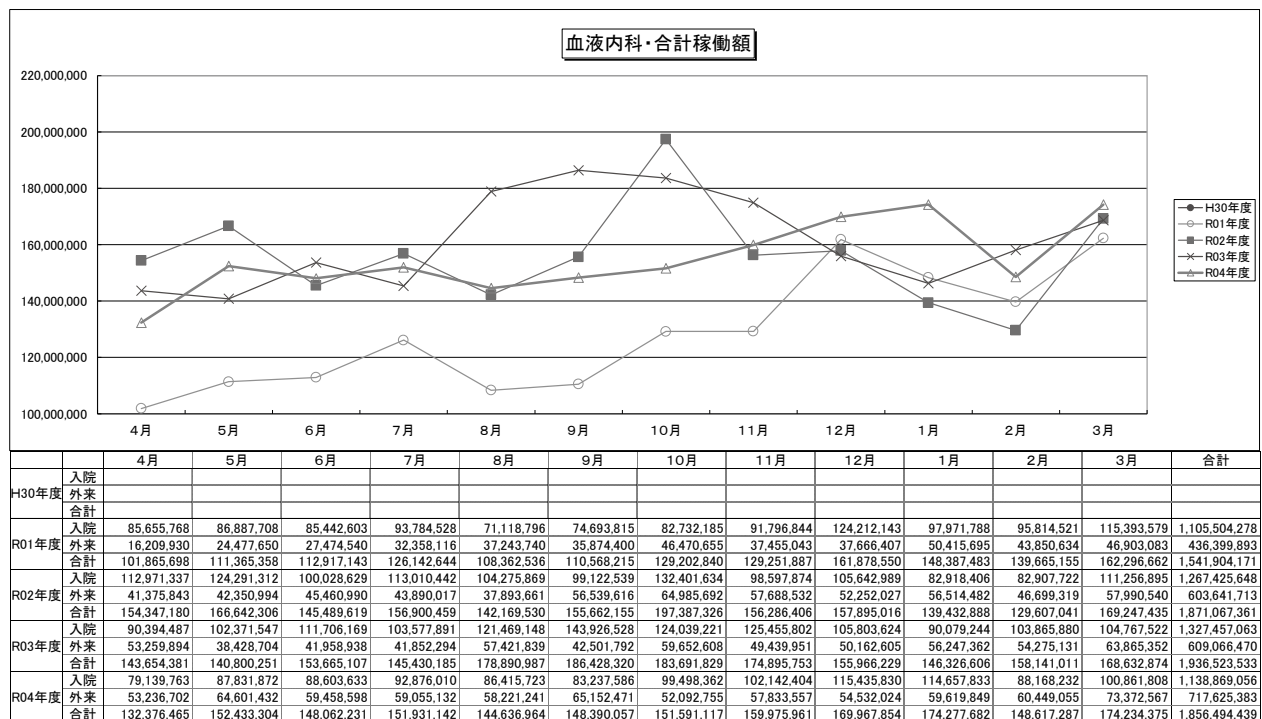
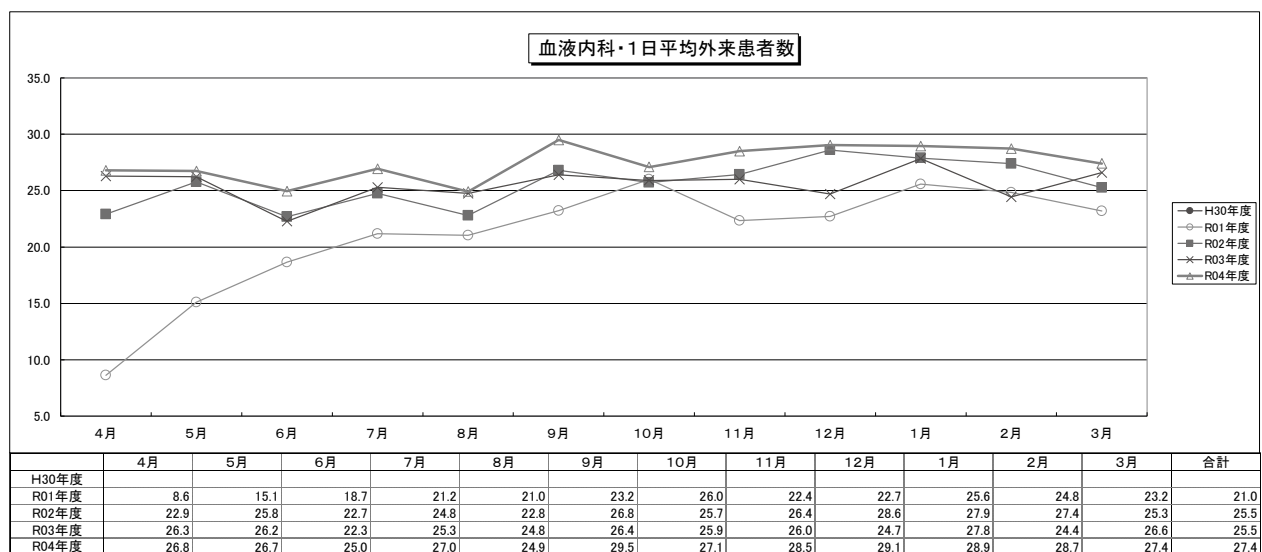
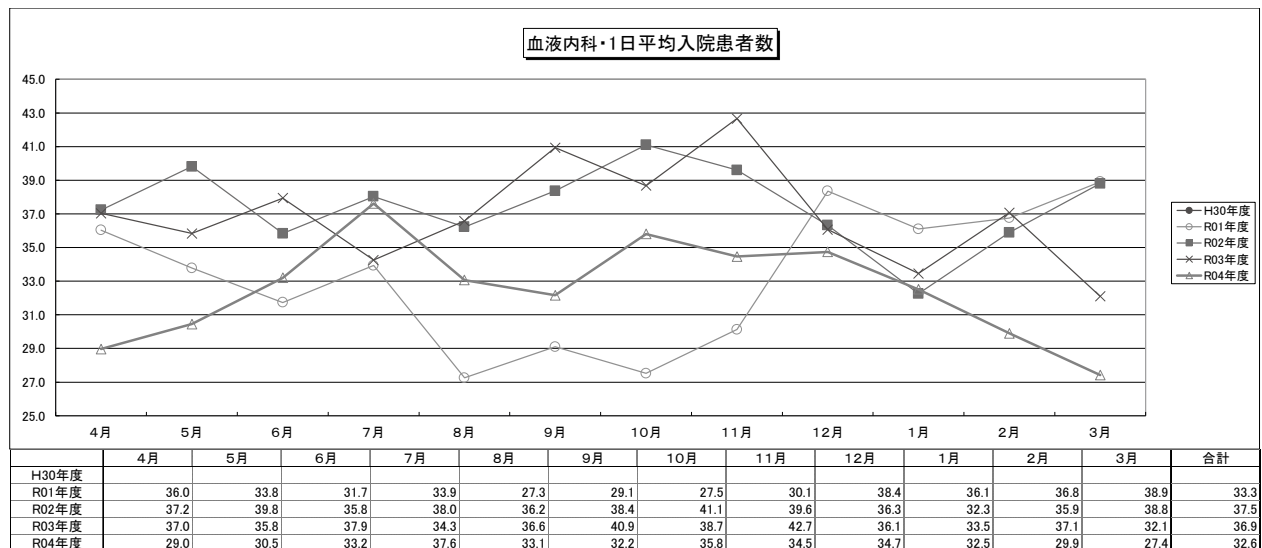




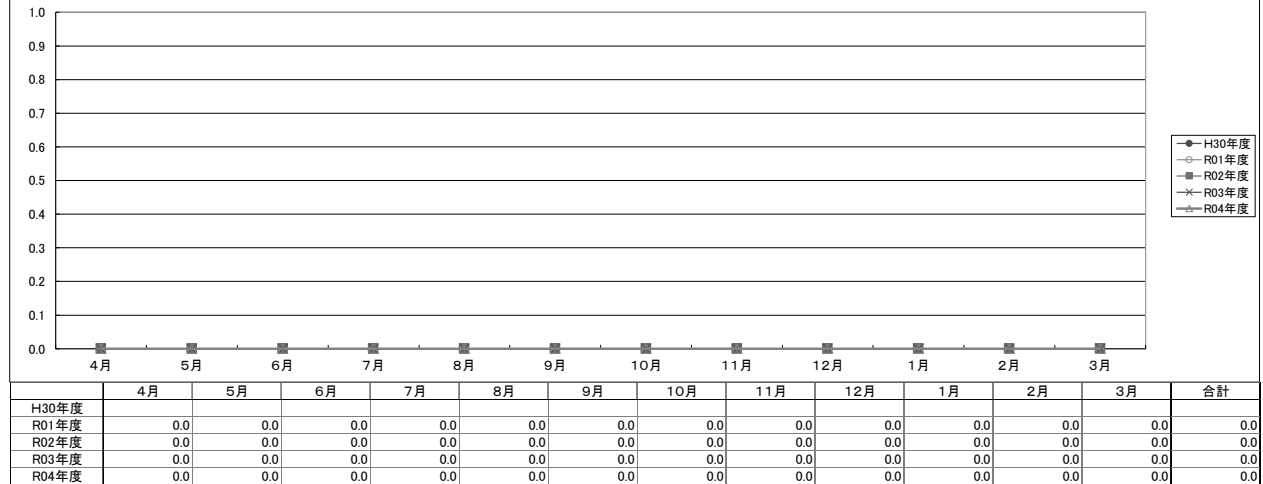




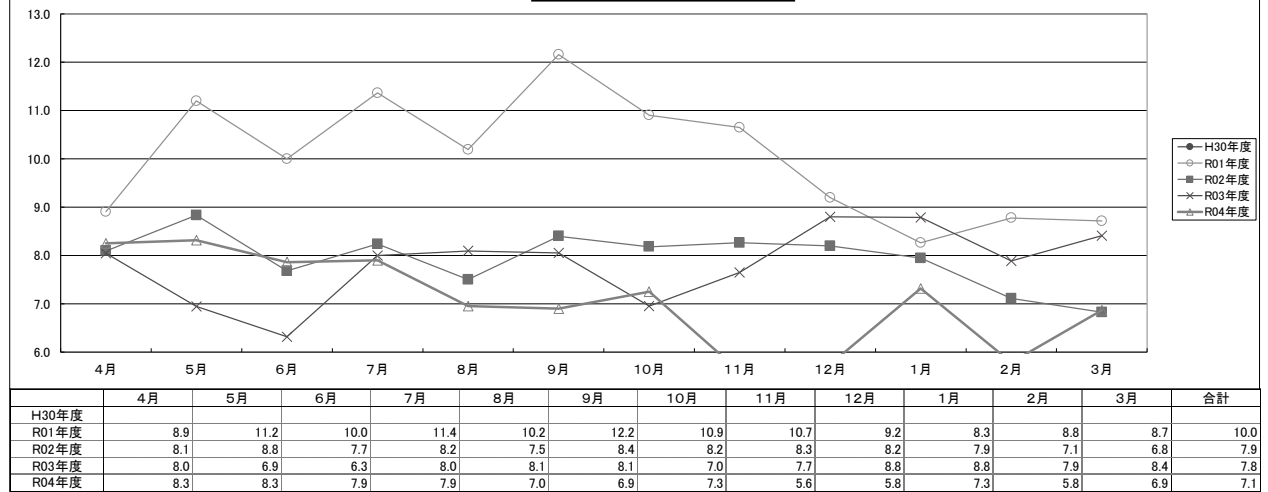




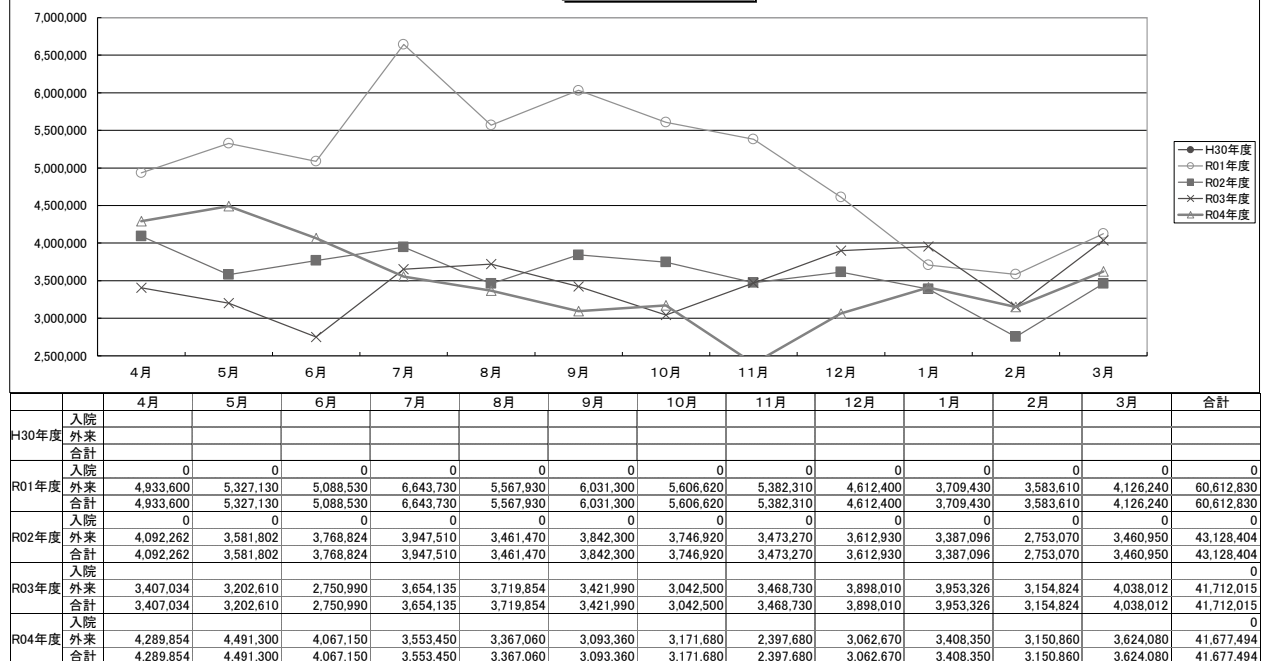
腎臓内科・1日平均入院患者数



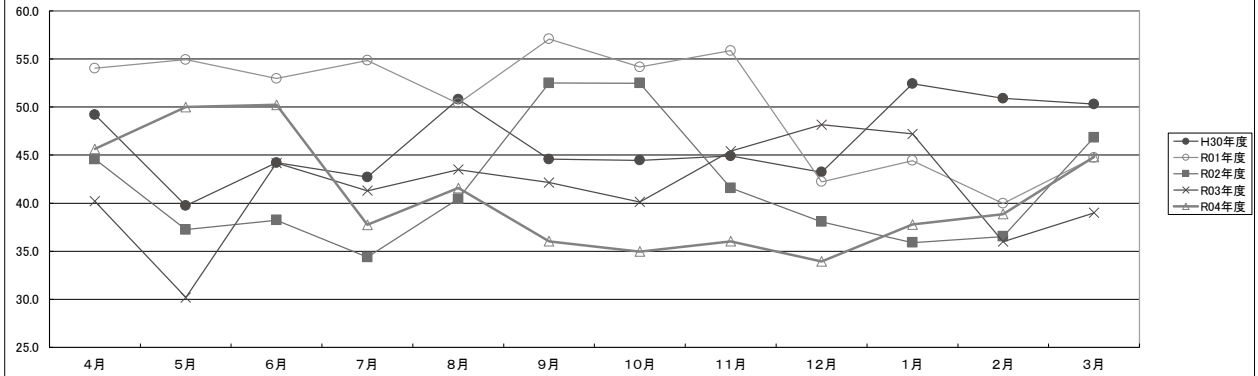
腎臓内科・1日平均外来患者数



腎臓内科・合計稼働額

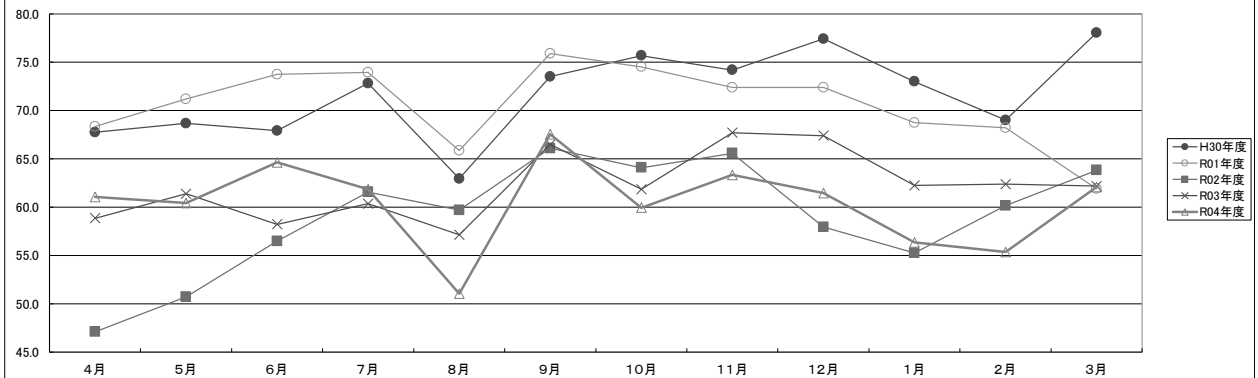


消化器内科・1日平均入院患者数



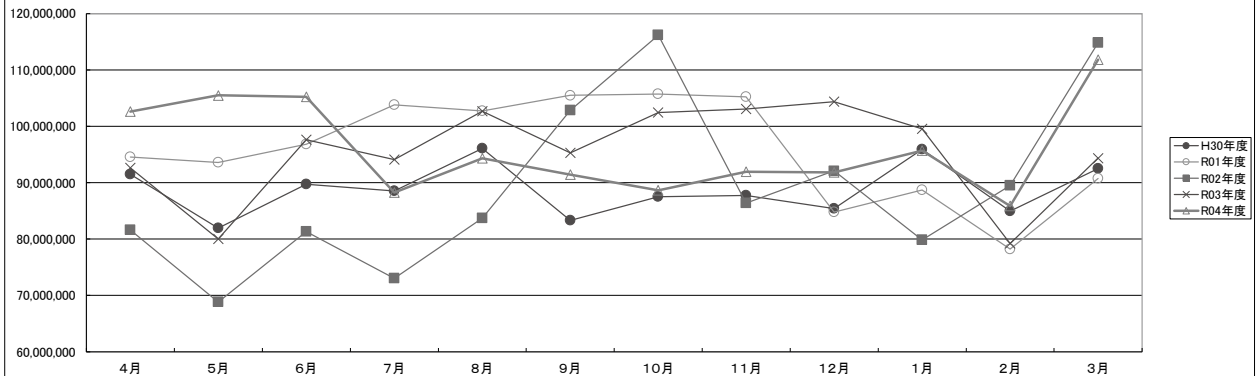
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H30年度	49.2	39.7	44.2	42.7	50.8	44.6	44.5	44.9	43.2	52.4	50.9	50.3	46.4
R01年度	54.0	54.9	53.0	54.8	50.4	57.1	54.2	55.9	42.2	44.4	40.0	44.7	50.5
R02年度	44.6	37.3	38.2	34.4	40.5	52.5	52.5	41.6	38.1	35.9	36.5	46.8	41.6
R03年度	40.2	30.2	44.2	41.3	43.5	42.1	40.1	45.4	48.2	47.2	36.0	39.0	41.5
R04年度	45.6	50.0	50.2	37.7	41.6	36.0	35.0	36.0	33.9	37.8	38.9	44.8	40.6

消化器内科・1日平均外来患者数



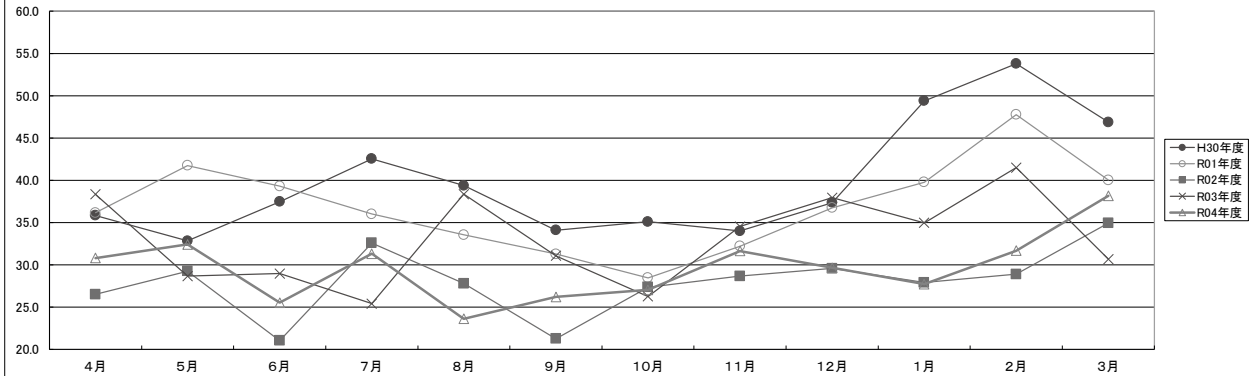
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H30年度	67.8	68.7	67.9	72.8	63.0	73.5	75.7	74.2	77.4	73.0	69.0	78.1	71.6
R01年度	68.3	71.2	73.8	74.0	65.9	75.9	74.5	72.4	72.4	68.7	68.2	61.9	70.6
R02年度	47.1	50.7	56.5	61.6	59.7	66.1	64.1	65.6	58.0	55.3	60.2	63.8	59.1
R03年度	58.9	61.4	58.2	60.4	57.1	66.5	61.9	67.7	67.4	62.3	62.4	62.2	62.1
R04年度	61.1	60.4	64.6	61.9	51.0	67.6	60.0	63.4	61.5	56.4	55.4	62.1	60.4

消化器内科・合計稼働額



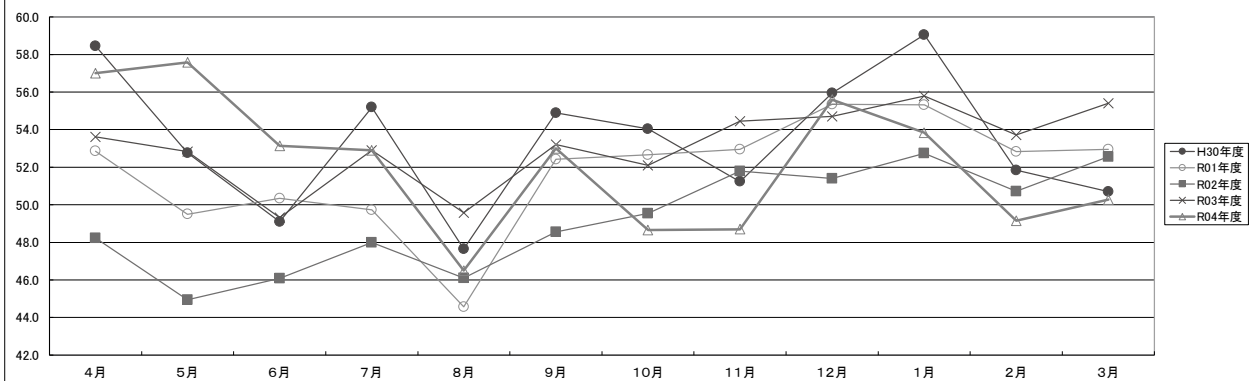
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H30年度	入院	70,307,028	58,346,666	64,309,223	65,726,624	73,346,188	63,583,581	63,584,056	67,003,995	65,027,447	74,226,785	65,455,928	69,489,146	800,406,667
	外来	21,188,581	23,605,392	25,435,741	22,831,571	22,732,083	19,718,747	23,955,648	20,744,463	20,390,029	21,695,164	19,523,549	23,038,530	264,859,498
	合計	91,495,609	81,952,058	89,744,964	88,558,195	96,078,271	83,302,328	87,539,704	87,748,458	85,417,476	95,921,949	84,979,477	92,527,676	1,065,266,165
R01年度	入院	72,218,412	69,250,043	71,647,995	75,947,025	79,061,546	78,023,211	80,044,481	80,864,317	61,734,756	66,656,336	56,845,749	67,706,871	860,000,742
	外来	22,334,011	24,336,098	25,174,599	27,864,455	23,656,280	27,469,982	25,687,706	24,348,818	23,083,307	22,063,428	21,385,367	23,038,322	290,443,373
	合計	94,552,423	93,586,141	96,822,594	103,811,480	102,717,826	105,493,193	105,732,187	105,213,135	84,818,063	88,719,764	78,231,116	90,746,193	1,150,444,115
R02年度	入院	63,871,655	52,344,850	58,719,391	50,808,649	61,883,450	78,207,127	91,169,016	62,019,993	65,003,953	54,902,851	61,254,244	81,833,136	782,018,315
	外来	17,750,068	16,485,762	22,624,125	22,250,883	21,834,568	24,625,152	25,009,778	24,347,752	27,087,842	24,950,653	28,233,268	33,004,861	288,204,712
	合計	81,621,723	68,830,612	81,343,516	73,059,532	83,718,018	102,832,279	116,178,794	86,367,745	92,091,795	79,853,504	89,487,512	114,837,997	1,070,223,027
R03年度	入院	61,959,314	51,763,944	68,274,728	65,541,545	72,458,485	68,173,103	72,820,059	77,414,307	80,840,625	75,852,564	58,947,021	65,434,572	819,480,267
	外来	30,691,374	28,269,279	29,357,878	28,572,772	30,211,902	27,104,187	29,611,959	25,654,845	23,532,559	23,711,577	20,263,116	28,930,386	325,911,834
	合計	92,650,688	80,033,223	97,632,606	94,114,317	102,670,387	95,277,290	102,432,018	103,069,152	104,373,184	99,564,141	79,210,137	94,364,958	1,145,392,101
R04年度	入院	79,259,243	84,050,946	80,720,181	63,985,329	73,228,714	64,893,103	64,613,397	66,028,656	67,895,911	70,698,944	62,444,217	80,442,416	858,261,057
	外来	23,360,211	21,443,682	24,522,301	24,291,467	21,128,112	26,526,659	24,065,737	25,940,068	23,920,321	25,015,852	23,421,642	31,391,311	295,027,363
	合計	102,619,454	105,494,628	105,242,482	88,276,796	94,356,826	91,419,762	88,679,134	91,968,724	91,816,232	95,714,796	85,865,859	111,833,727	1,153,288,420

循環器科・1日平均入院患者数



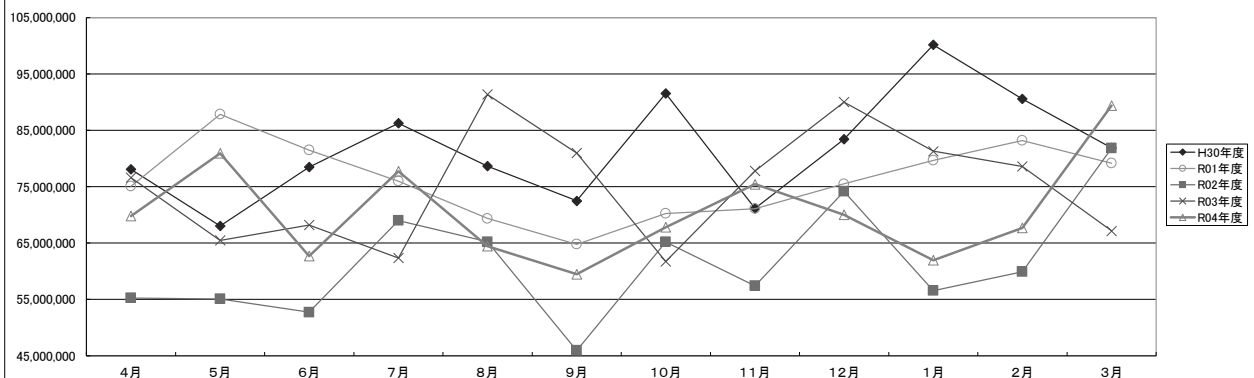
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H30年度	35.8	32.8	37.5	42.5	39.4	34.1	35.1	34.0	37.4	49.4	53.8	46.9	39.8
R01年度	36.2	41.7	39.3	36.0	33.5	31.3	28.5	32.2	36.7	39.8	47.8	40.0	36.9
R02年度	26.5	29.3	21.0	32.6	27.8	21.3	27.4	28.7	29.6	27.9	28.9	34.9	28.0
R03年度	38.3	28.7	29.0	25.4	38.4	31.1	26.3	34.5	37.9	35.0	41.5	30.7	33.0
R04年度	30.8	32.4	25.5	31.3	23.6	26.2	27.0	31.6	29.6	27.7	31.7	38.2	29.6

循環器科・1日平均外来患者数



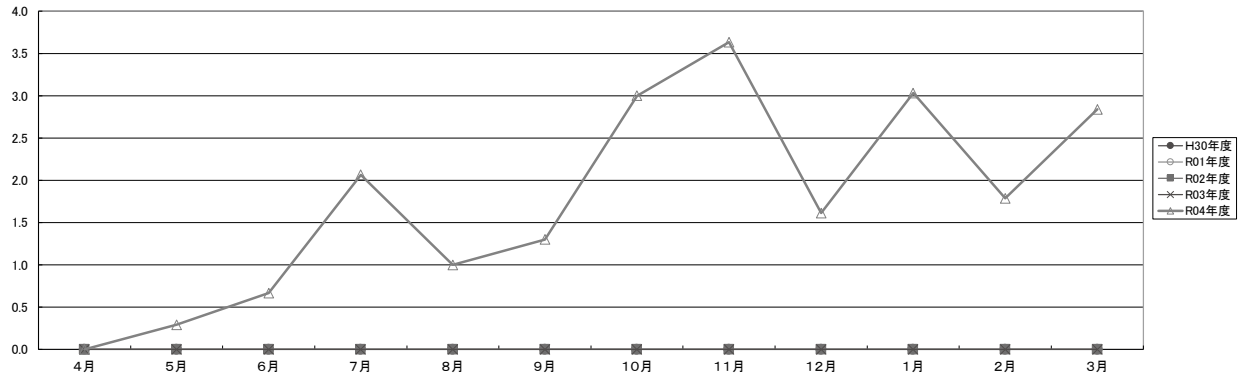
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H30年度	58.5	52.8	49.1	55.2	47.7	54.9	54.0	51.2	55.9	59.1	51.8	50.7	53.3
R01年度	52.9	49.5	50.4	49.7	44.6	52.4	52.7	53.0	55.4	55.3	52.8	53.0	51.7
R02年度	48.2	44.9	46.1	48.0	46.1	48.6	49.5	51.8	51.4	52.7	50.7	52.6	49.2
R03年度	53.6	52.8	49.3	52.9	49.6	53.2	52.1	54.5	54.7	55.8	53.7	55.4	53.1
R04年度	57.0	57.6	53.1	52.9	46.5	53.0	48.7	48.7	55.6	53.8	49.2	50.3	52.1

循環器科・合計稼働額



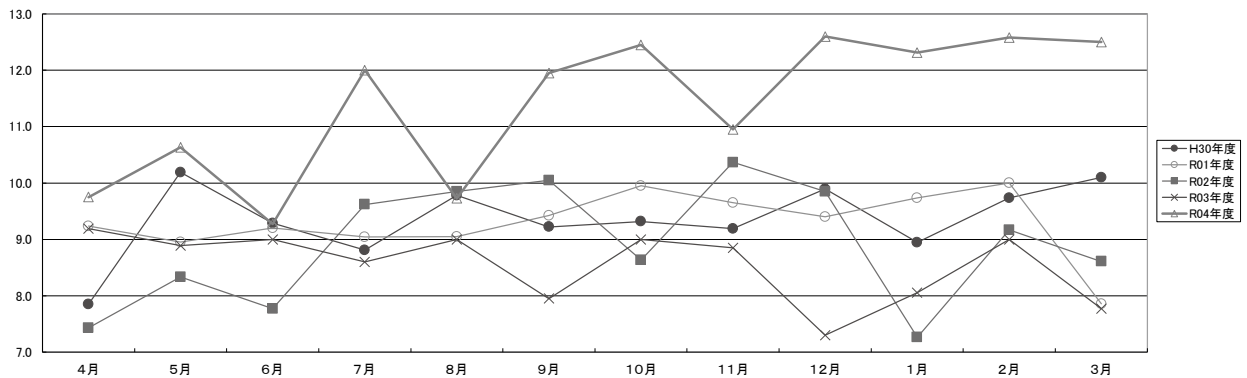
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H30年度	65,028,968	56,153,092	67,576,593	73,122,986	67,256,367	61,699,753	78,456,235	60,209,521	72,874,932	88,851,160	80,400,324	71,400,242	843,030,173
R01年度	13,054,443	11,896,276	10,922,540	13,130,947	11,405,410	10,792,434	13,104,345	10,945,968	10,547,572	11,310,794	10,181,399	10,470,640	137,762,768
R02年度	78,083,411	68,049,368	78,499,133	86,253,933	78,661,777	72,492,187	91,560,580	71,155,489	83,422,504	100,161,954	90,581,723	81,870,882	980,792,941
R03年度	63,626,161	77,674,250	71,531,328	64,734,863	60,159,020	54,538,334	58,907,946	59,333,798	65,347,043	69,348,162	73,608,541	68,446,304	787,255,750
R04年度	11,468,721	10,161,990	9,969,646	11,255,653	9,207,842	10,238,456	11,341,186	11,772,281	10,157,340	10,340,761	9,571,602	10,702,669	126,188,147
R01年度	75,094,882	87,836,240	81,500,974	75,990,516	69,366,862	64,776,790	70,249,132	71,106,079	75,504,383	79,688,923	83,180,143	79,148,973	913,443,897
R02年度	45,945,600	47,410,578	42,568,235	59,480,162	55,899,921	36,792,085	54,831,115	47,492,842	64,040,848	47,125,229	50,818,603	68,699,146	621,104,364
R03年度	9,292,006	7,675,581	10,161,638	9,529,416	9,325,649	9,149,266	10,351,650	9,928,482	10,140,188	9,415,478	9,109,577	13,129,324	117,208,255
R04年度	55,237,606	55,086,159	52,729,873	69,009,578	65,225,570	45,941,351	65,182,765	57,421,324	74,181,036	56,540,707	59,928,180	81,828,470	738,312,619
R01年度	66,402,903	55,517,981	58,439,194	52,646,096	81,680,286	70,653,439	51,063,856	66,461,790	79,697,292	70,106,745	69,213,318	55,216,718	777,099,618
R02年度	10,208,184	9,942,390	9,787,787	9,701,733	9,674,068	10,321,483	10,676,602	11,359,764	10,333,747	11,185,998	9,369,854	11,936,010	124,497,620
R03年度	76,611,087	65,460,371	68,226,981	62,347,829	91,354,354	80,974,922	61,740,458	77,821,554	90,031,039	81,292,743	78,583,172	67,152,728	901,597,238
R04年度	56,874,261	69,121,685	50,353,176	67,679,986	54,297,417	49,654,381	57,849,892	64,764,733	59,050,609	51,483,682	57,876,479	77,957,589	716,963,890
R01年度	12,920,798	11,805,782	12,338,540	10,053,237	10,170,636	9,832,929	9,968,382	10,680,642	10,966,606	10,495,377	9,841,721	11,447,475	130,522,125
R02年度	69,795,059	80,927,467	62,691,716	77,733,223	64,468,053	59,487,310	67,818,274	75,445,375	70,017,215	61,979,059	67,718,200	89,405,064	847,486,015

脳神経内科・1日平均入院患者数



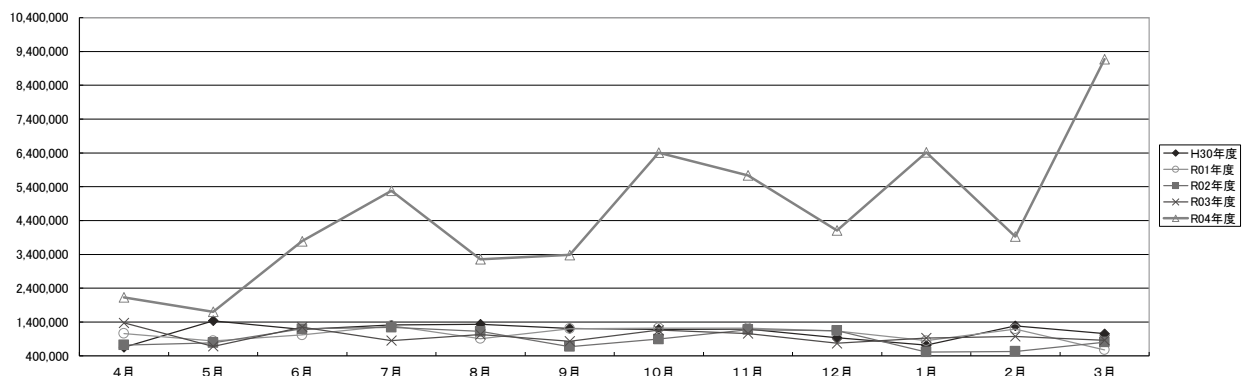
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H30年度	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
R01年度	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
R02年度	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
R03年度	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
R04年度	0.0	0.3	0.7	2.1	1.0	1.3	3.0	3.6	1.6	3.0	1.8	2.8	1.8

脳神経内科・1日平均外来患者数

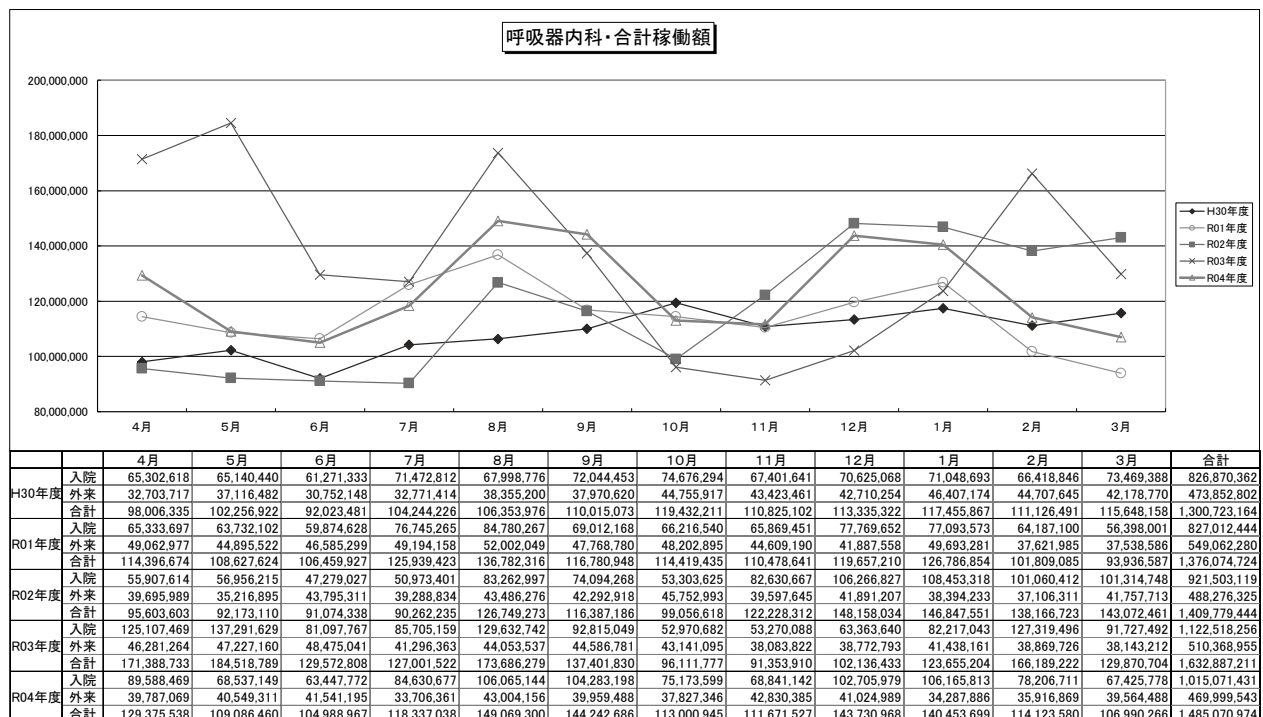
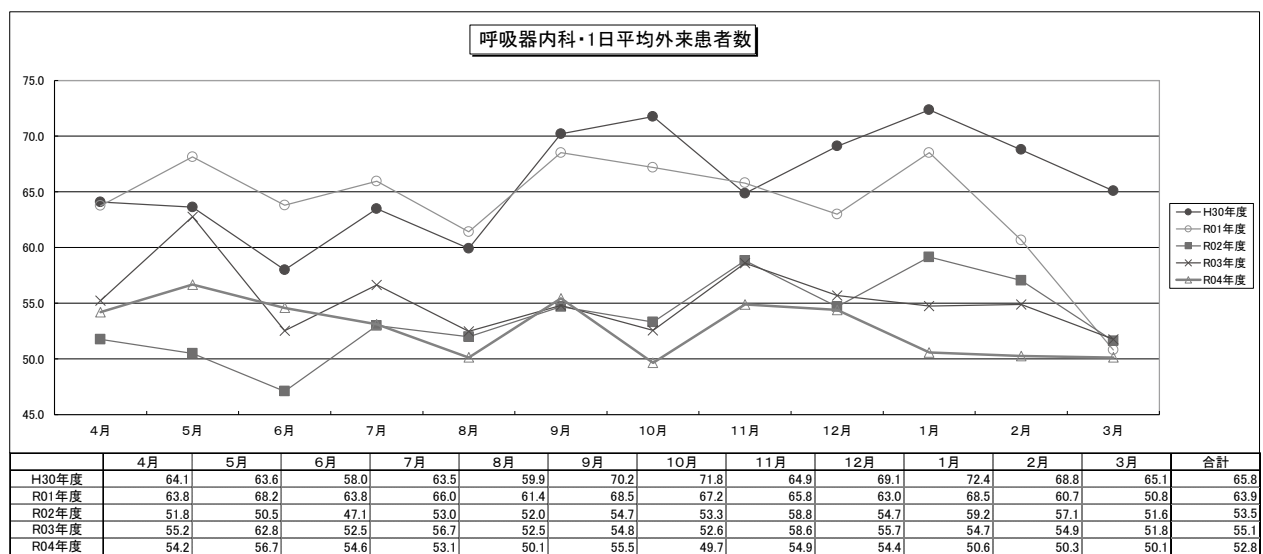
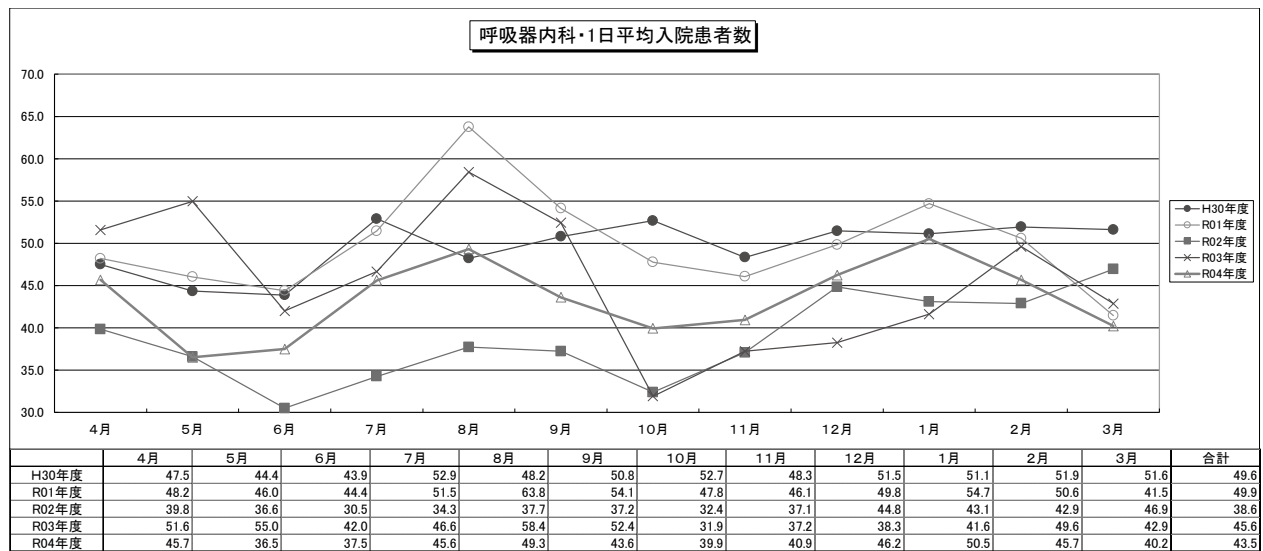


	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H30年度	7.9	10.2	9.3	8.8	9.8	9.2	9.3	9.2	9.9	8.9	9.7	10.1	9.4
R01年度	9.2	9.0	9.2	9.0	9.0	9.4	10.0	9.7	9.4	9.7	10.0	7.9	9.3
R02年度	7.4	8.3	7.8	9.6	9.9	10.1	8.6	10.4	9.9	7.3	9.2	8.6	8.9
R03年度	9.2	8.9	9.0	8.6	9.0	8.0	9.0	8.9	7.3	8.1	9.0	7.8	8.5
R04年度	9.8	10.6	9.3	12.0	9.7	12.0	12.5	11.0	12.6	12.3	12.6	12.5	11.4

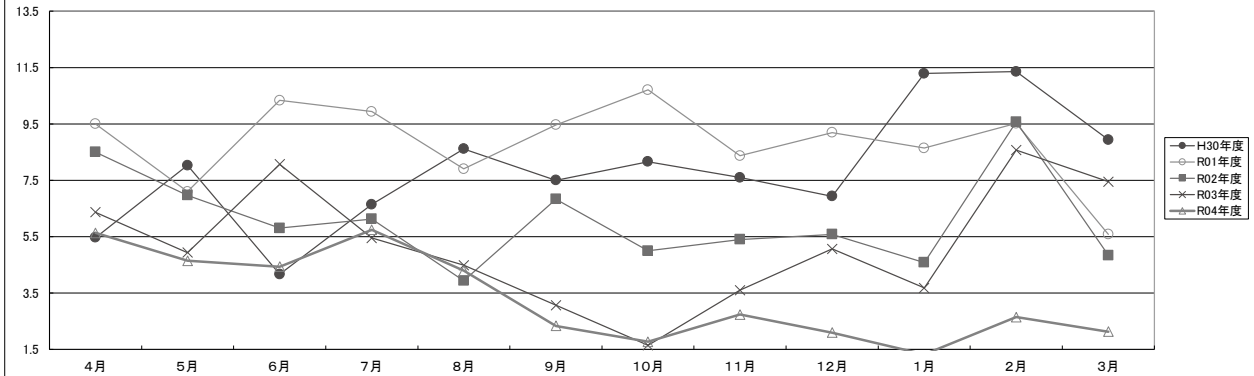
脳神経内科・合計稼働額



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H30年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
外来	653,186	1,434,047	1,185,707	1,310,472	1,335,470	1,209,070	1,181,200	1,190,000	933,664	713,694	1,282,900	1,055,274	13,484,684
合計	653,186	1,434,047	1,185,707	1,310,472	1,335,470	1,209,070	1,181,200	1,190,000	933,664	713,694	1,282,900	1,055,274	13,484,684
R01年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
外来	1,056,300	843,420	1,016,498	1,288,800	904,620	1,201,540	1,221,710	1,216,610	1,133,600	846,920	1,189,500	575,332	12,494,850
合計	1,056,300	843,420	1,016,498	1,288,800	904,620	1,201,540	1,221,710	1,216,610	1,133,600	846,920	1,189,500	575,332	12,494,850
R02年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
外来	716,506	784,863	1,196,193	1,242,042	1,120,720	670,275	893,358	1,176,180	1,143,520	511,714	532,666	804,668	10,792,705
合計	716,506	784,863	1,196,193	1,242,042	1,120,720	670,275	893,358	1,176,180	1,143,520	511,714	532,666	804,668	10,792,705
R03年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
外来	1,376,120	677,844	1,244,688	848,007	1,027,594	835,248	1,158,020	1,055,610	770,759	926,824	971,916	863,988	11,756,618
合計	1,376,120	677,844	1,244,688	848,007	1,027,594	835,248	1,158,020	1,055,610	770,759	926,824	971,916	863,988	11,756,618
R04年度	0	464,370	2,101,880	3,527,550	1,505,485	1,615,450	4,367,550	3,898,182	2,141,242	4,598,356	2,504,620	7,289,972	34,014,657
外来	2,127,228	1,236,823	1,688,052	1,751,584	1,752,261	1,766,839	2,039,013	1,837,364	1,965,433	1,815,224	1,423,391	1,882,604	21,285,816
合計	2,127,228	1,701,193	3,789,932	5,279,134	3,257,746	3,382,289	6,406,563	5,735,546	4,106,675	6,413,580	3,928,011	9,172,576	55,300,473

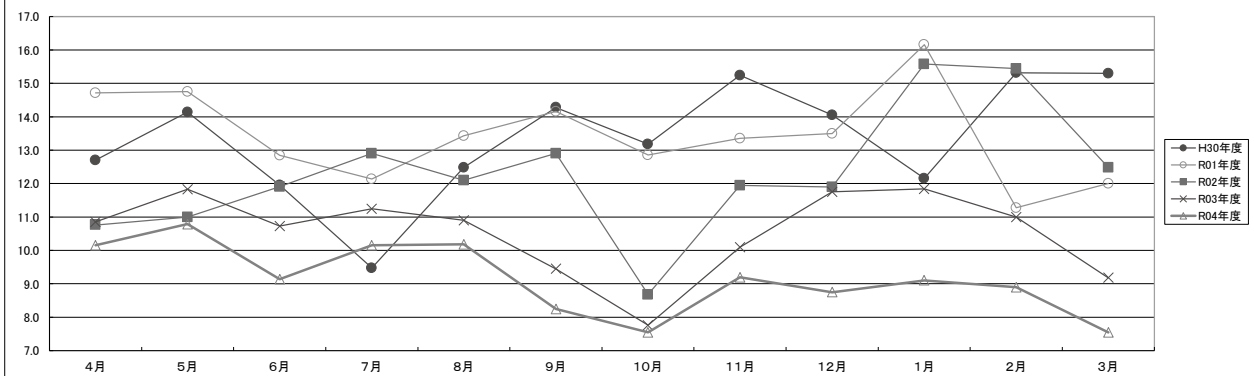


呼吸器外科・1日平均入院患者数



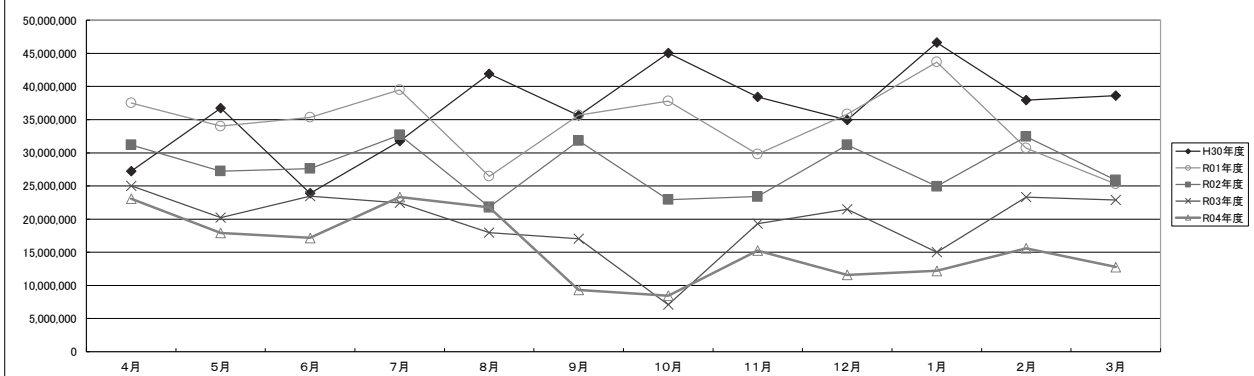
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H30年度	5.5	8.0	4.2	6.6	8.6	7.5	8.2	7.6	6.9	11.3	11.4	8.9	7.9
R01年度	9.5	7.1	10.3	9.9	7.9	9.5	10.7	8.4	9.2	8.6	9.5	5.6	8.8
R02年度	8.5	7.0	5.8	6.1	3.9	6.8	5.0	5.4	5.6	4.6	9.6	4.8	6.1
R03年度	6.4	4.9	8.1	5.5	4.5	3.1	1.6	3.6	5.1	3.7	8.6	7.5	5.2
R04年度	5.6	4.6	4.4	5.7	4.3	2.3	1.8	2.7	2.1	1.3	2.6	2.1	3.3

呼吸器外科・1日平均外来患者数

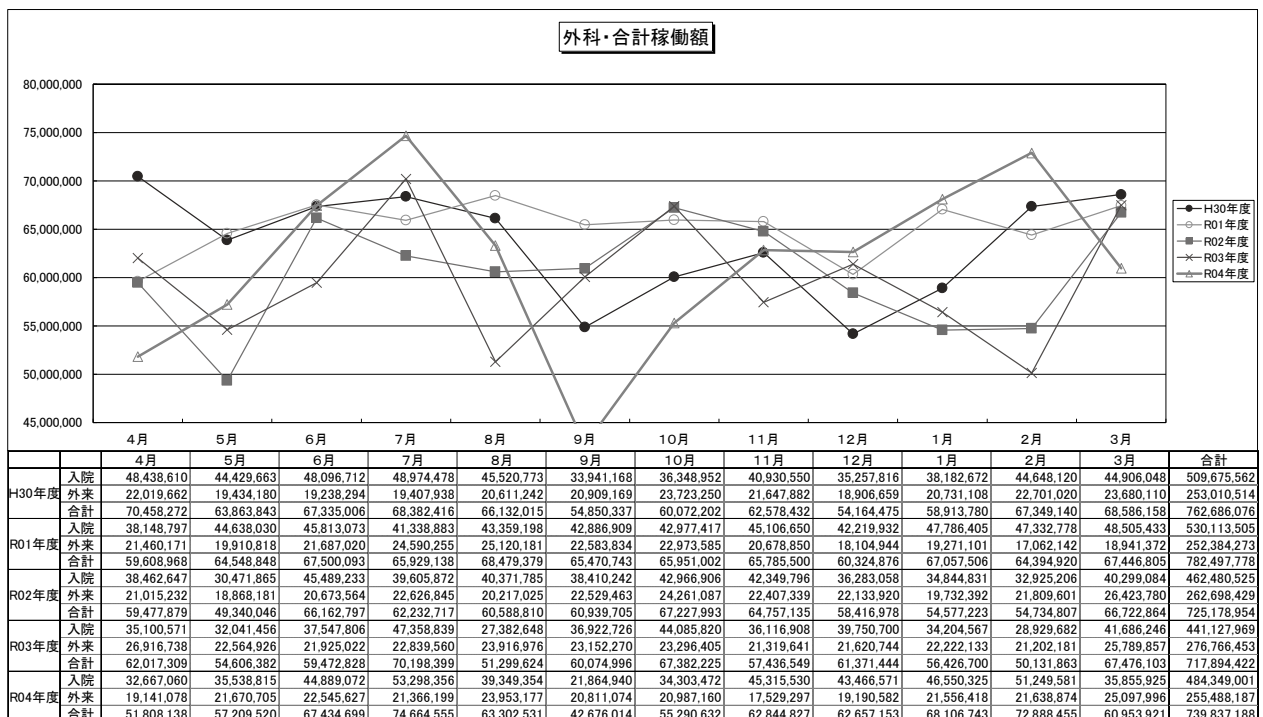
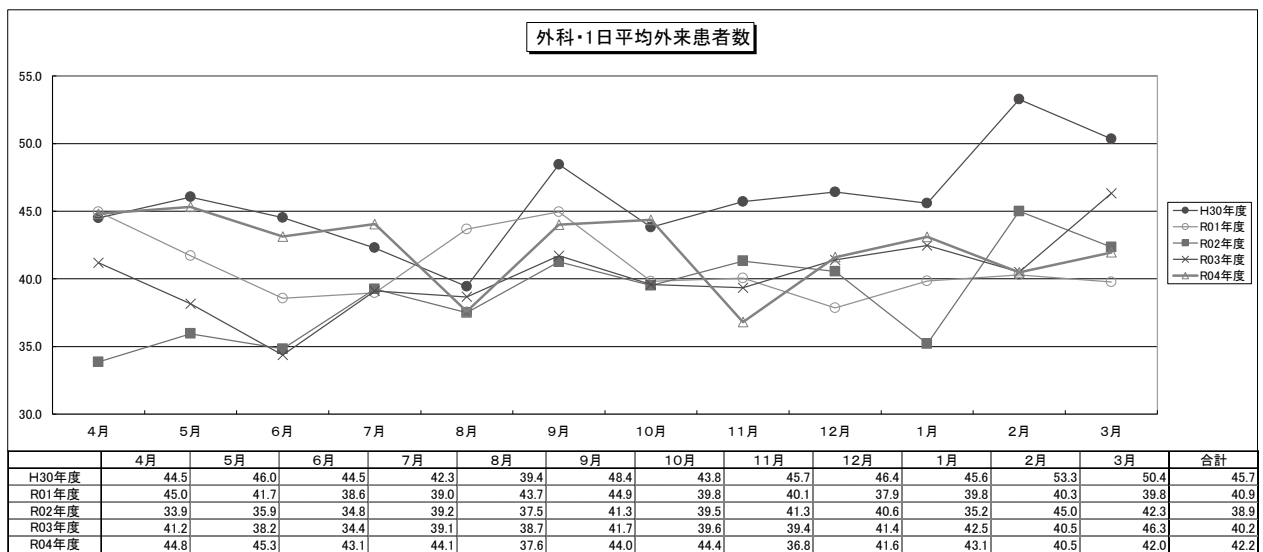
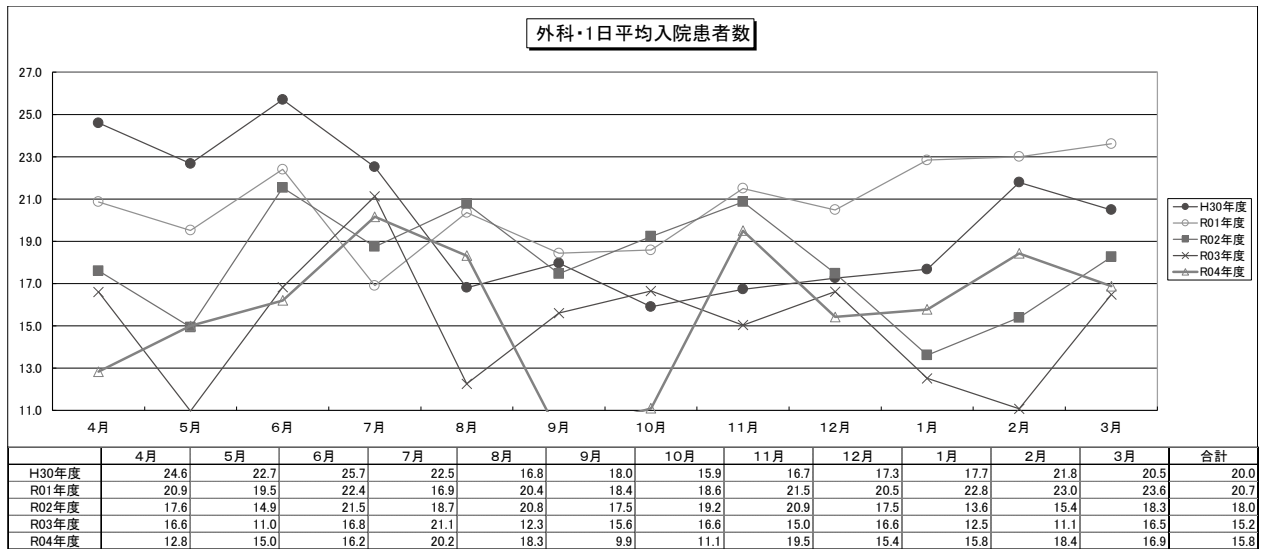


	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H30年度	12.7	14.1	12.0	9.5	12.5	14.3	13.2	15.2	14.1	12.2	15.3	15.3	13.3
R01年度	14.7	14.8	12.9	12.1	13.4	14.2	12.9	13.4	13.5	16.2	11.3	12.0	13.4
R02年度	10.8	11.0	11.9	12.9	12.1	12.9	8.7	11.9	11.9	15.6	15.4	12.5	12.2
R03年度	10.9	11.8	10.7	11.3	10.9	9.5	7.8	10.1	11.8	11.8	11.0	9.2	10.5
R04年度	10.2	10.8	9.1	10.2	10.2	8.3	7.6	9.2	8.8	9.1	8.9	7.5	9.1

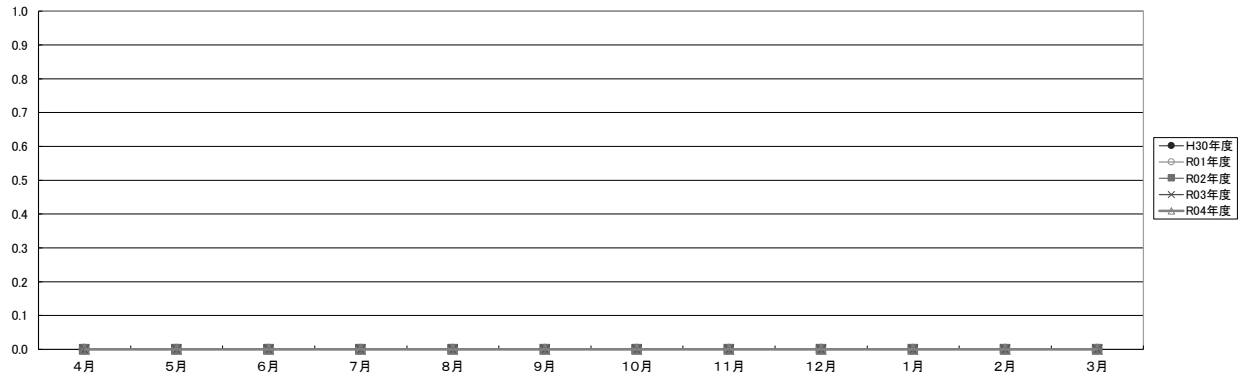
呼吸器外科・合計稼働額



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H30年度	入院	16,072,514	21,207,064	12,037,591	19,887,236	28,241,574	22,922,958	29,612,109	24,218,898	20,623,670	32,195,714	23,752,726	274,329,784
	外来	11,173,650	15,513,645	11,852,426	11,863,880	13,647,094	12,696,994	15,413,532	14,209,740	14,348,257	14,422,001	14,175,643	164,404,982
	合計	27,246,164	36,720,709	23,890,017	31,751,116	41,888,668	35,619,952	45,025,641	38,428,638	34,971,927	46,617,715	37,928,369	438,734,766
R01年度	入院	21,212,105	19,553,756	23,871,144	26,342,664	16,817,736	21,979,066	26,246,812	15,539,660	24,723,184	26,013,250	21,258,128	255,368,886
	外来	16,289,644	14,458,820	11,486,456	13,138,250	9,648,030	13,680,918	11,556,440	14,262,348	11,113,562	17,666,750	9,443,820	156,234,018
	合計	37,501,749	34,012,576	35,357,600	39,480,914	26,465,766	35,659,984	37,803,252	29,802,008	35,836,746	43,680,000	30,701,948	411,602,904
R02年度	入院	20,438,107	19,090,956	16,864,836	22,582,602	10,198,980	20,568,454	9,698,085	14,014,334	19,683,342	12,425,926	20,871,806	201,137,400
	外来	10,768,254	8,118,654	10,768,134	10,095,889	11,634,624	11,233,942	13,216,480	9,374,744	11,505,068	12,512,328	11,577,404	111,883,508
	合計	31,206,361	27,209,610	27,632,970	32,678,490	21,833,604	31,802,396	22,914,565	23,389,078	31,188,410	24,938,254	32,449,210	313,020,908
R03年度	入院	17,351,476	12,146,662	17,150,821	15,513,496	11,259,220	10,863,298	3,861,880	15,666,722	17,150,170	10,540,084	19,406,560	169,287,931
	外来	7,677,625	8,095,674	6,329,904	6,944,883	6,682,230	6,171,994	3,227,060	3,636,310	4,326,770	4,459,080	3,927,220	65,969,200
	合計	25,029,101	20,242,336	23,480,725	22,458,379	17,941,450	17,035,292	7,088,940	19,303,032	21,476,940	14,999,164	23,333,780	235,257,131
R04年度	入院	18,962,932	14,044,402	13,529,637	19,931,198	17,424,818	6,516,860	6,290,670	12,499,510	8,651,612	9,155,570	13,122,876	150,656,649
	外来	4,105,650	3,882,730	3,634,058	3,398,740	4,354,490	2,800,559	2,153,640	2,740,840	2,941,403	3,033,450	2,468,536	37,759,617
	合計	23,068,582	17,927,132	17,163,695	23,329,938	21,779,308	9,317,419	8,444,310	15,240,350	11,593,015	12,189,020	15,591,412	188,416,266

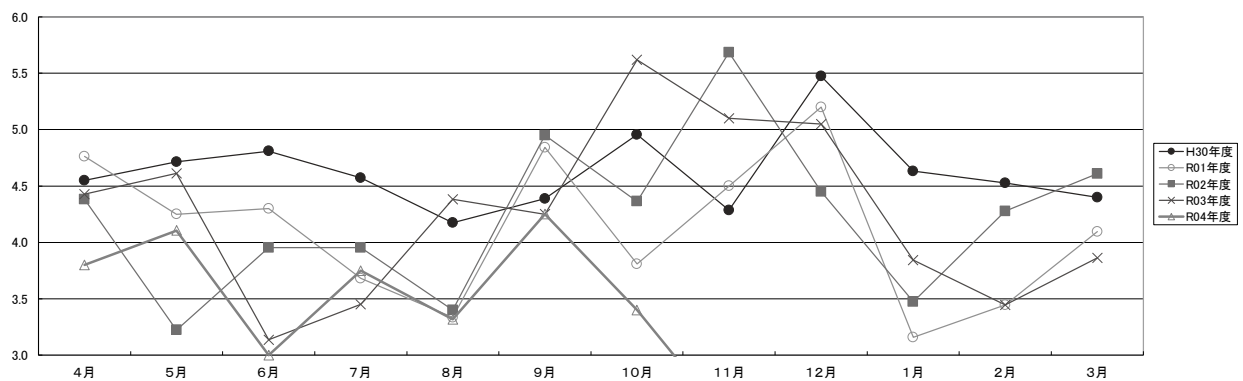


脳神経外科・1日平均入院患者数



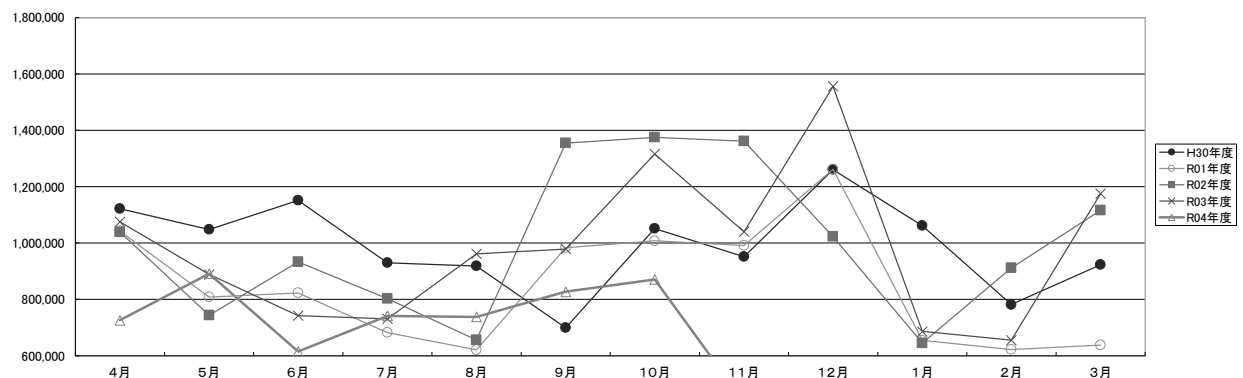
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H30年度	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
R01年度	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
R02年度	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
R03年度	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
R04年度	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

脳神経外科・1日平均外来患者数



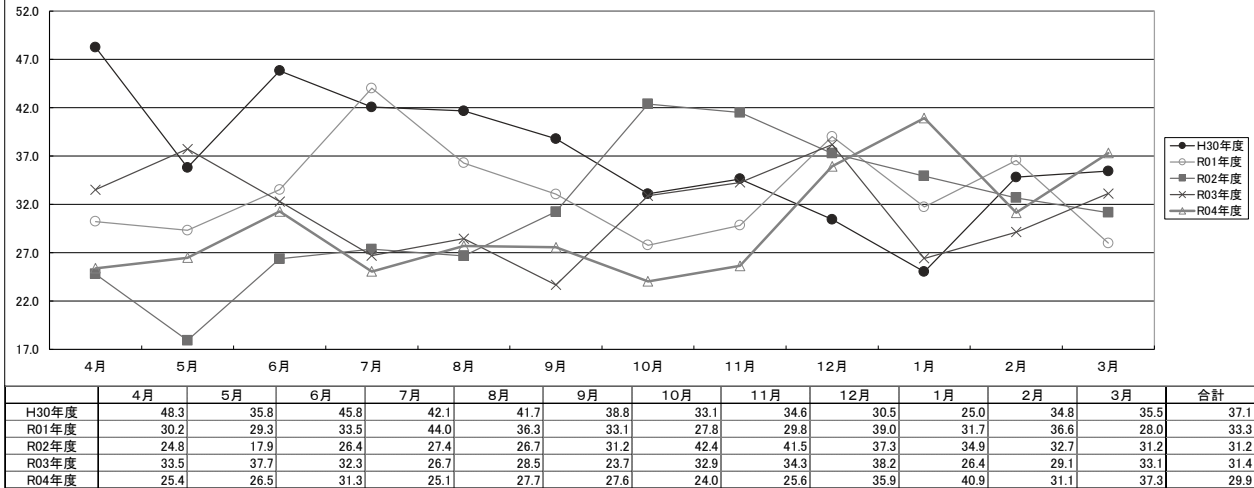
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H30年度	4.6	4.7	4.8	4.6	4.2	4.4	5.0	4.3	5.5	4.6	4.5	4.4	4.6
R01年度	4.8	4.3	4.3	3.7	3.3	4.8	3.8	4.5	5.2	3.2	3.4	4.1	4.1
R02年度	4.4	3.2	4.0	4.0	3.4	5.0	4.4	5.7	4.5	3.5	4.3	4.6	4.2
R03年度	4.4	4.6	3.1	3.5	4.4	4.3	5.6	5.1	5.1	3.8	3.4	3.9	4.3
R04年度	3.8	4.1	3.0	3.8	3.3	4.3	3.4	2.4	2.8	2.2	1.8	1.4	3.0

脳神経外科・合計稼働額

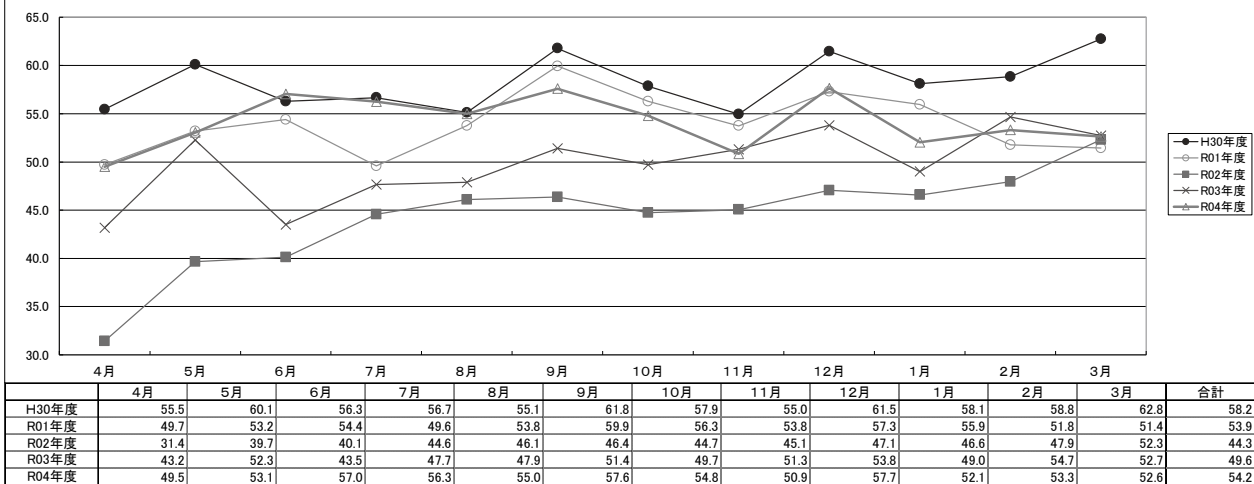


	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H30年度	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	外来	1,122,415	1,048,100	1,151,992	930,090	918,716	699,310	1,051,485	951,575	1,260,619	1,061,580	781,956	922,902
	合計	1,122,415	1,048,100	1,151,992	930,090	918,716	699,310	1,051,485	951,575	1,260,619	1,061,580	781,956	922,902
R01年度	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	外来	1,042,540	808,760	823,795	682,590	621,363	983,792	1,007,958	991,551	1,261,651	654,600	622,064	638,290
	合計	1,042,540	808,760	823,795	682,590	621,363	983,792	1,007,958	991,551	1,261,651	654,600	622,064	638,290
R02年度	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	外来	1,039,076	743,428	933,700	802,766	656,840	1,355,025	1,375,159	1,361,763	1,023,659	645,234	911,984	1,116,370
	合計	1,039,076	743,428	933,700	802,766	656,840	1,355,025	1,375,159	1,361,763	1,023,659	645,234	911,984	1,116,370
R03年度	入院	0	25,390	0	0	0	0	0	0	0	0	0	25,390
	外来	1,075,468	863,310	743,006	730,937	961,982	979,380	1,316,750	1,040,041	1,555,770	686,394	655,755	1,175,130
	合計	1,075,468	888,700	743,006	730,937	961,982	979,380	1,316,750	1,040,041	1,555,770	686,394	655,755	1,175,130
R04年度	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	外来	726,174	891,390	615,350	741,824	737,760	827,360	870,990	436,340	521,550	332,220	330,900	213,240
	合計	726,174	891,390	615,350	741,824	737,760	827,360	870,990	436,340	521,550	332,220	330,900	213,240

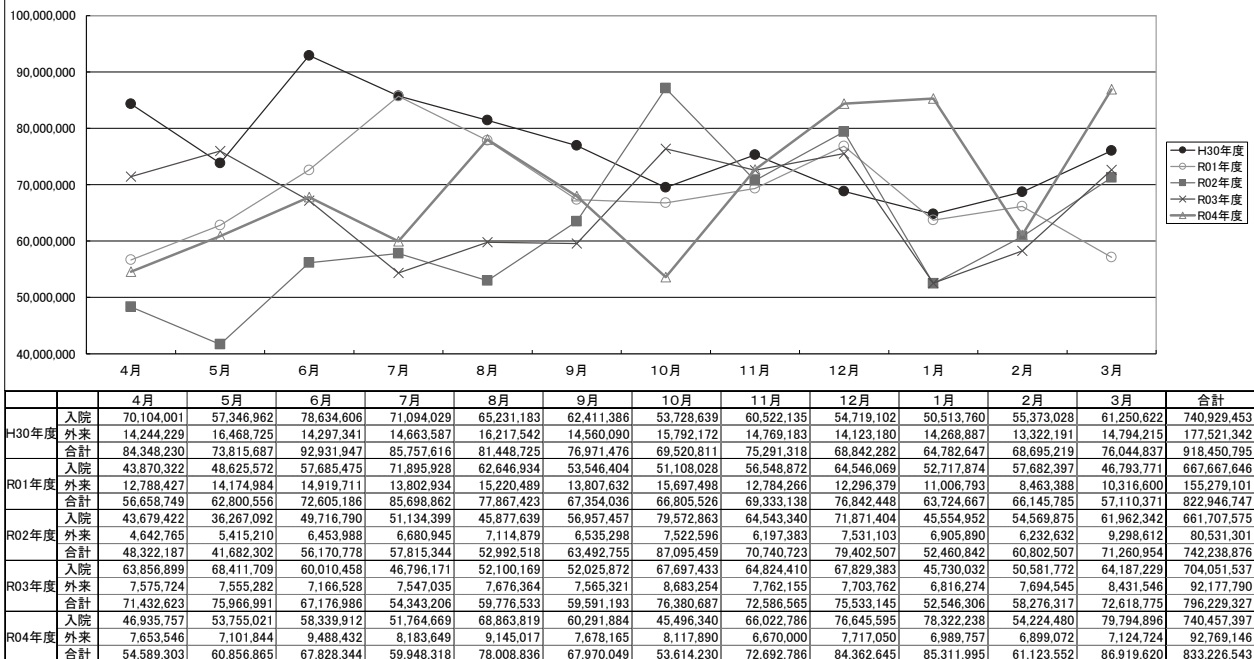
整形外科・1日平均入院患者数

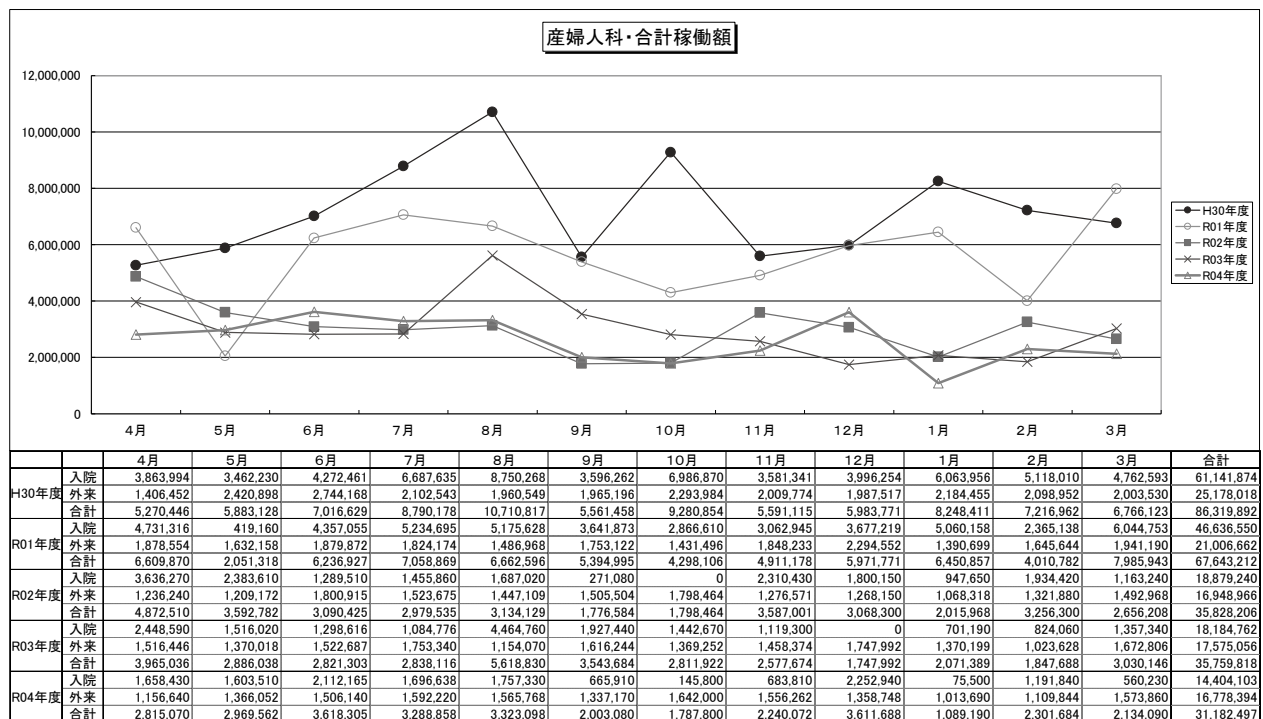
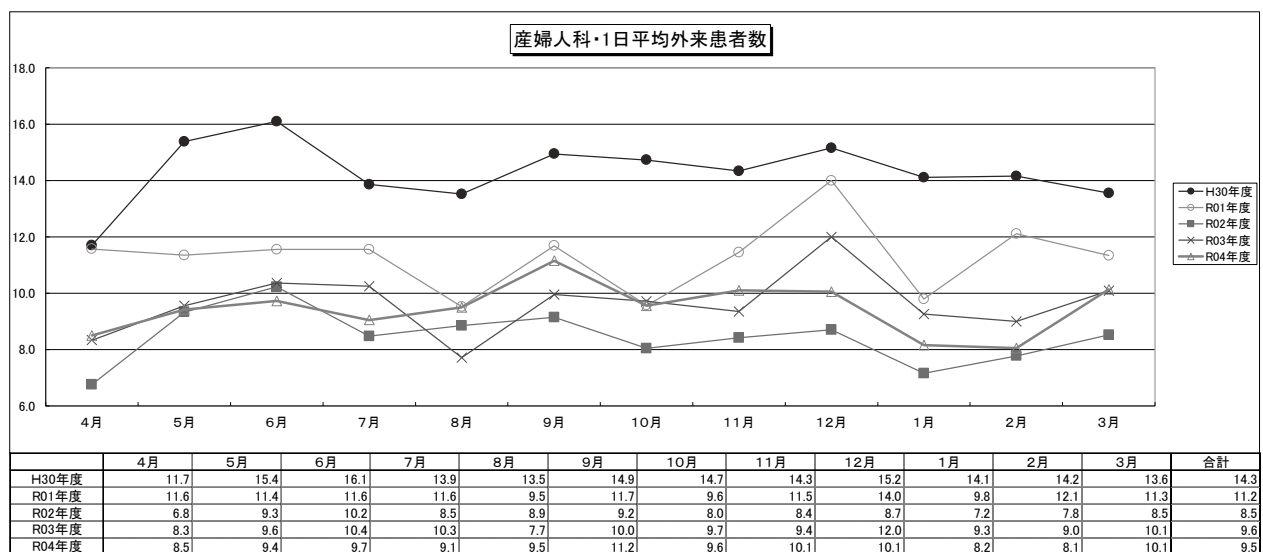
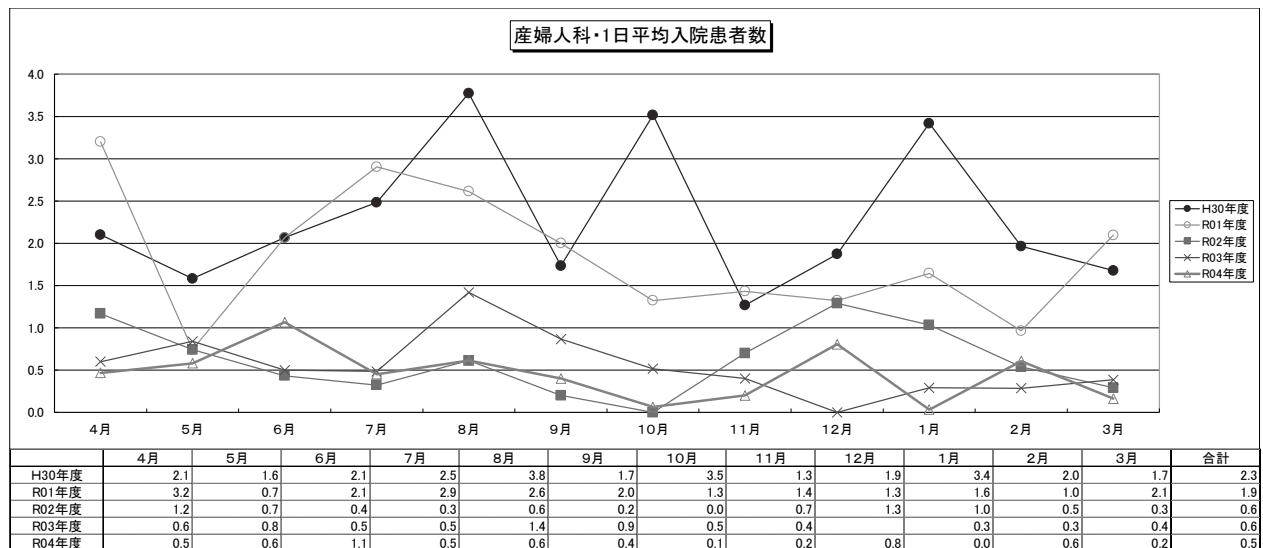


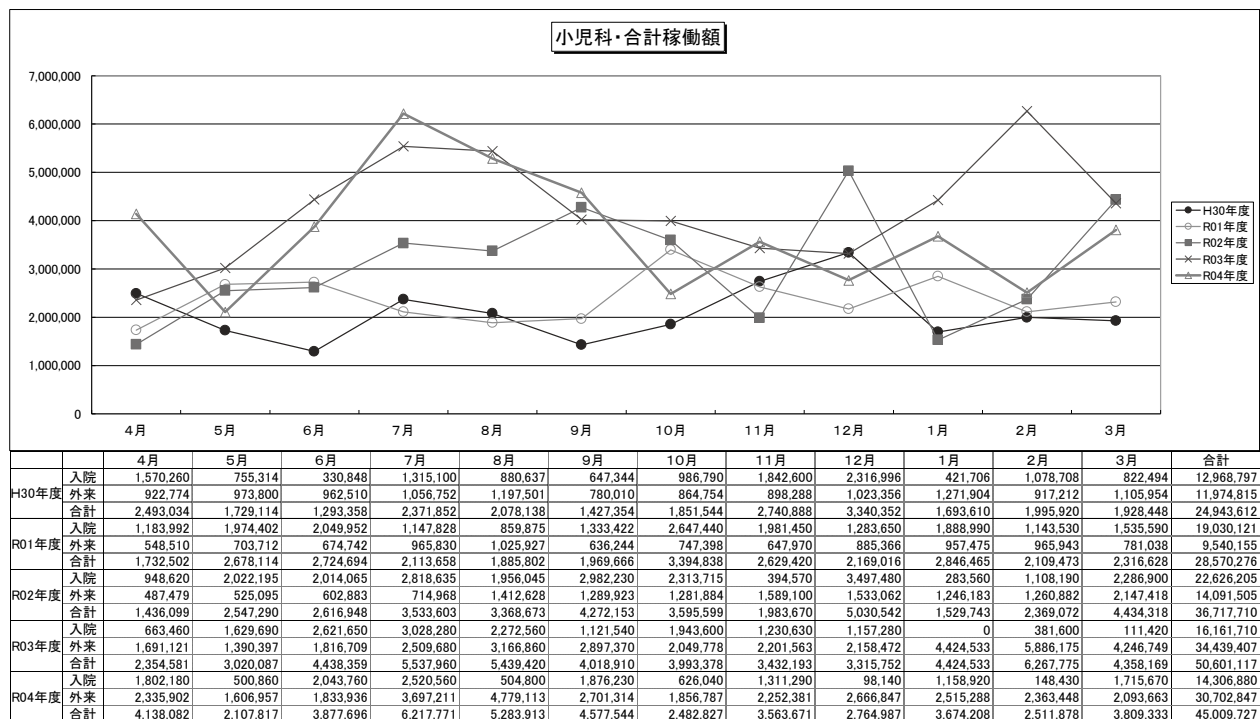
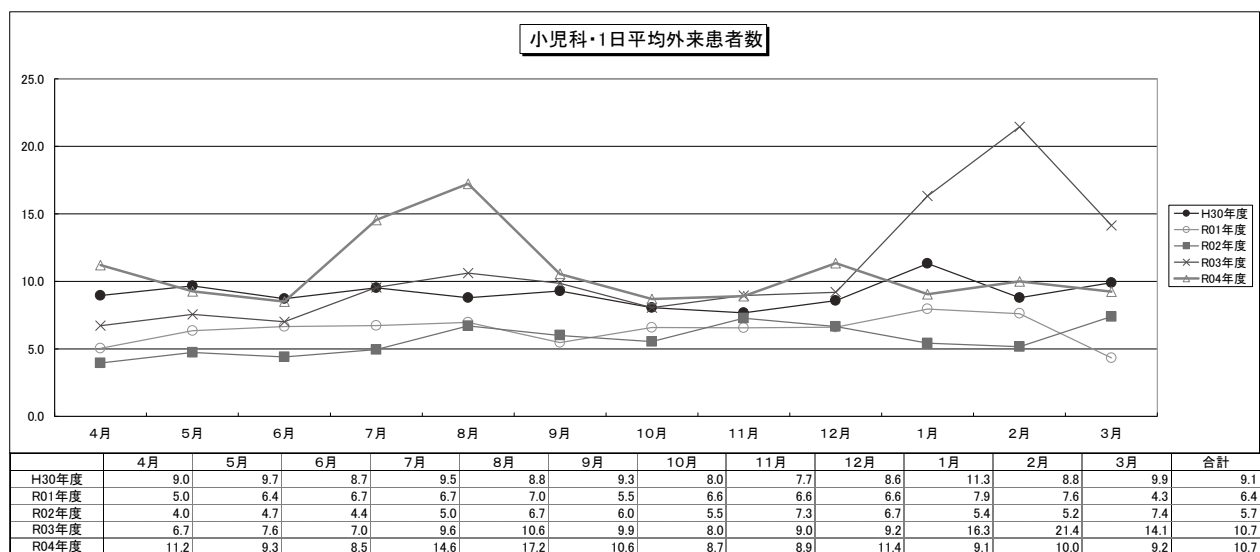
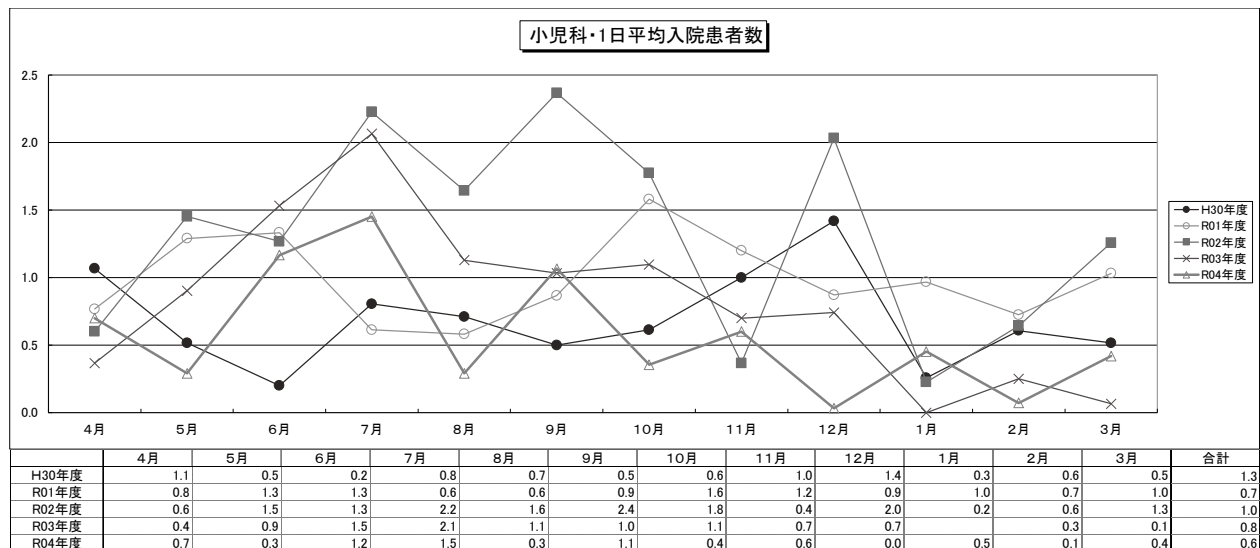
整形外科・1日平均外来患者数



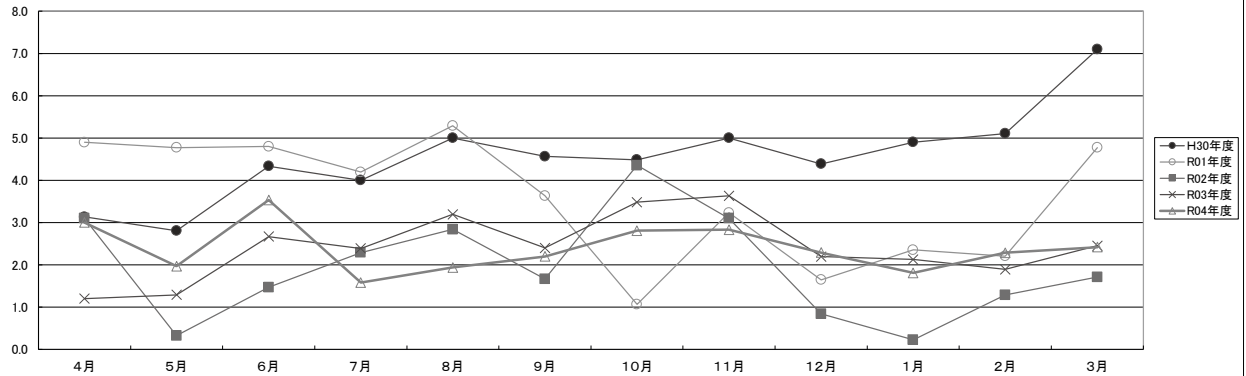
整形外科・合計稼働額





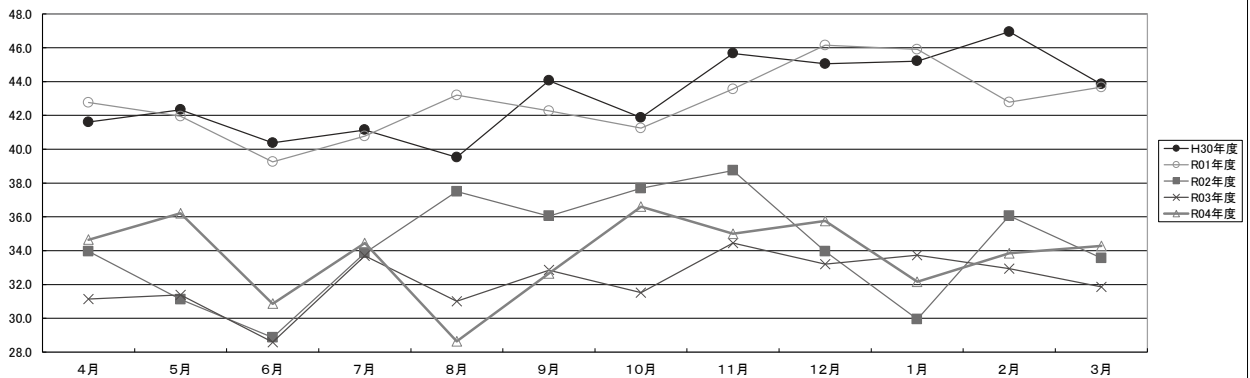


眼科・1日平均入院患者数



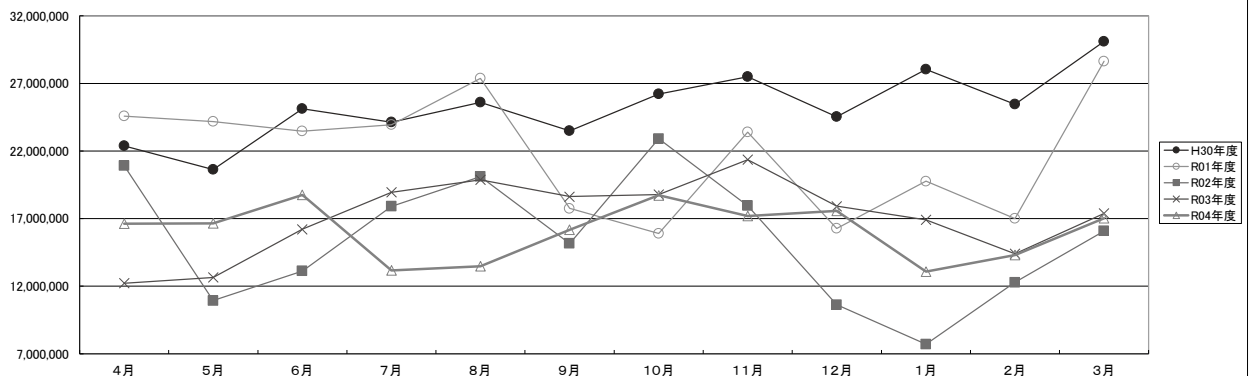
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H30年度	3.1	2.8	4.3	4.0	5.0	4.6	4.5	5.0	4.4	4.9	5.1	7.1	4.6
R01年度	4.9	4.8	4.8	4.2	5.3	3.6	1.1	3.2	1.6	2.4	2.2	4.8	3.6
R02年度	3.1	0.3	1.5	2.3	2.8	1.7	4.4	3.1	0.8	0.2	1.3	1.7	1.9
R03年度	1.2	1.3	2.7	2.4	3.2	2.4	3.5	3.6	2.2	2.1	1.9	2.5	2.4
R04年度	3.0	2.0	3.5	1.6	1.9	2.2	2.8	2.8	2.3	1.8	2.3	2.4	2.4

眼科・1日平均外来患者数

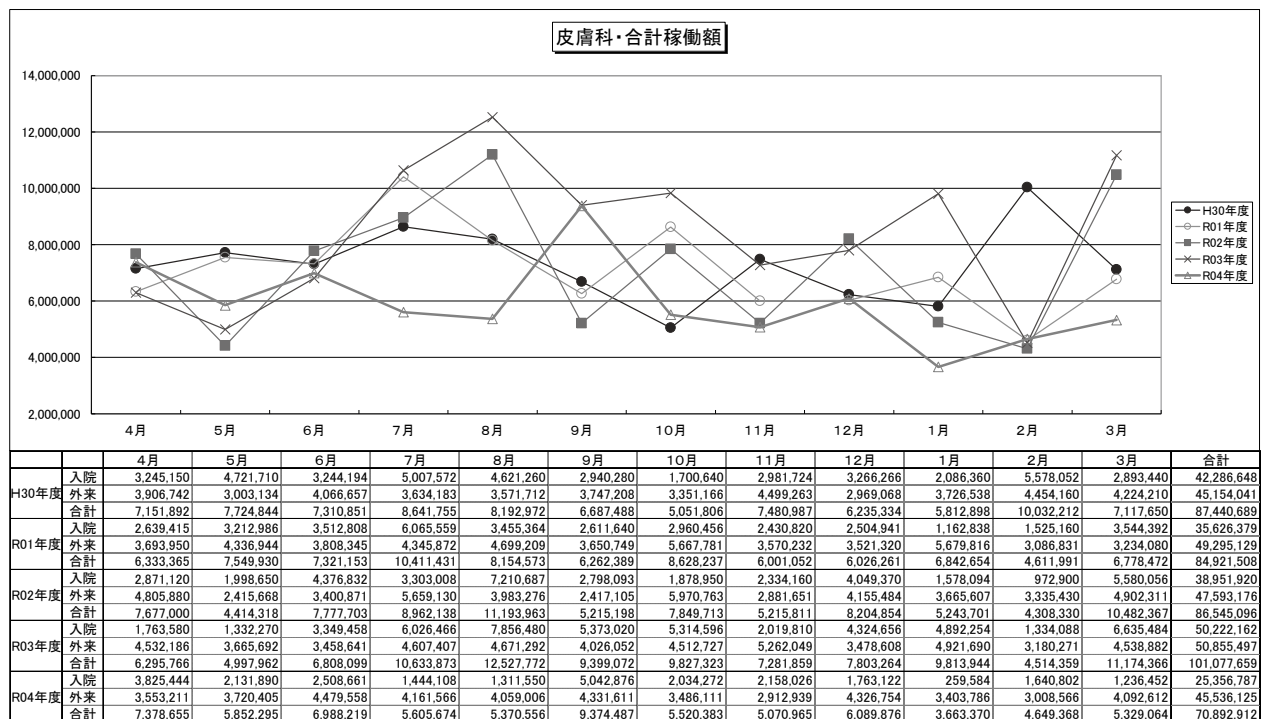
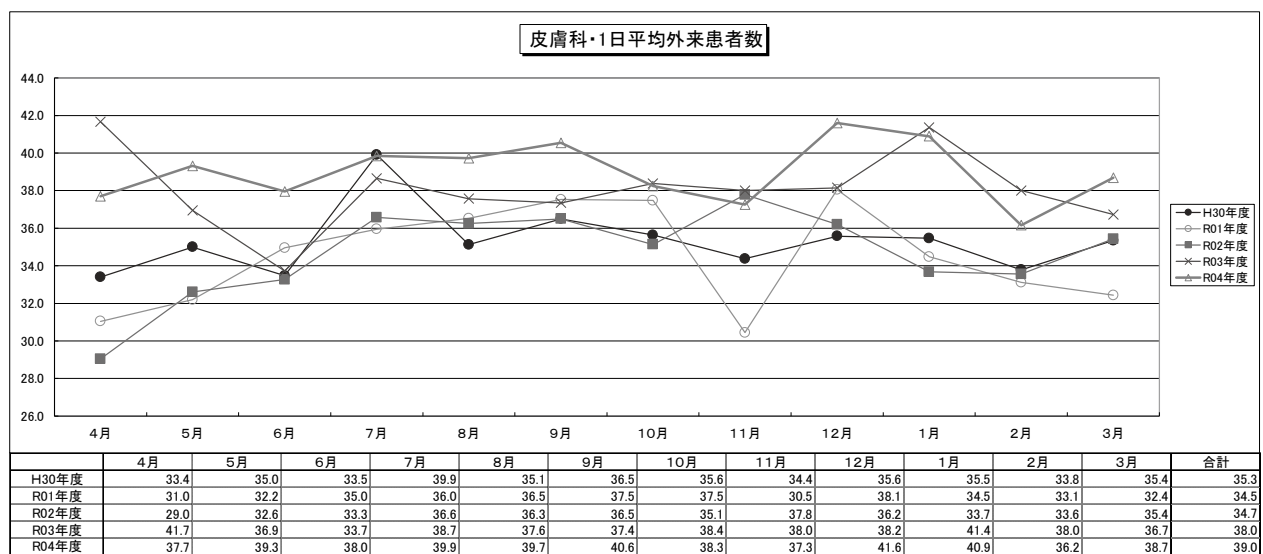
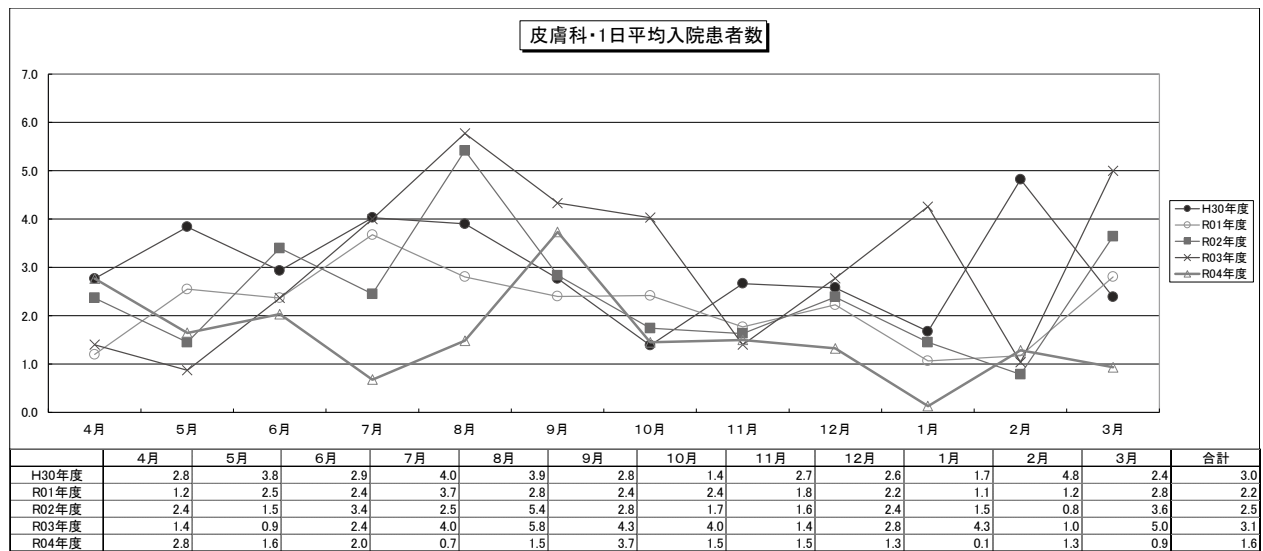


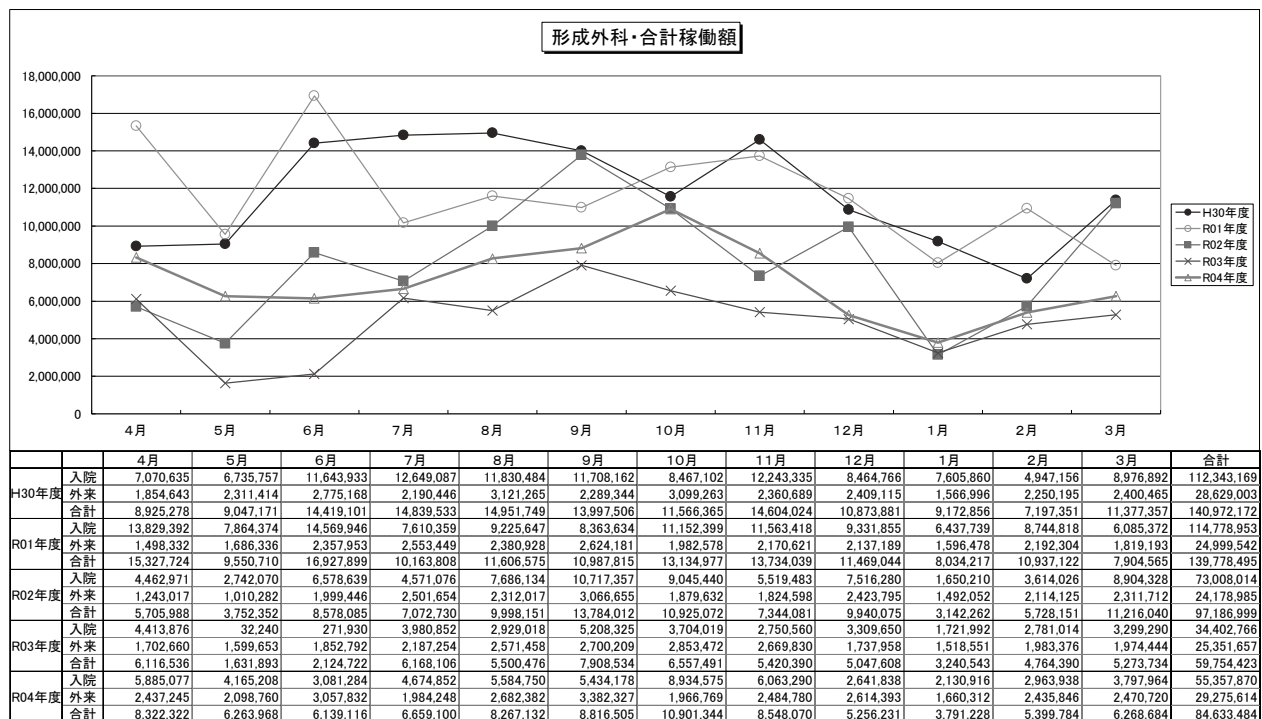
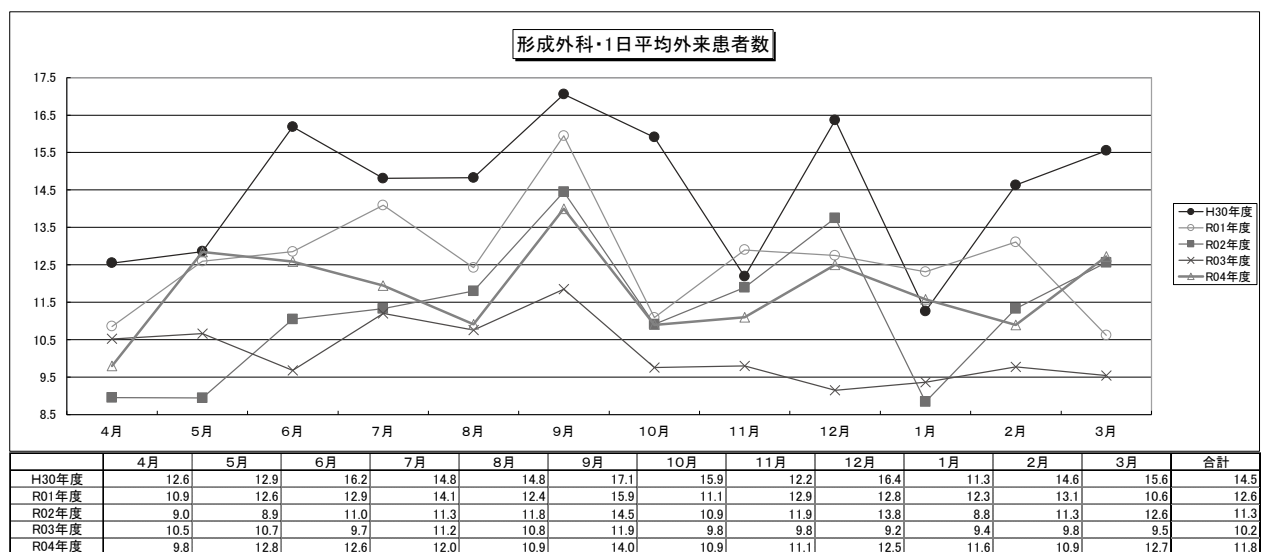
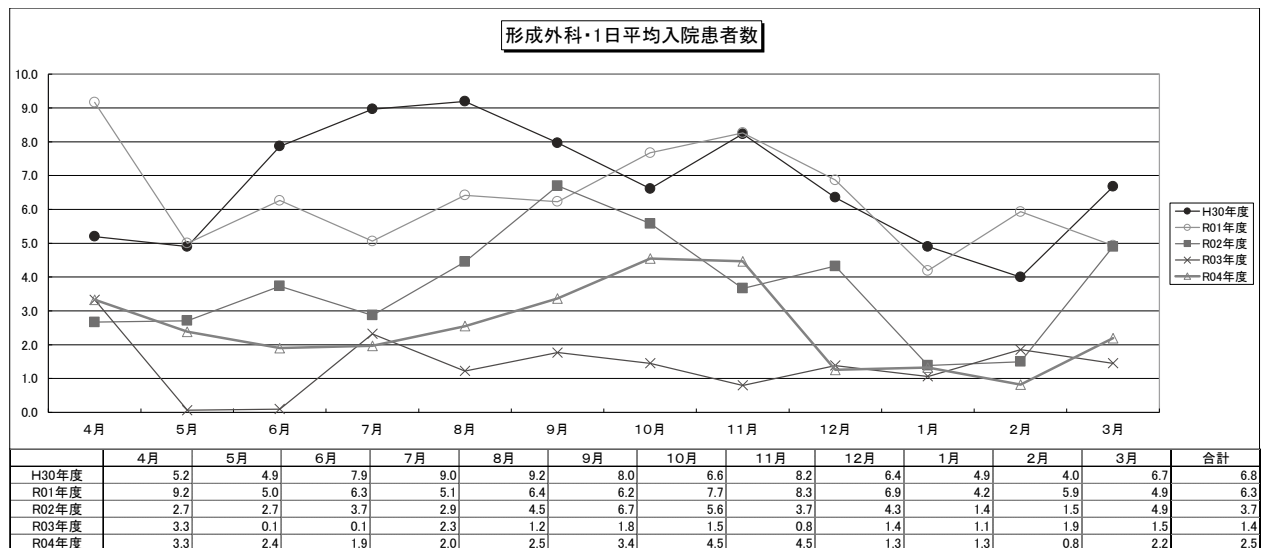
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H30年度	41.6	42.3	40.4	41.1	39.5	44.1	41.9	45.7	45.1	45.2	46.9	43.9	43.0
R01年度	42.8	42.0	39.3	40.8	43.2	42.3	41.2	43.6	46.2	45.9	42.8	43.7	42.8
R02年度	34.0	31.1	28.9	33.9	37.5	36.1	37.7	38.7	34.0	29.9	36.1	33.6	34.3
R03年度	31.1	31.4	28.6	33.7	31.0	32.9	31.5	34.5	33.2	33.7	32.9	31.9	32.1
R04年度	34.7	36.2	30.9	34.5	28.6	32.7	36.6	35.0	35.8	32.2	33.8	34.3	33.7

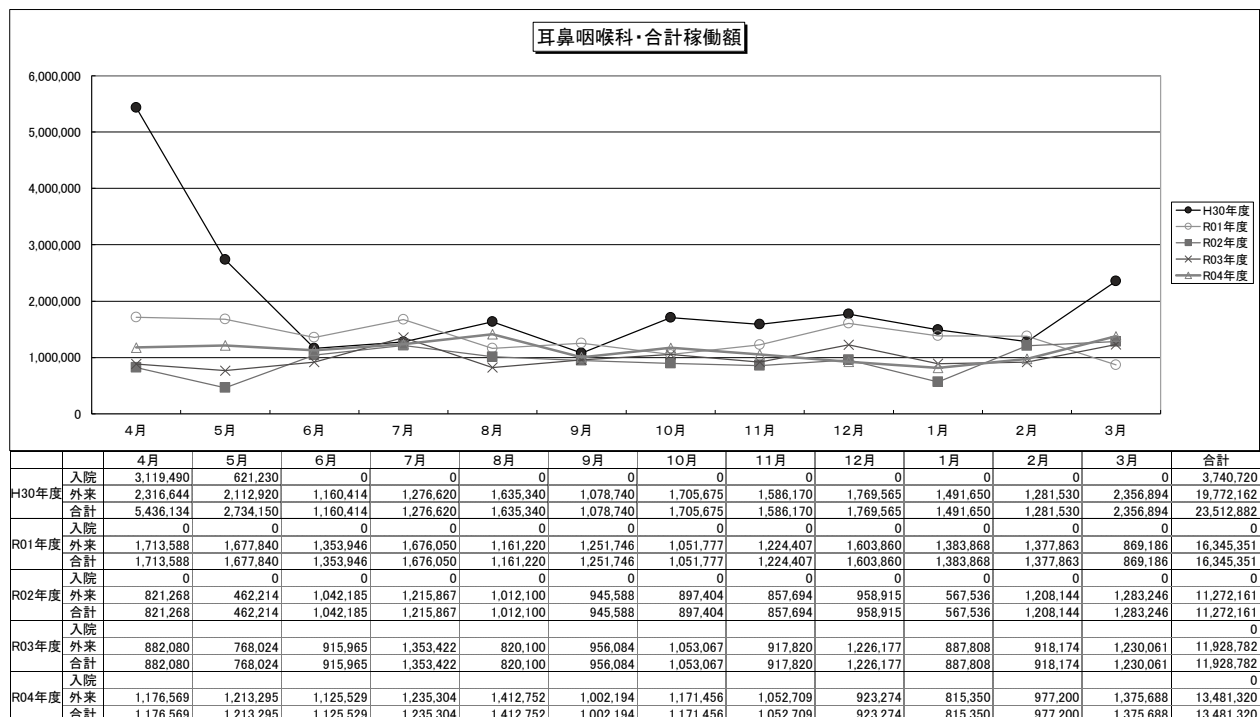
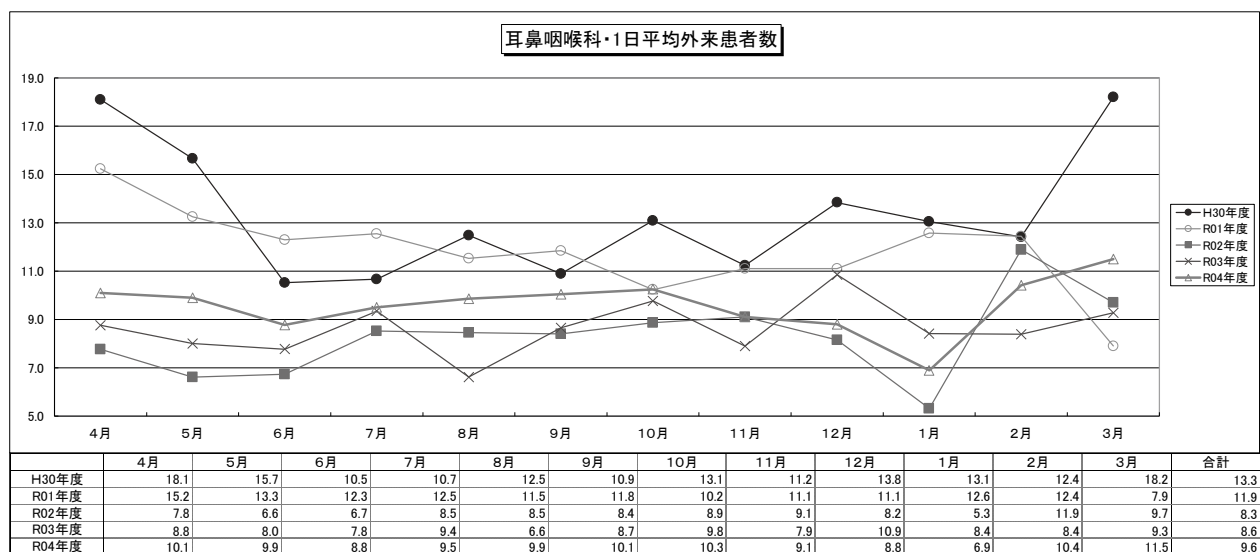
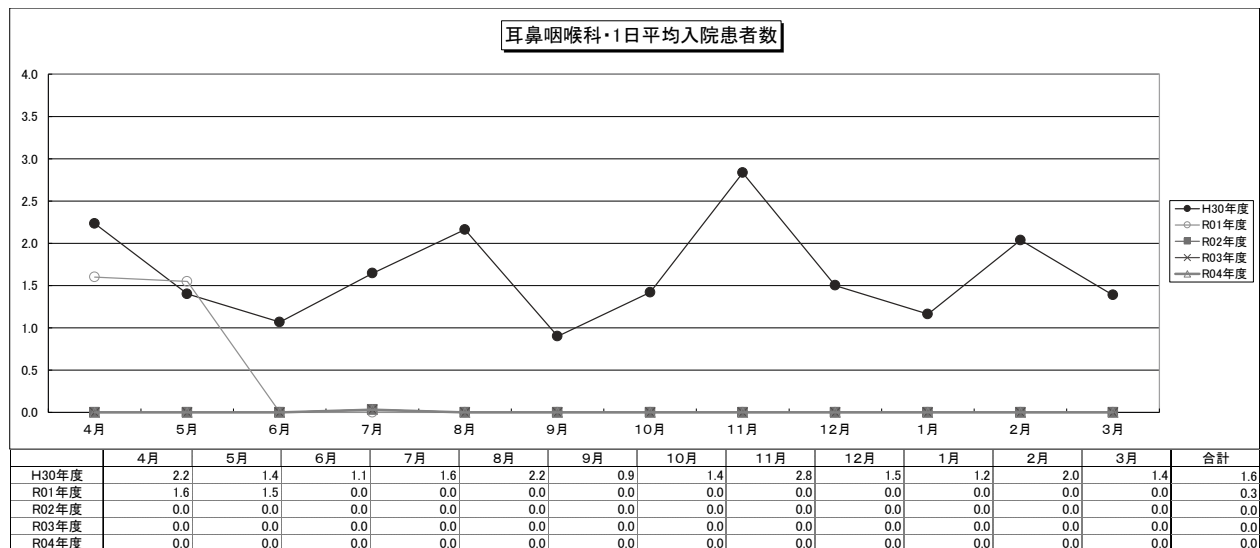
眼科・合計稼働額

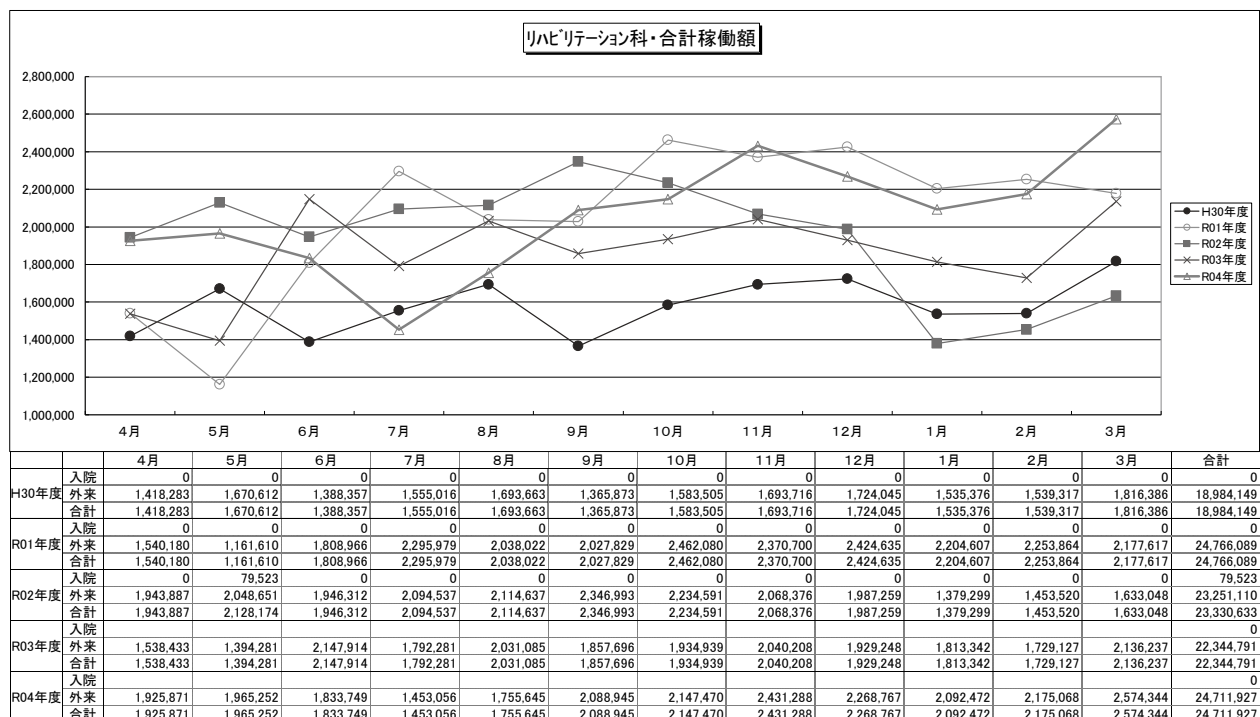
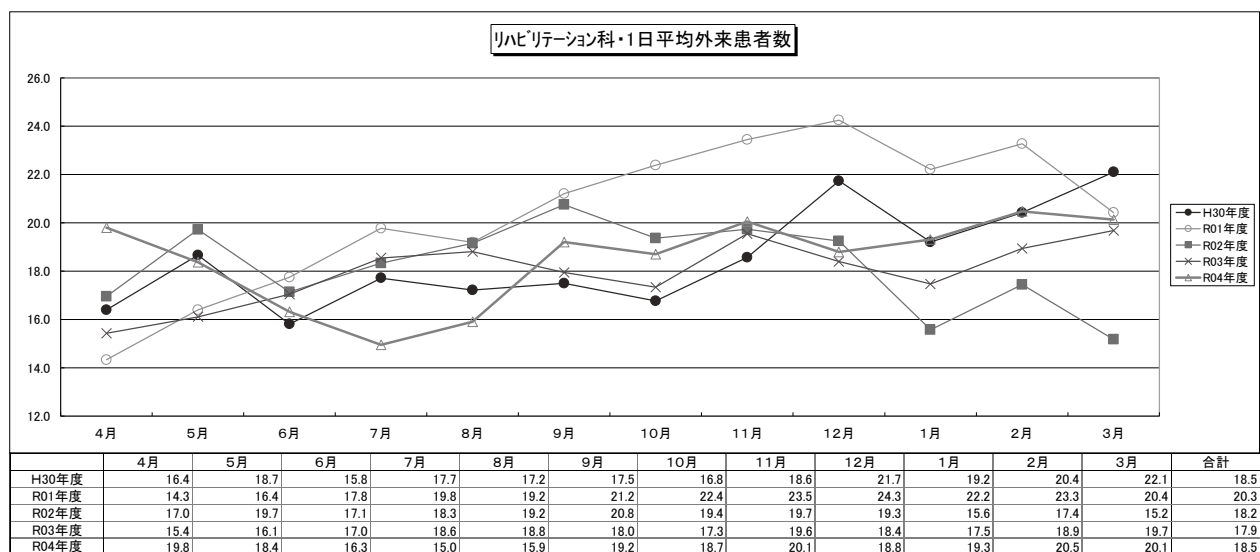
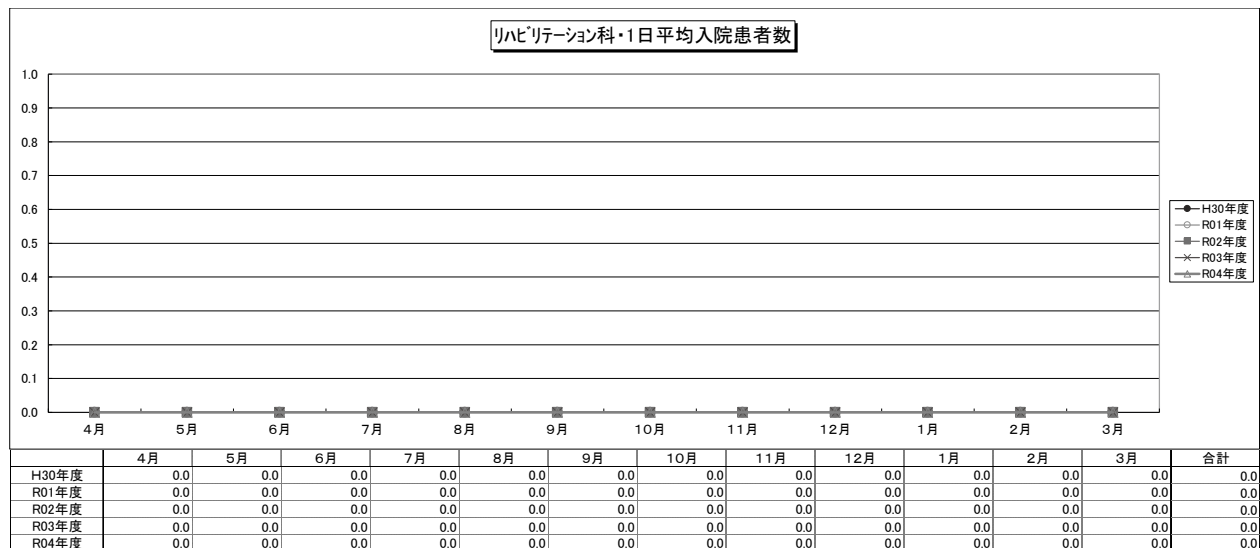


	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H30年度	10,564,616	9,666,348	12,473,952	11,855,054	13,059,970	13,086,288	13,302,246	14,716,106	13,916,946	14,404,186	13,315,888	19,428,212	159,789,812
R01年度	11,817,265	10,961,917	12,659,468	12,267,352	12,541,630	10,400,286	12,899,377	12,777,662	10,618,951	13,623,092	12,141,306	10,673,366	143,381,672
R02年度	24,585,538	24,180,328	23,476,862	23,929,157	27,371,021	17,748,546	15,899,909	23,386,490	16,263,257	19,762,419	17,006,218	28,635,797	262,245,542
R03年度	10,304,554	9,664,482	5,221,662	8,971,322	11,669,986	6,919,852	15,062,600	10,843,658	2,327,328	1,267,676	5,389,306	6,549,368	85,493,792
R04年度	10,604,168	9,966,660	7,906,993	8,935,093	8,438,200	8,239,690	7,846,642	7,106,339	8,296,950	6,443,992	6,891,948	9,523,804	100,200,479
合計	20,908,722	10,933,142	13,128,655	17,906,415	20,108,186	15,159,542	22,909,242	17,949,997	10,624,276	7,711,668	12,281,254	16,073,172	185,694,271
R01年度	4,916,112	5,462,980	8,973,254	10,151,474	13,550,380	11,279,766	11,212,970	14,456,044	9,196,134	9,338,572	8,232,622	11,008,090	117,778,398
R02年度	7,302,994	7,188,722	7,237,389	8,787,620	6,309,160	7,346,569	7,572,819	6,897,946	8,718,067	7,570,813	6,159,846	6,375,273	87,467,218
R03年度	12,219,106	12,651,702	16,210,643	18,939,094	19,859,540	18,626,335	18,785,789	21,353,990	17,914,201	16,909,385	14,392,468	17,383,363	205,245,616
R04年度	10,819,378	8,349,596	12,338,584	6,459,066	7,897,677	9,000,532	12,096,402	10,675,370	10,283,580	7,155,480	7,909,750	9,892,200	112,877,615
合計	16,624,288	16,653,806	18,751,421	13,171,392	13,482,588	16,166,542	18,720,364	17,188,310	17,581,359	13,081,770	14,299,922	17,018,757	192,740,519

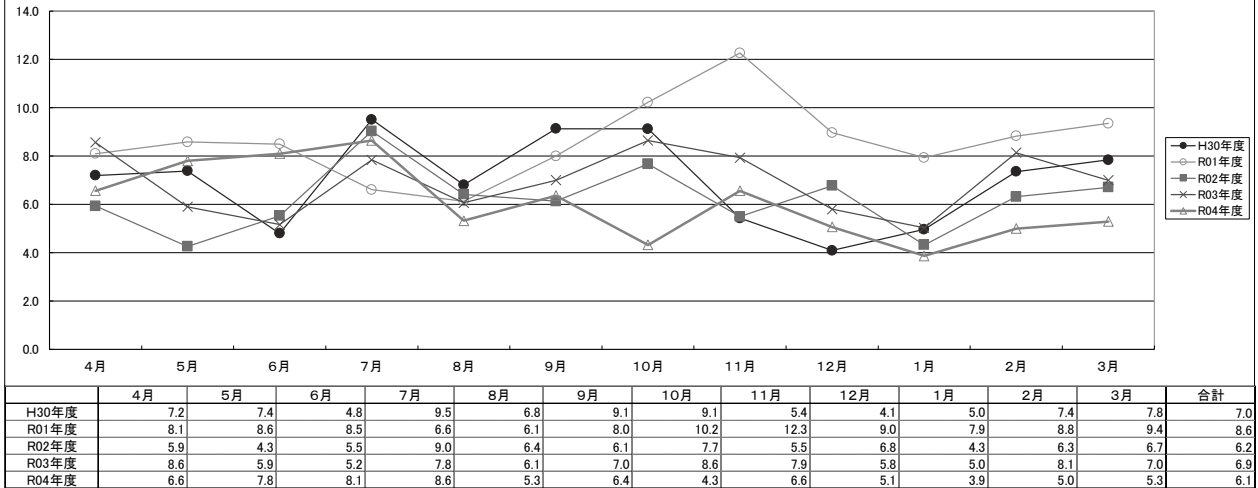




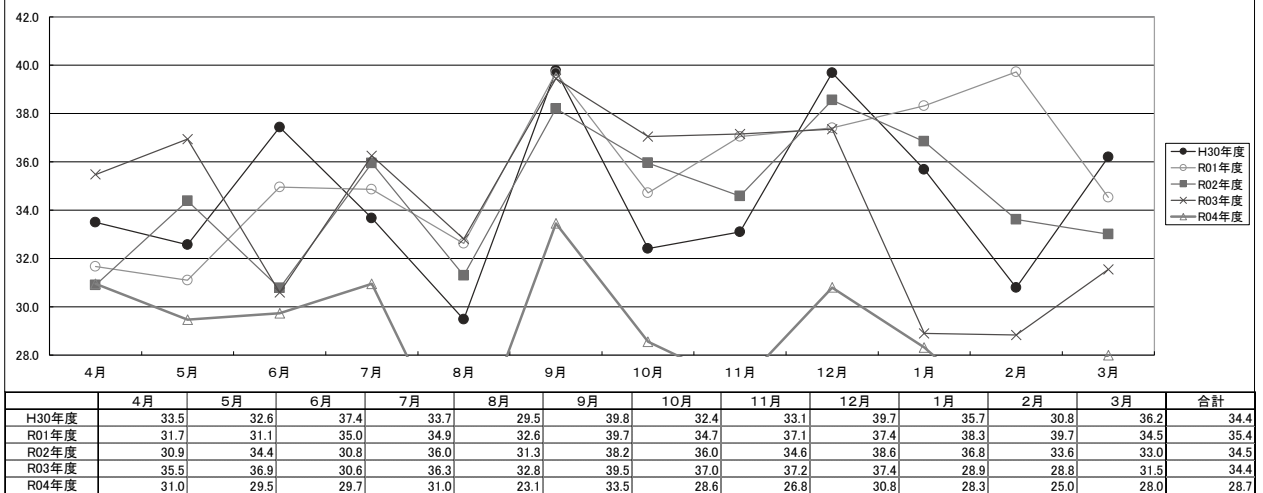




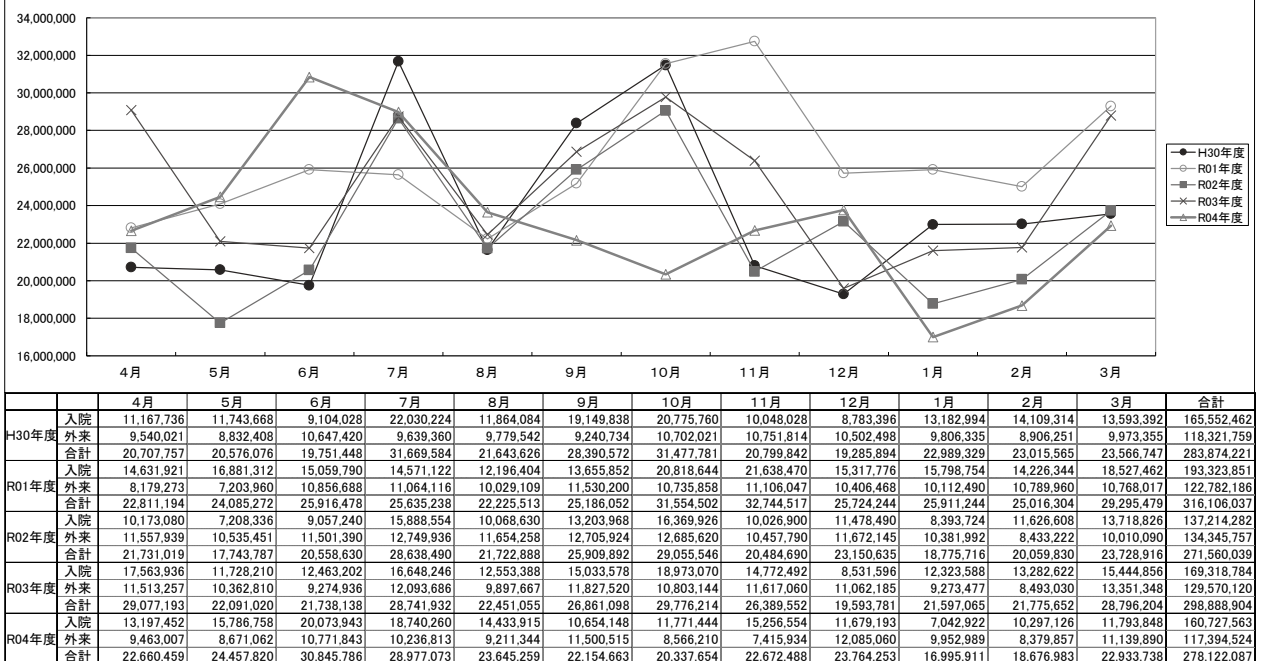
泌尿器科・1日平均入院患者数

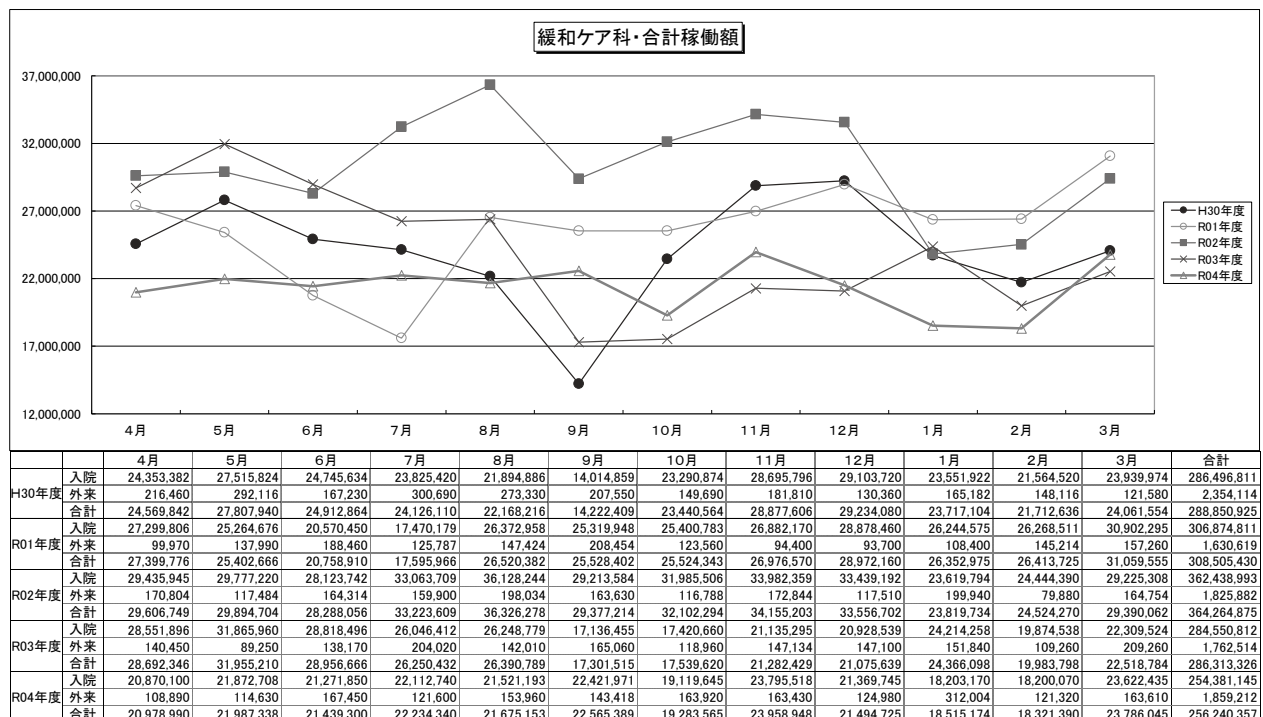
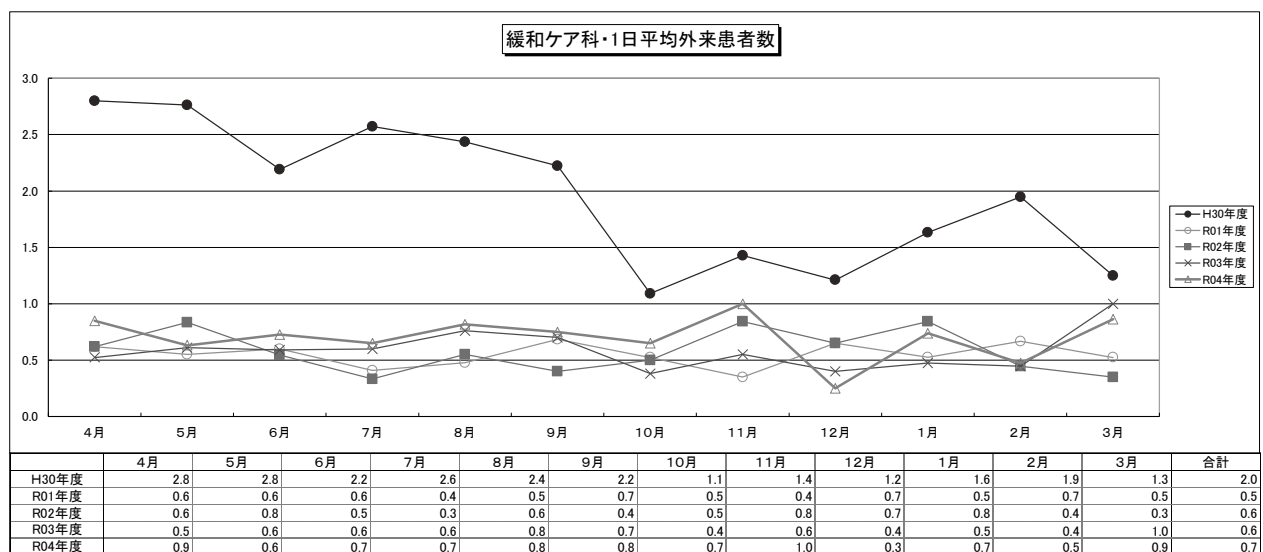
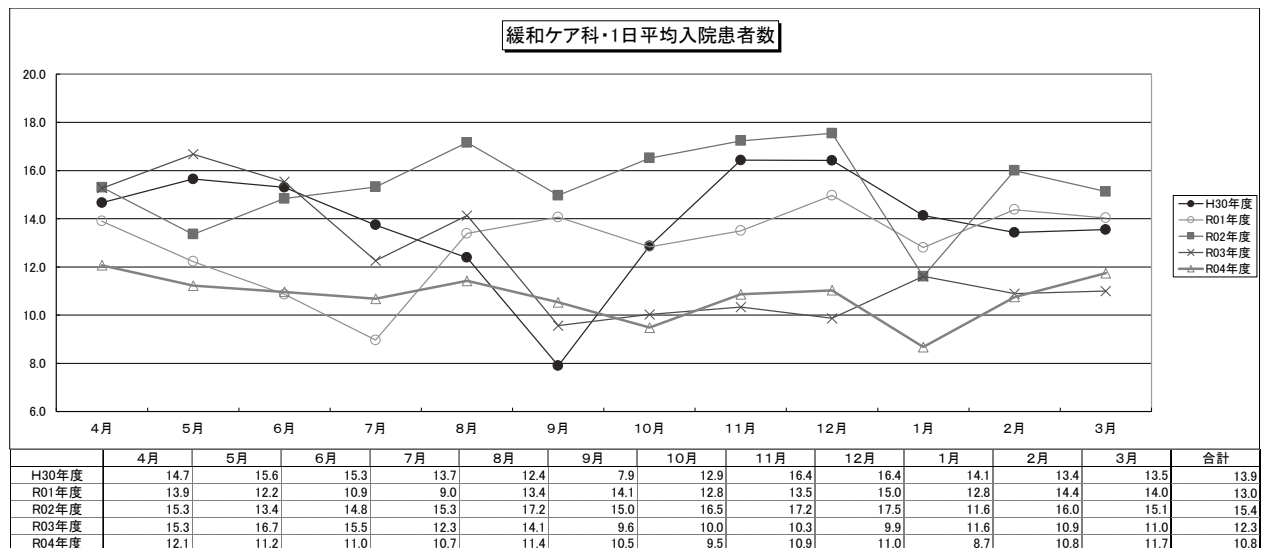


泌尿器科・1日平均外来患者数



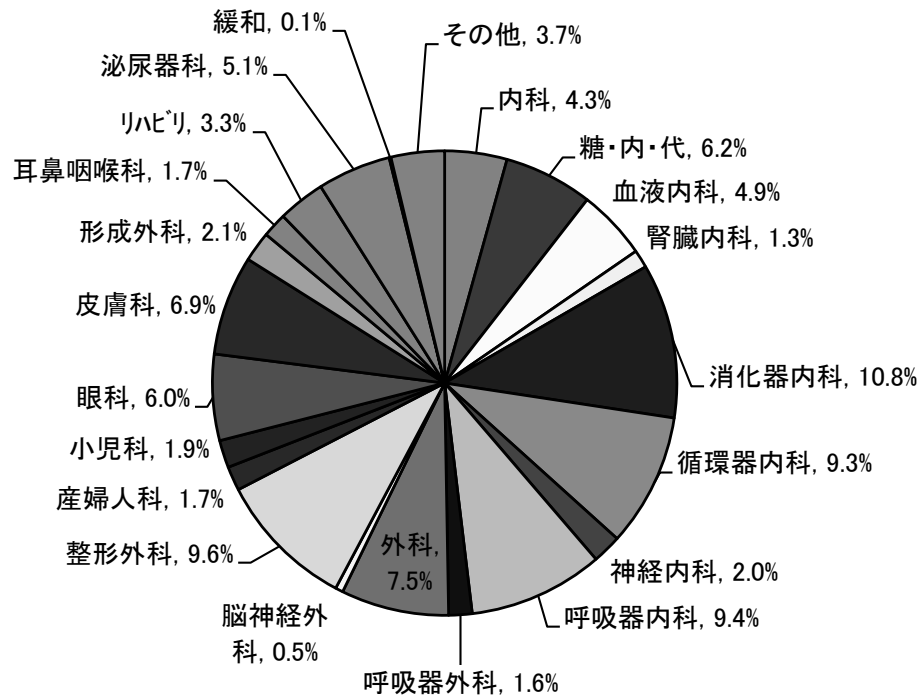
泌尿器科・合計稼働額



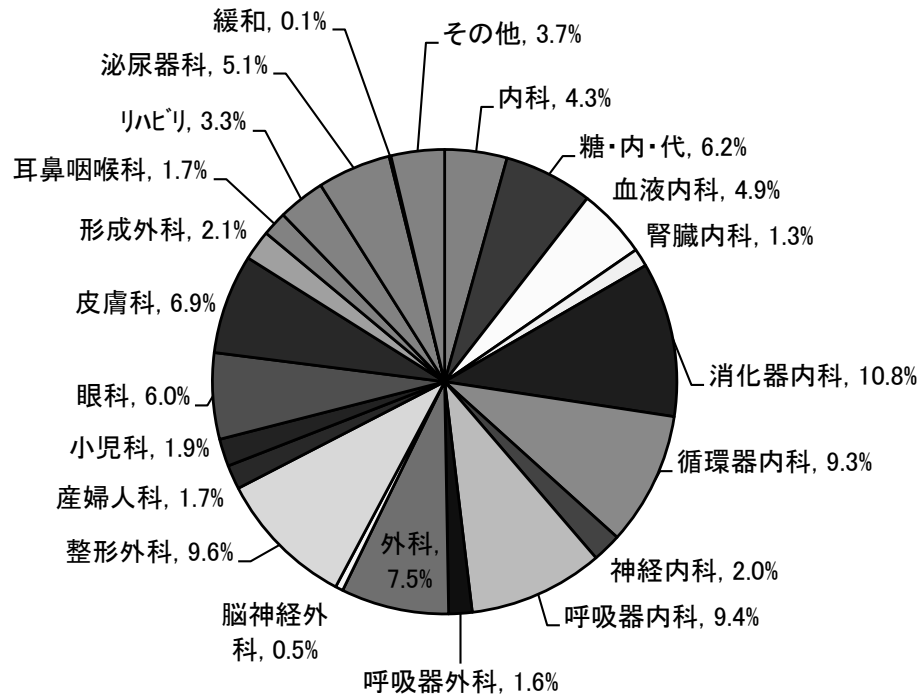


8. 科別患者構成比

入院患者数



外来患者数



※その他は、放射線科と救急科とリウマチ・膠原病とドック・健診を足したものです。

9. 診療科年齢別構成表

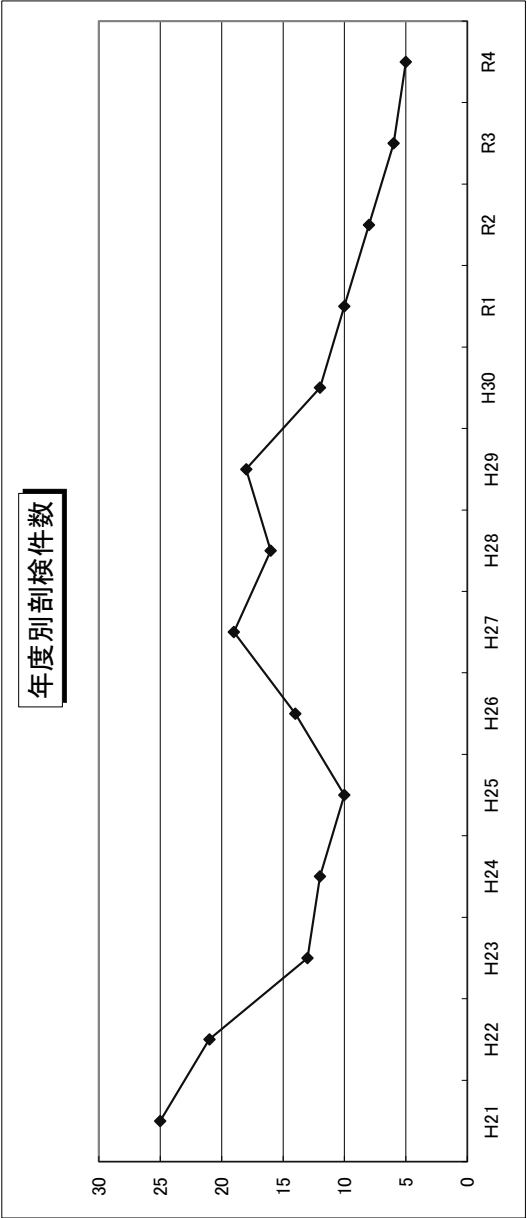
診療科	0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-89	90-99	100-	合計
小児科	194	6	0	0	9	0	0	0	1	0	0	210
耳鼻咽喉科												0
眼科	0	9	6	2	9	77	150	316	268	33	0	870
整形外科	4	194	101	251	330	778	930	3,009	3,941	1,319	53	10,910
外科	0	30	68	85	195	380	1,119	1,934	1,730	181	39	5,761
糖尿病・内分泌・代謝内科	0	18	1	33	91	233	312	931	643	85	0	2,347
血液内科	0	0	34	201	351	408	2,617	3,714	3,808	748	0	11,881
消化器内科	0	68	162	118	448	656	1,277	4,848	5,178	1,923	153	14,831
循環器内科	0	17	115	33	178	410	637	2,901	4,503	1,864	161	10,819
内科	0	2	15	5	22	15	16	138	138	108	1	460
呼吸器内科	0	49	81	111	364	801	1,385	6,523	5,003	1,467	85	15,869
呼吸器外科	0	25	42	22	45	110	249	585	121	11	0	1,210
泌尿器科	0	22	10	0	39	121	336	866	638	186	0	2,218
皮膚科	0	18	9	15	19	63	66	123	154	107	0	574
形成外科	0	5	6	9	138	169	93	232	189	77	0	918
産婦人科	0	0	8	26	39	37	8	31	16	0	0	165
緩和ケア科	0	0	0	0	113	114	647	1,297	1,512	235	18	3,936
救急科												0
合計	198	463	658	911	2,390	4,372	9,842	27,448	27,843	8,344	510	82,979
構成率	0.2%	0.6%	0.8%	1.1%	2.9%	5.3%	11.9%	33.1%	33.6%	10.1%	0.6%	100.0%

10. 令和 4 年度救急患者数

		内科	糖・内・ 代	血内	消化器	循環器	神経内	呼吸器	呼吸外	外科	脳神経	整形	産婦人	小児科	眼科	皮膚科	形成	耳鼻科	リハ ビリ	泌尿器	緩和	放射 線科	合計	交通事故 救急車 その他		
救急患者数	時間内	433	8	32	305	305	25	269	9	63	17	287	9	21	5	22	25	21	0	48	12	0	0	1,916	67	1
	時間外	1,064	11	34	441	157	18	355	7	170	15	408	6	72	17	115	73	39	0	115	1	7	0	3,125	22	5
	深夜	192	3	2	119	64	1	93	0	33	2	74	0	13	5	21	14	10	0	37	1	0	0	684	3	3
	合計	1,689	22	68	865	526	44	717	16	266	34	769	15	106	27	158	112	70	0	200	14	7	0	5,725	92	9
(再掲) 救急患者数のうち 入院患者数	時間内	65	4	25	221	189	6	227	8	24	0	107	0	5	0	6	4	0	0	11	12	0	0	914		
	時間外	187	2	23	159	88	6	207	4	45	0	126	3	7	0	16	2	3	0	22	1	0	0	901		
	深夜	71	0	2	67	35	1	56	0	7	2	29	0	0	0	4	1	0	0	3	1	0	0	279		
	合計	323	6	50	447	312	13	490	12	76	2	262	3	12	0	26	7	3	0	36	14	0	0	2,094		
(再掲) 救急患者数のうち 救急車	入院率	19%	27%	74%	52%	59%	30%	68%	75%	29%	6%	34%	20%	11%	0%	16%	6%	4%	0%	18%	100%	0%	0%	649%		
	時間内	221	4	18	181	158	18	185	5	20	10	260	7	12	2	8	16	11	0	22	12	0	0	1,170		
	時間外	265	3	9	121	82	14	189	3	30	7	187	0	4	1	15	14	13	0	40	1	0	0	998		
	深夜	122	0	0	61	46	0	65	0	10	0	47	0	1	1	5	4	6	0	22	1	0	0	391		
(再掲②) 救急車のうち 入院患者	合計	608	7	27	363	286	32	439	8	60	17	494	7	17	4	28	34	30	0	84	14	0	0	2,559		
	時間内	42	1	17	147	112	3	161	5	10	0	105	0	5	0	4	4	0	0	6	12	0	0	634		
	時間外	132	0	9	84	56	6	155	3	18	0	103	0	2	0	8	1	2	0	16	1	0	0	596		
	深夜	57	0	0	40	30	0	47	0	4	0	27	0	0	0	2	1	0	0	2	1	0	0	211		
	合計	231	1	26	271	198	9	363	8	32	0	235	0	7	0	14	6	2	0	24	14	0	0	1,441		
	入院率	38%	14%	96%	75%	69%	28%	83%	100%	53%	0%	48%	0%	41%	0%	50%	18%	7%	0%	29%	100%	0%	0%	848%		

	1 系	2 系	小児科	産婦人	緩和
救急患者数	時間内	1,377	497	21	9
	時間外	2,080	959	72	6
	深夜	474	196	13	0
	合計	3,931	1,652	106	15
(再掲) 救急患者数のうち 入院患者数	時間内	737	160	5	0
	時間外	672	218	7	3
	深夜	232	46	0	0
	合計	1,641	424	12	3
(再掲) 救急患者数のうち 救急車	時間内	3	2	0	0
	時間外	785	354	12	7
	深夜	683	310	4	0
	合計	294	95	1	0
(再掲②) 救急車のうち 入院患者	時間内	1,762	759	17	7
	時間外	483	134	5	0
	深夜	442	151	2	0
	合計	174	36	0	0

11. 剖検件数



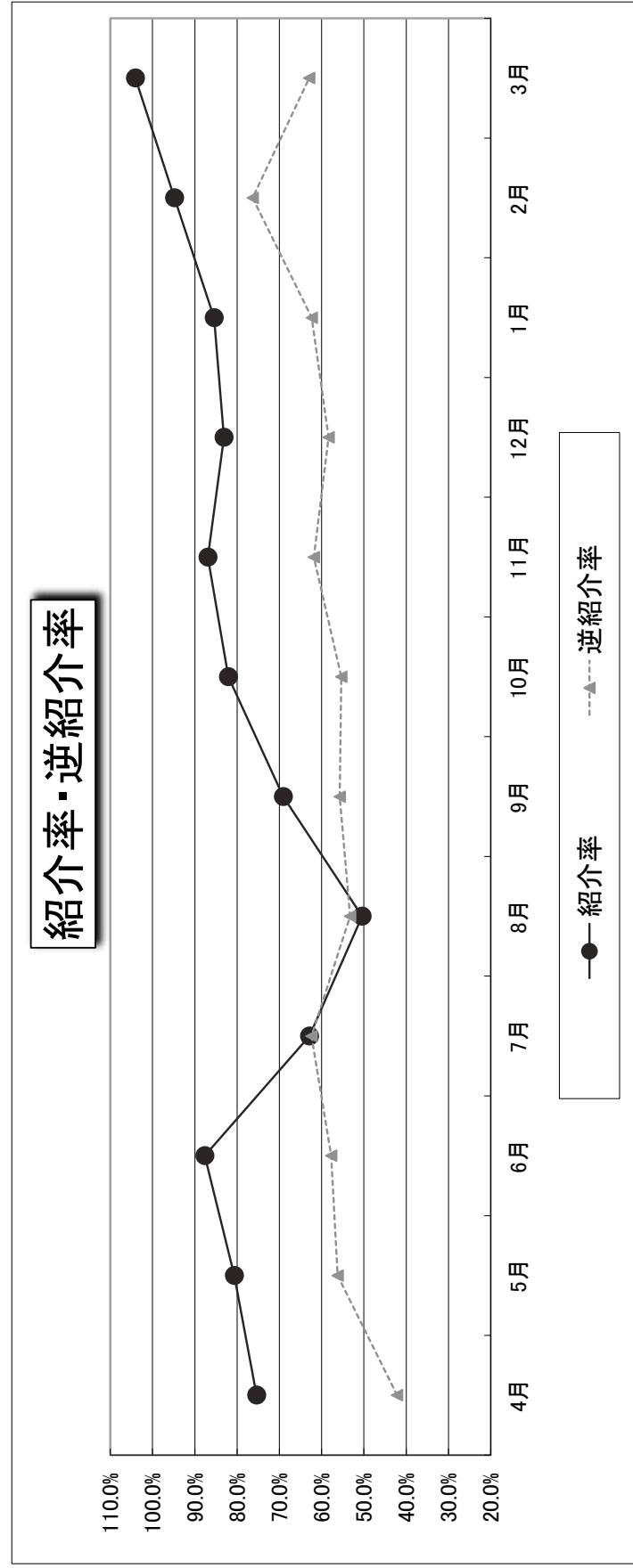
年度	H 21	H 22	H 23	H 24	H 25	H 26	H 27	H 28	H 29	H 30	R 1	R 2	R 3	R 4
件数	25	21	13	12	10	14	19	16	18	12	10	8	6	5

令和 3 年度科別剖検数

	内科	糖・内・ 代	血内	消化器	循環器	神経内	呼内	呼外	外科	脳神経	整形	産婦	小児	眼	皮膚	形成	耳鼻	リハビリ テーション科	泌尿器	緩和	救急	合計
剖検数				2	2		1															5
死亡数	1	2	29	41	25	2	66		7		2	1				1			2	130	7	316
剖検率	0.0%	0.0%	0.0%	4.9%	8.0%		1.5%		0.0%		0.0%	0.0%							0.0%	0.0%	0.0%	1.6%

12. 紹介率・逆紹介率

令和4年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
初診患者数	967	944	927	1,379	1,593	985	804	884	923	852	638	715	11,611
紹介患者数	480	459	530	517	497	428	458	496	418	408	360	398	5,449
逆紹介患者	382	489	554	583	523	529	484	546	550	525	608	592	6,365
紹介率	75.4%	80.6%	87.7%	62.9%	50.4%	69.1%	82.1%	86.9%	83.1%	85.4%	94.8%	104.1%	76.6%
逆紹介率	42.1%	56.2%	57.7%	62.4%	53.3%	55.7%	55.3%	61.8%	58.4%	62.3%	76.3%	63.0%	58.5%



13. 食事別給食数（令和 4 年度）

食事別給食数

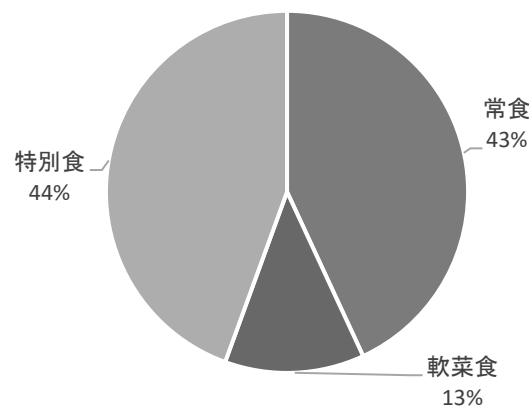
	常食	軟菜食	特別食	濃厚流動食	合 計
延食数	72,917	21,087	75,210	7,115	176,329
一日平均	200	58	206	19	483

特別食内訳

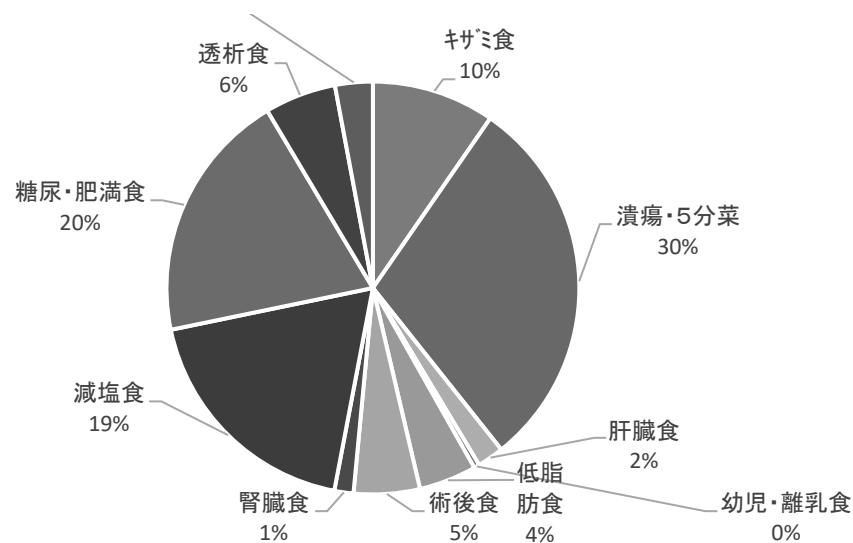
	キザミ食	潰瘍・5分菜	肝臓食	幼児・離乳食	低脂肪食	術後食	腎臓食	減塩食	糖尿・肥満食	透析食	流動食
延食数	7,247	22,319	1,564	327	3,388	3,891	1,125	14,105	14,814	4,209	2,221
一日平均	20	61	4	1	9	11	3	39	41	12	6

	糖尿・肥満食	透析食	流動食	その他	合 計
延食数	14,814	4,209	2,221	0	75,210
一日平均	41	12	6	0	206

食事別給食数



特別食内訳

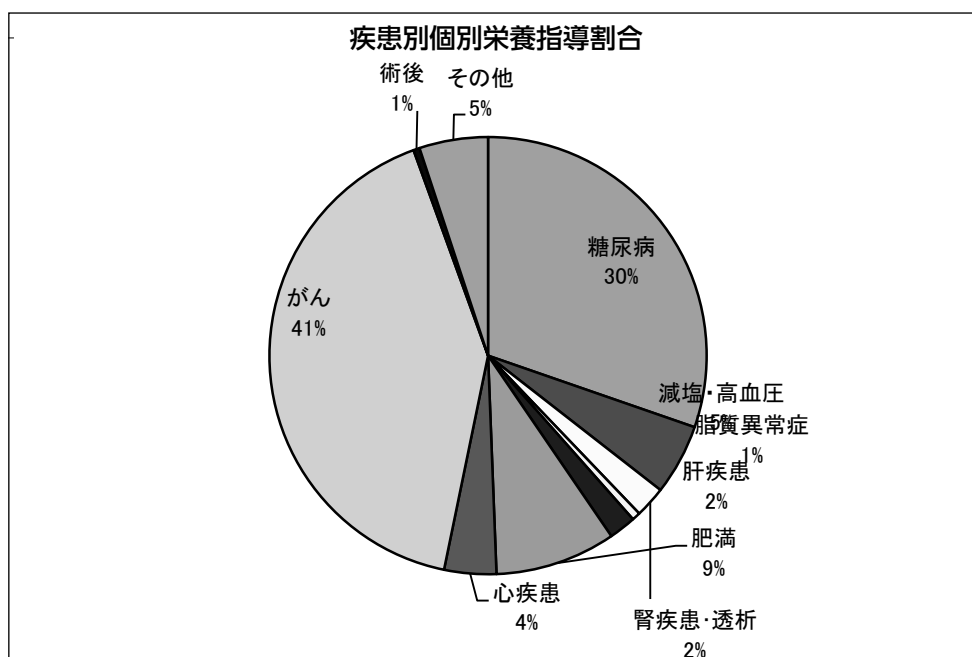


14. 栄養指導件数（令和 4 年度）

指導月	入院		外来		合計	
	算定	非算定	算定	非算定	算定計	非算定計
4月	38	3	22		60	3
5月	35	2	16		51	2
6月	40	3	15		55	3
7月	33	8	22		55	8
8月	25	4	24		49	4
9月	19	1	9		28	1
10月	19	4	23	1	42	5
11月	29	3	20	1	49	4
12月	25	3	29	3	54	6
1月	27	4	22	3	49	7
2月	39	6	17	2	56	8
3月	28	3	23	1	51	4
合計	357	44	242	11	599	55
月平均	29.8	3.7	20.2	1.8	49.9	4.6

疾患別個別栄養指導件数（複数の制限の指示は主指示事項をカウントする）

	糖尿病	減塩・ 高血圧	腎疾患・ 透析	脂質異 常症	肝疾患	肥満	心疾患	がん	術後	その他	合計
延数	197	34	15	4	13	58	25	268	3	33	650
月平均	16	3	1	0	1	5	2	22	0	3	54



15. 手術件数

	内科	糖・内・ 代	血液内科	腎臓内科	消化器 内科	循環器 内科	呼吸器 内科	呼吸器 外科	外科	脳神経 外科	整形外科	産婦人科	小児科	眼科	皮膚科	形成外科	耳鼻咽 喉科	泌尿器科	その他	合計
平成30年度	50				932	315	2	122	540	12	639	128		1130	41	584	61	273	25	4,854
令和元年度	2	4	5	25	972	268	2	102	570	10	576	93	2	923	23	542	33	309	45	4,506
令和2年度	3		10	15	946	212	5	81	457	1	550	36	1	673	25	484	16	252	21	3,788
令和3年度	5	2	2	43	990	219		89	450	7	635	40		787	47	391	12	290	1	4,010
令和4年度	2	2	4	61	1,177	216	15	106	556	4	661	39	0	768	26	551	24	329	2	4,543

※その他は、リハビリテーション科と救急科を足したものです。

16. 医業収益・費用及び医業外収益・費用の構成について

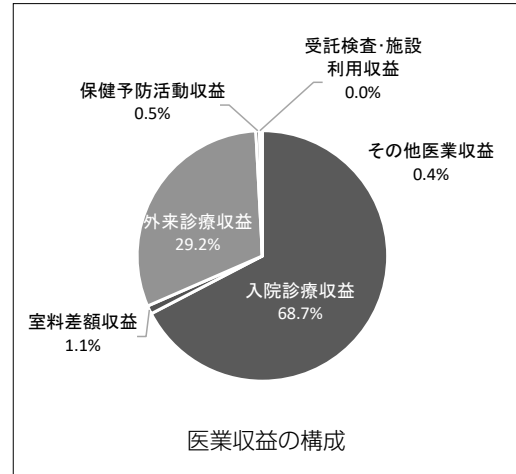
(令和4年度医療施設特別会計決算額より)

医業収益の構成

損益計算書収益の部より、医業収益科目の構成比率

(単位：円)

項目	金額	構成比率
入院診療収益	5,889,849,918	67.6%
室料差額収益	94,347,100	1.1%
外来診療収益	2,684,359,589	30.8%
保健予防活動収益	44,488,784	0.5%
受託検査・施設利用収益	1,903,400	0.0%
その他の医業収益	27,064,781	0.3%
保険等査定減(※入院＋外来診療収益比)	-32,931,966	(-0.3%)
合計	8,709,081,606	

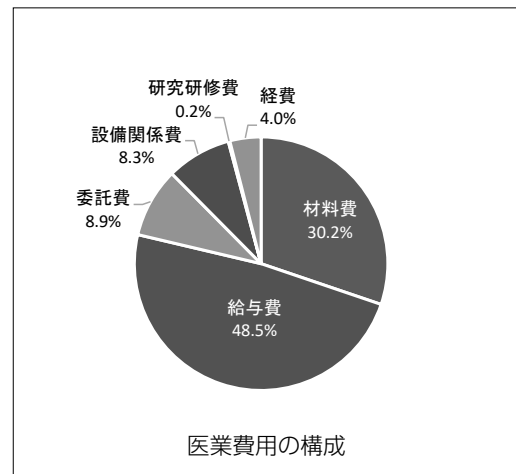


医業費用の構成

損益計算書費用の部より、医業費用科目の構成比率

(単位：円)

項目	金額	構成比率
材料費	2,744,681,470	30.2%
給与費	4,404,664,575	48.5%
委託費	807,027,290	8.9%
設備関係費	749,762,149	8.3%
研究研修費	18,665,426	0.2%
経費	361,007,372	4.0%
合計	9,085,808,282	

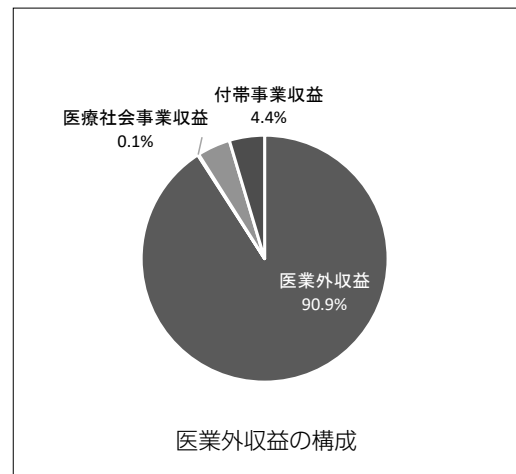


医業外収益の構成

損益計算書収益の部より、医業外収益科目の構成比率

(単位：円)

項目	金額	構成比率
医業外収益	1,101,261,802	90.9%
医療社会事業収益	1,696,396	0.1%
付帯事業収益	52,795,654	4.4%
特別利益	55,944,534	4.6%
合計	1,211,698,386	

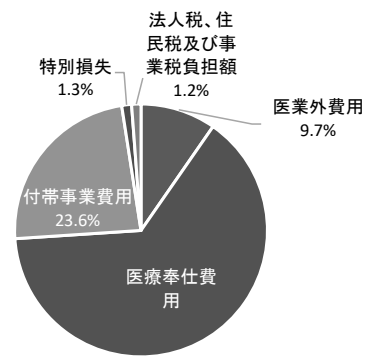


医業外費用の構成

損益計算書費用の部より、医業外費用科目の構成比率

(単位：円)

項目	金額	構成比率
医業外費用	18,305,299	9.7%
医療奉仕費用	121,946,207	64.3%
付帯事業費用	44,737,173	23.6%
特別損失	2,380,552	1.3%
法人税、住民税及び事業税負担額	2,265,792	1.2%
合計	189,635,023	



医業外費用の構成

17. 病院利益（損失）

(単位：円)

総利益	9,920,779,992
総費用	9,275,443,305
病院利益（損失）	645,336,687

18. 令和 4 年度 年間購入雑誌一覧

洋 雑 誌	
(冊子)	
1	Emergency Medicine Report
2	Journal of Orthopaedic Science
(電子ジャーナル)	
3	Anesthesiology
4	Anesthesia and Analgesia
5	Annals of Surgery
6	Blood
7	Biology of Blood and Marrow Transplantation
8	Circulation
9	Critical Care Medicine
10	Diseases of the Colon and Rectum
11	European Respiratory Journal
12	Journal of the American College of Cardiology
13	The American Journal of Surgical Pathology
14	The Journal of Bone and Joint Surgery (American Volume)
15	The Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery
16	The Journal of Urology
17	The Lancet Respiratory Medicine
18	New England Journal of Medicine
19	Plastic and Reconstructive Surgery

和 雑 誌	
(冊子)	
1	Clinical Research Professionals
2	JOURNAL OF CLINICAL REHABILITATION
3	Lisa
4	胃と腸
5	Exprt Nurse
6	看護
7	看護研究
8	看護展望
9	呼吸器ジャーナル
10	作業療法ジャーナル
11	消化器内視鏡
12	総合リハビリテーション
13	Nursing BUSINESS
14	保険診療
15	みんなの呼吸器 Respica
16	薬局
17	薬事
18	理学療法ジャーナル
19	臨床消化器内科

文献検索・データベース

MEDLINE with Full Text (EBSCO)
CINAHL with Full Text (EBSCO)
The Cochrane Library
Dyna Med
医学中央雑誌 web 版
メディカルオンライン

19. 医療社会事業年報（2022 年度）

ア．取扱件数

区 分		延件数
年度実件数		1,765
継続実件数		71
新規実件数	入院	1,299
	外来	395

イ．年度延件数

区 分	延件数
年度延件数	7,484

ウ．新規ケースの紹介経路

区 分	延件数
医師	510
看護師	732
リハビリ職	0
その他院内職員	35
本人	83
家族・親戚縁者	155
院外関係機関	158
近隣者・知人	0
医療チーム	11
ソーシャルワーカー	6

エ．介入の時期

区 分	延件数
受診前	3
外来	344
入院前	15
入院中	1,297
その他	34

オ．社会的背景

区 分	延件数
独居	270
経済困窮	15
家族疎遠・身寄りなし	32
ハイリスク妊産婦	0
精神疾患	47
認知症	168
家庭内暴力・虐待	6
自殺企図	1
無保険	0
身元不明	0
ホームレス	0
外国人	1

カ．援助内容

区 分	延件数
受診・受療	555
経済的問題	87
制度活用	554
入院療養生活	91
退院支援	5,713
在宅療養・介護	896
医療者との関係	10
家族関係	39
日常生活	732
就労・就学	1
身元保証・権利擁護	49
死後対応	18
その他	36

キ．援助方法

区 分		延件数
面談	本人	1,736
	家族	1,284
	知人・友人	23
電話	本人	45
	家族	2,290
	知人・友人	26
訪問	家庭	1
	その他	24
同行・同伴・代行		3
連絡調整・院内		6,078
連絡調整・院外：面会		87
連絡調整・院外：電話		6,814
連絡調整・院外：文書他 メール他		2,047
カンファレンス（院内職種のみ）		51
カンファレンス（院外職種含む）		46
合同カンファレンス（院内職種のみ）		10
合同カンファレンス（院外職種含む）		55

ク．チーム医療

区 分	延件数
退院支援チーム	5,575
認知症ケアチーム	1,353
患者サポートチーム	0
リエゾンチーム	0
緩和ケアチーム	0
虐待対応チーム	0
倫理コンサルテーションチーム	0
その他	1,316

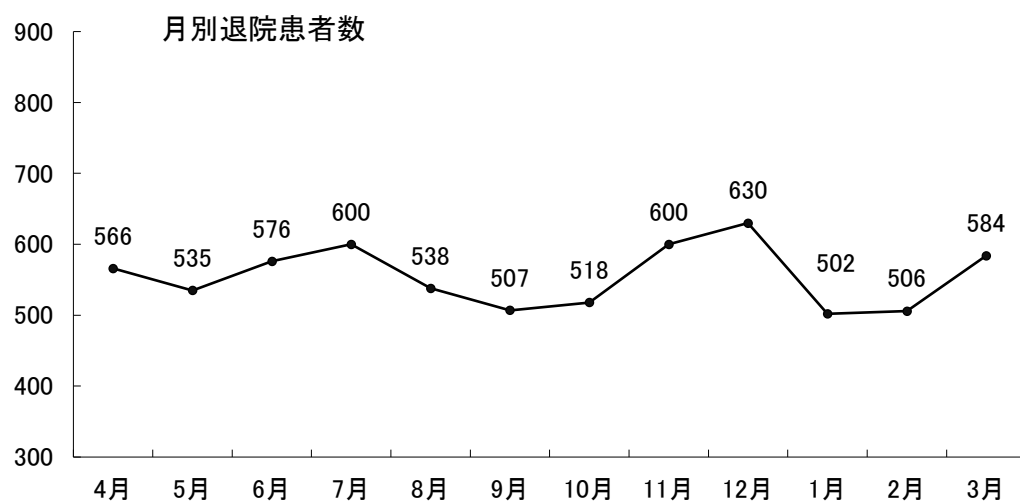
V 退院患者疾病統計

1. 月別退院患者数

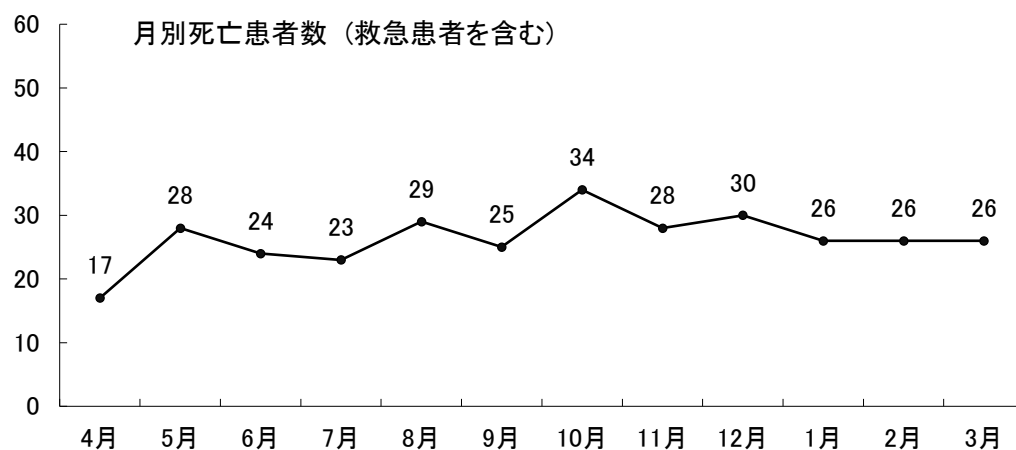
(人)

性 別 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男	327	289	340	365	306	291	264	326	373	276	287	343	3787
女	239	246	236	235	232	216	254	274	257	226	219	241	2875
合 計	566	535	576	600	538	507	518	600	630	502	506	584	6662

(人)



(人)



2. 科別・月別退院患者数

(人)

診療科名 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
糖尿病・内分泌・生活習慣病科	29	17	20	23	14	9	13	17	20	8	20	17	207
血液・腫瘍内科	39	32	33	45	40	33	42	48	51	41	32	40	476
緩和科	8	16	14	13	15	10	17	13	17	13	14	11	161
消化器科	157	155	181	152	125	144	150	152	166	133	120	162	1,797
循環器科	57	68	63	64	51	45	54	73	71	55	62	76	739
呼吸器科	108	77	83	90	99	101	81	90	113	92	84	86	1,104
呼吸器外科	16	11	7	17	14	5	5	9	8	5	12	8	117
外科	29	41	41	51	54	37	27	46	46	31	44	46	493
整形外科	37	45	43	47	54	47	37	53	57	63	49	64	596
産婦人科	2	4	2	3	4	3	1	1	3		3	1	27
小児科	4	2	8	10	4	7	3	5	1	2	1	5	52
眼科	45	33	39	33	34	29	49	51	42	26	33	28	442
皮膚科	8	4	7	5	4	10	7	5	5		4	4	63
形成外科	4	5	4	6	2	3	6	5	4	6	7	6	58
耳鼻咽喉科													0
泌尿器科	23	24	29	37	21	22	23	24	25	19	15	27	289
脳神経内科		1	2	4	3	2	3	8	1	8	6	3	41
合計	566	534	574	596	535	505	515	592	629	494	500	581	6,662

3. 科別・転帰別退院患者数

(人)

診療科名 \ 転 帰	治 癒	軽 快	不 変	悪 化	死 亡	検 査	転 医	その他	合 計
糖 尿 病 ・ 内 分 泌 ・ 生 活 習 慣 病 科	1	184			2	14	4	2	207
血 液 ・ 腫 瘍 内 科	3	414	1		30	2	25	1	476
緩 和 科		20	2		135		3	1	161
消 化 器 科	58	1,575	3		40	51	68	2	1,797
循 環 器 科	27	618	4		25	24	41		739
呼 吸 器 科	195	590			66	193	58	2	1,104
呼 吸 器 外 科		113	2				2		117
外 科	1	469	1		7		15		493
整 形 外 科	3	432			1	1	159		596
産 婦 人 科		25				1	1		27
小 児 科	1	48	3						52
眼 科	2	439					1		442
皮 膚 科	2	59	1				1		63
形 成 外 科		56			1		1		58
耳 鼻 咽 喉 科									0
泌 尿 器 科	2	230	1		2	51	3		289
脳 神 経 内 科	2	34				1	4		
合 計	297	5,306	18	0	309	338	386	8	6,662

4. 疾病大分類別・性別退院患者数

疾病大分類		患者数(人)			比率(%)	平均在院 日数(日)
		男	女	合計		
I	感染症および寄生虫症	91	96	187	2.8%	16.4
II	新生物	1,453	907	2,360	35.4%	11.4
III	血液および造血器並びに免疫障害	50	32	82	1.2%	28.1
IV	内分泌、栄養および代謝疾患	130	97	227	3.4%	11.5
V	精神および行動の障害	5	1	6	0.1%	14.0
VI	神経系の疾患	67	45	112	1.7%	9.4
VII	眼および付属器の疾患	222	230	452	6.8%	2.0
VIII	耳および乳様突起の疾患	8	18	26	0.4%	3.7
IX	循環器系の疾患	333	225	558	8.4%	13.6
X	呼吸器系の疾患	377	216	593	8.9%	19.6
X I	消化器系の疾患	410	312	722	10.8%	9.4
X II	皮膚および皮下組織の疾患	28	21	49	0.7%	18.7
X III	筋骨格系および結合組織の疾患	93	113	206	3.1%	16.8
X IV	尿路性器系の疾患	161	116	277	4.2%	11.8
X V	妊娠、分娩および産褥			0	0.0%	
X VI	周産期に発生した病態			0	0.0%	
X VII	先天奇形、変形および染色体異常	2	4	6	0.1%	3.8
X VIII	症状、徴候および異常所見	2	2	4	0.1%	5.3
X IX	損傷および中毒	210	300	510	7.7%	15.8
XX I	保健サービス	2		2	0.0%	3.5
XX II	特殊目的用コード (原因不明の新たな疾患の暫定分類)	143	140	283	4.2%	16.0
合 計		3,787	2,875	6,662	100.0%	12.5

5. 疾病大分類別・診療科別退院患者数

(人)

疾病大分類	科 名	糖内	血内	緩和	消化	循環	呼吸	呼・外	外科	整形	産婦	小児	眼科	皮膚	形成	耳鼻	泌尿	神内	合 計
I	感染症および寄生虫症	3	20	1	67	18	24		8	1	1	12		25			5	2	187
II	新生物	13	351	153	1,035	3	339	78	210	2	15				8		153		2,360
III	血液および造血器並びに免疫障害	2	47		16	5	3		5		1	2					1		82
IV	内分泌、栄養および代謝疾患	168	5		22	22	4		1	1		3						1	227
V	精神および行動の障害		0		2	2			1									1	6
VI	神経系の疾患	1	0	1	7	12	72		2	4		1						12	112
VII	眼および付属器の疾患		0										433		19				452
VIII	耳および乳様突起の疾患	1	1		8	8												8	26
IX	循環系の疾患	2	0	2	24	499	6		2	3		2		1	2		2	13	558
X	呼吸器系の疾患	6	16	1	62	66	379	33	2	3		22					3		593
X I	消化器系の疾患	1	2		454	5	5		254		1								722
X II	皮膚および皮下組織の疾患	1	0		4				1					32	11				49
X III	筋骨格系および結合組織の疾患		3		12	2	22		1	154		5		1	3		1	2	206
X IV	泌尿器系の疾患	3	15		51	59	12		4	3	9						121		277
X V	妊娠、分娩および産褥		0																0
X VI	周産期に発生した病態		0																0
X VII	先天奇形、変形および染色体異常		0			2							4						6
X VIII	症状、徴候および異常所見		0		1		3												4
X IX	損傷および中毒		6		17	25	4	6	2	420		5	5	3	15		1	1	510
XX I	保健サービス		2																2
XX II	特殊目的用コード (原因不明の新たな疾患の暫定分類)	6	8	3	15	11	231			5				1			2	1	283
合 計		207	476	161	1,797	739	1,104	117	493	596	27	52	442	63	58	0	289	41	6,662

6. 疾病大分類別・転帰別退院患者数

疾病大分類	転 帰	治 癒		軽 快		不 変		悪 化		死 亡		検 査		転 医		そ の 他		合 計
		件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	
I	感染症および寄生虫症	14	7.5%	134	71.7%		0.0%		0.0%	17	9.1%	9	4.8%	13	7.0%		0.0%	187
II	新生物	16	0.7%	1,906	80.8%	6	0.3%		0.0%	180	7.6%	208	8.8%	42	1.8%	2	0.1%	2,360
III	血液および造血器並びに免疫障害		0.0%	64	78.0%	2	2.4%		0.0%	8	9.8%		0.0%	8	9.8%		0.0%	82
IV	内分泌、栄養および代謝疾患	5	2.2%	210	92.5%		0.0%		0.0%		0.0%	7	3.1%	3	1.3%	2	0.9%	227
V	精神および行動の障害	2	33.3%	4	66.7%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%	6
VI	神経系の疾患	2	1.8%	42	37.5%		0.0%		0.0%	2	1.8%	59	52.7%	7	6.3%		0.0%	112
VII	眼および付属器の疾患	2	0.4%	450	99.6%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%	452
VIII	耳および乳様突起の疾患	7	26.9%	19	73.1%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%	26
IX	循環器系の疾患	4	0.7%	475	85.1%	4	0.7%		0.0%	17	3.0%	22	3.9%	35	6.3%	1	0.2%	558
X	呼吸器系の疾患	24	4.0%	436	73.5%	1	0.2%		0.0%	64	10.8%	9	1.5%	58	9.8%	1	0.2%	593
X I	消化器系の疾患	12	1.7%	659	91.3%	3	0.4%		0.0%	6	0.8%	20	2.8%	22	3.0%		0.0%	722
X II	皮膚および皮下組織の疾患	1	2.0%	45	91.8%	1	2.0%		0.0%	1	2.0%		0.0%	1	2.0%		0.0%	49
X III	筋骨格系および結合組織の疾患	2	1.0%	178	86.4%		0.0%		0.0%	2	1.0%	2	1.0%	22	10.7%		0.0%	206
X IV	泌尿器系の疾患	15	5.4%	244	88.1%	1	0.4%		0.0%	2	0.7%	2	0.7%	12	4.3%	1	0.4%	277
X V	妊娠、分娩および産褥		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%	0
X VI	周産期に発生した病態		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%	0
X VII	先天奇形、変形および染色体異常		0.0%	6	100.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%	6
X VIII	症状、徴候および異常所見		0.0%	3	75.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%	1	25.0%		0.0%	4
X IX	損傷および中毒	9	1.8%	365	71.6%		0.0%		0.0%	1	0.2%		0.0%	135	26.5%		0.0%	510
XX I	保健サービス		0.0%	2	100.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%	2
XX II	特殊目的用コード (原因不明の新たな疾患の暫定分類)	182	64.3%	64	22.6%		0.0%		0.0%	9	3.2%		0.0%	27	9.5%	1	0.4%	283
合 計		297	4.5%	5,306	79.6%	18	0.3%	0	0.0%	309	4.6%	338	5.1%	386	5.8%	8	0.1%	6,662

7. 科別死亡数および剖検数

科 名	死 亡 数 (人)	剖 検 数 (人)	剖 検 率 (%)
糖 尿 病・内 分 泌・ 生 活 習 慣 病 科	2		0.0
血 液・腫 瘍 内 科	30		0.0
緩 和 科	132		0.0
消 化 器 科	41	2	4.9
循 環 器 科	25	2	8.0
呼 吸 器 科	66	1	1.5
呼 吸 器 外 科			0.0
外 科	7		0.0
整 形 外 科	2		0.0
産 婦 人 科	1		0.0
小 児 科			0.0
眼 科			0.0
皮 膚 科			0.0
形 成 外 科	1		0.0
耳 鼻 咽 喉 科			0.0
泌 尿 器 科	2		0.0
救 急 外 来	7		0.0
合 計	316	5	1.6

* 救急外来患者を含む為、退院患者死亡数（転帰）とは異なる

VI 診療科・部門別活動実績

総 合 診 療 科

<スタッフ>

大中 玄彦（部 長）：総合診療科

（認定内科医・指導医、循環器専門医、老年病専門医・指導医）

● 総合診療科の役割

この診療科の役割は紹介状を持たずに初めて当院を受診され、受診すべき診療科がわからない患者さんや、総合診療科あての紹介状をお持ちの患者さんを診療する外来です。診察の結果、専門診療科の受診が必要と判断されれば適切な診療科へご紹介いたします。紹介状を持参された患者さんの場合でも、受診科を特定できない場合には、当科を受診した上で受診科を決めさせていただきます。

● 総合診療科の特色

高槻赤十字病院には 20 を超える診療科があり、高度の専門知識、診療技術を備えた医師が多数在籍しております。当院の実力を十分に活用していただけますよう、それらの医師への橋渡しを行うための診療科と御理解ください。

なお、当科では診療科の性質上、原則として外来での継続診療や入院による診療はおこなっておりません。これらが必要な場合は、院内外の適切な診療科をご紹介いたします。

緩和ケア科

<スタッフ>

橋本 典夫（緩和ケア科部長）

金村 誠哲（緩和ケア科副部長）

スタッフに関しては平成 30 年 9 月より 2 名体制となっている。

<令和 4 年度活動実績>

日本ホスピス緩和ケア協会による「ホスピス緩和ケア病棟における質向上の取り組み認証制度」に認定されており継続的に施設評価されている。また日本緩和医療学会の認定研修施設にも引き続き認定され研修教育活動も継続している。

看護スタッフ欠員のため令和 3 年 9 月より 20 床運用から 10 床運用に減少し、現在は 12 床、在宅医からの緊急入院依頼時は一時的に 13 床での運用となっている。そのため令和 4 年度は令和 3 年度と比較し 78% しか提供病床がない状態であった。しかしながら入院受け入れ態勢の効率化等で提供病床数が 78% に減少しているにもかかわらず新入院患者数、入院患者延数ともに 96%、89% と 78% に低下とはならなかった。

コロナ感染症蔓延のため本館は面会禁止の状態ではあるが、当院緩和ケア病棟は独立型であり全室個室の特徴を生かし、時間や人数制限はあるが面会可能としており患者さんご家族さんのケア向上に役立った。ただ面会希望のご家族への検温含めた対応やコロナ診療班としての参加、コロナ重症患者対応のための休日のオンコール対応などスタッフの業務量は増加した。

学会・研究会活動としては、地域の緩和ケアネットワークの勉強会として、「緩和ケアを語る会」の世話人として参加し、地域での在宅医との「顔の見える関係づくり」に努めた。また大阪府指定がん診療連携拠点病院として三島圏域がん研究会の幹事としての活動を行った。

<令和 5 年度活動目標>

できるだけ多くの患者に良質な緩和ケアを提供するため、

1. 緩和ケア病棟の病床稼働率を維持する
2. 待機患者、待機日数を短縮する
3. 地域の医師と連携を図り、バックアップの役割を担う
4. 学会・研究活動の充実
5. 緩和ケア研修会の開催

血液腫瘍内科

<スタッフ>

田嶋 政郎（名誉院長）：血液内科
安齋 尚之（部長）：血液内科
前迫 善智（副部長）：血液内科
岡田 睦実（副部長）：血液内科
恩田 佳幸（副部長）：血液内科
丹羽諒太郎（常勤）：血液内科

<令和4年活動実績>

病床数	49 床
入院症例数	184 例（新患 105 例）
悪性リンパ腫	64 例（新患 31 例）
急性白血病	36 例（新患 20 例）
多発性骨髄腫	21 例（新患 13 例）
骨髄異形成症候群	23 例（新患 13 例）
再生不良性貧血	14 例（新患 8 例）
特発性血小板減少性紫斑病	17 例（新患 15 例）
その他	9 例（新患 5 例）
造血幹細胞移植件数	10 件
自家移植	1 件
同種移植	9 件（臍帯血 9 件、血縁 0 件）

当科では、白血病・リンパ腫・骨髄腫などの造血器腫瘍の他、貧血・血小板減少症などの診療を行っており、血液内科医に加え、がん化学療法認定看護師をはじめとした看護スタッフ、がん専門薬剤師、臨床工学技士、理学療法士、臨床心理士、HCTC 等がチームとなり安心して治療に専念できる環境を整えています。

造血器疾患の中には同種造血幹細胞移植以外に根治の方法が無い方も多く可能な限り移植治療を提供できるように考えています。当院の特色として優れた GVL 効果と生着面での安全性から臍帯血移植を主体に移植治療を施行しています。一般には移植不適応とされる 70 歳以上の高齢者の方にも全身状態が移植に耐えうると判断すれば移植治療を実施しています。高齢者の臍帯血移植に関しては全国的にも有数の症例数になります。他院で移植治療を断念された患者さんが紹介されるようになってきています。

難治性悪性リンパ腫への根治治療となりうる CAR-T 治療の適応の判断と実施施設への紹介（主に京大病院）症例も徐々に増加してきています。

また、積極的な治療の対象となりにくい患者さんには、個々の症例に基づいて、初期の段階から緩和的治療を含めてきめ細やかな対応を心掛けています。

循環器科

<スタッフ>

大中 玄彦（部長）：循環器内科（認定内科医、循環器専門医、心臓リハビリ指導士、
老年病専門医）

岡本 文雄（医師）：救急部部長（認定内科医、循環器専門医、救急科専門医）令和4年10月退任

木澤 隼（副部長）：循環器内科（認定内科医、循環器専門医）

土居 裕幸（医師）：循環器内科（認定内科医）

平野 玄起（医師）：循環器内科（認定内科医）

森 京子（医師）：循環器内科（認定内科医）

沼田ありさ（医師）：循環器内科（認定内科医）

町田 尚央（医師）：循環器内科

循環器疾患全体を扱い、高血圧、脂質代謝異常症などの生活習慣病から急性心筋梗塞、急性心不全、致死性不整脈疾患、心筋炎などの急性疾患まで幅広い疾患を診療し、一般的な生理検査機器や造影検査はもちろんのこと非侵襲的に冠動脈疾患や心筋疾患の評価が可能な RI 検査、80 列 CT 検査、MRI 検査機器を揃えている。さらに心筋梗塞や急性心不全などの緊急を要する患者の治療に対してはコメディカルスタッフの協力のもと 24 時間・365 日体制で診療にあたっている。また、当院は心臓リハビリテーション実施施設であり、年間 416 症例の心臓リハビリを介入し、病気の再憎悪で再入院の予防に努めている。外科領域においても大阪医科大学心臓血管外科との合同カンファレンスを行い重症患者の治療方針につき検討し、患者さんにとっての最適な治療を提供している。

<令和4年度活動実績>

令和4年度実績

外来患者延数 12,666 人 入院患者延数 10,819 人

心臓カテーテル検査・処置総数 : 128 件

冠動脈インターベンション治療 : 137 件

ペースメーカー植込み術 : 29 件

末梢血管形成術（含む透析シャント PTA） : 8 件

IABP 施行件数 : 1 件

PCPS : 0 件

心臓リハビリテーション : 467 件

消化器科・消化器内視鏡センター

<部 長>

神田 直樹（消化器内科部長・消化器内視鏡センター長）（副院長）

<スタッフ>

玉田 尚（院長）

吉岡 拓人（副部長）

吉見 宏平（救急部副部長兼任）

池田 宗弘

松村大志郎

中森 翔平

矢倉 伊織

奥野 岳

武林 理沙

山本 悠生

<異 動>

令和4年4月 山本 悠生（着任）

令和4年4月 矢倉 伊織（着任）

令和5年3月 武林 理沙（退任）

令和5年3月 吉見 宏平（退任）

令和5年3月 池田 宗弘（退任）

<令和4年度活動実績>

当院消化器内科は、日本消化器病学会指導医3名・専門医5名、日本消化器内視鏡学会指導医3名、日本肝臓病学会専門医4名を含む医師10名で、救急含めほとんどの処置に対応できる体制となっています。

当科ではESDを数多く施行しており、施行数は令和5年3月までに胃・大腸・食道を合わせて1435例（胃884、大腸436、食道115、十二指腸5）となっています。これは北摂屈指の施行数で、10cmを超える病変や、食道の全周性病変などのESDも行っています。最新の内視鏡システムOlympus X1を導入し、拡大内視鏡、NBI、TXI、超音波内視鏡などでの的確な診断を行い、処置用にマルチバンドスコープや短彎曲細径大腸内視鏡290TIなども有し、安全かつ迅速にESDなどが施行できる設備が整っています。

当科では大腸ESDは特に得意としており、迅速に施行できる体制であるため、EMRで切除可能か迷う病変に対しては、ESDスタンバイでEMRを試みて、EMRが困難な場合にはESDに移行するなど、常に患者様に最適な治療を施行することが可能となっています。

膵胆管の癌に対しては、内視鏡下の擦過細胞診やステント留置を積極的に行っており、EUS下の穿刺細胞診も可能です。また、EUS-FNAによる膵炎後の仮性嚢胞のドレナージなど先端治療も行っています。

肝臓がんの治療では、TACE（Transcatheter Arterial Chemo-Embolization＝肝動脈化学塞栓術）、Beads TACE、RFA（radiofrequency ablation＝ラジオ波焼灼術）、免疫チェックポイント阻害薬を含む抗がん剤治療を症例に応じて適切に治療を行っています。また、人工胸水・腹水下 RFA を導入し、これまで RFA が困難であった横隔膜下直下や、腸管に接した肝臓がんに対しても RFA が可能になっており、令和 4 年には人工胸腹水 RFA も 7 例行っています。

消化器癌の化学療法は、日進月歩で、様々な薬剤、レジメンが開発されており、切除不能消化器癌の平均生存期間も飛躍的に延長しています。当科では、外来化学療法室と協力し、免疫チェックポイント阻害薬を含め消化器癌の化学療法を積極的かつ安全に施行しています。さらにがん遺伝子検査が必要な場合は、がんゲノム医療中核拠点病院とも連携しています。

また、近年増加している消化器疾患として炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎・クローン病）があり、生物学製剤の使用が急増するなど治療法が著しく発展している分野です。当科では、従来の 5-ASA、ステロイド、免疫調整薬に加えて、さまざまな生物学的製剤、顆粒球除去療法などの治療を、専門医が安全かつ効果的に行っています。

また、当院は教育基幹病院ですが、侵襲的処置には必ずその分野のスペシャリストが立ち会うことで医療の質を担保しています。

<令和 4 年度患者数>

新規入院患者数 1,836 人、入院患者延数 14,831 人、外来患者延数 14,686 人、

<令和 4 年度検査・処置症例数>

	令和 4 年度	開始からの累計
上部消化管内視鏡検査	3,389	
下部消化管内視鏡検査	1,661	
胃の内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）	63	884
大腸の内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）	29	436
食道の内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）	12	115
大腸ポリープ切除（polypectomy/EMR）	658	
内視鏡的逆行性膵胆管造影（ERCP）／内視鏡的総胆管結石除去／内視鏡的胆管ドレナージ・ステント留置	131	
超音波内視鏡	135	
内視鏡的止血術	105	
カプセル内視鏡	15	
ダブルバルーン内視鏡	12	
腹部超音波検査	2,037	
腹部造影超音波検査	14	
肝動脈化学塞栓療法	11	
肝がんのラジオ波焼却療法	8	

< 令和 5 年度活動目標 >

新規入院患者数・検査・処置数・化学療法数の増加を図り、それぞれの領域について質の高い医療を目標とする。当院は ESD を積極的に行っており、特に実施施設基準の必要な大腸 ESD も施行可能基準を満たしており、ますます症例数の増加を図っていく。また、消化管では、最先端の Olympus Lucera Elite シリーズ内視鏡により、精緻な診断・治療を行い、胆道系処置についても、超音波内視鏡ガイド下穿刺細胞診（EUS-FNA）が施行可能となり、症例数の増加を図っていく。また、導入が決まった最新の経鼻内視鏡 290N により「楽に受けられる上部消化管内視鏡」をアピールし、健診など含め上部消化管内視鏡の症例数も増加させるよう努める。一方、最近導入したカプセル内視鏡・バルーン小腸内視鏡の症例数の充実も図っていく。さらに、近年ニーズが高く、下部消化管内視鏡検査のオープン検査を増やしていく予定である。

また、消化器癌の化学療法の分野でも、様々な薬剤、レジメンが開発されており、それらを積極的かつ安全に施行していく。肝臓の分野においても、26 年度には genotype 1 型に対し、C 型肝炎のインターフェロンを使わない治療が保険適応になったが、27 年度には genotype 2 型に対する薬剤も保険適応となり、これらも積極的に施行していく。肝臓癌治療においても、TACE だけでなく RFA 症例の増加も目標としており、また新規抗癌剤のレンバチニブの使用も開始するなど、放射線科や超音波検査室と連携して肝臓癌の早期発見に努めていく。

神 経 内 科

<スタッフ>

玉田 尚（院長兼部長）
中川 朋一（副部長）
中村 正孝（非常勤医師）
小松 研一（非常勤医師）
安達 智美（非常勤医師）
孝橋 睦生（非常勤医師）
立岡 悠（非常勤医師）

<令和 4 年度活動実績>

<臨 床>

令和 4 年度の入院症例数は 40 例で、入院延べ患者数は 604 日です。また外来延べ患者数は 2883 人です。

脳梗塞症例については、緊急の血栓溶解療法の適応でない症例について入院加療を行った。また地域連携パスの一環として、脳梗塞パスも行い地域医療にもたずさわり、地域医療に貢献している。

その他、パーキンソン病の精査や薬剤調整入院、てんかんの緊急入院などに対応している。

<研 修>

騎馬戦型高齢化社会に向けて、近い将来脳梗塞は神経内科専門医のみならず内科系一般医も診療にあたる必要が出てくるため研修の一環として若手医師に担当としていただくシステムをとっている。

<令和 5 年度活動目標>

入院症例数のさらなる増加のため、外来や救急から積極的に入院を勧める方針です。今後、パーキンソン病の持続皮下注療法の研修なども受け、導入できる体制を作り、パーキンソン病診療の充実を図っていく予定です。

呼 吸 器 外 科

<スタッフ>

武田 翔：日本医師会認定産業医、緩和ケア講習会修了、Certificate of da VinciSystem Training As a First Assistant、認定 ICLS コース修了

<特 色>

呼吸器センターとして呼吸器内科と協力しながら診断から治療までを包括的にかつ迅速に行っています。手術症例ではクリニカルパスを導入し、医療安全の向上や業務の効率化を図っています。手術は肺癌症例を含め完全胸腔鏡下手術を基本としています。また手術時の縦隔鏡検査や胸腔洗浄細胞診により、正確な病期診断・適切な治療方針の決定に努めています。術前～術後にはリハビリ科に呼吸リハビリを行って頂き、呼吸機能の改善・術後合併症の予防に努めています。当院は呼吸器外科専門医制度の関連施設、大阪府癌拠点病院であり、肺癌の治療では手術はもとより術前導入化学放射線治療や術後補助化学療法、再発癌に対する集学的治療も積極的に行い、治療成績の向上に努めています。

<令和 4 年度活動実績>

令和 4 年度も COVID-19 の影響もありましたが、手術は大阪医科薬科大学から応援に来ていただいております、全体の 80% 以上を完全胸腔鏡下で行うことが出来ました。全手術件数は 103 件（前年度 76 件）、全麻が 102 件で前年度から大幅に増加しました。手術の内訳は肺癌 59 件、縦隔腫瘍 6 件、気胸 21 件などでした。

<令和 5 年度の目標>

令和 4 年 6 月からは大阪医大胸部外科より新たに呼吸器外科医師が赴任いたしました。当科は少数精鋭ではありますが、地域医療機関との連携を強化し呼吸器内科と協力しながら地域の呼吸器（特に肺癌）診療のニーズに答えていきたいと思っております。手術は引き続き完全胸腔鏡下手術を積極的に行い、より低侵襲で安全な術式を追求します。新しいデバイスの導入や更なる術式の改良に取り組みたいです。呼吸器外科診療も急速に進歩していますので、EBM を基本としながらも最新の知見を速やかに導入し、患者さんに最適な医療を提供していきます。

呼 吸 器 科

<スタッフ>

北 英夫（呼吸器センター長）S62 卒

京都大学臨床教授。京都大学医学博士

日本内科学会認定内科専門医・指導医・近畿支部評議員

日本呼吸器学会専門医・指導医・代議員

日本アレルギー学会専門医・指導医

日本呼吸器内視鏡学会専門医・指導医

日本癌治療認定機構がん治療認定医・

日本呼吸ケアリハビリテーション学会評議員

日本結核病学会 代議員

中村 保清（副部長）

日本内科学会認定内科専門医 日本呼吸器学会専門医

日本アレルギー学会専門医 日本呼吸器内視鏡学会指導医 ICD

深田 寛子（副部長）

日本内科学会総合内科専門医・指導医 日本呼吸器学会専門医

日本癌治療認定機構がん治療認定医、ICD

野溝 岳（副部長 R3.7-）

京都大学医学博士 日本内科学会認定医 日本呼吸器学会専門医

村山 恒峻（医員）

日本呼吸器学会専門医 日本内科学会総合内科専門医

山本 晴香（後期研修医）

<令和 4 年活動実績>

令和 2 年 3 月に出現した新型コロナウイルス Pandemic により、呼吸器内科病棟はコロナ専用病棟となり、当院は軽症、中等症病床として、第 4 波時で最大 26 床の運用を行ってきたが、その多くを呼吸器内科が担当してきた。この間令和 4 年 3 月までに計 485 人の患者を受け入れてきた（令和 3 年 4 月～令和 4 年 3 月 308 人）。また、院内のクリニカルパスを作成し、治療の統一化マニュアル化を図ることにより内科を中心とした他科の Dr や夜間休日の日当直、挿管チーム等の協力を得て、通常の呼吸器診療との両立を継続することが可能であった。また、外来においてはコロナ罹患後症状いわゆる後遺症が問題となっており、呼吸器症状を中心に対応してきた。

一方、Pandemic 期においては COPD, 喘息などの気道疾患を中心に従来の呼吸器疾患患者の減少が報告されており、ここ 2 - 3 年当院でもその影響がみられた。このことは当科の村山が筆頭著者となり感染症学会誌に論文報告している。

外来は月曜から金曜までで、気管支鏡検査は火曜日、金曜日の午後 2 時から行っており、C

Tガイド下生検も月曜日の午後3時から行っている。月に1回、火曜日に近隣の医師と合同で公開カンファレンスを実施している。

- ・呼吸器科における外来患者数（前年）

1日当たり平均 52.8 人／日（55.1） ×外来診察日：週5日日間

- ・呼吸器科入院病床数・患者数・平均在院日数（前年）

呼吸器科入院病床数（定数） 37 床

実際の入院患者数（平均） 34.1 人／日（35.7） COVID を除く

平均在院日数 12.4 日（13.2） COVID を除く

新入院 724（730） COVID を除く

- ・気管支鏡検査数 187 件（191）

呼吸器外科とともに呼吸器センターとして外科と内科の垣根をなくして診療にあたり、常に呼吸器内科全般の最新の治療を行えるように研鑽を積んでいる。慢性呼吸不全における在宅酸素療法は80例程度、在宅人工呼吸療法26例（NPPVを含む）睡眠時無呼吸症候群の夜間睡眠ポリグラフ検査（PSG）年間80例、鼻CPAP年間20例程度導入しており、気管支喘息クリニカルパス入院例、慢性呼吸不全患者に対する包括的呼吸トレーニングプログラム入院等を行っているが、一般診療においてはPandemicの影響を受け、例年よりも減少を認めた。

肺癌診療については、大阪府がん診療拠点病院として他科や他職種と連携しながら治療効果と生活の質（QOL）の両立にも取り組んでいる。近年、PD-1阻害薬、各種分子標的薬などの次々と新規薬剤が上市され、この分野の進歩は著しい。これらの薬剤を確実に安全に使用するため、副作用マネジメントを含めた院内クリニカルパスや薬剤師外来など他職種や他科とも連携して副作用対策にあたっている。また、今年度より保険診療となった遺伝子パネル検査についても、病理との緊密な連携により初診時の気管支鏡検査検体での施行が可能となっておりprecision medicineを実践している。また、標準治療終了時にも検体採取が可能であれば大阪国際がんセンター等のゲノム外来と連携し、パネル会議を経て、新たな治療に結び付いた症例も経験している。その他、気道閉塞を生じた手術不能の肺がんや食道がんに対して金属ステントの留置によりQOLの改善を図っている。また、高槻市の肺がん検診の読影会への参加や多施設共同臨床研究にも積極的に参加をしている。

肺がん治療において早期からの緩和ケアが必須のものとなっている。がん診療に携わる医師のため緩和ケアの教育プログラムは全国で実施され、当科スタッフも全員修得済みである。診断時よりがん相談センター、院内緩和ケアチームと連携し、疼痛管理を中心とした支持療法のみならず、全人的苦痛に対応すべく取り組んでいる。また、患者さんのご希望に応じて、緩和ケア病棟の利用は言うまでもなく、社会ケースワーカーや退院調整看護師、地域医療連携室、訪問看護ステーション等と、地域の診療所と連携した在宅管理も行っており、終末期への体制も整備されてきている。

その他の多彩な呼吸器内科疾患についても確立された Up to date な治療を心がけている。

気管支喘息患者には吸入ステロイドを中心とした治療を行い、入院の必要な例にはクリニカルパスを用いた教育指導を行い、自己管理を目指している。外来では当院独自の外来喘息教育プログラムを作成し、看護師による吸入指導とピークフローメータを用いた自己管理の指導を行い、更に吸入指導については近隣の薬局とも連携して行っている。また、H24年度よりはアレルギー性気道炎症の指標としての呼気NO測定や特殊な肺機能検査であるモストグラフを用いて症状だけに頼らず、客観的指標による喘息コントロール状態の評価に努めている。また、従来の吸入薬でコントロール不良の重症喘息にて対しては積極的にomalizumabや抗IL5抗体薬や抗IL4/13抗体薬などの分子標的薬を使用している。

外来初診で多い遷延性咳そうには診断のアルゴリズムを作成し、咳喘息の他、逆流性食道炎、百日咳などの早期発見に留意している。また、咳嗽、呼吸困難、胸痛などを呈するコロナ罹患後症状についても各科の協力を得ながら、積極的に対応している。また、新規の鎮咳薬P2X3受容体拮抗薬の使用例も増えている。

COPDを中心とした、慢性呼吸器疾患には肺機能検査やCTによる早期発見と禁煙外来との連携による、禁煙指導、気管支拡張薬を中心とした治療を行っている。進展期にはリハビリテーション科、栄養科、薬剤部等とのチーム医療による、包括的リハビリテーションプログラム入院を行い、さらに、地域の診療所との連携による継続を図っている。また、H26年4月より慢性疾患専門看護師によるHOT患者を中心とした看護外来、ほっとひといき外来を開始し、慢性呼吸器疾患患者に対する、より包括的できめ細かな対応が可能になった。

また、ハイフローネーザルセラピー（HFNC）の慢性II型呼吸不全を呈するCOPDに対する在宅長期使用の多施設共同RCT（FLOCOP試験）に当院も平成28年より参加し、この結果をもとに令和4年4月より在宅ハイフローセラピーが保険収載された。また、在宅ハイフローセラピーの使用症例も経験している。

睡眠時無呼吸症候群に対しては、個室使用によるPSG検査、簡易睡眠モニターを実施しCPAP治療、口腔内装具による治療を行い、耳鼻咽喉科、糖尿病、生活習慣病科、栄養科とも協力し、合併症、肥満に対する治療を行っている。また、循環器科と協力して心不全に伴う睡眠呼吸障害に対し、ASV（assisted-servo ventilation）による最新の呼吸管理を行っている。

そのほか、あらゆる呼吸器感染症について対応している。肺結核についてはモデル病床（3床）により、陰圧隔離をおこなっている（現在はコロナ対応のため閉鎖）。また、近年著増している非結核性抗酸菌症については従来の薬物治療のみならず、栄養や環境に留意した管理、適応のある症例については手術治療も併用している。また、昨年度保険収載されたALIS（吸入アミカシンリポゾーム製剤）についてもトレーニングパスを作成し4例のみであるが導入している。

また、間質性肺炎についてはHRCTや気管支鏡検査により、原因検索に努め、膠原病内科とも連携して診断治療にあたっている。肺線維症を中心とした慢性線維性肺臓炎についてはpirfenidoneやnintedanibなどの抗線維化薬を積極的に使用している。

急性呼吸不全、急性肺障害、慢性呼吸不全の急性増悪等に対しては、HCUにおいて集中的な呼吸管理を行っており、挿管人工呼吸管理においては肺保護を考慮した低換気量による人工呼吸管理やリクルートメント手技などを行っている。また、問題となっているVAP（人工呼

吸関連肺炎）対策として NPPV（non-invasive positive pressure ventilation）による呼吸管理のみならず、陰圧式の人工呼吸器を用いての管理などを試みている。また、最新の酸素療法である Nasal High Flow therapy もいち早く導入し、QOL に留意した酸素化の改善が可能となった。また、敗血症などにともなう急性肺障害や肺線維症などの間質性肺炎の急性増悪にたいしては、従来の薬物治療のみならず、血液濾過によるエンドトキシン吸着療法（PMX-DHP）や ECMO を行い、救命率の向上を目指している。

市中肺炎、院内肺炎については診療ガイドラインを踏まえながらも地域の病院として個々の症例に応じた診療と当院での薬剤感受性を考慮した適切な抗菌剤の使用に努めている。

また、当科は京都大学の学生臨床実習の協力科であり、年間数名の学生実習とその他希望により他大学からの実習を数名受け入れている。

当科は研修医にとっては非常に実践的な環境であると考えられる。豊富な症例に対応していただき、基本的な診療技術と基本的治療を経験してもらい、多彩な呼吸器疾患に対応しなくてはならない呼吸器内科医として成長できる環境を提供できると考えている。また、日本呼吸器学会、日本アレルギー学会、日本内科学会、日本呼吸器内視鏡学会の認定施設として総会、地方会での症例報告、研究発表等を行っている。大阪府内、北摂地域を中心とした多くの研究会や講演会での世話人、座長、講演などを務めている。

<令和 5 年度活動目標>

新型コロナ感染パンデミックが 5 類に変更された以降も感染流行は続いており、現在第 9 派といわれている状況であるが、後遺症を含めたコロナ関連への対応と、肺癌、喘息、非結核性抗酸菌症、間質性肺疾患、慢性呼吸不全など新たな診断治療に対してもしっかりと取り組んでいきたい。

小 児 科

<スタッフ>

河上 千尋	常勤・部長
江口 英希	常勤・副部長兼集中治療担当副部長
古川 福実	名誉院長・皮膚科
玉井 浩	非常勤・神経外来
尾崎 智康	非常勤・循環器外来
中村 道子	非常勤・アレルギー外来

<異 動>

令和4年12月31日：片山 博視医師 退職
令和5年1月1日：河上 千尋医師 着任
令和5年3月31日：中村 道子医師 退職

<令和4年活動実績>

こどもたちのからだところの健康を支援することをモットーに、開業医および他病院と連携しつつ、北摂三島地域の基幹病院として小児科全般の診療に当たっています。三島地区小児救急医療機関として、救急車の受入れと二次救急待機（毎水曜日）を行っています。

- ① 一般外来：月～金曜日午前
- ② 専門外来：予約制です。
 - 乳幼児健診 月曜日午後
 - 神経発達 第4月曜日午後
 - 予防接種 火曜日午後
 - アレルギー 水曜日午後
 - 循環器 第2・4水曜午後
 - アトピー 第2・4金曜午後

外来患者数：2,612人（1日平均10.7人）

入院患者数： 210人（新入院：53人、退院：52人） 平均在院日数：3.0日

救急患者数： 107人（時間内：24人、時間外：73人、深夜：13人）

<論 文>

河上千尋、新田雅彦、芦田 明 『こどもへのナッジー行動変容を促す環境のデザイン』

小児科 2023：64 金原出版

＜令和５年度活動目標＞

地域の中核病院として、

- ① 急性疾患：紹介と救急に応え入院患者数を増やす。
- ② 慢性疾患：全人医療の向上を目指し連携を図る。
- ③ 移行支援：就学就業支援や移行医療に取り組む。
- ④ 診療研究：経験をまとめ有益な情報を発信する。
- ⑤ 教育指導：学部学生・研修医の教育・指導を行う。

（河上千尋 記）

外科

消化器外科

<スタッフ>

平松 昌子（副院長） 大阪医科大学臨床教育教授・非常勤講師
日本外科学会専門医・指導医
日本消化器外科学会専門医・指導医
消化器がん外科治療認定医
日本臨床外科学会幹事・評議員
日本消化器内視鏡学会専門医
日本食道学会食道外科専門医・食道科認定医・評議員
日本がん治療認定医機構認定医・暫定教育医
日本腹部救急医学会評議員・暫定教育医他
小林稔弘（乳腺外科部長）
日本外科学会専門医
日本乳癌学会専門医
日本消化器病専門医
検診マンモグラフィ読影認定医

恒松 一郎（消化器外科部長）
日本外科学会専門医
日本消化器外科学会専門医
日本がん治療認定医機構認定医
ICD 制度認定者

サンフォード舞子（医 師）
川口佳奈子 （医 師）
園村 純 （医 師）
虫明 修 （医 師）（令和 4 年 9 月退任）
河合 俊哉 （医 師）（令和 4 年 10 月着任）

<令和 4 年度活動実績>

上部・下部消化管の悪性疾患に対してその大半を腹腔鏡下手術によって行い、胆石症や鼠径ヘルニア、虫垂炎などの良性疾患では単孔式腹腔鏡下手術を標準術式としています。食道癌に対しては、北摂地域では数少ない食道外科専門医による腹臥位による完全胸腔鏡・腹腔鏡下の食道切除再建術を行い、食道胃接合部の癌に対しても低侵襲かつ根治性の高い手術が可能となっています。cStage I の胃癌に対しては幽門側胃切除・噴門側胃切除・胃全摘を問わず、切除・郭清から再建までの完全腹腔鏡下手術を行い、高度進行胃癌に対しては積極的な拡大手術や術前補助療法を併用して、根治性の向上を目指しています。大腸癌に対して多くを腹腔鏡下手術で行うことで入院期間の短縮につながっています。ストマ外来では専門の医師と皮膚・排泄ケ

ア認定看護師がケアに当たっています。肝臓に対しても積極的に肝切除も行っており、胆石症では単孔式腹腔鏡手術によりほとんど傷のない治療が可能となっています。当院は単孔式手術や4K内視鏡のような最新の技術を取り入れることで患者さまに質の高い医療を提供しています。また、化学療法の分野においても、最新のエビデンスに基づいた治療を外来化学療法室と連携して提供しています。

また、当院は大阪府がん診療拠点病院であり、治療法の決定に際してはガイドラインに沿った標準的治療法を提示することはもちろんのこと、個々の患者さまの背景やニーズに配慮したオーダーメイドの治療も提供しています。できるだけ外来通院で化学療法が行えるように専門看護師や薬剤師を配置した外来化学療法室を完備しています。我々は、かかりつけ医と連携をとりながら、がん診療の検査・診断から、手術や化学療法、終末期医療まで、様々な専門的な職種がチームとなって、ひとりひとりの心に寄り添った治療を行っています。

(主な手術件数)

食道切除再建術	1件（うち鏡視下手術 1件）
胃切除	18件（うち鏡視下手術 10件）
胃全摘	3件（うち鏡視下手術 1件）
結腸切除	41件（うち鏡視下手術 31件）
直腸切除	21件（うち鏡視下手術 16件）
肝切除	7件（うち鏡視下手術 0件）
膵切除	8件（うち鏡視下手術 0件）
胆のう摘出術	67件（うち鏡視下手術 60件）
虫垂切除	30件（うち鏡視下手術 26件）
鼠径ヘルニア	74件（うち鏡視下手術 58件）

<令和5年度活動目標>

それぞれの患者さまのニーズや病態を理解しながら、これまで導入してきた新しい手技や最新の知見をもって質の高い外科治療を提供していきます。また、他科や他職種を含めた勉強会やカンファレンスを通してチーム全体のスキルアップを図っていきます。学会や研究会活動も積極的に行い、当院からも新たな情報発信を目指します。

乳腺外科

<スタッフ>

小林 稔弘（部長）：乳腺外科

川口佳奈子：乳腺外科

<令和4年度活動実績>

乳房に関する良性（腫瘍、乳腺炎、女性化乳房症など）から悪性（癌、肉腫）の疾患に対して診断、治療を行っている。

川口佳奈子医師とともに乳腺専門医2名体制で診療を行ってきた。日常診療をより強化することができ、コロナ禍においても例年以上の乳腺手術件数をこなすとともに転移再発患者の受け入れもスムーズに行えた。

乳腺疾患に対応する検査手段としてMMG、US、CT、MRIなどの画像診断装置を完備している。特にMMGは検診で問題になる高濃度乳腺にも有効なトモシンセシス付きの最新鋭の機材の運用も手馴れてきたことにより、通常画像に加え、デジタル断層像が撮影でき不明瞭な病変の発見はもちろん、不要な追加検査を減らすことにも役立っている。

さらに検診発見の多い微小石灰化にも、MMGに付属するステレオガイド装置を使用した吸引式針生検で精密かつ時間短縮もなし得ている。

乳腺手術は57例を行い、乳癌症例の6割に温存手術を選択し、乳房切除術を選択する場合も形成外科と乳房再建術を行っている。良性疾患は観察可能な症例に無用な手術は行わないようにする一方、血性乳汁分泌に対する乳管腺葉区域切除の様な特殊手術も手掛け、研究会でビデオ発表等も行っている。

薬物治療も、化学療法、ホルモン療法、分子標的療法、免疫チェックポイント阻害剤などの本邦で適応のある薬剤は全て導入している。さらに遺伝子医療の進歩も取り入れ積極的に検査を行い、適応例に投薬している。

当院は外来化学療法室を有し、化学療法専門看護師、専門薬剤師とのチームで患者を支えるよう努力し、特に乳腺外科は新しい試みの先行ケースとして色々な取り組みを行い、各科へのモデルケースになるべく活動している。今年度は薬剤師外来の仕事を拡充し、点滴治療のみならず、内服抗がん剤における指導、チェックなどの業務をさらに拡大し診療にフィードバックしている。

温存手術後や再発時に欠かせない放射線治療も完備し、放射線治療専門医や専任放射線技師、看護師とも連携して行うことを可能としている。

病理医の協力で、術中迅速病理検査でリンパ節転移の有無、断端診断を素早く行える体制を整えるとともに、希少例の発見などもあり、高次医療機関にコンサルテーションを得たりして、治療に役立てるとともに学会発表、論文作成など当科の活動が外部に伝わるように努めている。

さらに緩和科医師、看護師、心理士とも連携し、癌告知の日からでも、がん相談、心理的サポートが受けられる体制を構築し運用している。また大病院では取りこぼされがちな、進行再発乳癌で厳しい状況に置かれ、癌難民化しかけている病状の方も受け入れている。

地域との連携も初診受け入れはもちろん、術後フォローも乳癌の場合、補助療法、観察が長

期に及ぶ事情から、地域かかりつけ医にお願いしての病診連携にも取り組んでいる。

<令和5年度活動目標>

地域がん拠点病院にふさわしい診断、治療体制を維持する。川口佳奈子医師が退任したが、令和5年度は太田紅仁香医師が赴任し、新進気鋭かつ人当たりのよい接遇も身につけた医師であり活躍を期待している。

前年度末に乳がん診断にとって必須のMRI装置が最新のものに更新されたことにより、MMG, CT, MRIの機器がすべて最新鋭のものになり、より緻密な診断を行えるようになり、これらを十分に活用していきたい。

がん医療の進歩は目覚ましく変換点を迎えている。特に遺伝子医療分野は発展が目覚ましく、がん医療のゲームチェンジャーになりつつある。ゲノム関連の進歩は注目に値し、治療体系は従来の臨床病理学的手法を過去のものとし、研究室レベルから実地医療の現場に活用されつつある。当院においても遺伝子、免疫関連に対応できる体制を各科横断的に整え活用しているが、さらなる拡充を図っていきたい。

臨床治療をより強化していくのに加えて、学会活動、論文発表や地域と連携した公開講座の主催なども行い、当院の活動を内外に告知するべく努力したい。

最新医療を積極的に導入しながらも、赤十字精神に基づき、誰もが取りこぼされない医療を提供することにより、登録医になっていただいている先生方にも安心して当院に紹介をいただき、患者さんに喜ばれ安心してもらえるような診療科として信頼を得られるように努力していく。

脳 神 経 外 科

<スタッフ>

平松 昌子（副院長兼脳神経外科部長）

青山 育弘（非常勤医師）（令和 4 年 9 月 30 日退任）

池田 直廉（非常勤医師）

<令和 4 年度活動実績>

週 1 回（月曜日）（令和 4 年 9 月 30 日までは週 2 回（月・金））：一般外来診療、救急患者受け入れ、入院患者のコンサルトなどを行った。

外来患者延べ数 732 人 / 年

整 形 外 科

＜スタッフ＞ ＊：日本整形外科専門医、 ＋：日本脊椎脊髄病学会認定指導医

＃：日本リウマチ学会専門医

徳山 文人 ＊＋ （部 長）：脊椎外科、外傷および整形外科一般

日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医

伊丹 康夫 ＊ （副部長）：肩・肘関節外科、外傷および整形外科一般

高島 雅俊 （医 師）：整形外科一般

永田 大貴 （医 師）：整形外科一般

岸本 郁男 ＊＃ （非常勤医師）：大阪医科大学非常勤講師、股・膝関節外科、関節リウマチ

市場 厚志 （非常勤医師）

山本 茉奈 （非常勤医師）

＜異 動＞

高島 雅俊 令和４年４月着任、令和４年１２月退任

永田 大貴 令和４年４月着任、令和５年３月退任

山本 茉奈 令和４年４月着任、令和５年３月退任

＜専門外来＞

脊椎外来、肩・肘関節外来、股・膝関節外来、リウマチ外来、エコー外来、

＜令和４年度活動実績＞

４年度入院患者延べ数 10,910 人（１日平均 29.9 人）

４年度外来患者延べ数 13,166 人（１日平均 54.2 人）

令和４年度の手術手技件数 計 661 件

当科は三島地区の地域基幹病院としての役割の一翼を担っており、救急外傷などに対する急性期治療、つまりは骨折を中心とする外傷疾患や一般整形外科疾患を多く扱っており、救急搬送要請には 24 時間対応している。スタッフは各症例に応じて高いレベルで非常にきめ細やかな診療を行っている。

Subspecialty としては当科数十年の歴史と伝統を持つ股・膝関節疾患に対する治療を継続しており、また脊椎脊髄病疾患、肩・肘関節を中心とする上肢の変性疾患やスポーツ外傷に対する治療など、専門性に富んだ医療を幅広い領域で行っている。各分野において経験豊富なエキスパートが揃っており、地域基幹病院として開業医の先生方からも多くのご紹介をいただいている。

脊椎脊髄病疾患に対しては、頸・胸・腰椎の各疾患による主に神経圧迫病変による疼痛や運動機能障害などを改善させる治療を行っており良好な成績をあげている。腰椎椎間板ヘルニアに対しては小侵襲手術である内視鏡下椎間板ヘルニア摘出術（MED）を行っており、2cm 弱の小切開で数

日～1週間程度の短期間での退院を可能にしており、腰部脊柱管狭窄症に対しても同様に内視鏡下椎弓切除術（MEL）を行っている。脊柱変形や不安定性の強い脊椎変性疾患に対する脊椎固定術も安定した成績を出しており、脊椎悪性腫瘍手術も手掛けている。しかしながら当科ではこれらの疾患に対しては保存治療を第一としており、MRI や造影検査、動態撮影などの検査にて評価を行い、その結果や症状により、また患者のニーズに応じて各種薬物治療、硬膜外ブロック、神経根ブロックなどを行っている。前述の様々な手術療方はこれらの治療が奏功しない場合に行うものであり、患者立脚型の治療を行うということで高い満足度を得ている。

肩関節、肘関節を中心とする上肢疾患については、アメリカ留学での研究で上肢の解剖やバイオメカニクスを熟知した伊丹副部長が担当をしている。こちらも投薬やブロック療法、リハビリ治療などでの保存治療を第一としているが、それらが奏功しない場合には、腱板断裂に対しては関節鏡視下腱板修復術を行い、断裂のシビアな症例に対しては筋膜移植による関節鏡視下上方関節包再建術やリバース型人工関節置換術も行っている。スポーツ外傷などによる反復性肩関節脱臼に対しては関節鏡視下関節唇修復術を行い、肩関節拘縮に対しては関節鏡視下関節受動術を行っている。さらに肘関節疾患に対しても上腕骨外上顆炎に対する関節鏡視下滑膜切除術を、肘関節拘縮に対して関節鏡視下関節受動術も行っている。いずれも小侵襲手術による高度な技術により良好な手術治療成績を収めている。

人工関節外科の手術において膝ではより高いQOLをめざした人工関節の導入、股関節では低侵襲人工股関節置換術（MIS-THA）を適応症例に施行し、筋肉や腱の切離が少ないこと、あるいは全く行わないことで患者の術後の疼痛コントロールや運動回復が早くなり、また術後リハビリ期間の短縮により早期の社会復帰や退院を可能にしている。

膝靭帯、半月板損傷などのスポーツ整形外科治療では、靭帯の解剖学的再建を行い、トップアスリートの膝損傷のスポーツ復帰を可能にしている。

骨粗鬆症に対しては骨塩定量や採血検査を行い、その結果により各種薬物療法を行い骨折が生じないための予防治療を積極的に行っている。また度重なる脊椎圧迫骨折などをはじめとする重症骨粗鬆症に対しては強力な薬物治療であるPTH製剤やデノスマブの投与を行うなど、骨粗鬆症治療にも力を入れている。

三島地区は超高齢者の人口比率が高く、救急患者の多くを占める大腿骨近位部骨折の患者に対しては他科との密な院内連携を図り、術後はチーム医療によりクリニカルパスの導入を行っている。

当科は急性期病院として新患者や救急患者、開業医の先生方からの紹介患者を積極的に受け入れている。諸先生方のご協力のもと地域連携を強化して手術対象になる患者紹介を増やし、また先生方への逆紹介にも力を注いでおり、地域に密着し、より地域の役に立つ病院であるための努力を行っている。

形 成 外 科

<スタッフ・専門分野>

櫛田 哲史（副部長）：日本形成外科学会領域指導医、日本形成外科専門医、臨床研修指導医、
日本創傷外科学会専門医、再建・マイクロサージャリー分野指導医
日本形成外科学会小児形成外科分野指導医、レーザー分野指導医

國枝 桜子（非常勤）：日本形成外科学会専門医

田辺 敦子（非常勤）：日本形成外科学会領域指導医、日本形成外科専門医、臨床研修指導医
日本形成外科学会皮膚腫瘍外科分野指導医、
日本形成外科学会小児形成外科分野指導医、
日本美容外科専門医、日本抗加齢医学会専門医、日本認定産業医

<令和4年度活動実績>

令和4年度 形成外科新患数	362 名
令和4年度 手術件数	551 件（手術室使用件数 370 件）

<令和5年度活動目標>

当院形成外科は、日本形成外科学会認定施設であり、近隣施設から多数の患者様のご紹介を頂いています。

手術治療としては皮膚・皮下腫瘍摘出術、悪性腫瘍の切除とその後の再建をはじめとして、眼瞼下垂症、顔面外傷・顔面骨骨折、傷跡の修正等を中心に多く行っていますが、シミのレーザー治療などの自費診療も行っています。今年度も地域医療に重点を置いた質の高い形成外科診療を行うよう努めます。

皮膚科

<スタッフ>

皮膚科部長：玉田 尚（院長兼務） 令和4年4月から

皮膚・形成外科センター長：古川福実（現名誉院長・顧問・マスター） 令和4年4月から

皮膚科副部長：島本純子（大阪医科薬科大学皮膚科より） 令和4年4月から

皮膚科医師：園村真美（大阪医科薬科大学皮膚科より）

皮膚科アドバイザー：山本有紀（和歌山県立医科大病院教授）

皮膚科アドバイザー：立花隆夫（星ヶ丘医療センター皮膚科部長）

<令和4年度活動実績>

令和4年度入院患者延べ数： 597 人

令和4年度外来患者延べ数： 9540 人

- ・令和4年度の当院皮膚科は、皮膚・形成外科センター長 古川福実名誉院長、皮膚科副部長 島本純子、同医師 園村真美の3人体制で外来診療、入院治療を行いました。
- ・美容皮膚科のアドバイザーとして山本有紀先生、アレルギー診療のアドバイザーとして立花隆夫先生に協力をいただいております。
- ・月曜日から金曜日はそれぞれ2診体制で外来診療を行っており、1日あたり平均40～50人程度の外来患者を診察しております。一般外来では、近隣の医院からのご紹介も多く、皮膚生検やアレルギー検査も適宜行っております。水曜日には古川福実センター長による外来を行っており、一般外来で難渋している症例や難治な症例の相談や、県外を含めた他院での難渋している症例のご紹介も数多くあり、様々な症例を学ぶ機会が整っています。
- ・古川福実センター長は偶数週の午後に小児科外来でアトピー性皮膚炎外来を小児科医師と合同で行っております。
- ・形成外科との連携も密にとっており、切除が必要な腫瘍性病変や、皮膚科では難しい外科的処置などは形成外科への紹介を行っています。また形成外科に通院中の患者の皮膚症状や外用治療について相談いただくこともあり、両科の得意分野を治療に生かすように連携しています。2021年から皮膚・形成外科センターを設立いたしました。
- ・近隣の基幹施設である大阪医科薬科大学とも連携しており、化学療法が必要な皮膚腫瘍や光線過敏症（疑い含め）等の紹介を行っています。
- ・京都大学や近畿大学皮膚科との連携も行っております。
- ・褥瘡回診・褥瘡外来を毎週月曜日に行っており、入院中の褥瘡患者の回診、外来通院中の褥瘡患者の処置を、皮膚科医、形成外科医、緩和ケア医、皮膚・排泄ケア認定看護師、栄養士で行い、症例それぞれに合った治療、予防、ケアができるように努めています。
- ・フットケア外来との連携も密にとっており、皮膚科外来通院中でフットケアが必要と考えられる患者の紹介を行っています。また、フットケア外来通院中の患者で投薬治療が必要となった場合は皮膚科へ紹介をいただいたりしております。

- ・乾癬に対して、外用剤での治療、オテズラ内服や紫外線（エキシマ）治療に加え、生物学的製剤治療の認証施設となっています。乾癬性関節炎、膿疱性乾癬、難治の尋常性乾癬の症例に対して適切な抗体製剤を使用しています。また乾癬性関節炎についてはリウマチ膠原病内科とも連携して診察しています。
- ・アトピー性皮膚炎に対しては、基本的な外用治療で難治な症例にはデュピクセントやJAK 阻害薬などの導入を積極的に行っています。また毎週金曜日には小児科で小児アトピー性皮膚炎外来を共観で行っております。
- ・日本アレルギー学会の専門医教育研修施設の認定施設です。
- ・大阪府アレルギー疾患医療連携協力病院の指定を受けています。呼吸器内科、小児科と合同で定期的に勉強会を行っております。
- ・自費治療も行っており、美容診察として老人性色素斑や雀卵斑などに対する IPL 治療、老人性色素斑や後天性真皮メラノサイトーシスに対する Q スイッチレーザー治療（現在は形成外科で施行）、フェイシャル フォトセラピー（光治療）・脱毛などを、肌画像カウンセリングシステム「re-Beau2」も使用し、治療前後の経過を比較しながら診察・治療しております。また男性型脱毛に対する内服治療（フェナスチリド、デュタステリド）、巻き爪に対するワイヤー矯正治療（マチワイヤー、巻き爪マイスター）、帯状疱疹ワクチンの接種なども行っています。
- ・令和 4 年 4 月から皮膚科・形成外科で生検や切除をした病理組織について、両科合同で病理組織カンファレンスを行っております。毎週火曜日夕方に、古川名誉院長と病理部医師の指導のもと、病理組織の診断や、今後の治療方針について積極的に討論しています。
- ・皮膚ループスを対象とした臨床試験が、令和 5 年の秋より開始予定です。
- ・令和 5 年 4 月より園村真美医師から西田美央医師に交代となり、新メンバー体制となります。

<受 賞>

1) 古川福実：令和 4 年度 Master of Dermatology (Maruho) , ループスエリテマトーデスの皮膚病変に対する発症機序の解明と治療方法の確立に関する一連の研究、第 121 回日本皮膚科学会総会、京都、令和 4 年 6 月 2 日

2) 古川福実：令和 4 年度安田・阪本記念賞（第 36 回）（リディアオリリー記念ピアス皮膚科学振興財団）、東京、令和 4 年 11 月 19 日、

以下財団 HP https://www.pias-derm.or.jp/medal/recipient_r4.html から抜粋

受賞理由：膠原病、特にエリテマトーデスのモデルマウスを用いての基礎と臨床を繋ぐ多数の優れた研究業績を残されると同時に、ヒドロキシクロロキンの臨床開発をおこないエリテマトーデスの治療に多大な貢献をされました。また、皮膚科学の観点で美容皮膚の基礎的、臨床的研究をおこない日本の美容皮膚科学の確立に貢献されました。

<科学研究費受領>

令和 4 年度科研費基盤 C 損傷組織における時計遺伝子発現変化に基づく受傷後経過時間推定法の開発（研究代表 古川福実） 令和 4 年度から 6 年度



皮膚科・美容皮膚科スタッフ（左より 島本、古川、園村）



病理カンファレンス風景

泌 尿 器 科

<スタッフ>

部 長 六車 光英

医 師 清田 翔（令和 4 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日）

<異 動>

平成 31 年 4 月 1 日から勤務していた高安健太医師が令和 4 年 3 月 31 日で退職し、令和 4 年 4 月 1 日から清田翔医師が着任した。

<令和 4 年度活動実績>

令和 4 年度の最大の活動目標は DPC 入院期間Ⅱ以内での退院率を 70%以上にする事であったが、前立腺生検パスの改訂等によってこれを達成する事が出来た。

令和 4 年度の入院総患者数は 2,218 人、新入院患者数は 280 人と前年度に比べ減少傾向で、外来延患者数も 6,981 人、1 日平均外来患者数も 28.7 人と前年度に比べ減少傾向であった。

令和 4 年度の手術件数は 190 件で前年度より増加傾向で、その内訳は下記のとおりであった。なお体外衝撃波結石破碎装置は老朽化によりメンテナンス契約を結べなくなり、新規に導入する骨密度測定装置の設置場所も無い事により令和 5 年 3 月 31 日でその稼働を終了した。

副腎	腹腔鏡下副腎摘除術	1
	経皮的副腎腫瘍生検術	1
腎・尿管	腹腔鏡下腎摘除術	4
	腹腔鏡下腎尿管全摘除術	5
	体外衝撃波結石破碎術（ESWL）	24
	経皮的尿路結石除去術（PNL）	6
	経尿道的尿路結石除去術（TUL）	54
	経皮的腎瘻造設術	3
	経皮的腎瘻拡張術	5
	経皮的腎腫瘍生検術	2
	尿管鏡	7
	経尿道的尿管腫瘍摘出術	2
	尿管ステント留置術	9（手術室施行分のみ、内 1 例金属ステント）
膀胱	膀胱全摘除術・回腸導管造設術	1
	経尿道的膀胱腫瘍切除術（TURBT）	48
	膀胱ランダム生検	4
	経尿道的膀胱結石摘出術	12
	経尿道的膀胱内凝血除去術	2
尿道・陰茎	尿道狭窄内視鏡手術	4

	包皮環状切除術	1
	外尿道腫瘍切除術	1
前立腺	前立腺全摘除術	1
	経尿道的前立腺核出術（TUEB）	8
	前立腺生検術	49
陰嚢	高位精巣摘出術	1
	精巣摘出術	1
	精巣上体摘出術	1
	陰嚢水腫根治術	2
	陰嚢内腫瘍摘出術	1
その他	内シャント造設術	10

<令和5年度活動目標>

令和5年度は急性期病院の維持に貢献できるよう引き続きDPC入院期間Ⅱ以内での退院率を70%以上とし、手術件数を増やして新入院患者数が増加するよう努力したい。

産 婦 人 科

<スタッフ>

中村 路彦（部 長）

藤原 聡枝（非常勤）

松岡 理沙（非常勤）

寺田 信一（非常勤）

<異 動>

なし

<特 色>

婦人科の全般にわたり、総合的に診療を行っている。

子宮筋腫・卵巣腫瘍等の良性疾患から子宮癌・卵巣癌等の悪性疾患、更年期障害に渡るまで幅広く診療を行っている。手術において良性疾患の場合は術式を患者と相談しながら決定している。希望があれば腹腔鏡での手術も行っている。また子宮鏡検査は外来で行っており日帰りでの処置を可能にしている。

また終末期医療においては当院の緩和医療チームと共同での管理を施行し、一人一人の患者の要望に応じながらの診療を心がけている。

眼 科

<スタッフ>

藤田今日子（副部長）
奥村 峻大（医 師）
寺本 朋美（医 師）
植木 麻理（非常勤医師）
佐藤 孝樹（非常勤医師）
藤田 恭史（非常勤医師）

<異 動>

奥村 峻大（医 師）：令和 4 年 4 月着任
藤田今日子（副部長）：令和 4 年 7 月退任
藤田今日子（非常勤）：令和 4 年 8 月着任、同年 12 月退任
寺本 朋美（医 師）：令和 5 年 3 月退任

<特 色>

眼科疾患全般の治療に対応しており、白内障や網膜硝子体疾患、眼形成、涙道疾患に対する手術治療に力を入れている。白内障手術に関しては、日帰りから入院まで患者様のニーズに幅広く対応し、乱視矯正眼内レンズや保険適応のある多焦点眼内レンズを用いた白内障手術も行っている。硝子体手術については最新の手術機器を用いた小切開硝子体手術を行っている。眼形成分野では、眼瞼下垂の手術や涙道内視鏡を用いた治療も積極的に行っている。網膜硝子体疾患では、加齢黄斑変性や網膜静脈閉塞症、糖尿病黄斑浮腫などに対する抗 VEGF 薬硝子体注射も行っている。

<専門外来>

緑内障外来、網膜外来、眼形成外来、ロービジョン外来

<令和 4 年度活動実績>

手術統計（手術室）631 件

<令和 5 年度の活動目標>

病診連携をうまく活用し、紹介患者数の増加と手術件数の増加を目標とする。

耳鼻咽喉科

<スタッフ>

玉田 尚（病院長兼部長）

田浦 晶子（藍野大学教授）：めまい

<異 動>

なし

<特 色>

北摂地区の中核病院の一つとして、紹介患者を受け入れている。しかし、ベッドタウンが近くにあるため、直接当院を受診する軽症の患者も多く、一次診療、二次診療を併せ持った性格をもっている。

<診療実績>

外来は月、水、金。京都大学の応援を得ている体制である。第一から第三水曜は田浦晶子藍野大学教授がめまい外来をしている。金曜午後には補聴器外来を設け、相談にのっている。他科入院中の院内紹介の患者も多い。血液・腫瘍内科からの院内紹介により、悪性リンパ腫のリンパ節生検の依頼が多いことが特徴です。

<令和5年度の活動目標>

今年度は外来、入院とも減少しました。これを少しでも回復させることが目標です。

放射線科部 及び 核医学科部

<スタッフ>

◆医 師

後藤 公男（部長）：画像診断
山室 正樹（部長）：核医学診断 + 画像診断
的場 直樹（副部長）：画像診断
今井 雅夫（非常勤）：画像診断
松尾 幸憲（非常勤）：放射線治療
宇藤 恵（非常勤）：放射線治療

◆診療放射線技師

松原 健夫（課長）
大嶋 浩嗣（MRI 係長）
中村 義隆（放射線係長）
関本 淑徳（CT 係長）
涌田 哲成（放射線治療係長）
西村 大樹（核医学係長）
林 恵理子・松山 佳央・渡邊 良彦・石嵯 伸也・松下 あゆみ
在津 幸香里・柳田 泰祐・原 祥太郎・木戸口 堯史・村上 慎哉
中村 仁美

◆事務員

植松 恵美子

<施設認定、資格>

◆マンモグラフィ検診施設画像認定

◆検診マンモグラフィ撮影技術認定

林 恵理子 ・ 松下 あゆみ ・ 在津 幸香里 ・ 中村 仁美

◆第 1 種放射線取扱主任者

西村 大樹

◆肺がん CT 検診認定技師

関本 淑徳

◆X 線 CT 認定技師

関本 淑徳 ・ 松山 佳央

◆放射線管理士、放射線機器管理士、医療画像情報精度管理士、 放射線治療品質管理士、臨床実習指導教員

渡邊 良彦

◆放射線治療専門放射線技師

涌田 哲成 ・ 渡邊 良彦 ・ 石嵯 伸也

◆放射線治療品質管理士

涌田 哲成 ・ 石嵯 伸也

◆救急撮影認定技師

松山 佳央 ・ 原 祥太郎

<令和 4 年度活動実績>

◆研究発表、研修会開催実績

【院内】

※医療安全研修

(被ばくの最適化・正当性・MRI の安全管理)

後藤 公男 ・ 松山 佳央 ・ 松原 健夫

※医療安全研修

(CIEDs における CT・MRI 検査時マニュアルについて)

松原 健夫 (循環器内科・臨床工学課・医療安全推進室)

※未読システム運用 報告書管理について

松原 健夫

※骨密度装置説明会

松原 健夫 ・ 装置メーカー

【課内】

※ TGCV に対する心筋脂肪酸代謝 BMIPP シンチの活用

西村 大樹

◆研修会・講習会・学会等への参加

※ 22 名／21 会 Web 開催及び対面開催 (診療放射線技師のみ)

◆その他活動

※地域連携推進活動 (周辺医療施設訪問)

※職業被ばく管理強化

※タスクシシェア推進

※学生実習生の受け入れ

◆機器整備更新

※ MRI 装置

◆放射線科部 + 核医学科部 検査件数

	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
一般撮影	27,536	29,526	29,002
ポータブル	8,284	8,468	8,212
造影検査	665	742	912
マンモ	1,046	1,032	1,023
CT	10,802	10,577	10,461
MRI	3,823	4045	3,548
RI	840	753	731

血管造影	480	362	335
放射線治療	143	131	99
骨密度	430	495	533

◆放射線科部＋核医学科部 紹介検査件数

	平成 30 年	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
CT	306	332	353	401	415
MRI	529	723	833	877	760
RI	170	163	219	123	184

<令和 5 年度活動目標、計画>

◆放射線科部＋核医学科部

- ※放射線業務従事者への教育訓練開催（RI 法）
- ※ MRI 安全管理講習開催
- ※医療被ばく正当性、最適化講習開催
- ※報告書管理体制強化
- ※職業被ばく管理強化（電離放射線障害防止規則）
水晶体への職業被ばく防護強化
- ※放射線治療件数増加活動
- ※ MRI 装置更新による学会発表
- ※アンギオ装置更新に向けて勉強会開催
- ※骨密度装置更新における検査推進活動
- ※診療放射線技師法改正における告示研修 全員受講

リハビリテーション科

<スタッフ>

医 師：玉田 尚 部長
馬止 裕 常勤
服部 智 非常勤

理学療法士：野村 省二（リハビリテーション課長）

新地 史章（第一理学療法係長）

倉繁 浩一（第二理学療法係長）

吉田 綾梨 育児時短令和2年10月23日～令和5年2月10日

産休育休令和5年2月12日～令和6年4月5日

菊池優理子 産休育休令和3年7月5日～令和4年11月13日

育児時短令和4年11月14日～令和5年3月2日

産休育休令和5年3月3日～令和6年4月21日

他7名（欠員1名）

作業療法士：八木 紀子（作業療法係長）令和4年5月16日～令和5年3月31日休職後退職

山崎 孝子

石塚 威

大下 綾華

言語聴覚士：椎葉 佳子

大路 かほる

<特 色>

当科は、平成5年9月にリハビリテーション（以後リハと略す）総合承認施設（理学療法Ⅰ・作業療法Ⅰ）を、平成14年8月に言語聴覚療法Ⅱの認可を受け、包括的なリハ活動を展開してきた。平成28年4月の診療報酬改定に対応して、全ての施設基準（運動器Ⅰ・脳血管疾患等Ⅰ・廃用症候群Ⅰ・呼吸器Ⅰ・心大血管疾患Ⅰ・がんのリハ）の認可を受けた。急性期病院としてのリハ機能を遂行するために、リハ対象疾患患者に対して早期に介入し、早期退院を図っている。さらに終末期における緩和ケア病棟で緩和医療にも力を注いでいる。

理学療法部門において、運動器リハでは人工関節置換術・関節損傷・脊椎外科・大腿骨頸部骨折（地域連携パス使用）等の整形外科疾患、脳血管疾患等リハの件数は少ないが脳血管疾患・パーキンソン病等の中枢神経系疾患、廃用症候群では外科術後の方や多種多様な運動器廃用の方を対象に早期の日常生活動作の自立とQOLの向上を目差したアプローチを進めている。

呼吸器リハでは、昭和47年に着手した呼吸理学療法を発展させ、今日では呼吸器外科は勿論、一般外科患者に対しHCUから理学療法を行っている。慢性呼吸不全患者に対しても、包括的呼吸リハプロジェクトを組み患者の早期社会復帰への働きかけを行っている。

平成26年7月に施設基準を取得した心大血管疾患リハでは、心不全・狭心症・心筋梗塞等の入院患者を中心に多職種による包括的アプローチ実施している。可能な範囲で外来も開始している。

がんのリハビリについては、施設基準取得以前からリハ介入しており、がんの診療資格を所有しているスタッフが緩和ケアまで一貫した多職種での取り組みを図っている。

作業療法部門では、理学療法部門と同様に多様な患者様を対象に、入院中より家庭復帰、職場復帰を想定したアプローチを行っている。手の外科手術後のハンドセラピーには積極的に取り組んでおり、装具も開発している。

言語聴覚療法部門では、NST 専門療法士として NST 委員会メンバーに加わり摂食嚥下障害（栄養障害含む）の治療やケアに効果を上げている。がん患者においても平成 29 年 1 月より算定資格を得て緩和まで介入している。それ以外に失語症・構音障害・言語発達遅延へのアプローチも実施可能である。

また、平成 29 年 11 月より認知症ケア専門士として認知症ケアサポートチームの活動に加わっている。

<診療実績>

理学療法患者延件数：39,094 件（前年度 -2,129）

	外 来	入 院
運動器	3,426	6,733
脳血管疾患	23	494
廃用症候群	0	5,270
呼吸器	0	6,080
心大血管	12	3,205
が ん		5,884
その他	211	6,756
小 計	3,672：前年度 +506	34,422：前年度 -2,635

作業療法患者延件数：10,178 件（前年度 -2,500）

	外 来	入 院
運動器	1,167	747
脳血管疾患	14	355
廃用症候群	0	1,231
呼吸器	0	2,795
心大血管	4	206
が ん		1,129
その他	90	2,440
小 計	1,275：前年度 -391	8,903：前年度 -2,109

言語聴覚療法患者延件数：4,968 件（前年度 +226）

	外 来	入 院
脳血管疾患	0	181
廃用症候群	0	1,105
呼吸器	0	1,827

が ん		281
集団コミュニケーション療法	0	0
その他	0	1,574
小 計	0：前年度 0	4,968：前年度 +226

<令和 4 年度の活動実績・成果>

当科の最重要目標である『全てのリハビリ対象者を選出し、リハビリ専門職 1 人あたりの月平均延件数及び延単位数を増加させる。』を達成させるためには、適切な人員配置を施した上で、リハビリ専門職一人一人の就業時間内で最大限に患者の治療時間を確保していくことが必要である。

本年度も対象者数がコロナ禍前に戻らず、入院患者の延件数は理学療法及び作業療法で大きく減少した。また、理学療法士 3 名及び作業療法士 1 名の欠員を生じたが欠員補充のないままりハビリテーション業務の質・量を共に落とさないために、以下の通り行動目標と実践内容を遂行した。

- I. リハビリ対象患者数の確保：①病棟カンファレンス・回診での DPC を考慮した退院支援・HCU からの離床リハ対象患者の選出と早期離床②リハ実施率（病棟別・診療科別）の検討及び対象患者の選別と治療回数の調整③広報：日赤の森への投稿（腰痛予防）および地域医療連携だよりへの投稿（心臓リハ紹介・リハ科紹介）④クリニカルパスへのリハ介入による患者数確保⑤心リハへの作業療法士介入増加。⑥新型コロナウイルス感染者への介入制限の緩和は翌年 5 月に延期され、作業療法士・言語聴覚士は未介入となる。
- II. リハビリ専門職 1 人あたりの算定件数増加：①業務効率の向上（担当患者数の均一化）②連休時対応の対象患者数確保③リハ専門職休暇時における代行患者数及び単位数確保④退院時リハビリテーション指導料の算定漏れ抑制のための退院時確認体制を実施⑤手の評価セミナー・SW-test 講習会受講（精密知覚機能テスト算定資格 1 名追加）
- III. 時間外勤務時間の抑制：①外来患者の治療頻度と終了基準の見直し②コロナ対応で施行される病棟編成に対応する業務体制（理学療法士 1 名専任・多忙期理学療法士 1 名追加）の確立③リハ管理システム及び電子カルテによるコストパフォーマンスの是正（リハビリ書類作成・事務員の専門性向上も含む）を図っているが書類の不備をチェックすること強化する。
- IV. 材料費の最大限の削減：医療消耗器具備品費などの節約を施してきたが、支援金にて老朽した機器の購入、外来心臓リハビリテーション機器を新規購入することになったため、医療機器に関する配賦予算は返上となる。
- V. 教育研修及び医療の質向上：①専門職の資格獲得援助は関連学会の延期で不可②感染対策を講じて、臨床実習生（PT2 名）を受け入れた。しかし、理学療法士の生涯学習（卒後教育）として高槻市理学療法士会呼吸勉強会を開催延期となった。③学会発表援助は該当者なし。④勤務評定トライアル実施し自己啓発促進。
- VI. その他：①令和 4 年度診療報酬改定の対応として、計画書の取り扱いを見直す②令和 6 年度病院機能評価受審の準備継続（マニュアル改訂）③作業療法室の設備機器整理実施済み④

救護員の育成及び救護訓練へ理学療法士 1 名派遣。⑤外来心臓リハビリテーションの開設に向けたワーキンググループの立ち上げ。

<令和 5 年度の活動目標>

当科の最重要目標である『外来心臓リハビリテーションの開設・運営基盤の強化』を達成させるためには、適切な多職種の人員配置を施した上で、リハビリ専門職一人一人の就業時間内で最大限に患者の治療時間を確保していくことが必要である。

入院の対象患者がコロナ禍前に戻っていないが、本年度も理学療法士及び作業療法士欠員補充のない状態が続いており、リハビリテーション業務の質・量を共に落とさないために、以下の通り行動目標と実践内容を遂行する。

- I. リハビリ対象患者数の確保：①外来心臓リハの運営基盤の強化。②病棟カンファレンス・回診での DPC を考慮した退院支援・HCU からの離床リハ対象患者の選出是正③院内広報：病院の活動を知る会・広報誌の利用④クリニカルパスへのリハ介入による患者数確保⑤新型コロナウイルス感染者への作業療法士介入制限の緩和
 - II. リハビリ専門職 1 人あたりの算定件数増加：①業務効率の向上（担当患者数の均一化）②連休時対応の対象患者数確保③リハ専門職休暇時における代行患者数及び単位数確保④退院時リハビリテーション指導料の算定漏れ抑制（指導冊子作成）⑤作業療法士の業務拡大（コロナ患者・上肢機能障害患者の介入）
 - III. 時間外勤務時間の抑制：①各職種の業務の均等化②コロナ対応で施行される病棟編成に対応する業務体制の確立③リハ管理システム及び電子カルテによるコストパフォーマンスの是正（リハビリ書類作成・事務員の専門性向上も含む）にてコロナ禍前（令和元年度）の状態に抑える。
 - IV. 材料費の最大限の削減：医療消耗器具備品費などの節約（老朽した物から順次購入）。購入時は器具備品の購入リストにならって重要な物から選出する。
 - V. 教育研修及び医療の質向上：①専門職の資格獲得援助（学術大会・研修会・心臓リハビリテーション指導士認定・摂食嚥下リハビリテーション認定士認定）②感染対策を講じて、卒前教育の実習施設として多校の臨床実習生（PT2 名）を受け入れ予定。また、理学療法士の生涯学習（卒後教育）として高槻市理学療法士会呼吸勉強会を開催予定。③学会発表援助。④R プラン（勤務評定）からの自己研鑽援助。
 - VI. その他：①令和 6 年度病院機能評価受審の準備（マニュアル改訂・リハ医業務の是正）②摂食機能療法の施設基準取得の検討③救護員の育成及び救護活動の参加推進
- 以上、関連職種と共同して実務を行えるように進める。

麻 酔 科

<スタッフ>

常勤：宇田るみ子（部長）平成 31 年 4 月 1 日から

澤井 俊幸（麻酔科・手術部長）令和 2 年 1 月 1 日から

日下 仁美（常勤医）令和 3 年 4 月 1 日から

< 麻酔科の活動実績 >

「令和 2 年 8 月から毎週水曜日午後二時から三時までペインクリニック外来で帯状疱疹後神経痛や術後慢性痛などを主に（院内紹介患者のみ）受け付けております。

帯状疱疹後神経痛や術後慢性痛などを主に（院内紹介患者のみ）受け付けております。」

< 令和 4 年度 >

【合計】

手術件数	1091（うち手術室内 1091、手術室外 0）
------	--------------------------

【性別】

男性	女性	合計
518	1091	1609

旧分類【麻酔法】

A. 全身麻酔（吸入）	987
B. 全身麻酔（TIVA）	15
C. 全身麻酔（吸入）＋硬・脊、伝麻	89
D. 全身麻酔（TIVA）＋硬・脊、伝麻	0
E. 脊髄くも膜下硬膜外併用麻酔（CSEA）	0
F. 硬膜外麻酔	0
G. 脊髄くも膜下麻酔	0
H. 伝達麻酔	0
X. その他	0
合計	1091

【ASA PS】

予定 1	79	緊急 1E	20
2	722	2E	63
3	148	3E	59
4	0	4E	0
5	0	5E	0
6 （臓器摘出を受ける脳死患者が対象）	0	6E （臓器摘出を受ける脳死患者が対象）	0
小計	949	小計	142
合計	1091		

【手術部位】

a . 脳神経・脳血管	0
b . 胸腔・縦隔	93
c . 心臓・血管	0
d . 胸腔＋腹部	2
e . 上腹部内蔵	113
f . 下腹部内蔵	267
g . 分娩	0
h . 頭頸部・咽喉部	38
k . 胸壁・腹壁・会陰	106
m . 脊椎	56
n . 股関節・四肢（含：末梢神経）	407
p . 検査	1
q . MAC	0
r . ECT	0
x . その他	8
合計	1091

旧分類 【年齢構成】

	男性	女性	合計
A . ～ 1 ヶ月	0	0	0
B . ～ 12 ヶ月	0	0	0
C . ～ 5 歳	0	1	1
D . ～ 18 歳	30	12	42
E . ～ 65 歳	199	154	353
F . ～ 85 歳	308	280	588
G . 86 歳～	36	71	107
合計	573	518	1091

【体位】

1 . 仰臥位	500
2 . 腹臥位	67
3 . 側臥位	222
4 . 切石位	254
5 . 坐位	0
6 . その他	48
合計	1091

【偶発症例】

A . 危機的偶発症	0
B . 神経系偶発症（脳・脊髄）	0
C . その他の神経系偶発症	0
D . その他	0
合計	0

救 急 部

令和4年度は、令和元年度の終わり頃から蔓延し始めた COVID-19 禍によって、大きな影響を受けた一年でした。例年にない対応を迫られた業務も多ければ、例年できた事ができなかったという両面があり、前者としては多数の発熱者受診への対応が必要となり、元々狭い救急外来に空気清浄機や簡易テントなどを所狭しと配置、さらにスペースが足りずコンビニのイーフトインコーナーもお借りし続けています。コロナを見落とさないような注意も必要ですし、コロナを疑いすぎるあまり重篤な一般疾患を見落とさないようにも神経を遣う1年でした。数値的な実績は救急車搬入 2538 症例（うち入院率 56%）、ウォークイン含め 5730 症例の診療実績は、昨年（救急車 2379 症例、ウォークイン合わせ 5611 症例）と比べて若干増加しました。

COVID-19 のために、地道に継続してきた、域連携機関や救急隊への営業活動、各種勉強会や親睦会、外部での災害救護訓練などは例年ほど活発に実施できませんでした。それでも ICLS（二次救命救急処置講習会）や院内の災害訓練などは感染対策を施して開催致しました。今後もウィズ～ポストコロナ時代へ柔軟に対応しながら、当院の生き残り～再生を目指して尽力したいと考えております。

医 療 技 術 部

栄 養 課

<スタッフ>

- ◆管理栄養士：桑田 由起江（栄養課長・NST 専門療法士・病態栄養専門管理栄養士
がん病態栄養専門管理栄養士）
南 美保子（糖尿病療養指導士・健康運動指導士・
糖尿病透析予防指導専任管理栄養士）、
藤本 智子（栄養係長 糖尿病療養指導士）
西岡 美穂（糖尿病療養指導士・NST 専門療法士）
- ◆調理師：藤原 崇義（調理第一係長）、小坂 重敏（調理第二係長）
堀 隆二、岡 務、草地 敦、平山 光一、櫻井 葉子、小川 辰夫、
下田 剛史、野方 晴美
- ◆主事：五百井 栄実

<令和 4 年活動実績>

給食管理においては、食品価格が高騰している中、給食の質を保てるよう食材の検討を行い安全で美味しい食事の提供を目標にしています。

今まで下処理業務・食器洗浄業務・盛り付け業務を業務委託していましたが、委託範囲を見直しあらたに給食管理業務の委託を開始し、委託範囲の整理を行いました。

令和 4 年 10 月から早期栄養介入管理加算の算定を開始しています。

<統 計>

栄養指導件数 算定 599 件／年 給食数 176,329 食／年

NST 加算件数 690 件／年

心臓リハビリテーションカンファレンス参加件数 545 件／年

<令和 5 年度活動目標>

患者の状態に応じた栄養管理が実施できるよう個々の状態把握と必要な栄養指導が実施できるようにする。また食欲不振や低栄養患者に対して速やかに栄養介入を行える体制を整備する。また、安全でなおかつおいしい食事提供ができるよう衛生面での環境整備を行い、治療に貢献できる食事提供を目指す。

臨床工学技術課

<スタッフ>

医 師

玉田 尚（医療技術部長）

臨床工学技士

竹下 勇一（臨床工学技術課課長）

吉村 忠（臨床工学技術課主任）

福谷 伶芳

森地 裕子

杉本 健太

西 祐樹

主 事

兼田 泰子

臨床工学技術課は血液浄化装置、人工呼吸器、人工心肺装置などの『生命維持管理装置』を医師の指示のもと操作として治療のサポートをするほか、院内にある医療機器が安全に正しく使用できるように保守点検を行うなどの業務を担っています。医学的知識はもちろん、医療技術の進歩に伴い、高度化する様々な医療機器の知識、技能を持ち、スムーズな治療や検査が行えるように対応しています。

<令和4年度活動実績>

1. 血液浄化療法領域

- 血液透析…63 症例、1904 回
- 持続緩徐式血液透析濾過…14 症例、67 回
- 血漿交換療法…8 症例、43 回
- エンドトキシン吸着療法…3 症例、35 回
- GCAP、LCAP…0 回
- 腹水濾過濃縮再静注法…7 症例、21 回

2. 血液疾患領域

- 末梢血幹細胞採取…0 回
- 白血球除去療法…1 症例、1 回
- 顆粒球 / リンパ球採取…0 回
- 骨髄濃縮…0 回

3. 循環器領域

- CAG…136 件
- PCI…137 件
- IVUS…125 件

- FFR…7 件
- シェント PTA…8 件
- 下肢 PTA…8 件
- IVC フィルター…1 件
- IABP…4 件
- PCPS…0 件
- Permanent Pacemaker Implanted…16 件
- Permanent Pacemaker Exchange…12 件
- Temporary Pacemaker…1 件
- Pacemaker Implanted Pt（当院管理数）…234 名
- Pacemaker clinic（月 2 回）…延 131 回
- 遠隔モニタリング登録患者数…147 名

4. 腎生検施術補助

- 0 件

5. 医療機器管理領域

- 人工呼吸器、輸液・シリンジポンプ、AED、ポータブルエコー、フットポンプなどの医療機器管理台数…1292 台
- 医療機器修理業務 院内・院外修理…277 件に対応
- 医療機器、消耗品に関する研修会の開催…8 件
- 新規納品機器に関する研修会…1 件

6. 手術室業務

- 麻酔器の使用前点検
- 医療機器などのトラブル対応
- 除細動器・無影灯点検

7. 内視鏡関連業務

- カプセル内視鏡（小腸）…15 件
- カプセル内視鏡（大腸）… 0 件

8. その他

- RFA…8 件
- SAP データ処理…1 名

＜令和 5 年度活動目標＞

医療機器管理や、生命維持管理装置技術を習得し、患者の状態に合った治療が行えるよう努める。

医療安全への意識を強く持ち、安全・安心・安楽な治療が行えるよう努める。

薬 剤 部

＜スタッフ＞（役職・担当・資格は令和5年3月31日現在）

小島 一晃（薬剤部長）：麻薬管理者・治験薬管理者・医療安全推進室員・医薬品安全管理責任者・薬事委員会副委員長・治験審査委員会副委員長・化学療法委員会副委員長

- ・日本医療薬学会 医療薬学指導薬剤師
- ・日本医療薬学会 医療薬学専門薬剤師
- ・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師
- ・日本薬剤師研修センター 認定実務実習指導薬剤師
- ・日本医療薬学会 がん指導薬剤師

美和 孝之（薬剤副部長／医薬品情報係長）：放射性医薬品管理者・医薬品情報業務責任者・薬事委員会事務局（幹事）

- ・日本医療薬学会 医療薬学専門薬剤師
- ・日本病院薬剤師会 日病薬病院薬学認定薬剤師
- ・日本病院薬剤師会 がん薬物療法認定薬剤師
- ・日本臨床栄養代謝学会 NST 専門療法士

仲 忠士（臨床業務課長）：病棟薬剤業務責任者・外来化学療法業務責任者・治験管理業務責任者・治験審査委員会事務局（幹事）

- ・日本薬剤師研修センター 認定実務実習指導薬剤師
- ・日本臨床栄養代謝学会 NST 専門療法士
- ・日本医療情報学会 医療情報技師

松本 弘誠（調剤業務課長）：病棟薬剤業務（HCU 専任）・調剤業務責任者・実務実習指導責任者・感染管理室員・ICT/AST 業務・AST 委員会副委員長 【4/1 昇任】

- ・日本病院薬剤師会 日病薬病院薬学認定薬剤師
- ・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師
- ・日本薬剤師研修センター 認定実務実習指導薬剤師
- ・日本病院薬剤師会 感染制御認定薬剤師
- ・日本化学療法学会 抗菌化学療法認定薬剤師

中西 輝（病棟薬剤業務係長）：実務実習指導担当・手術室業務責任者・ICT/AST 業務・NST 業務・病棟薬剤業務・調剤業務・薬事委員会事務局

- ・日本病院薬剤師会 日病薬病院薬学認定薬剤師
- ・日本化学療法学会 抗菌化学療法認定薬剤師
- ・日本臨床栄養代謝学会 NST 専門療法士

小西 史子（調剤係長／製剤・薬品管理係長）：調剤業務・外来化学療法業務・手術室業務・救護薬管理担当・部門リスクマネージャー・薬事委員会事務局 【4/1 配置転換】

- ・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師
- ・日本薬剤師研修センター 認定実務実習指導薬剤師
- ・日本臨床腫瘍薬学会 外来がん治療認定薬剤師

- ・日本糖尿病療養指導士認定機構 日本糖尿病療養指導士
- ・日本アンチドーピング機構 スポーツファーマシスト

濱武 清範（化学療法係長）：調剤業務・化学療法業務・レジメン管理担当・薬事委員会事務局
【4/1 昇任】

- ・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師
- ・日本臨床腫瘍薬学会 外来がん治療認定薬剤師

山村裕佳子（薬剤師）：注射業務

安達 美里（薬剤師）：調剤業務・手術室業務 【時短勤務】

- ・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師

森川 智子（薬剤師）：病棟薬剤業務（緩和ケア病棟専任）・調剤業務 【時短勤務】

- ・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師
- ・日本糖尿病療養指導士認定機構 日本糖尿病療養指導士

岩井真里絵（薬剤師）：病棟薬剤業務（9 病棟専従）・緩和サポートチーム業務

- ・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師
- ・日本緩和医療薬学会 緩和薬物療法認定薬剤師

奥村 優介（薬剤師）：病棟薬剤業務・調剤業務・ICT/AST 業務

- ・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師
- ・日本化学療法学会 抗菌化学療法認定薬剤師

奥村 有香（薬剤師）：【育休中】

- ・日本循環器学会 心不全療養指導士
- ・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師

松田ちひろ（薬剤師）：調剤業務・化学療法業務

- ・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師
- ・日本臨床腫瘍薬学会 外来がん治療認定薬剤師

福井 美礼（薬剤師）：病棟薬剤業務（7 病棟専従）

- ・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師
- ・日本緩和医療薬学会 緩和薬物療法認定薬剤師

橋本 仁美（薬剤師）：【育休中】

- ・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師
- ・日本糖尿病療養指導士認定機構 日本糖尿病療養指導士

宮西 将之（薬剤師）：病棟薬剤業務（5 病棟専従）

- ・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師

野間 敏也（薬剤師）：外来化学療法業務・調剤業務

- ・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師
- ・日本臨床腫瘍薬学会 外来がん治療認定薬剤師

兼行 佑奈（薬剤師）：病棟薬剤業務（6 病棟専従）

田中 典子（薬剤師）：病棟薬剤業務（8 病棟専従）

沼田那々緒（薬剤師）：【4/7 退職】

林 愛華（薬剤師）：【9/30 退職】
濱口 由香（薬剤師）：【1/31 退職】
徳田 悦美（主 事）：治験管理業務・治験審査委員会事務局
松本 明子（主 事）：治験管理業務・治験審査委員会事務局
山地 祥恵（業務員）：調剤補助業務・発注業務
竹内 邦子（業務員）：調剤補助業務・発注業務
中元真紀子（業務員）：調剤補助業務・発注業務

<薬剤関連施設認定>

日本医療薬学会 医療薬学専門薬剤師研修施設
日本医療薬学会 がん専門薬剤師研修施設
日本医療薬学会 薬物療法専門薬剤師研修施設
薬学教育協議会 実習生実務実習受入施設

<令和 4 年度活動実績>

【調剤室】

ダウンサイジングによる人員減少に対応するため、調剤室人員配置・業務内容の細部見直しを実施した。下半期は手術室業務の大幅な整理を行い、周術期薬剤管理加算・術後疼痛管理チーム加算の算定を新たに開始した。

薬剤師数減少に対応するため、治験事務担当者 1 名を調剤室の午前シフトとして配置し、病棟・外来の薬剤師配置数を減らさずに指導件数が維持できる体制を構築した。

【病 棟】

薬剤管理指導料について、指導率が 94% に達しており大幅な件数増加は望めないため、ハイリスク薬の指導料(380 点)の算定数増加に取り組み、昨年度比約 180 万円の増収が実現した。

新規事業として、昨年度末から HCU の病棟薬剤業務を開始。病棟薬剤業務実施加算 2 として約 160 万円の増収に至った。注射薬の混注や投与ルートの変更など、看護師業務の支援にも繋がった。

【外 来】

外来抗癌剤患者指導の対価であるがん患者指導管理料の一部（点滴・静注）が外来化学療法加算に代わり新たに新設された外来腫瘍化学療法診療料に統合された。薬剤師の仕事量が評価しにくくなるも、全科の化学療法の患者指導を継続した。内服抗癌剤の患者指導をどのように展開してゆくかが今後の課題。

免疫チェックポイント阻害剤の薬剤師外来については、患者数増加に伴う待ち時間延長や、導入から 7 年が経過し、副作用の対応方法が分かってきたことで通常の化学療法に落とし込めるとの判断から、各診療科の協力を得て診察前の薬剤師外来を診察後に化学療法室で実施する運用に変更し、効率性を高めた。

【医薬品情報】

昨年度に引き続き、医薬品の供給不安定に東奔西走した1年間であった。治療への影響を最小限に抑えるべく医薬品確保に尽力した。COVID-19の新薬も相次いで発売され、運用策定を感染管理室と連携して行った。

【治験管理】

COVID-19 内服薬の多施設共同医師主導治験が無事終了した。非常に難易度の高い治験に挑戦する形となったが、医師・薬剤師・看護師等の医療者と治験事務局・SMOの連携で、組み入れ数は10症例で全国1位となった。

下半期は、糖尿病・内分泌・代謝内科部長の異動に伴う院内治験実施体制の再構築に尽力した。総合診療科を軸として、糖尿病・内分泌・代謝内科非常勤医師と循環器内科・血液内科で分担する体制で継続の目途が付いた。最先端医療を担う部門として、今後も新規治験を積極的に受託したい。

【リスク管理】

薬剤師の介入による患者さんの不利益回避事例（プレアボイド）の質が向上した。抗癌剤やハイリスク薬の適正使用、検査値による処方提案といった事例が多く、院内リスクマネジメントに大きく貢献している。

【学生実習】

1期（3ヶ月）×3期で年間8人の薬学実習生を受け入れ、全部員総動員で指導に当たった。前年度に引き続き、COVID-19の状況も勘案しながらも、可能な限り体験型実習が実践できるよう努めた。

同じくCOVID-19の影響により、学校等の外部からの体験プログラム受託はなかったが、今後は復活傾向にあるため、引き続き病院薬剤師業務の魅力を学生らに啓蒙してゆきたい。

【統 計】 令和4年度実績／（ ）は令和3年度実績

1. 処方箋

<入院処方箋枚数>

入院投薬：通常処方	32490 枚 (34668 枚)
退院処方	5435 枚 (5305 枚)
異常時処方枚	18965 枚 (21639 枚)
入院注射：通常処方	73704 枚 (79061 枚)
化学療法	2639 枚 (2856 枚)
T P N処方枚	12802 枚 (11802 枚)
異常時処方枚	65452 枚 (78960 枚)

<外来処方箋枚数>

外来投薬：院内処方	7492 枚 (5642 枚)
-----------	-----------------

院外処方	70995 枚 (70359 枚)
院外発行率	90.5%※ (92.0%) ※発熱外来の影響あり
一般名処方枚	50193 枚 (50004 枚)
外来注射：通常処方	9986 枚 (10318 枚)
化学療法	3909 枚 (3834 枚)

2. 注射薬無菌調製

<調製本数>

抗癌剤	: 7114 本 (7281 本)
TPN・移植・その他	: 4845 本 (5576 本)
合 計	: 11959 本 (12530 本)

3. 入院患者指導（薬剤管理指導料）

訪問件数	: 15031 件・1252.6 件 / 月 (15339 件・1278.3 件 / 月)
本体請求件数	: 10485 件・873.8 件 / 月 (10244 件・853.7 件 / 月)
退院指導請求件数	: 3134 件・261.2 件 / 月 (2698 件・224.8 件 / 月)
患者指導率	: 93.9 % (90.4%)
病棟薬剤業務 (HCU)	: 1585 件 (127 件) ※ 2022 年 3 月開始

4. 外来患者指導（がん患者指導管理料・連携充実加算）

訪問件数	: 2424 件 (1833 件)
がん患者指導管理料	: 107 件 (656 件)
連携充実加算	: 1127 件 (1140 件)

5. 持参薬鑑別

鑑別登録件数	: 6019 件 (5682 件)
--------	-------------------

6. 疑義照会・プレアボイド報告

外来処方疑義照会	: 2196 件・簡素化プロトコル 1086 件 (2443 件・簡素化プロトコル 873 件)
化学療法疑義照会	: 282 件・変更率 76.1%・簡素化プロトコル 158 件※ (275 件・変更率 76.2%) ※ 2022 年 10 月開始
プレアボイド報告	: 調剤担当者 26 件 (43 件) 病棟担当者 69 件 (49 件)

7. 治験業務

<新規受託件数>

治 験	: 2 件 (5 件)
-----	-------------

製造販売後調査	: 8 件 (14 件)
副作用報告	: 5 件 (4 件)
<請求額>	
治 験	: 53,787,233 円 (57,806,080 円)
製造販売後調査	: 2,388,100 円 (1,657,240 円)
副作用報告	: 143,000 円 (85,800 円)
合 計	: 56,318,333 円 (59,549,120 円)

8. 薬品管理

<採用薬品数>

投薬・その他	: 607 品目・後発 36.7% (609 品目・後発 35.5%)
注射薬	: 478 品目・後発 30.1% (436 品目・後発 32.3%)
合 計	: 1085 品目・後発 33.8% (1045 品目・後発 34.2%)

9. 薬剤関連 DPC 係数

病棟薬剤業務	: 0.0079 (0.0079)
後発医薬品使用体制	: 0.0014 ※ (0.0014) ※最高値 (90%以上)

10. 薬学生実務実習

実務実習 (11 週間)	: 8 名※ (6 名※)
外部体験学習・実習	: 3 名※ (0 名※) ※ COVID-19 の影響あり

<令和 5 年度の主な活動目標>

- ・チーム医療の一員として良質で安全な薬物治療を提供する。
- ・急性期医療に必要な医薬品に関する知識を身に付ける。
- ・医薬品の安全管理・安定供給に努める
- ・情報提供・研修会を通して調剤薬局・地域医療機関との連携を深める。
- ・診療報酬との関連を意識しながら業務を進める。

検 査 部

<スタッフ>

医 師

神田 直樹（副院長兼検査部長）

山中 雄介（検査副部長）

臨床検査技師

荒木孝一郎（技師長）

吉田 桂（臨床検査課長）

今井翔太郎（臨床検査課 化学免疫検査係長）

大西美穂子（臨床検査課 血液一般検査係長）

中村 直実（臨床検査課 輸血管理係長）

扇田 裕允（臨床検査課 微生物検査係長）

佐藤 裕司（生理機能検査課 生理機能検査係長）

土井美都子 元原 浩子 坂野 絵美 奥洞 智太 亀山 雅貴 平岩 理雅

古川 理奈 町田 統麻 駒井 裕子 石谷 育代

視能訓練士

玉木 真世 高橋絵里子

天田 瞳 舘 友香子 川茂 陽子

検査部付看護師

宮地真奈美 木野 洋子 赤石美智子 今井美恵子 大岡 典代

検査アシスタント

田辺 智美 富木 貴子

<異動、昇任>

神田 直樹 令和 4 年 4 月 1 日 副院長兼検査副部長に就任

大西美穂子 令和 4 年 4 月 1 日 臨床検査課 血液一般検査係長に就任

今井翔太郎 令和 4 年 4 月 1 日 臨床検査課 化学免疫検査係長に就任

<認定資格>

認定超音波検査士：吉田 桂 佐藤 裕司 元原 浩子 坂野 絵美

亀山 雅貴 駒井 裕子 荒木孝一郎

認定血液検査技師：大西美穂子

認定骨髓検査技師：大西美穂子
 認定輸血検査技師：中村 直実
 認定糖尿病療法指導士：土井美都子
 認定臨床微生物検査技師：扇田 裕允
 感染制御認定臨床微生物検査技師（ICMT）：扇田 裕允
 認定救急検査技師：今井翔太郎 奥洞 智太 佐藤 裕司
 緊急臨床検査士：奥洞 智太 町田 統麻
 認定医療情報技師：佐藤 裕司
 認定心電図専門士：駒井 裕子

<令和4年度活動実績>

令和3年4月1日～令和4年3月31日	人（延べ）
生化学・免疫検査	73,128
末梢血算定	66,937
末梢血液像 目視	20,230
骨髓検査	267
尿一般	23,852

血液型	2,014
交差試験	2,216
不規則抗体	2,269
間接クームス	35
直接クームス	42

一般細菌検査	9,139
抗酸菌検査	1,850

心電図	10,175
心臓超音波	3,150
腹部、血管、表在超音波	5,105

・ SARS-CoV-2 PCR 検査数（行政検査含む）

令和2年度PCR件数：12,397件

令和3年度PCR件数：26,064件

令和4年度PCR件数：12,752件

・ 令和4年度 日臨技臨床検査精度管理調査

A+B 評価 263 個 99.2% C 評価 0 個 0% D 評価 2 個 0.8%

- ・令和４年度 日本医師会 臨床検査精度管理調査
評価 99.2 A 評価 119 個 B 評価 5 個 C 評価 0 個 D 評価 0 個
- ・臨床検査の標準作業書とマニュアルを更新。
- ・臨床検査適正化委員会を通じて検査セットを見直し、血液検査目視依頼数を昨年度比で 7%削減。
- ・ポジティブレポート（インシデント）を 143 件報告。

<学会発表、講演>

亀山 雅貴 日本心エコー図学会第 33 回学術集会 令和 4 年 4 月 9 日
「血行動態の変化により左室流出路の圧較差増大を認めた僧帽弁副組織の 1 例」

古川 理奈 日本心エコー図学会第 33 回学術集会 令和 4 年 4 月 9 日
「僧帽弁逸脱症および心尖部瘤を合併した肥大型心筋症の 1 例」

扇田 裕允 第 71 回日本医学検査学会 令和 4 年 5 月 21 日～ 22 日（WEB）
「当院における SARS-CoV-2 PCR の検査体制について」

扇田 裕允 第 71 回日本医学検査学会 令和 4 年 5 月 21 日～ 22 日（WEB）
「SARS-CoV-2 PCR 検査のキャリアオーバーコンタミネーションによる疑陽性を経験して」

吉田 桂 第 23 回日赤検査学術集会 令和 4 年 9 月 11 日
「コントラスト心エコー検査にて早期に診断できた肝肺症候群の一例」

奥洞 智太 第 61 回日臨技近畿支部医学検査学会 令和 4 年 12 月 4 日
「急変時に採取された血液培養より Staphylococcus arugenteus を検出した一例」

<令和 5 年度活動目標>

- ・各部署マニュアル、標準作業書の更新、整備。
- ・臨床検査技師新人教育マニュアルの更新、整備。
- ・検査セット、項目を見直し、過剰な検査を削減。
- ・ポジティブレポート提出率の向上。
- ・業務終了時間の個人差を解消し、時間外業務を削減する。
- ・部内ローテーションを行い、各自が検査できる範囲を拡大、部署間のサポート体制を強化。
- ・各種、認定資格を各自の目標通りに取得。
- ・勉強会や学会発表への積極的参加。
- ・精度管理向上、日臨技、日本医師会の外部サーベイ参加、医師会サーベイは目標オール A 評価。
- ・他部署へのサポート、連携強化。
- ・検査部内勉強会開催 目標として年 5 回。
- ・年最低 10 日以上有給休暇取得。

病 理 診 断 科 部

<スタッフ>

医 師

神田 直樹：副院長兼病理診断部長

渡邊 千尋：病理専門医、細胞診専門医

山田 義博〔非常勤〕 白瀬 智之〔非常勤〕 奥野 知子〔非常勤〕

千葉 渉〔非常勤〕

臨床検査技師

荒木孝一郎〔技師長兼病理検査課長〕：細胞検査士、国際細胞検査士、

廣田 智美〔病理検査係長〕：細胞検査士

山本 翔：細胞検査士

山田 桂実：細胞検査士、認定病理検査技師、有機溶剤作業主任者

特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者

後呂 純平

<異 動>

無し

<令和 4 年度年度活動実績>

- ・統計：組織診件数 4083 件 細胞診件数 2181 件 剖検件数 5 件
- ・症例検討会（CPC）
 - ① 肉腫型中皮腫：8 月 31 日
 - ② 5 年後に縦隔に転移し、心臓を圧迫した後腹膜原発脂肪肉腫：11 月 25 日
 - ③ 肝硬変合併の解離性大動脈瘤、左胸腔内出血：3 月 22 日
- ・学会発表
 - 山田 桂実：第 61 回日本臨床細胞学会秋期大会：11 月 5 日
「食道 EUS-FNA により診断した上皮型中皮腫の一例」
- ・日本臨床衛生検査技師会コントロールサーベイに参加
- ・日本臨床細胞学会施設認定制度コントロールサーベイに参加

<令和 5 年度活動目標>

- ・学会発表、研修会への参加
- ・ホルマリン、キシレン等の有機溶剤、劇物の管理
- ・病理標準作業書の作成、マニュアル整備
- ・細胞検査士認定資格取得技師の育成
- ・検査部業務のサポート（検体検査、生理検査、細菌検査）

看護部

<スタッフ>

看護部長：岸 恵美

看護副部長：西 ひろみ・高橋 晶子（兼）・原田かおる（兼）

看護師長：有持 由江（5病棟）・依藤 里香（6病棟）・南波 広美（7病棟）

高田 佳織（8病棟）・川崎 知子（9病棟）

秋山 由依（緩和ケア病棟）・門脇 寛子（手術室／中央材料室）

原田 香織・石黒 早苗（外来）・高橋 晶子（HCU）

西浦 美香（看護部／患者支援センター・病床管理室）

奥田 唱子（看護部）

看護係長：鹿野 瑠美（HCU）・橋本 龍 辻 ちひろ（5病棟）・谷森 涼子 小笠原

舞（6病棟）・福場久美子（7病棟）・亀岡さつき 吉田 一真（8病棟）・森下

かおり 武内 綾香（9病棟）・田中 智美（緩和ケア）・前田 敦子 松下めぐ

み（外来）伊藤 勝也 山内 洋平（OP室）佐賀 明子（感染管理認定看護師）

看護部職員：佐賀 昭子（感染室／感染管理認定看護師）

今戸美奈子（看護部／慢性疾患看護専門看護師）

西川亜紀子（看護部／がん看護専門看護師）

藤原 和子（看護部／緩和ケア認定看護師／緩和ケアサポートチーム専従）

北田 千世（看護部／皮膚・排泄ケア認定看護師／褥瘡管理者）

工藤ゆかり（看護部／退院調整看護師）

矢野原綾香（看護部／退院調整看護師）

岩田 佳未（看護部／入退院支援看護師）

大西 桂子（看護部／主事）

<令和4年度看護部活動実績>

1. 学会参加

1) 日本看護系学会等参加人数：40名

2) 大阪府看護協会研修参加人数：32名

2. 認定看護管理者教育課程

1) ファーストレベル修了者：辻 佳恵子 寺田 裕子

2) セカンドレベル修了者：依藤 里香 有持 由江

3. 看護学生臨地実習受け入れ

1) 大学

☐ 梅花女子大学看護保健学部看護学科

☐ 大阪医科大学看護学部看護学科

☐ 藍野大学

2) 専門学校

☐ 学校法人日本教育財団 大阪医専

4. 講師派遣

- ・原田かおる 大阪医科薬科大学大学院 看護学研究科 非常勤講師
大阪府立大学大学院 看護学研究科 臨床教授
大阪公立大学大学院 看護研究科 非常勤講師
- ・今戸美奈子 大阪府立大学大学院 看護学研究科 臨床准教授
福井大学 非常勤講師
大阪医科薬科大学大学院 看護学研究科 非常勤講師

令和4年度（2022年度）看護部・各看護単位の活動

【看護部の活動総括】

令和4年度は本部管理病院3年目。コロナの対応をしながら病院の向かうべき方向は急性期医療であり地域の人々に信頼される病院となるために看護部としても経営と看護の質の向上を両輪として活動をしてきた。DPCⅡ期以内の退院率70%を目標に入院前から退院を見越したかかわりを継続。また安心安全な療養環境を提供するため感染防止、医療安全にも取り組んだ。結果病院経常収支は黒字化を達成することができた。しかしながら急性期一般入院料1の人員はギリギリでありコロナ病棟を抱えた状況では一般病棟の稼働が100%を超える状況もあり看護師の疲弊感が高まり、昨年度も離職率は14.8%となってしまった。新人の採用がなかった昨年の影響からか「人を指導する」ことに手をかけるという意識も低下し既卒の採用者に即戦力としての圧力も高くなっている状況であった。

1. 確かな知識と技術を備え他看護師の育成

①臨床看護実践能力の向上

【急性期看護】

RRTチームを再起動を計画していたが救急医の異動に伴い救急部が交代体制となった。そのことにより医師を巻き込んだチーム活動をとることができなかった。しかし集中ケア認定看護者ICLSのインストラクターが集結し院内でICLSの講習会を開催することができた。参加者も一般病棟からの看護師など自発的な参加が相次ぎ、定員超過となった。

【集合教育】

「がんシリーズ」として一人の患者を各治療期に合わせて認定看護師や専門看護師が講師となり研修を行った。時間外にもかかわらず多くの参加者があり関心の高さを示していた。

【ラダー申請】

レベルⅢを取得した3名のうち2名は看護師経験年数もあり、チャレンジしたことは部署への良い影響を与えていた。背景には面接時の師長の声掛けがきっかけとなっておりキャリアアップを進める管理者の役割も効果的であった。

②看護管理実践能力の向上

【認定看護管理者研修】

今年度2名の師長がセカンドレベルを受講した。終了後自らの管理課題を師長会で発表。昨年度セカンド受講した師長が管理の実践報告を行った。このことはそれぞれの師長に刺激を与

えており、発表後の意見交換では自分の管理観を交えながら質問や意見を言い合うなど効果的であった。ただ係長会は停滞ムードが漂い、「しんどい」「いっぱいいっぱい」といったマイナスな言葉が会の中で発せられることがあった。実践者としてまた病棟運営の牽引者としての役割に負担感を感じている。次年度は係長が元気に仕事に向き合うことができるような取り組みが必要である。

2. 安心で信頼される療養環境の保証

【患者支援センターとの連携強化】

患者支援センターと病床管理、退院支援看護師との連携によって効果的な病床管理を行うことができた。コロナの感染状況に応じて病床編成や対応を変化させていったことにより地域での公的病院としての役割を果たすことができた。しかし1病棟をコロナ病棟にすることによって一般病棟の稼働率は100%を越すこともあり看護師の疲弊感が高まった。それを裏付けるかのように入院患者PXアンケートでは看護ケアに関する質問が全国平均を大きく下回り、安心した療養環境に提供には課題が残った。この課題を可決するためには効果的な病床数を提唱し3人夜勤でも十分対応できる病床にしていくことが望まれる。

3. 働き続けられる職場環境の整備

【安定した人材確保】

依然として全国平均を上回る離職率が続いている。職務満足度調査からも「業務内容にあった看護師配置」の項目が一番低く人員不足は離職率の要因となっていると考えてもおかしくはない。既卒者の採用は実践力があるものの経験があるだけに自分の尺度で当院のシステムや看護を図るためマイナスにとらえる部分もある。環境になじむ半年程度はかなり業務的、精神的サポートが必要である。師長の面接に加え副部長との面接は継続しており功を奏していると考ええる。「今いる人を大切に」という言葉を常に共有し働き続けられる環境を作ることはこれからも必要である。

HCU：高橋 晶子

令和4年度は、互いを認め合い、患者・家族の意思を尊重した支援を行い、専門性の高い医療と安全・安心な看護を提供することを目標に取り組んだ。

財務の視点では、年間の稼働率は78.19%と前年度を上回る結果となったが、目標としていた80%には満たなかった。救急車2,538台であり前年度を上回った。コロナ禍で病床不足の時期には断診件数も増えたが、救急患者をスムーズに応需できるように医師・看護師と病床の情報共有に努めた。早期離床リハビリテーション加算の算定も定着してきた。救急外来では、発熱を主訴に搬送される患者の中にはコロナの検査で陽性と検出されることも多くみられたが、ゾーニング・感染対策を徹底し院内感染予防に努めた。アンギオ件数は（循環器・消化器合わせて 件）。

顧客の視点では、院内臨床倫理コンサルテーションチームへのコンサルト事例1件、部署内の倫理カンファレンス1件開催。救急外来・HCU入室時より救命とともに退院後の療養先を

見据え、MSWや退院調整Nsと情報共有を行い、病棟に繋ぐように努めた。看護師不足の中でもスタッフ同士が声を掛け合い、1人当たりの時間外勤務も昨年度を下回った。しかし、日々の業務の多忙な中で専門性の高い部署であるため、それぞれの教育に困難さがある。部署全体でお互いを承認し合える風土にはまだ至っていない。看護師職場満足度調査でも心理的安定性のある部署になることが課題として残った。

業務プロセスの視点では、インシデントはHCU・救急外来ともに検体の患者間違い、伝票間違い、書類の患者間違い等が発生した。引き続き患者確認・確認行動を徹底していく。

学習と成長の視点では、集中ケア認定看護師1名合格、看護管理者教育課程ファーストレベル1名修了、院内外のICLSインストラクターとして多数参加。部署内の計画的な勉強会でも毎回半数以上のスタッフが参加し自己研鑽に努めている。異動者を含め、HCU・アンギオ・救急ラダーで評価し、HCU4人・アンギオ1人が新規育成、救急外来サード要員3名育成できた。キャリアラダーレベルⅢ1名取得。次年度も目標管理面接での目指すラダーレベルを確認し、無ラダー者のラダー取得支援にも力を注いでいきたい。また、ナラティブ発表会、日々の実践でのリフレクションを行い、それぞれの自己の経験から学びを深め、共有し部署の実践力向上に努めていきたい。

5 病棟：有持 由江

令和3年12月に新型コロナウイルス対応と病床の効果的運用目的で3病棟と5病棟が統合した。令和4年度は病棟編成直後であり、各診療科に対応できるように、病棟独自の看護業務のマニュアル作成や退院調整を強化できる病棟づくりに努めた。

財務の視点としてコロナ禍が遷延する中、病床稼働率は4～9月82.6～97.2%、10月にコロナのクラスターがあり68%台となった。平均89.7%であった。病床回転数は平均2.3であった。入退院支援加算・介護支援等連携指導料・在宅療養指導料は昨年比より増加した。各種加算の漏れをなくすため、各リンクナース・病棟係が定期的に点検、呼びかけを行い実施することで件数が維持できた。

顧客の視点として10月に総室でコロナ陽性患者が複数発生したが、それ以降、他の感染症について発生はない。疑似症・播種性ヘルペス対応等、個室が多い病棟として対応することが多く、速やかな入院対応に努め、看護師・看護補助者の連携強化と情報共有を密に行った。インシデント報告はレベルⅢb7件であった。心電図モニターや人工呼吸器のアラーム感知不可、転倒への予測が不十分であることが判明し、何度もカンファレンスを行い、RCA分析やPMSELL分析を行い、原因の分析に努めた。また急変の対応が不十分であることもわかり、ミニ学習会、人工呼吸器勉強会、医師による心不全、心電図に関する勉強会を実施した。また糖尿病療養士による糖尿病基礎知識の学習会を開催し、多忙な中でもスタッフの学習を重ね病棟看護の底上げに努めた。最も重点的に取り組んだ退院調整はDPCⅡ期を意識し、病棟全体で積極的に退院促進を図った。看護係長やリンクナース、デイリーダーへ共有し、病棟看護師が速やかに本人や家族の意向を確認し、医師やケースワーカー等の多職種と連携を図り、退院調整を促進した。

業務プロセスの視点として病棟編成直後に、病棟で業務量調査を行い、時間外残業も増加し

た。その為、個人の仕事状況を15時に確認する、ペア制導入し、聴き合える環境を作り、病棟全員で困っている人をサポートする体制づくりに努めた。循環器、泌尿器、糖尿病内科の得意分野の看護師へ基本的な業務手順の作成を依頼し、業務がスムーズに行えるように取り組んだ。また夜間看護補助者、看護助手、病棟クラークとの協働にて看護周辺業務の役割委譲を行い、病棟の看護チームの一員として共同することができた。

学習と成長の視点として、WEB学会・ZOOM研修受講するスタッフも増え、継続教育研修では、自部署から1～4名ほどの受講者が常に参加した。大阪府看護協会研修受講や外部研修への参加もあり、心不全療養士1名合格、心臓リハビリテーション療養士の2名受験準備など、個人個人で学習を深め専門性を深めている。ラダー取得はレベルⅠ2名、レベルⅢ1名の取得できた。病棟係長からスタッフ2名へのリフレクション学習を行い、スタッフがリフレクションの学習や興味を深め、次年度の病棟チーム会での活用やラダー申請に繋がっている。今後、自己の看護実践能力を見つめる機会をもつことの意義伝え続け、次年度、ラダー取得者が更に増加することを期待したい。学んだ知識を看護実践で活かし、看護のやりがいや倫理的視点で考えられる看護師の育成に努めたい。

6 病棟：依藤 里香

COVID-19 流行による対応は3年目となった。6病棟は、消化器内科、呼吸器外科、呼吸器内科の患者を受け入れている。平均病床稼働91.0%、回転率2.5%、平均在院日数10日であった。今年度は、COVID-19によるクラスターが2度発生したため稼働の減少があった。休床せず有効に病床を利用できるよう適切に手指消毒剤ができるよう啓蒙が必要である。

高齢患者の増加により退院調整を必要とする患者が増加している。DPCⅡ期以内の退院は、70.9%であった。退院調整カンファレンスを有効に活用し、入院前の生活状況や療養先の希望の聴取など患者・家族に早期よりアプローチができていた。また、医師とも退院に向けた情報共有を密にすることで適切な療養場所へスムーズに退院ができたと感じている。また、面会制限により家族は入院中の患者の変化がわかりにくい状況であったため、家族の面会時に患者の状況をこまめに伝えたことやリハビリの状況を見学できるようセッティングを行ったことが早期退院や転院に繋がった。

高齢患者の増加に伴い転倒件数は増加しているが、インシデントレベル3bは0件であった。認知症看護認定看護師のアドバイスを元にせん妄についてのアセスメントを行い療養環境が調整できたことで3b事例が0件という結果に繋がったと感じている。また、専門看護師や認定看護師に相談し専門的な治療についてのアドバイスをもらうことで安全な医療、看護を提供できたと言える。業務の視点においては、看護師と看護補助者との協働を進めるために休日においては看護師と共に清潔援助に参加し看護師の業務負担軽減に取り組んでいる。

看護の質向上においては、認知症看護認定看護師が1名認定された。煩雑な業務の中、事例検討会は行っていないが、認知症看護認定看護師が実践の場でアドバイスを行い、一緒に療養環境を考えていることで高齢者・認知症ケアについて徐々に対応力が向上している。急性期看護については、主要な検査や処置の学習会を定期的に行えDVDにも保存していることで、いつでも学習できる環境を作ることができている。赤十字看護師は3名登録できた。次年度は、

赤十字看護師として災害救護活動に取り組んでいくことを期待している。

7 病棟：南波 広美

血液内科、眼科、脳神経内科混合病棟 49 床（クリーンルーム 12 床含む）移植治療、化学療法を受ける対象の高齢化が造血機能回復に時間を要するためクリーンルーム算定越え、長期入院となっている。無菌治療室稼働率が前年度より増加することを目標に医師と都度相談を行い、患者の安全を担保しながら柔軟に総室無菌治療室利用の運用を行ってきた。社会的にも高齢化が進み血液内科治療を受ける患者年齢も高齢になり ADL の低下など総室クリーンルームでの療養生活が難しい対象が増え稼働率は 82.6%と前年度より 4.2%低下した。無菌治療室算定率は 72.2%と前年度より 1.0%低下であった。柔軟な無菌治療室運用を行なうため、患者と医療者が共通確認できるよう行動表を作成し個々の状態に合わせ提示した。行動表には室外での行動範囲、食事に関する規制などが記されており患者の安心感に繋がった。新たに移植後長期フォローアップ外来 (LTFU) を担当する看護師が 1 名増え、移植後患者の予防接種スケジュール、日常生活上の多岐にわたる悩みに対して傾聴し支援している。また、移植後外来新聞を作成し病棟内で閲覧され看護師の育成や継続看護の質に繋がる取り組みを行なっている。

治療を受ける対象が高齢化となり、化学療法・移植療法による ADL 低下が続いている。リハビリの介入もあるが転倒件数は前年度より 6 件増加し年間 37 件であった。増加する転倒件数に対して入院時に転倒予防カンファレンスが行われ環境調整を行っている。離床センサー使用時はカンファレンスを行い、また、認知症ケア認定看護師への相談など多職種で患者個人を支えることが出来るよう呼びかけている。

病棟内では実践の力となるよう看護師勉強会が行われている。疾患・治療に関する内容から退院調整など他職種を巻き込んだ勉強会などが行われた。高齢化により退院後患者を支える家族もそれぞれ身体的問題を抱えている現状があり社会的介入の必要性など、退院調整看護師・MSW を IC に同席してもらい、多職種で患者とその家族を支える環境が提供できるよう調整している。

ワークライフバランスの調和がとれるよう、時間外業務の減少に取り組んだ。一日の一定時間に残務の共有を行い振り分けること、医師と院内ルールの共有を行い再確認してもらう場を設けた。特にデイリーダーの時間外業務が多かったが前年度より約 24%の時間外業務減少に繋がった。診療科の異動があり安定した環境とは言えない状況であったが看護師の混乱はなく患者を中心とし医療・看護が提供できるよう取り組むことが出来た一年であった。

8 病棟：高田 佳織

令和 4 年度、外科・形成外科等、当該診療科の手術件数は 768 件で、全手術件数の 42.5%を占め（緊急手術は 54.7%）、昨年度より増加した。病床稼働率は 93.4%、病床回転率は 2.04 回、DPC II 期入院率 65.5%で昨年度より微増したが、平均在院日数は 12.8 日で昨年度より 1.4 日延長した。超高齢患者の手術も増加し、併存疾患を持つ高齢・認知症患者の合併症発症や慣れない入院環境、術後せん妄発症による離床・リハビリ・術後回復の遅延から、退院調整が難航する場合も散見された。次年度はより早期に退院調整に着手し、患者にとって適正な時期が

つ、DPCⅡ期内の退院が70%以上になるよう多職種と連携し、退院のゴール設定を共有して、スムーズな退院調整を目指したい。

また、緊急入院・手術が多く、医療・看護・介護の多重業務による煩雑さから、退院調整が遅延する傾向もあった。多職種協働で業務の効率化を図り、医療・看護の質向上のためにも、次年度は効果的にパスを活用していきたい。特にパスが十分活用されていない整形外科のパス作成、適応率も向上していきたい。

病床再編後、外科系混合病棟となり1年3か月が経過した。慣れない看護に戸惑うこともあったが病棟勉強会、看護継続委員会主催等の院内研修の参加者は多く、自己研鑽に努力した。次年度は患者のケアカンファレンスを積極的に実施し、可能な限り患者の苦痛の緩和とその人らしく療養生活を過ごせるよう、看護の質向上を目指したい。

実践者ラダーはレベルⅢ1名が認定された。赤十字看護師としての救護員登録者は1名であった。

9 病棟：川崎 知子

<財務の視点>

令和2年4月より9病棟は、COVID-19受け入れ病棟として運用している。令和4年4月から令和5年3月では295名のコロナ陽性患者を受け入れた。重症化し重症病院への転送は1名であった。肺炎が重症化する症例は少ないが院内で他の疾患での入院患者が感染し9病棟へ転棟する事例が40例発生した。7波（7－8月）、8波（12－1月）では院内発生もピークとなりフェーズ5として夜勤勤務者を4－5名体制で対応した。患者層は誤嚥性肺炎（要介護3－5）が多く、療養期間で元の施設に退院できるよう口腔ケアや嚥下に関するケアを早期から行い、退院調整情報シートを活用して調整に取り組んだ。またコロナ流行状況に応じて一般病床対応をフレキシブルに行った。

<顧客の視点>

COVID-19患者の対応は倫理的問題が多く、倫理カンファレンスを行い看護師それぞれの思いを表出する機会とした。事例の情報を整理することで病態の理解や他職種との情報共有不足を再確認し、次の看護に活かせる内容となった。また院内発生で転棟した血液内科患者のデスカンファレンスでは、コロナウイルスが陰転化せず療養のめどが立たない中で病状が徐々に悪化していった事例を取り上げた。看護師は慣れない治療とケアに戸惑いながらも、最期の数日間に感染対策を取りつつ家族が患者との時間を持てた関わりを行なえた。フェーズ4－5期間では夜勤従事者が増える為、日勤でのカンファレンスが開催しにくい状況となる。院内メールやおしらせファイルを活用した情報共有、業務手順・点検表改訂、酸素流量カード作成など業務効率があがる取り組みを行いモチベーションを維持した。

<業務の視点>

昨年度に引き続き、手指消毒の徹底を行うため5つのタイミングを直接観察し、スタッフ全員が行えていることを確認した。その後も定期的な声掛けを行い継続できるように取り組んだ。レッドゾーンでは常に防護具を着用しているため、排泄物にかかわる際にはさらにビニールエプロンを着用すること等、ケア実践の中での感染対策を注意喚起している。インシデントレベル3b事

例は 0 件であった。療養環境が隔離された中でも、カンファレンスを繰り返し行い個別性を考慮した対応を行った。看護助手は 2 名体制だが朝の洗面ケアも積極的に取り組んでいる。

<学習の視点>

COVID-19、誤嚥性肺炎、肺がん、白内障、大腸ポリペクトミーなど病床編成に応じた勉強会を行った。高齢者看護では口腔ケアを、在宅支援調整ではリンク N s の発表事例共有を行うなど、研修を受けた看護師の伝達講習を活用した。

緩和ケア病棟：秋山 由衣

財務の視点では、積極的な病床の受け入れを行い、病床稼働率 90%前後をほぼ達成できた。また、院内患者 40%、院外患者 60%受け入れを行い、空床があれば、積極的に在宅医からの受け入れを行い、緊急入院加算の取得を行った。がん患者の疼痛管理に関しては、今年度から NRS やフェイススケールを活用し疼痛評価を定期的実施し、疼痛管理加算の取得を定着することができた。

顧客の視点では、患者の安全な療養環境の調整の強化を行うために、転倒カンファレンスの内容の充実化を図るためのフォーマットや手順を作成し実施した。今年度の転倒件数は昨年度より減少までには至らなかったもののインシデントレベル 3 b 以上はなく経過できた。今年度、患者誤認のインシデントが 4 件発生し、看護師全員で要因分析し検討を行った。その中で、ネームバンドの装着が徹底されていなかったことや、患者確認のバーコード認証が行えていなかったことが明らかとなった。そのため、再度マニュアルを見直し、基本行動を行えるように、定期的にモニタリングを現在も継続している所である。

業務プロセスの視点では、看護師の時間外労働時間の調査を、業務申告書を用いて、業務分担を行うように促し、時間外労働時間の目標値を達成することができた。また、ボランティアと共同し、師長を中心として、感染症流行時にでもできることを検討した。その中で、季節毎の展示や、小物を作成し、患者家族にプレゼントして回りながら写真撮影を行ったり、トーンチャイムの演奏会や紙芝居などを実施することができた。

学習の視点では、緩和ケアに関する症状別のマネジメント学習会を実施し、実際の患者の症例を用いて振り返りを行い、学習を深めた。個人学習としては、ナーシングスキルを活用し、緩和ケアに関すること（家族ケア・グリーフケア・ACP 支援）に関する動画の視聴を看護師全員に促した。また、地域との連携を行った症例をまとめて、北摂看看連携の場で発表することができた。また、デスカンファレンスの充実を図り、事例検討を 4 例実施し、普段の看護実践を理論や文献を用いて振り返ることにより新たな気づきを得ることができた。

手術室中央材料室：門脇 寛子

<財務の視点>

- ・手術前年度より通常手術件数 140 件 緊急手術件数 31 件の増加がみられた。
- ・令和 4 年 11 月より、術後疼痛管理加算の算定開始し約 120 日 / 月の算定ができています。
- ・医療材料等の使用状況を確認し、46 件の削除と 31 件の定数変更をおこなった。

<顧客の視点>

- ・医療安全、感染管理の院内研修で医療安全研修会担当者の2回以上の研修参加率は97%であったが手術室看護師の2回以上の研修参加率は100%であった。
- ・COVID19対応のマニュアルを作成し、シミュレーションをおこない陽性患者の外来手術（局所麻酔）に対応し、院内感染をおこさずに安全に担保することができた。
- ・手術室業務手順改訂には、手術看護業務手順、WHO 安全な手術のためのガイドライン、ナーシングスキルを活用した。次年度は機能評価受審もあり、ワーキンググループを立ち上げ手順の改訂に着手する準備を整えている。
- ・COVID19関連での休暇が発生したが業務に支障なく、勤務対応などで調整をおこなうことができた。

<業務プロセスの視点>

- ・各科の手術手順の見直しを担当看護師が随時更新することで手術がスムーズに進行できるようにした。
- ・手術を受ける患者の入室方法を検討し、マニュアルを作成し各病棟へ周知徹底をおこない転倒予防につなげる事ができた。
- ・薬剤部、医事課とのカンファレンスをおこない、手術室看護師のコスト入力簡易化と時間短縮、コスト漏れ防止につなげた。
- ・SPD 委員会より定数見直し提案があった医療物品は、診療科や手術室看護師と検討をおこない、定数の見直しや削除をおこなった。

<学習と成長の視点>

- ・部署内勉強会15回おこない、10件は院外業者の勉強会で5件は手術室看護師による看護実践に関する勉強会を実施した。
- ・COVID19 陽性患者のシミュレーションを2回実施した。
- ・インシデントカンファレンスはレベルⅢ a 以上の事例2件のSHELL分析をおこなった。
- ・赤十字看護師登録1名。

外来：原田 香織 石黒 早苗

外来では慢性疾患看護専門看護師、がん化学療法看護認定看護師、がん放射線治療法看護認定看護師、皮膚・排泄ケア認定看護師、また、禁煙認定指導者、糖尿病療養指導士が勤務し、それぞれに専門性を発揮し活動している。

看護専門外来は、看護師主体の外来で、その療育で認定されている看護師が医師の指示のもとで、患者の自己管理能力の向上や、家族を含めた患者のQOLの支援に努めている。

看護専門外来での療養指導料の算定などは病院経営に貢献している。

外来における診療報酬算定件数

- ・禁煙外来：初回19件 2-4回45件 5回目12件
- ・糖尿病合併管理：167件
- ・在宅自己腹膜灌流指導管理：22件
- ・在宅療養指導：857件

- ・移植後患者指導管理：300 件
- ・在宅自己注射指導管理（月 27 回以下）：1217 件
- ・在宅自己注射指導管理（月 28 回以上）：2010 件
- ・がん患者指導管理イ：135 件
- ・がん患者指導管理ロ：355 件
- ・がん患者指導管理ハ：99 件

看護記録・監査委員会：川崎 知子

委員会ビジョンに「患者のための看護記録」「看護記録の標準化と簡素化」を掲げ、BSC のもと実施した。

「業務プロセスの視点」として①看護記録記載手順の整備、②看護記録監査の改定、③略語集の改定を行った。看護記録記載手順は院内インターネット上で閲覧できるよう整備し、新人看護職員や中途採用者への看護記録に係る指導場面で効果的に活用されている。今年度は、看護記録記載基準の改定、看護サマリー・看護記録監査表の改定に伴う手順の改定など、実施した改定内容に沿って手順の改定を行った。看護記録監査は昨年度から、現行の監査方法について課題や改善案の検討を行っており、今年度後半期に形式監査と質監査を区別した運用の実施に向けて新監査表を作成し運用を始めた。運用の実績と効果については次年度に評価する予定である。略語集改定は 2 年ごとに行っており、今年度は「看護師の記録に必要な略語」の視点で語彙数の縮小を図り 413 から 331 まで減少した。

「学習と成長の視点」では、看護記録監査に関する WEB 研修に委員 9 名が参加し知識の共有を図ることが出来た。

「顧客の視点」では、昨年度標準化し導入した転棟時サマリーの活用と推進に取り組んだ。転棟時にケアの継続に必要な要点記録として活用され、転棟時看護サマリーの作成に係る看護師負担は軽減されている。転院時サマリーの改定については、昨年度に退院時看護サマリーの枠組みを検討しており、今年度はそれに基づいたサマリー項目のパターン様式を改定した。改定したサマリー項目が活用され、地域の医療・介護連携先とのケア継続に必要な情報が適切に提供されているかの精査は次年度に継続とした。

「財務の視点」では、看護記録の効率化にむけて、記録に係る時間の現状、時間を要する記録の種類や内容を明確にするため、看護記録時間調査を実施した。多忙な看護業務への負荷を最小限にするため、調査項目・入力・調査表の工夫と検討を行った。調査の結果、看護記録時間全体の多くを経時記録・SOAP 記録に割いている一方で、看護計画評価やカンファレンス記録、患者状態の変化に応じた褥瘡リスク再評価の記録などは実績が極めて少なかった。看護記録の効率化を図り、患者状態の変化に応じた迅速な評価と記録記載に時間が配分されるよう次年度に改善を進めていく。

看護教育委員会：秋山 由衣

今年度は、集合教育とWEB研修を組み合わせた研修スタイルを企画した。研修企画の工夫としては、がん看護はシリーズ化し、各認定看護師・専門看護師が中心となって、どのがんの

病期においても一人の人間として見れるように、実際にあった1人の患者の症例を使って看護展開していく研修スタイルとした。実際に事例に関わった看護師が、多く研修の参加してくれた。また、ACP支援に関しては、集合研修とWEB研修両方実施し、全職員が多く視聴できるように工夫を行った。昨年度から引き続き、高齢者看護の強化に関しては、前年度から引き続き、高齢者の日常生活援助におけるアセスメント力の向上を目的とし、各部署から、それを担える看護師を選出し、1年間にわたり、知識の習得と、看護実践・リフレクションを繰り返す研修スタイルを実施した。年度末には、同じ部署の看護師を巻き込んで、一緒にアセスメントを考え、看護を実践することができるようになった。

また、看護補助者の業務手順を師長会で整備し、手順を活用し、係長を中心に、日常生活援助の技術習得の研修を各現場で行うことを今年度の初めての取り組みとして実践した。看護補助者が、看護師と協働し、安全な看護を提供出来るように、今後の日常生活援助の実践を継続的に観察していきたい。

看護研究委員会：高田 佳織

昨年度同様に今戸慢性疾患看護専門看護師に看護研究指導者として、看護研究および研修を実施した。また、8月には高槻赤十字病院看護部看護研究倫理審査委員会を設置し、規定や倫理審査手順書が策定された。臨床看護研究研修Ⅱの受講生のうち、院内倫理審査1組、看護部倫理審査6組、計13名が承認され、看護研究に取り組んだ。3月24日看護研究発表会で発表し、発表会は盛況であった。

臨床看護研究研修Ⅰでは、集合研修を計5回実施し、毎回8～11名参加した。研修評価は理解しやすいといずれの研修も好評であった。3月28日4組計8名が、6回目の研修として看護研究計画発表会を実施した。次年度、看護研究の倫理審査を経て看護研究に取り組む予定である。

看護研究委員の研究に対する知識・技術向上に向けて、上半期にナースングスキルの看護研究動画を聴講し、委員会で意見交換を実施した。また各部署で看護研究に関する風土の醸成を目指して、看護職への動画聴講を啓蒙した。令和4年4月～9月までの看護研究の動画講義(講義1～6)は延べ195回アクセス件数があった。次年度も、看護の質向上を目指して、看護研究に取り組むことを看護職へ啓蒙し、支援していきたい。

臨地実習委員会：南波 広美

引き続きコロナ禍の環境下で充実した臨地実習が行えるよう受け入れる側の環境を整えることができた。実習指導者のマニュアル作成し実際に活用。活用期間が少ないので来年度評価修正が必要となる。コロナの動向に注意し各自調べ学習し共有することができた。実際の実習状況を共有することで実習学生がいない部署委員も想像することができた。実習現場では実習一週間目はシャドイングを行い、指導者も実習生とコミュニケーションをとることで実習生を知ることができた。事前にコロナ禍の実習生であることをアナウンスし各病棟内で情報共有を行い、十分な実習ができていないことを理解し多忙な業務の中丁寧に指導する場面が見受けられた。

実地指導者研修参加予定 1 人だったが、体調不良にて参加できなかった。

委員会内で行った、ロールプレイから社会人としての接遇に関する態度、具体的に質問し、看護の楽しみを見せることが大切であると振り返ることができた

看護業務改善委員会：門脇 寛子

看護業務手順と今年度から検査手順の改訂に取り組んでいる。ナースィングスキルや学会・院内委員会など看護師の安全のため現状に則したものであるのか検討しながら行った。内視鏡関連 採血関連など委員会で検討を行い、医療・看護の変化、患者のニーズの状況、効率性に基づき、他部門の協力もあり、最終師長会で検討し改訂を行えた。

来年度は看護業務手順の改訂の完成と検査手順の改訂を引き続き行う予定である。今後各看護部委員会やリンクナース会からのファイルなど業務手順に掲載するのか検討する。

医療社会事業部

社会課

「わたしたちは、苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、いかなる状況下でも、人間のいのちと健康、尊厳を守ります」という日本赤十字社の Mission statement のもと日々業務をおこなっており、赤十字運動の担い手として、人道の実現のために利己心と闘い、無関心に陥ることなく、人の痛みや苦しみに目を向け、常に想像力をもって行動しています。

<令和4年度スタッフ>

渡部 悟（用度課長兼社会課長）

木野村 亨（社会係長）

■令和4年度実績（令和5年3月31日現在）

令和4年度日本赤十字社大阪府支部救護員（救護班要員）

救護班要員 41 名 医師 5 名、看護師長 5 名、看護師 10 名、助産師 1 名、
こころのケア 4 名、薬剤師 5 名、主事 10 名、補助 1 名

	第1班	第2班	第3班	第4班	第5班
医 師	小林 稔弘	平野 玄起	吉見 宏平	伊丹 康夫	松村大志郎
看 護 師 長	南波 広美	有持 由江	秋山 由衣	依藤 里香	森下かおり
看 護 師	里村 裕史	福場久美子	亀岡さつき	小笠原 舞	山内 洋平
	関岡 薫	竹下アキ子	辻 佳恵子	甲斐三保子	小松 歩未
主 事	吉田 桂	西村 大樹	濱田 敦	松山 佳央	阪本 達矢
	中尾 功一	松宮 源朗	河野 博文	木野村 亨	松井 里佳
薬 剤 師	小西 史子	濱武 清範	奥村 優介	宮西 将之	松本 弘誠
補 助	綱嶋 準				
こころのケア要員	高田 佳織・川崎 知子・門脇 寛子・井上 尚代				
助 産 師	原田 香織				

◆ 日赤災害医療コーディネーター

小林 稔弘、平野 玄起

日赤災害医療コーディネートスタッフ

綱嶋 準、橋本 龍

◆ 国際活動 国際救援・開発協力要員の登録状況

原田 香織

◆ こころのケア指導者

高田 佳織、川崎 知子、門脇 寛子、井上 尚代

◆ 赤十字救急法指導員

高田 佳織、石黒 早苗、田渕 美世、仲 砂千代、前田 敦子、山崎 孝子、
南波 広美、清田 絢子、村上美穂子、松岡 郷子、吉川 三保、濱田 健司、
亀岡さつき、谷森 涼子、友安 直美、有持 由江、町田 統麻

◆ 第2級陸上特殊無線技師

迫田 博史、篠田 隆史、佐橋 克哉、阪本 達矢、西村 大樹、山崎 孝子、
吉田 桂、河野 博文、濱田 健司、綱嶋 準

●令和4年度災害等救護員派遣

月 日	災害名 / 派遣場所	派遣者	人数
月日～月日			

●令和4年度災害対策訓練研修会等

【救護員研修会】

月 日	研修会名	参加者	人数
7月25日～ 8月31日	令和4年度 日本赤十字社大阪府支部救護員基礎研修（オンデマンド配信）	濱田 敦（リハビリテーション課） 杉田 健太（臨床工学技術課） 荻野 未来（人事課） 三明 葵（人事課） 守矢あゆみ（財務課） 友田 響（用度課） 町田 統麻（検査課） 竹下アキ子（看護師） 伊丹 康夫（整形外科副部長） 西岡 美穂（管理栄養士） 嶋 梅伽（看護師）	11
9月4日	令和4年度 日本赤十字社大阪府支部救護員実技研修会	濱田 敦（リハビリテーション課） 杉田 健太（臨床工学技術課） 荻野 未来（人事課） 三明 葵（人事課） 守矢あゆみ（財務課） 友田 響（用度課） 町田 統麻（検査課） 竹下アキ子（看護師）	8

【災害救護訓練】

月 日	訓練名	派遣先	参加者	人数
6 月 18 日	日本赤十字社第 4 ブロック合同災害救護訓練	奈良県田原元町	【スタッフ】 救急部長 岡本 文雄 看護副部長 高橋 晶子 薬剤部長 小島 一晃 地域医療連携三係長 綱嶋 準 社会課長 渡部 悟 社会係長 木野村 亨 【救護班】 血液腫瘍内科副部長 岡田 睦実 消化器外科 虫明 修 研修医 矢子 昌美 看護師長 有持 由江 看護係長 里村 裕之 看護師 関岡 薫 薬剤師 宮西 將之 放射線係長 中村 義隆 検査技師 町田 統麻 主事 友田 響	16
11 月 7 日	令和 4 年度近畿地方整備局・堺市合同総合防災訓練	堺泉北堺 2 区 基幹的広域防災拠点	消化器内科 松村大志郎 看護師長 秋山 由衣 看護師 福場久美子 竹下アキ子 臨床検査課長 吉田 桂 臨床工学技士 杉本 健太 社会係長 木野村 亨	7
11 月 24 日	2022 年度大阪国際空港航空機事故対策部分訓練	関西エアポート(株) 空港消防署 1 階 車庫内	救急副部長 中村 保清 看護師長 南波 広美 看護係長 亀岡さつき 看護師 小松 歩未 放射線係長 中村 義隆 理学療法士 濱田 敦 社会係長 木野村 亨	7
令和 5 年 1 月 29 日	市政施行 80 周年記念事業 高槻市全域大防災訓練	高槻市 安満遺跡公園	救急副部長 中村 保清 救急副部長 吉見 宏平 血液腫瘍内科副部長 岡田 睦実 看護師長 依藤 里香 看護師 辻 佳恵子 甲斐美保子 薬剤師 宮西 將之 地域医療連携一係長 山崎 雅樹 医事課入院係長 中尾 功一 社会係長 木野村 亨	10
令和 5 年 2 月 10 日	令和 4 年度国民保護共同実動・図上訓練	阪南港湾事務所 敷地内	救急副部長 中村 保清 看護師 小笠原 舞 社会係長 木野村 亨	3

赤十字救急法指導員（職員）研修会（大阪府支部にて開催）

5月24日 6月2日	赤十字救急法指導員研修	看護師長 石黒 早苗 看護師長 高田 佳織 看護師長 南波 広美 看護師長 前田 敦子 看護師長 亀岡さつき 看護師 田淵 美世 看護師 仲 砂千代 看護師 松岡 郷子 看護師 友安 直美 看護師 村上美穂子 看護師 清田 絢子 作業療法士 山崎 孝子	12
6月17日	幼児安全法・健康生活支援講習指導員研修会	看護係長 橋本 龍 看護係長 亀岡さつき 看護師 工藤ゆかり 看護師 仲 砂千代 看護師 末廣 悦子 看護師 濱田 恵	6

●令和4年度赤十字救急法基礎・養成講習会＋指導員研修（高槻赤十字病院開催）

月 日	受講生	人数
令和4年 9月24日 10月1日 10月2日	【受講者】 町田 統麻、武貞 美咲、竹下アキ子、井上晶弓美、浅川真菜実、河野 紗月 高橋 伸治、石谷 育代 【指導員】 石黒 早苗、仲 砂千代、友安 直美、前田 敦子、田淵 美世、山崎 孝子 南波 広美、清田 絢子	16

赤十字救急法救急員指導員派遣（支部にて開催）※養成1→養成1日目、養成2→養成2日目

月 日	参加者
令和5年 3月15日～16日	看護師長 高田 佳織 看護師 松岡 郷子

幼児安全法講習指導員派遣

月 日	参加者
7月6日	看護係長 亀岡さつき

健康生活支援講習 講師派遣

高槻市如是公民館 会議室2、3

7月21日	看護係長 橋本 龍、看護師 仲 砂千代
7月27日	看護師 濱田 恵
8月4日	看護師 末廣 悦子
8月18日	看護師 工藤ゆかり

高槻市立奥坂コミュニティセンター 1階大会議室

10月5日	看護係長 橋本 龍
10月12日	看護師 濱田 恵
10月19日	看護師 工藤ゆかり

10月26日	看護師 末廣 悦子
11月2日	看護師 仲 砂千代

令和3年度ボランティア等受入れ・参加

月 日	項 目	人数
令和4年度	グリーンボランティア活動（毎水曜日 10:00-12:00）	-
4月6日	新採用職員研修災害救護倉庫見学	13
5月15日	令和4年春季環境美化推進デー	2
5月19日	移動採血車来院	22
5月25日	ANA グループ客室乗務員による「すずらんのお見舞い」（COVID-19 感染対策のためすずらんのみ配送）	
8月25日	移動採血車来院	7
10月18日	薬剤師実習生研修災害救護倉庫見学	3
10月20日	移動採血車来院	22
11月20日	令和2年秋季環境美化推進デー（雨天のため中止）	1
1月19日	薬剤師実習生研修災害救護倉庫見学	2

中学生実習職業体験受入

月 日	項目	人数
	COVID-19 感染対策のため中止	

その他（ ）内前年度

令和4年度 赤十字社員増強運動実績 329人 219,000円（377人 260,009円）
 令和4年度 NHK海外たすけあい義援金実績 9,150円（7,404円）
 活動義援金 20,4694円（266,615円）

（令和4年度糖尿病教室）

月 日	テーマ	講師	参加者
4月12日	コロナ禍での糖尿病との付き合い方（WEB）	糖尿病・内分泌・生活習慣病科部長	2
6月7日	コロナ禍での糖尿病との付き合い方（WEB）	糖尿病療養指導士（看護師）	希望者 0
7月12日	コロナ禍での糖尿病との付き合い方	糖尿病療養指導士（看護師）	中止
	COVID-19 感染対策のため中止		

（令和4年度市民公開講座）

月 日	テーマ	講師	参加者
	コロナのため、開催できず		

患者支援センター

大中 玄彦	(総合診療科部長兼患者支援センター長)
北 英夫	(呼吸器内科部長兼患者支援副センター長)
小林 稔弘	(乳腺外科部長兼患者支援副センター長)
原田かおる	(看護副部長兼患者支援副センター長)
西浦 美香	(看護部付看護師長)
工藤ゆかり	(看護部付看護師 退院支援担当)
矢野原綾香	(看護部付看護師 退院支援担当)

地域医療連携課

<スタッフ>

眞清水裕子	(地域医療連携課長)
遠藤美智子	(地域医療連携一係長)
山崎 雅樹	(地域医療連携二係長)
綱嶋 準	(地域医療連携三係長)
大迫 明子	(主事)
宮前 弥生	(嘱託主事)
陰地 弘美	(派遣職員)
山本 裕恵	(入退院支援係長)
小石原好江	(主事)
宇田 聡	(主事)
三好 里沙	(主事)

(入退院支援看護師)

山本 裕恵	看護師 (兼任)
澄川 裕恵	看護師
岩田 佳美	看護師 (看護部付)

<令和4年度活動実績>

- ・地域医療連携課で取り扱った電話依頼件数は7,859件で、前年度8,433件に比し574件減少した。
- ・新規の紹介患者数は5,449件で、前年度5,613件に比し164件減少、逆紹介は6,365件で前年度4,528件に比し、1,837件の大幅増加となった。
- ・新型コロナウイルス感染症のPCRオープン検査は、409件で前年度1,167件に比し758件の減少となった。
- ・近隣病院・登録医への訪問は440件で、前年度194件に比し246件増加した。なお、医療職同行訪問は92件で、前年度22件に比し70件増加した。

- ・新規開業・継承等される施設への登録医訪問を行った。
- ・令和5年2月18日、ホテルグランヴィア京都において、登録医との親睦を図る目的で「地域連携の会」を開催した。
- ・登録医向け Web 講演会を開催した。

開催日	座長／演者	演題	参加人数
7月27日	高田 潤 (ただだクリニック院長) ／伊丹 康夫	いわゆる五十肩と肩の外傷に対する 当院での治療方針	20名
12月15日	中 禎二 (なかクリニック院長) ／神田 直樹	消化管腫瘍の内視鏡治療 TOPICS	15名

- ・患者さん向け市民公開講座を開催した。

開催日	演者	演題	参加人数
11月19日	中川 朋一	認知症と間違われるてんかん	49名
	片山 博視	小児の事故予防	
	神田 直樹	消化管腫瘍の内視鏡 -ESD-	
	濱武 清範	進化するがん化学療法	
	松本 弘誠	知っておきたい新興感染症	

- ・患者さん向けがん患者サロンを開催した。

開催日	テーマ	参加人数
9月7日	Zoom 初試みのためフリートーク	1名
11月19日	患者さんによる情報・意見交換会	5名

- ・患者さん向け出前講座を開催した。

開催日	場所	テーマ	参加人数
10月27日	大阪府立茨木西高等学校	がん教育講演	231名
11月2日	高槻市第二中学校	がん教育講演	259名

令和4年度研修会等開催実績

- ・公開消化器カンファレンス 9回
(4/13、5/11、6/8、7/13、10/12、11/9、12/14、2/8、3/8)
- ・公開呼吸器カンファレンス 8回
(4/21、5/19、6/16、7/21、10/20、11/17、2/16、3/16)

◆共同診療については、新型コロナウイルス感染症に影響により今年度は0件であった。

<令和5年度活動目標>

I 地域の人々に安全・安心な医療地提供のために継続的に地域医療・院内の連携に努める

財務に関する事項	地域医療支援病院の継続	① 紹介率 65%以上・逆紹介率 40%以上 ② 地域支援病院に関する研修の実施
	登録医訪問の強化	① 紹介患者の増加 ② 当院の担当医師と共に訪問活動を強化
	がん診療拠点病院の獲得	① 承認事項の実施 ② がん患者・家族に沿って支援強化
	紹介率のアップ	① 未登録医への訪問 ② 近隣病院・登録医への年2回定期訪問
	がん連携パスの増加	① 大阪府がん診療連携パスの推進 ② がん疼痛緩和ケア地域連携パス運用に関する支援強化
顧客に関する事項	紹介患者の受入の迅速化	① 予約依頼から5分以内返答の徹底
	登録医の期待に応える	① 返書率 100% ② 逆紹介の推進
内部プロセスに関する事項	登録医からの紹介の断診 0%	① 当日緊急依頼の即応需化 ② オープン検査結果等の返書率 100% ③ 紹介状況の把握を行う（月次報告）
	地域医療連携業務の強化	① 開放病床利用率の増加

II 個々の専門性を活かした質の高い情報の提供と自己研鑽を行う

戦略に関する事項	個々の専門性を発揮し医療連携、患者支援の質の向上を図る	① 院内院外への研修に積極的参加 ② 患者支援サービスについて内容検討 ③ 課内の情報共有強化の実施
----------	-----------------------------	--

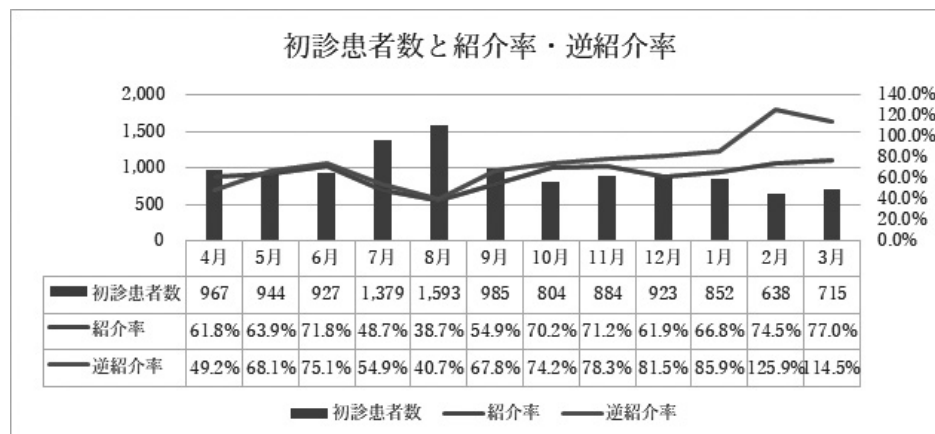
III 令和4年度の紹介率と逆紹介率

年間 紹介率 60.6% 逆紹介率 70.8%

※令和3年度に対して、紹介患者数は52人増加、逆紹介患者数は1,837人増加した。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、初診患者数が増加したことで紹介率は減少した。逆紹介率は、医師の退職に伴い大幅に増加した。

初診患者数 11,611 人のうち、新型コロナウイルス感染症関連患者数は 3,406 人であった。



<スタッフ>

志水 陽子（医療福祉相談係長・社会福祉士）

信本 愛（医療社会事業司・社会福祉士）

大島由起子（医療社会事業司・社会福祉士）

中野 慶子（医療社会事業司・社会福祉士）

<特 色>

医療福祉相談係では、ソーシャルワークを担当しており、厚生労働省の業務指針に基づき、①療養中の心理的・社会的問題の解決・調整援助、②退院援助、③社会復帰援助、④受診・受療援助、⑤経済的問題の解決・調整援助、⑥地域活動を行っている。

具体的に MSW が行っている業務を以下に示す。

- * 患者・家族と面接しアセスメント、ニーズの把握をする。
- * 転院・入所先の担当窓口と連絡・調整を行う。
- * 在宅支援関係職種や行政と連絡・調整を行う。
- * 多職種カンファレンスの開催調整・参加（日時調整、司会進行、記録など）
- * 社会資源の紹介、情報提供を行う。
- * 社会資源活用にあたって、必要文書の作成依頼や処理、管理など
- * 社会資源活用にあたって担当窓口と連絡・調整を行う。
- * 院内各職種と連携（各種カンファレンスへの参加、患者・家族の通訳的役割や院外関係者と院内関係者との仲介など

また、当院は府指定のがん診療拠点病院に指定されており、がん相談支援センターでの業務も、医療ソーシャルワーカーが、がん看護専門看護師や緩和ケア認定看護師とともに、がん相談支援センター相談員を兼務することで継続した。

令和4年度医療ソーシャルワーカーは4名配置されており、原則、病棟ごとにケースを担当した。前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の感染状況に応じて病棟の編成も変則的になったが、入退院支援看護師や退院調整看護師とともに担当の病棟の退院支援計画カンファレンスに参加し、入退院支援加算1を算定した。その他、外来ケースにも対応している。

また、地域との連携や自己研鑽のため、三島圏域リハビリテーション連絡会や、大阪医療ソーシャルワーカー協会、三島圏域ソーシャルワーカー連絡会、全国赤十字医療ソーシャルワーカー協議会等に所属し、研修活動などに参加している。特に志水は三島ソーシャルワーカー連絡会代表、さらに全国赤十字ソーシャルワーカー協会の研修担当の理事として、資質向上をはかるための職能団体を牽引している。

前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の感染予防の対策のため、書面やオンラインにて参加の継続が主となっていたが、徐々に再開された集合研修にも参加をおこなった。

<令和4年度の活動実績>

従来、「全国赤十字医療ソーシャルワーカー協議会」の日報・月報様式を使用し、活動実績を集計してきたが、令和3年度より新様式に変更となり、当係でも新様式を使用した。

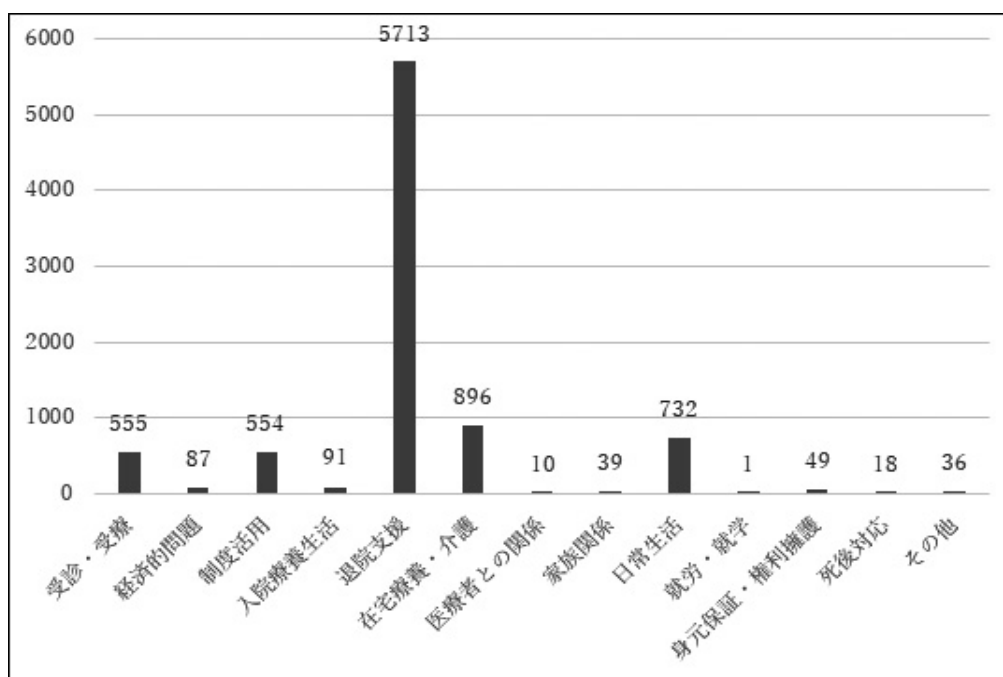
◇年度実人数・・・計 1,765 名

◇対応した問題件数（1 問題 1 ケースとしてカウントしたため延べ相談件数となる）

計 7,484 件

以下に、①援助内容、②援助方法、③社会的背景、④新ケースの紹介経路をグラフに示す。

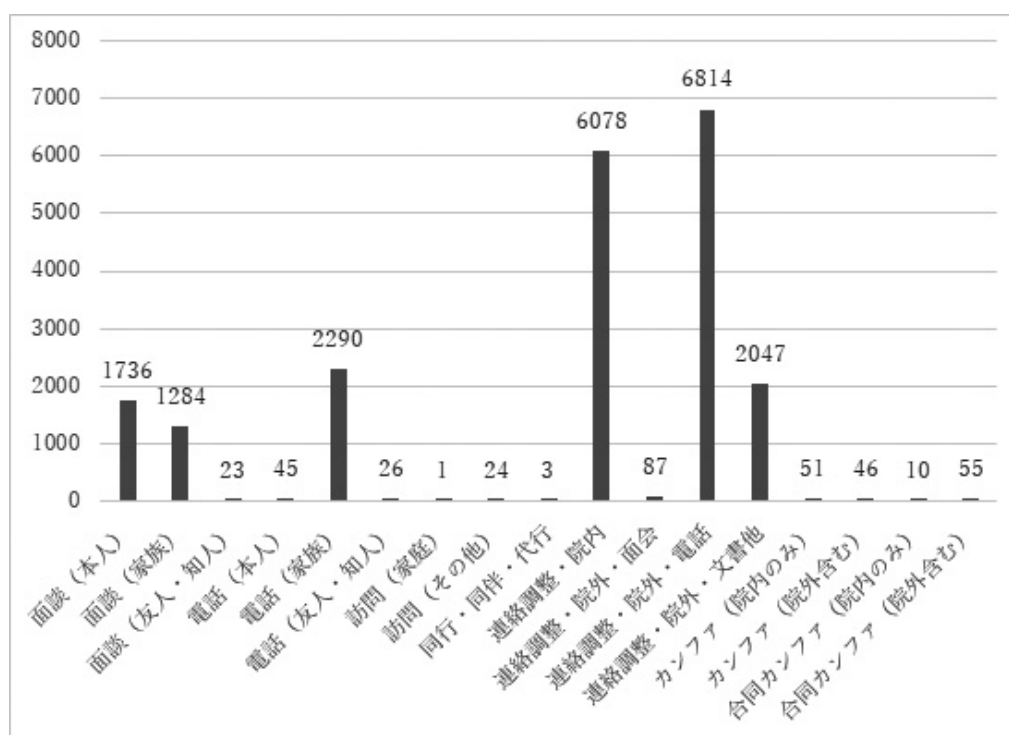
① 援助内容（延件数として計上 単位：件 n = 8,781）



援助内容では、退院支援が全体の6割5分以上を占めている。このことは、医療ソーシャルワーカーの業務のうち退院支援にかかる業務の特徴や必然性を示している。また、在宅療養・介護、制度活用、受診・受療に関する項目もそれぞれ1割近くあり、令和3年度よりも外来患者の在宅療養支援ケースも増加していることを鑑みると、昨今の在院日数の短縮化や早期に在宅サービス導入を検討する際の重要な役割を医療ソーシャルワーカーが担っているといえる。

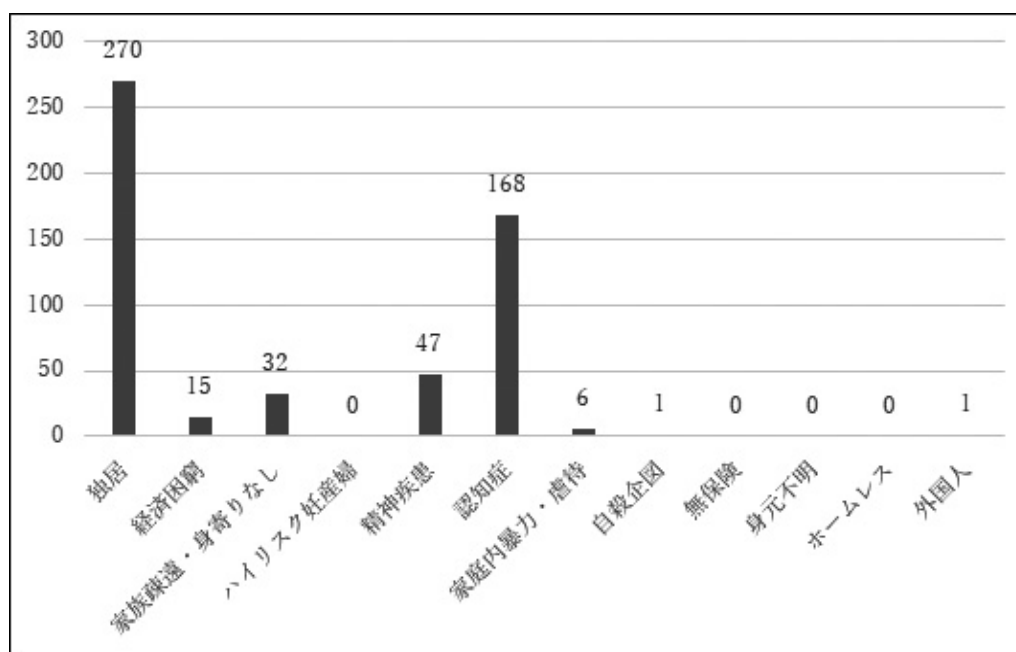
退院支援は在院日数を短縮や、ベッドの効率的な回転を促進するために、当院では最優先すべき項目であるが、医療ソーシャルワーカーが後方の受け入れ先の確保や地域の社会資源との連携に努めることはもちろんのこと、それに専念できるよう、制度の説明や単なる事務作業については他部署と役割分担していくことが課題となっている。また、特徴的なものとして、日常生活への援助が732件、身元保証・権利擁護が49件、死後対応が18件ある。これは独居や身寄りのない患者への対応が増えていることを示している。後見人や行政との連携も医療ソーシャルワーカーが担っており、今後、社会的背景と連動してこれらの件数は増えていくと思われる。

② 援助方法（複数カウント 単位：件 n = 20,620 件）



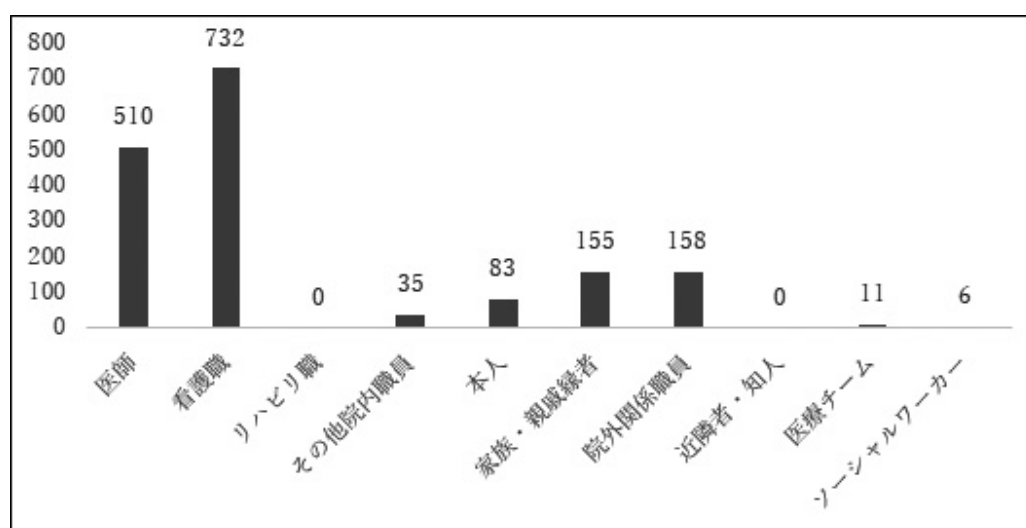
援助方法としては、電話・文書での院外との連絡調整が約7割を占める。コロナ禍ということもあり、対面で関係機関と面会した件数は87件、退院前カンファレンスは55件という結果になっている。家族との相談も少しずつ面談が増えてきているものの、面会によるものより電話による方法の方が多くなっている。今後はオンラインによる連携も積極的に取り入れていくことが課題となっている。

③ 社会的背景（対象のみ計上 単位：件 n = 540 件）



「社会的背景」は前回の年報様式から新たに付け加えられた項目である。独居が全体の5割ある。次いで、認知症が3割を占めている。昨年度よりもほんの少しであるが確実に増加している。独居と家族疎遠・身寄りなしが重なるケース、さらに認知症が加わっている場合もある。こうしたいわゆる困難ケースが今後も増えていくことは予想され、退院支援や死後対応など、より一層地域との連携や医療ソーシャルワーカーのスキルアップが課題となっている。

④ 新ケースの紹介経路（実件数 単位：件 n = 1,690 件）



新ケースの紹介経路としては、看護師からの紹介が4割、次いで医師からが3割である。院外関係機関からの紹介も1割近くあり、医療ソーシャルワーカーがケアマネジャーや訪問看護師等、地域の社会資源との窓口となっていることを示している。院外関係機関からは、院内では把握できない患者の環境や問題点など入院生活に影響する情報提供や課題提供も多く、スムーズに退院支援につなげられるよう連携していくことが課題となっている。

退院調整には院内外の関係者によるチームでのかわりが不可欠であり、当院の中でも定着してきている。医療ソーシャルワーカーは地域連携の窓口という役割も果たしており、患者・家族と社会資源だけでなく、院内外の関係職種の連携そのものを橋渡ししているといえる。

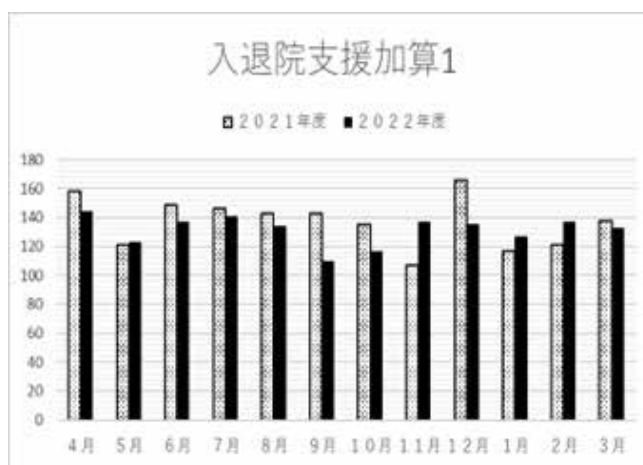
当院は令和元年11月より、入退院支援加算1を適用しており、病棟の看護師・退院調整看護師・入退院支援看護師・医療ソーシャルワーカーが共同して週2回ずつ各担当病棟にて退院調整計画カンファレンスを行い、該当患者に退院支援計画書を作成した。

介護支援等連携指導料は、病院を訪問したケアマネジャー等に情報提供を行うことで算定できるが、これについてはコロナ禍における感染拡大防止対策のためケアマネジャーの事業所自体が医療機関への訪問を禁止など、昨年度よりさらに減少している。これに関してもオンラインでの連携を推進していきたい。

入退院支援加算算定件数（令和３年度・令和４年度の比較 単位：件）

入退院支援加算 1

	2021年度	2022年度
4月	158	144
5月	121	123
6月	149	137
7月	146	141
8月	143	134
9月	143	110
10月	135	117
11月	107	137
12月	166	135
1月	117	127
2月	121	137
3月	138	133
	1,644	1,575



総件数 令和３年度：1,644件 令和４年度：1,576件

点数 令和２年度：1,640件×600点＝984,000点

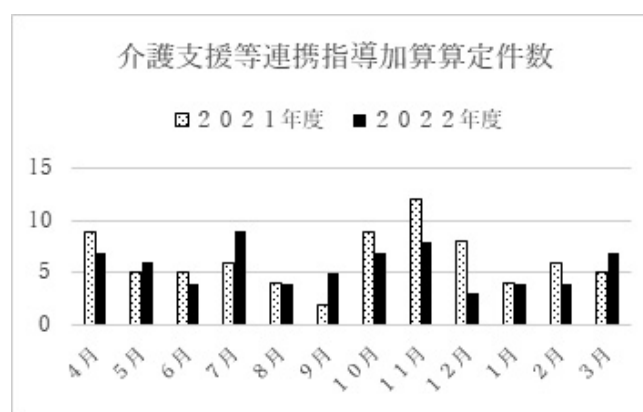
令和３年度：1,644件×600点＝986,400点

令和４年度：1,575件×700点＝1,102,500点

介護支援等連携指導加算算定件数（令和３年度・令和４年度の比較 単位：件）

介護支援等連携指導料

	2021年度	2022年度
4月	9	7
5月	5	6
6月	5	4
7月	6	9
8月	4	4
9月	2	5
10月	9	7
11月	12	8
12月	8	3
1月	4	4
2月	6	4
3月	5	7
	75	68



総件数 令和３年度：75件 令和４年度：68件

点数 令和３年度：75件×400点＝30,000点

令和４年度：68件×400点＝27,200点

入退院支援加算1の施設基準として、当院が連携医療機関または介護サービス事業所等の職員と退院支援、地域連携職員が、25 か所以上の医療機関・介護事業所と年3回以上の頻度で面会し、転院・退院体制について情報の共有等を行う必要がある。この件については、令和4年4月～令和5年3月においては28か所の連携機関と面会にて転院・退院体制について情報の共有を行った。年3回未満の面会については147か所もあり、そのうち年2回面談しているところは26か所あるため、今後も積極的にオンラインなども含め連携をとる必要があると考える。

また、当院は平成29年度より認知症ケア加算1の施設基準を取得しており、医療ソーシャルワーカーも2名、専任として認知症ケアサポートチームに所属し、週1回のカンファレンスに参加した。その他、心臓リハビリテーションカンファレンスや外科カンファレンス、適正な退院促進カンファレンスにもチームの一員として参加した。

上記件数以外にがん相談支援センターの相談業務も兼務で行っているが、それについては「がん相談支援センター」の項目で活動報告を行う。

<令和5年度の活動目標>

1. 退院支援、地域連携の強化

- ① 適正な退院促進のため、院内外連携の強化と後方受け入れ先の確保に努める。
後方受け入れ先の機能や種類について、院内職員や患者・家族への可視化を行う。
- ② ケアブック導入に伴い、退院支援の効率化をはかる
- ③ 近隣の関係施設や医療機関への訪問を随時行い、訪問が困難な場合は、オンラインでの連携も推進していく。
- ④ 地域関係機関の活動や会議に出席し、情報収集に努める。

2. 業務量の適正化

院内他部門との連携をよりいっそうはかり、役割分担を明確にしていく。

3. 人材確保

後進の育成も含め、医療ソーシャルワーカーの増員・新規雇用について上層部と相談していく。

【医療社会事業司 信本 愛】

<スタッフ>

西川 亜紀子（がん看護専門看護師）（※）
藤原 和子（緩和ケア認定看護師）（※）
志水 陽子（医療ソーシャルワーカー 社会福祉士）（※）
信本 愛（医療ソーシャルワーカー 社会福祉士）（※）
大島由起子（医療ソーシャルワーカー 社会福祉士）
中野 慶子（医療ソーシャルワーカー 社会福祉士）
小島 一晃（薬剤部長 日本医療薬学会がん指導薬剤師）
（※）はがん相談支援センター相談員基礎研修（1）～（3）修了者

<特 色>

当院は大阪府指定のがん診療拠点病院に指定されている。がん相談支援センターの業務として、がんに関する一般的な情報提供、がん患者の療養上の相談、患者サロンの定期開催等の患者活動に対する支援などがある。当院では、がん相談の対象を院内外のがん患者・家族とし、いつでも気軽に相談できるように面談は予約なしで受けられる体制を整えている。相談内容に応じて、がん看護専門看護師・緩和ケア認定看護師および医療ソーシャルワーカーがそれぞれ兼務で対応し、必要時には院内外の職種とも連携している。当院は緩和ケア病棟を有するため、緩和ケアおよび緩和ケア病棟に関する相談が多く、緩和ケア病棟入院相談（緩和ケア病棟担当医が行う外来の予約を含む）については医療ソーシャルワーカーが担当している。また、がん患者サロンについては令和3年度と同様、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策のため、対面でのサロンの開催を休止にせざるを得なかったが、新たな試みとしてオンラインでのがん患者サロンを実施した。三島医療圏のがん拠点病院合同事業にも参加した。

<令和4年度の活動実績>

コロナ禍において、病棟業務や発熱外来への応援も行いながら室内の換気を行い、手指消毒、マスク着用を徹底したうえで相談業務を行った。

1. 相談支援

1) がん相談支援センターでは、ホームページ等で以下のように案内し、相談支援を行った。

・対象

がん患者・家族（他院通院中の方も可、匿名可）

・相談にかかる費用

無料 セカンドオピニオンについては有料

・受付日時

毎週 月曜日～金曜日 9時～16時

※予約不要であるが予め電話等で予約していただければ確実に対応できるとご案内している。

・相談員

がん看護専門看護師、緩和ケア認定看護師・医療ソーシャルワーカー。うち4名はがん相談支援センター相談員基礎研修（1）～（3）を修了している。

2）相談総件数（令和4年4月～令和5年3月）：計件（月平均件）

平成30年1月より厚生労働省科学研究「がん対策における進捗管理指標の策定と計測システムの確立に関する研究班」が作成した相談記入シートに合わせて相談内容や対応内容の入力項目を追加している。

[月別件数]

年月	令和 4 年									令和 5 年			計
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
相談件数	54	60	59	52	40	48	31	53	39	55	78	92	661

相談内容、対応内容は一つの相談で複数の内容があるが、以下に「最も比重の大きいもの」と、参考までに「複数件数」を表で示す。

令和4年度相談内容

相談内容	最も比重の大きいもの	参考）複数件数
がんの治療	26	68
がんの検査	0	4
症状・副作用・後遺症	11	20
セカンドオピニオン（一般）	0	6
セカンドオピニオン（受入）	0	1
セカンドオピニオン（他へ紹介）	0	0
治療実績	0	0
臨床試験・先進医療	0	0
受診方法・入院	190	213
転院	40	81
医療機関の紹介	4	14
がん予防・検診	0	0
在宅医療	28	66
ホスピス・緩和ケア	73	213
食事・服薬・入浴・運動・外出など	7	26
介護・看護・養育	149	273
社会生活（就労・仕事・就学・学業）	1	10
医療費・生活費・社会保障制度	16	36
補完代替療法	0	1
生きがい・価値観	0	6
不安・精神的苦痛	59	108
告知	9	25
医療者との関係・コミュニケーション	3	10
患者－家族間の関係・コミュニケーション	0	19
友人・知人・職場の人間関係・コミュニケーション	0	0
患者会・家族会（ピア情報）	1	2
グリーフケア	0	6
不明	0	0
その他	13	19

相談内容で最も比重の大きいものは上位から順に「受診方法・入院」が190件（30%）、「介護・看護・養育」が149件（23.6%）、「ホスピス・緩和ケア」が73件（11.5%）であった。（母数：630件）複数件数でもこの3項目が上位に入っているが、「不安・精神的苦痛」「がん治療」「転院」「在宅医療」など1つのケースの中に複数の相談項目があり、1回の相談につき複数の問題に対応していることがわかる。

令和4年度対応内容

対応内容	最も比重の大きいもの	参考）複数件数
傾聴・語りの促進・支援的な対応	103	154
助言・提案	67	167
情報提供	124	241
自施設受診の説明	199	220
他施設受診の説明	12	26
自施設他部門への連携	21	85
他施設への連携	70	120
ピアサポート機能の紹介	1	3
苦情・要望への対応	0	1
判断不明	0	4
その他	21	23

対応内容で最も比重の大きいものは上位から順に「自施設受診の説明」が199件（32%）、「情報提供」が124件（22.6%）、「傾聴・語りの促進・支援的な対応」が103件（16.6%）であった。（母数：618件）自施設受診の説明は、当院緩和ケア病棟への入院相談がほとんどである。しかし、自施設受診の説明と同時に傾聴や助言、情報提供なども行っているため、複数カウントすると、情報提供数の件数が一番多い。

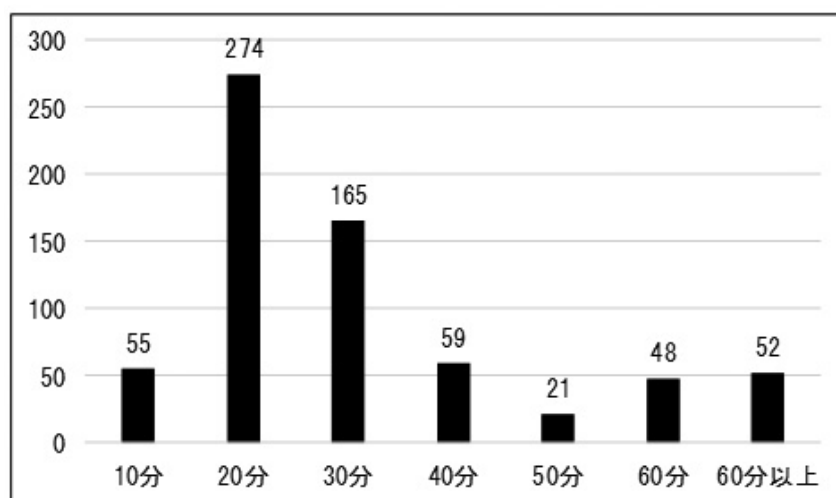
相談対象者のがんの部位は、転移等を除いた主のもので、肺が118名（19%）で最も多く、以下、大腸が77名（12.4%）、膵71名（11.4%）、肝・胆44名（7%）、乳房43名（6.9%）、であった。（母数：619件）。

がんの部位	最も比重の大きいもの	参考）複数件数
肺	118	235
大腸	77	87
膵	71	80
肝・胆	44	152
乳房	43	54
血液・リンパ	41	86
腎・尿管・膀胱	38	46
胃	33	45
耳鼻咽喉・口腔	24	29
眼・脳・神経	18	43
骨・軟部組織	18	92
希少がん	15	15
卵巣・膣・外陰部	13	16

前立腺	13	17
子宮	10	14
後腹膜・腹膜	10	36
不明	9	6
食道	8	20
その他	4	9
原発不明	4	7
副腎	2	3
皮膚	2	11
中皮腫	2	4
診断なし	1	1
小腸・肛門	1	2
精巣	0	0
縦隔・心臓	0	1
甲状腺	0	0

相談にかかった時間は 20 分が一番多く (274 件 40.6%)、次いで 30 分 (165 件 24.4%)、40 分 (59 件 8.7%) であった (母数: 674 件)。平均時間は 31 分である。

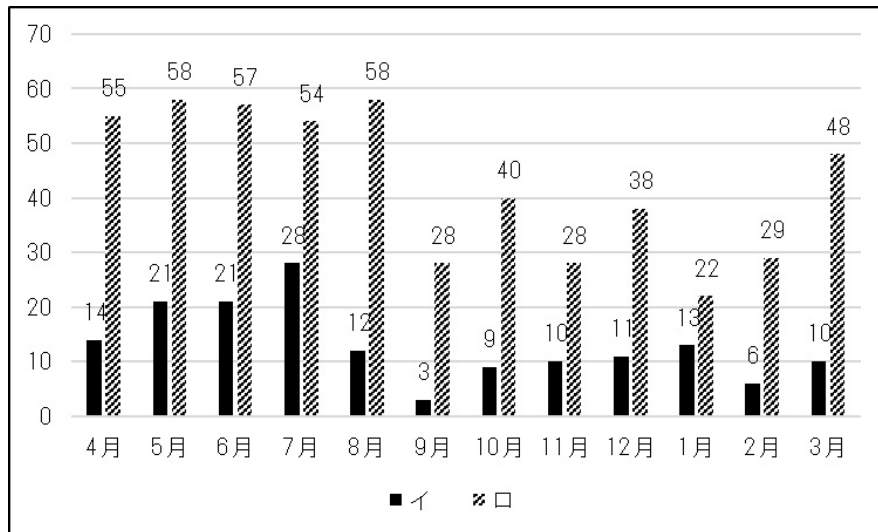
相談対応時間



相談者の受診状況は、自施設入院中が 261 名 (40.3%)、自施設通院中が 119 名 (18.3%)、他施設入院中が 135 名 (20.8%)、他施設通院中が 119 名 (18.3%) であった。(母数: 647 件) 当院は緩和ケア病棟があり、そちらへの入院相談や緩和ケアそのものの相談を受ける機会も多く、他施設のがん患者や家族の相談に対応する割合が 4 割近くあるということは特徴の一つである。

コロナ禍の影響もあり、がん相談支援センターの相談件数が伸び悩んでいるという現状であったが、がん看護専門看護師や緩和ケア認定看護師等が対応するがん患者指導管理料イ・ロの算定件数については、がん相談の件数には計上していなかったということも理由の一つであった。

参考) 令和 4 年度がん患者指導管理料イ・ロ月別算定実績



○がん患者指導管理料イ

医師が看護師と共同して診療方針等について話し合い、その内容を文書等により提供する。

○がん患者指導管理料ロ

医師、看護師または公認心理士が心理的不安を軽減するための面接を行う。

2. がん患者サロン

新型コロナウイルス感染症感染予防対策のため、前年度に引き続き令和 4 年度のがん患者サロンも対面では休止とし、オンラインでのがん患者サロンを試みた。

- ① 令和 4 年 9 月 7 日 (水) 14:00 ~ 15:00 ZOOM にて実施。3 名の申込みがあったが当日キャンセルがあり、結果的に 1 名の参加であった。
- ② 令和 5 年 2 月 8 日 (水) 14:00 ~ 15:00 ZOOM にて実施予定であったが申込者ゼロという結果に終わった。

オンラインでのがん患者サロンが定着しなかった理由として、当院のがん患者は高齢者も多く、パソコンやスマートフォンの操作やオンラインでの会話に慣れていないということが考えられる。次年度は状況を確認しながら対面でのサロンを再開したい。

3. 三島医療圏がん拠点病院合同事業への参加

三島医療圏には国拠点の大阪医科薬科大学病院、府拠点の当院、北摂総合病院、高槻病院、第一東和会病院の 5 病院ががん拠点病院に指定されており、共催という形で以下の事業に参画した。

① 合同がん患者サロン

日時：令和 4 年 11 月 19 日 (土) 10:00 ~ 11:30 オンラインにて開催

がん患者、家族計 5 名が参加された。内訳は当院から 1 名、高槻病院から 1 名、大阪医科薬科大学病院から 3 名であった。

② がん治療と仕事の両立支援講演会

第 1 回

日時：令和4年12月10日（土）14：00～15：30 オンラインにて開催

対象：がん患者、その家族、一般の方

第2回

日時：令和5年3月2日（木）17：30～19：00 オンラインにて開催

対象：医療関係者

4. がん教育講演会への講師派遣事業への協力

教育委員会からの要請で三島圏域の中学校・高等学校に西川 CNS が講師として派遣された。

- ① 大阪府立茨木西高等学校 令和4年10月27日（木）13：30～14：20 2年生対象

テーマ：がん予防とがん治療における緩和ケア

参加者：生徒231名、教職員の参加人数不明

- ② 高槻市立高槻第二中学校 令和4年11月2日（水）13：35～14：45 2年生対象

テーマ：がんという病気の概要

参加者：生徒244名、教職員15名

5. 患者図書コーナー

平成22年9月より1階フロアに開設している。開館時間は9時～15時であり、管理は診療情報管理課が行っているが、令和4年度も新型コロナウイルス感染症感染予防対策のため閉鎖した。がん相談支援センターからは、がんに関する研修会のチラシや患者会発行の機関誌が提供された際に図書コーナー外側に配架し周知した。

6. 広報活動

- ① がん相談支援センターのリーフレットを関連部署に配架した。

- ② 厚生労働省からの周知協力依頼に基づき、「がん検診月間」である10月に、がん検診受診率50%達成にむけてのポスターを作成し、院内とシャトルバス内に掲示した。

7. 大阪府がん診療連携協議会相談支援センター部会、三島医療圏がん診療ネットワーク協議会相談支援センター部会に参加した（いずれもオンライン）

<令和5年度の活動目標>

1. がん患者サロンの対面開催を検討する。

新型コロナウイルス感染症の状況を確認しつつ、感染防止対策を徹底したうえで、がん患者サロンの再開を検討する。

2. 相談対応の質の担保

がん相談支援センター相談員基礎研修（1）～（3）未修了者の受講を推奨していく。

3. がん拠点病院における相談支援センターの設置要件等に注視し、必要要件を整備していく。

【医療福祉相談係長 志水陽子】

訪問看護ステーション

<スタッフ>

看護師：原田かおる（管理者）、豊田 典子、木村 淳子、鈴木 恵子、北田 佑美
上原加奈子、廣瀬 友紀、今村 利恵（7月よりパート）、森 彩子
理学療法士：行本 鉄平 事務：本間 幸美

入職 令和4年 2月 三品 永理
令和4年 10月 上原加奈子
令和5年 2月 廣瀬 友紀
退職 令和4年 4月 三品 絵里

<特色>

高槻赤十字病院は「大阪府がん診療拠点病院」「地域医療支援病院」であり、強いバックアップのもと緩和ケア病棟や緩和サポートチーム等と連携し、エンド・オブ・ライフ・ケアに取り組んでいる。専門看護師、認定看護師等と協働しながら、療養支援に取り組んでいる。

各種指定：[医療保険] 24時間対応体制加算、特別管理加算、ターミナルケア加算
機能強化型訪問看護管理療養費3（令和2年3月）
[介護保険] 指定訪問看護事業（令和2年4月～令和8年3月）
指定予防介護訪問看護事業（平成30年4月～令和6年3月）
緊急時訪問看護加算、特別管理加算、ターミナルケア加算、
サービス提供体制加算

公費負担制度：原爆医療、労災（平成7年9月～）
生活保護医療（令和2年4月～令和8年3月）
難病指定医療（平成27年1月～令和8年12月）
指定小児慢性特定疾病医療（平成27年1月～令和8年12月）
指定自立支援医療（平成27年8月～令和9年7月）

<R4年度の活動実績>

1. 利用者数統計 （ ）内前年度
（1）営業日数 243日（前年度242日）
（2）利用者実数 1,052人（1154人）

	医療	介護	合計
延べ訪問件数	1,159 (1,635)	4,348 (4,525)	5,507 (6,180)
リハビリ（再掲）	317 (383)	650 (712)	967 (1,095)

介護保険・予防給付内訳

介護保険	予防給付	介護給付	合計
30 分未満	382 (499)	992 (942)	1,374 (37%)
60 分未満	161 (225)	1,611 (1,570)	1,772 (48%)
90 分未満	4 (27)	548 (572)	552 (15%)
合計	547 (751)	3,151 (3,084)	3,698 (3,835) 100%

(3) 新利用者数・終了者数

	医療	介護	合計
新利用者数	20 (33)	25 (39)	45 (72)
終了者数	23 (37)	34 (46)	57 (83)

(4) 終了者内訳

	医療	介護	合計
軽 快	3 (2)	11 (16)	14 (18)
医療機関入院	1 (6)	4 (5)	5 (11)
施設等入所	0 (1)	2 (8)	2 (9)
死 亡	19 (27)	13 (14)	32 (41)
その他	0 (1)	4 (3)	4 (4)

※在宅での死亡者 14 名 (7 名)

2. 24 時間体制利用

利用患者数	121 (106)
利用延べ回数	183 (173)
訪問回数	69 (78)

3. 地域との連携

(1) 連携している医師の所属先

・地域の開業医 27 施設 ・他病院 75 施設 ・当院医師 49 名

(2) 連携している居宅介護支援事業所

・39 事業所

4. 事業計画

令和 4 年度 事業計画 評価

< 令和 4 年度 事業目標 >

利用者数の安定化（増加）、新規獲得を継続する。病院併設の強味を活かした体制づくり、病院関係職種との連携強化、PR、地域関係職種との顔の見える関係づくりの元、地域に開かれた訪問看護ステーションを目指す。

1. 利用者数の安定化および増加にむけて体制を整備する

訪問目標件数 500 件 / 月以上 4 件 / 日

新規利用者目標値 平均 5 人

《評価》

訪問件数 平均 458 件 / 月 404 ~ 534 件 / 月

新規利用者 上半期は 4 ~ 7 件 平均 5.3 件 下半期 2 ~ 4 件 2.2 件

下半期は 11 月に 1 名の休職、1 月末で産休者、2 月に 1 名の休職者あり新患は一時休止していた

2 名の補充あり今後は新規利用者の受け入れを促進していく

1) 効率的な訪問スケジュールの調整

- ・ミーティングは 9:00 までに終了し訪問開始できるように調整: 司会は担当制とする。
- ・訪問スケジュール調整は管理者が主に行う。

グーグルカレンダーを活用した管理体制のマニュアルを完成する。

- ・スタッフ間で情報や状況を意見交換しながら柔軟に調整できることを目指す。

《評価》

- ・司会を担当制として運用した。管理者がリーダーシップをとることが多かったが、今後は司会がメンバーの発言を促進し活発な意見交換ができるようにすすめていく
- ・グーグルカレンダーを活用した訪問スケジュール管理はスケジュールの可視化ができた。訪問時間を枠を決めたことで効率的な訪問スケジュール管理ができた。訪問の抜けが時々生じたことはダブルチェックを行うなどしていったが今後も検討が必要。調整・管理は管理者行っているが体制変更に伴い検討が必要。

2) チームケアにむけた体制の見直し

- ・看護の質の均てん化のためにチーム方式の見直しを行う。6 月 (業務改善係)
- ・記録方法の評価。見直しの継続 (業務改善係)
- ・スタッフ間のチームワークの促進: 報告・連絡・相談
- ・疑問に感じたことを話しあえる雰囲気づくり

《評価》

- ・チーム方式は人員の入れ替わりにて効果的な運用に至っていない。今後のチーム体制は皆で検討が必要。
- ・スタッフ間のチームワークの促進に力をいれていく

3) 新規利用者の獲得

- ・当院外来通院患者の新規依頼の促進を図る: MSW、ケアマネジャーとの連携促進
- ・居宅介護支援員との連絡・報告・相談の促進
- ・病院のリハビリテーション課との連携の課題の分析・検討 (リハビリ)
- ・広報活動の実施

4) 事業継続計画 (BCP: 災害・感染)、ハラスメントマニュアルの完成・共有 (管理者)

《評価》

- ・BCP、ハラスメントマニュアルは着手した、今年度内に完成させる。
- ・新規利用者の獲得については病院リハビリとの連携は難しい状況、情報収集をしつつ方法を検討していく。
- ・居宅介護支援員との連携はコミュニケーションをとりながら促進していく。

2. 病院関係職種との連携強化

1) 外来患者の在宅療養支援の促進

- ・外来所属看護師を中心に連携を促進する

2) 利用者のスムーズな受診・入院にむけた連携、調整

- ・病院の地域連携係や退院支援部門とのコミュニケーションの促進
- ・病院のシステムを理解する

3) 専門・認定看護師との連携・協働

- ・慢性疾患看護 CNS、がん看護 CNS、皮膚・排泄ケア CN、がん化学療法看護 CN、認知症看護 CN、感染管理 CN、慢性心不全看護 CN 等へ積極的に働きかけ、同行訪問も検討する。
- ・利用者の状況を訪問看護師が病棟スタッフへフィードバック：管理者・スタッフ

《評価》

- ・病院関係職種との連携を促進してきた。認定看護師には自宅訪問へ1度依頼し実現しアセスメントや技術指導を受けることができた。今後も連携を強化していきたい。

3. 地域との連携強化

1) 居宅介護支援事業所・地域包括支援センターへの新規依頼 PR

- ・阿武野・郡家・清水・高槻北・茨木北部地域
- ・会議・研究会への積極的な参加：スタッフ

2) 地域の医師とのつながりを強化：病院併設の強みを出す

- ・入院の調整を看護管理者がする
- ・報告書には一言添える。ステーションの情報を伝える

《評価》

- ・人員の不足から調整役割を管理者が担うことが増えたが、今後はスタッフが調整できるよう進めていく必要がある。
- ・継続して実施

4. 看護・理学療法の質の向上 アセスメント力の向上

- ・朝のミーティングでのディスカッションの活用

病態、アセスメント内容、看護計画等を各スタッフに伝えることができる。

担当外の利用者の看護についても関心を寄せ、その意味について意見交換できる

- ・ケースカンファレンス 1 回 / 月の開催
- ・勉強会、ケースカンファレンス、事例検討会等の開催 (教育担当)

- ・学習の機会の情報提供
- ・研修・学会に積極的に参加し伝達する
- ・三島ブロック事例検討会へ事例提供

《評価》

- ・担当者が勉強会の実施を計画的に実施できた。知識・技術面の向上に関する内容であり看護の質を高めることにつながった。
- ・朝のミーティングでの意見交換は訪問看護経験が短いスタッフの情報や知識の共有の時間となっていた。管理者がリーダーシップをとることが多くなったことは反省すべき点であり、今後はスタッフが自由にディスカッションできるよう進めていくことが課題である。

5. 後進の育成、訪問看護普及のための実習生等の受け入れ

- ・大阪医科大学看護学部 在宅看護実習 2週間3クール 6名
- ・大阪府立大学大学院 老年看護学 CNS コース 1名
- ・藍野大学セカンドレベル研修 1名

6. 地域との連携、対外的な活動

- ・大阪府訪問看護ステーション協会 三島ブロック理事
- ・高槻市障がい福祉課 第2審査部会委員 会議9回参加
- ・大阪府看護協会府北支部 施設代表者会議参加

以上

医療安全推進室

<スタッフ>

平松 昌子（副院長兼医療安全推進室長）
 後藤 公男（放射線科部長兼医療安全推進副室長）
 松村大志郎（消化器科医師）
 中田 祐二（医療安全管理者）
 西 ひろみ（看護副部長）
 小島 一晃（薬剤部長兼医薬品安全管理責任者）
 竹下 勇一（臨床工学技術課長兼医療機器安全管理責任者）
 萩原 大介（総務管理課長）
 迫田 博史（総務管理課長補佐兼医療安全係長兼施設係長）

<令和4年度活動実績>

【活動目標】

- ① 患者、薬剤確認行為の常時実施（患者・薬剤取違いゼロ）
- ② 医師やその他の全ての部署のインシデント・アクシデント報告件数の増加
- ③ 治療、処置時の医療器材の使用・管理方法の認識と使用後の確認行為の実施
- ④ 転倒転落防止対策の継続

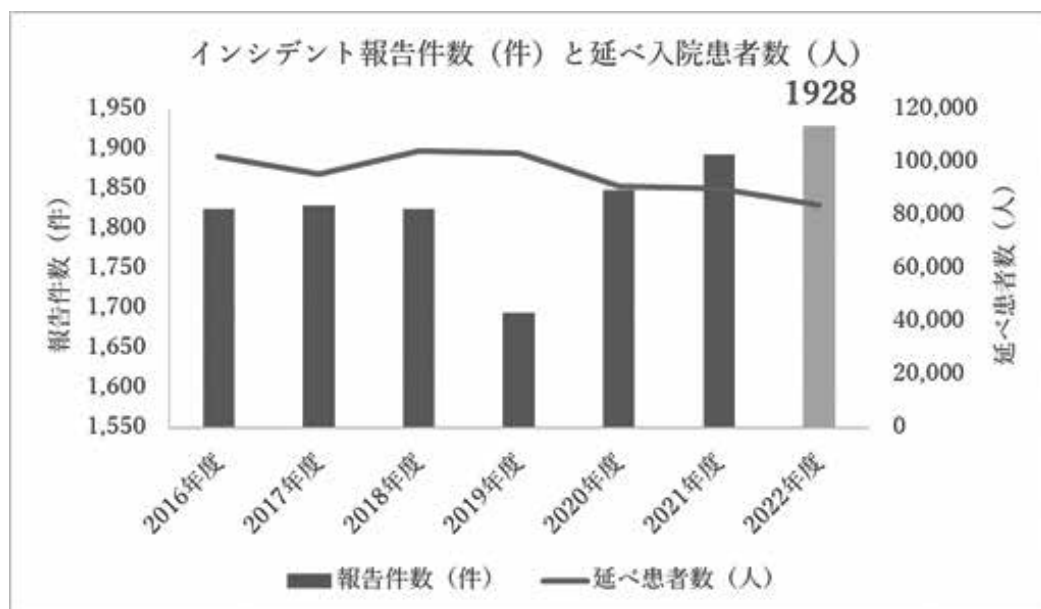


図1. 2016年度からのインシデント・アクシデント報告件数と延患者数の推移
 2019年度は一時的に減少したが、その翌年度は過去最高を記録し、2022年度はさらに更新していた。

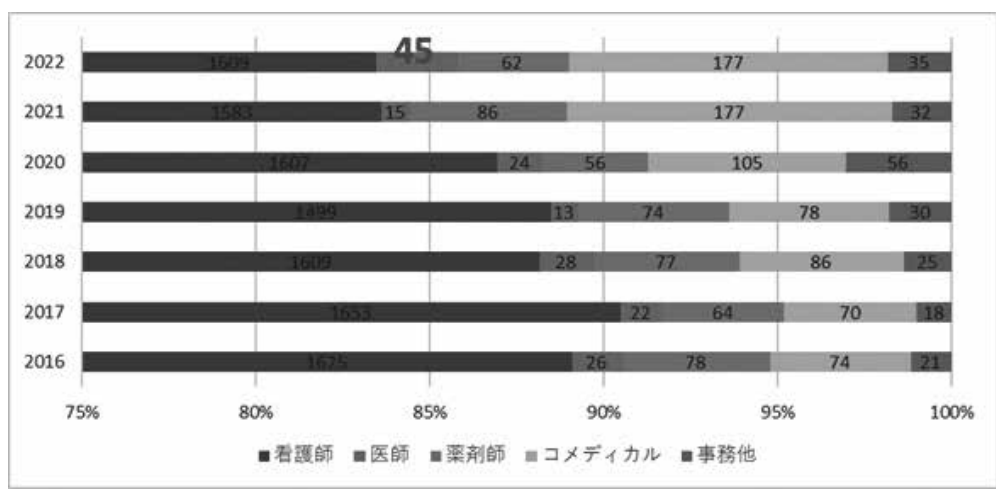


図2. 2016年度からのインシデント・アクシデント報告・職種別レポート件数の構成比
2022年度は医師の報告件数が増加した。

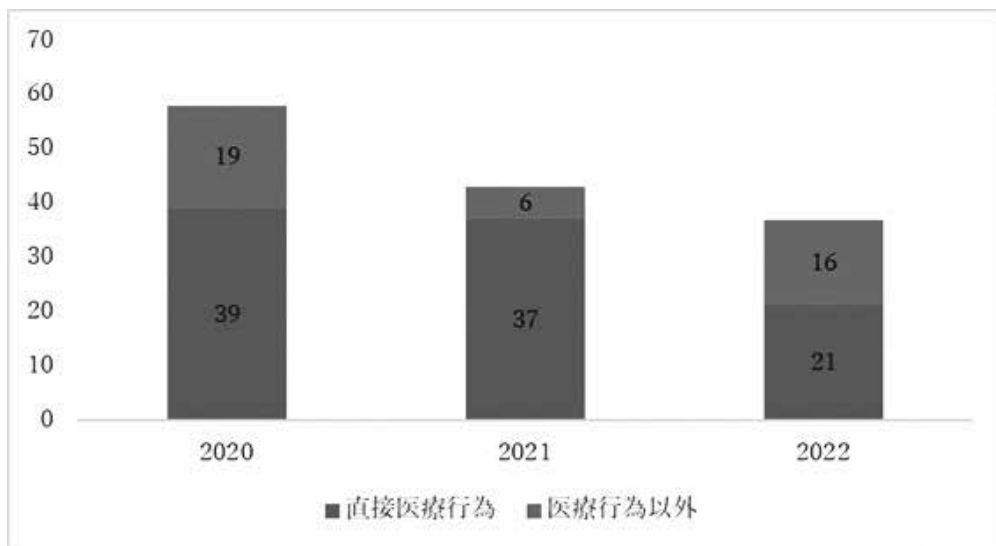


図3. 過去3年間の患者誤認件数（件）
2022年度は直接的な医療行為が顕著に減少した。

表1. 医療機器の種類別分類

種類別	件数（件）
手術関連機器・器具	16
透析関連機器・器具	4
麻酔関連機器・器具	0
検査関連機器・器具	2
人工呼吸器関連	5
酸素投与器具	3
生体モニター	4
輸液ポンプ・シリンジポンプ	10
その他	11
合 計	55

表2. 医療機器のレベル別分類

レベル別	件数（件）
レベル 0	8
レベル 1	28
レベル 2	12
レベル 3a	3
レベル 3b	0
該当なし	4
合 計	55

医療機器のインシデント・アクシデント報告では、基本的な操作方法と操作後の確認や危険予測が十分にされていなかった事例が散見された。

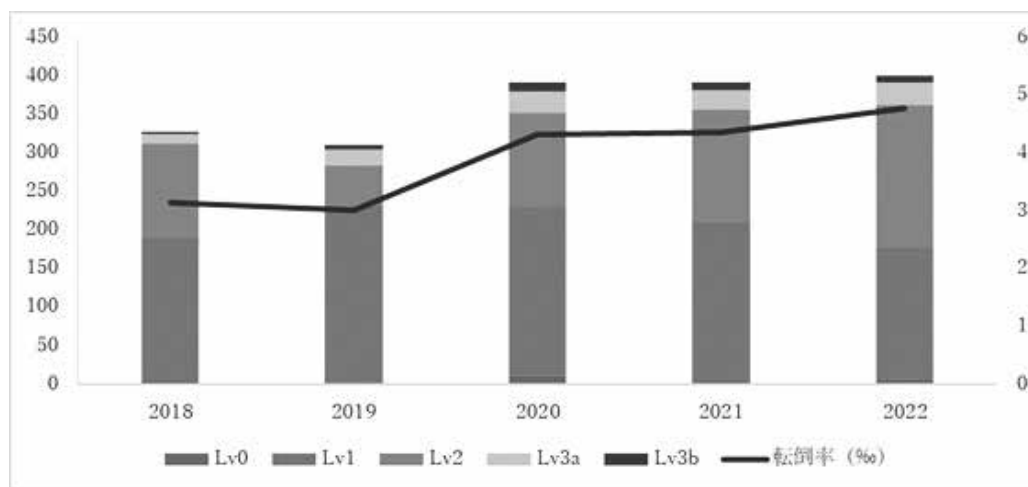


図 4. 過去 5 年間の各影響レベル別の転倒・転落件数（件）と転倒率（％）
2022 年度は件数転倒率共に最大数となった。

表 3. 転倒転落場所

転倒・転落の発生場所	件数（件）
病 室	342
トイレ・浴室	25
その他（病棟内）	18
その他（病棟外）	15
合 計	400

表 4. 転倒転落のレベル別報告件数

転倒・転落の外傷レベル	件数（件）
レベル 0（外傷なし又は軽微）	5
レベル 1（軽度な処置実施）	171
レベル 2（処置、検査実施）	185
レベル 3a（簡単な治療実施）	30
レベル 3b（濃厚な治療実施）	9
合 計	400

2022 年度の転倒件数の内、18 例はスリッパや踵の無い靴が関与していた可能性があった。

表 4. 2022 年度アクシデント 9 事例の内容

患者への影響	
保存的治療を要した案件	5・・・転倒 5 件（安静、固定）
侵襲的治療を要した案件	4・・・転倒 4 件（手術 3 件、転院 1 件）、胸腔ドレナージバックの取扱不備による呼吸障害（BVM 換気）、気管切開チューブの閉塞（一時心肺停止、CPR、口腔からの挿管に変更）、脊柱管狭窄症手術時の高位確認の為の 23G カテラン針の体内遺残
合 計	9

転倒 9 事例中、スリッパが関与した事例は 2 例存在した。

【活動内容】

- ・医療安全研修会 11 項目開催（各研修会で動画上映会およびオンデマンド配信）
- ・リスクマネジメント部会 10 回開催（コロナ禍の為 1 回中止）
- ・ANZEN ニュース毎月発行
- ・安全メール配信 30 回
- ・安全ラウンド 全部署 43 部署実施
- ・毎月時計、PHS、医療機器などの時刻合わせ活動
- ・CVC 報告制度および研修、運用継続
- ・転倒防止対策継続実施
- ・医療安全地域連携
 - I - I 連携 済生会茨木病院
 - I - I 連携 愛仁会リハビリテーション病院
 - I - II 連携 水無瀬病院
 相互に訪問し評価を行った。
- ・三島医療圏医療安全ネットワーク会議への参加

【院内研修会】

実施日	研修会名	対象	参加人数
年度中	安全な CV 挿入に係る取り決め（オンデマンド）	医療職	23 名
2022 年 4 月	CIEDs の CT, MRI のマニュアルについて	全員	174 名
4 月	チームステップス	新職員	14 名
6 月	2021 年度インシデント・アクシデント報告と医療安全について	全職員	302 名
7 月	安全な医療ガスの取扱い	全職員	450 名
8 月	CVC ハンズオン研修会	研修医、医師	14 名
8 月	認知症について	全職員	265 名
9 月	麻薬の取扱	医療職	175 名
10 月	安全な輸血製剤の取扱と輸血療法について	医療職	269 名
12 月	放射線について	医療職	191 名
2023 年 1 月	医療サービス職のためのトラブルを回避する伝え方	全職員	210 名

2022 年度は、11 項目の研修会を行い、2 回以上参加者は延 2,087 名（退職者、長期休暇者等含む）、2 回参加率は前年度 95%から 97%（退職者、長期休暇者含まず）に上昇した

【患者相談・意見への対応】

1. 相談対応（医療メディエーション）

- ・患者側からの相談 15 件
- ・医療者側からの相談 7 件

2. 意見・苦情の総数件

接遇、職員の対応（説明不足、態度が悪い、不信間等）	7 件
施設、設備（病室、トイレ、備品、駐車場等）	6 件
環境（清掃、空調、臭気、騒音等）	2 件
診療体制（予約方法、待ち時間、逆紹介等）	2 件
受付体制（受付処理、会計処理、案内等）	2 件
その他（売店、循環バス等）	4 件
感謝、激励	3 件

【保安、その他】

1. 暴力行為 10 件（昨年度 6 件） 警察への通報 0 件（昨年度 0 件）

発生場所：病棟 10 件

2. 盗難被害 0 件（昨年度 1 件） 警察への通報 0 件（昨年度 0 件）

発生場所：病棟 0 件

3. 紛失・破損・盗難被害 報告件数 0 件（前年度 0 件） 警察届出事案 0 件（前年度 0 件）

発生場所：病棟 0 件

4. 迷惑行為等 報告件数 0 件（前年度 0 件） 警察届出事案 0 件（前年度 0 件）

発生場所：病棟 0 件、外来 0 件

5. 虐待案件 0 件

発生場所：外来 0 件

<令和 5 年度活動目標>

2022 年度は直接医療行為（処方・調剤・与薬、検査・治療・処置、配膳）の場面での患者誤認の減少が伺えた。これはこれまでの患者誤認“0（ゼロ）”を目指して各部門の協力を依頼し、対策を取ってきた結果と考えられた。しかし、未だ直前の患者確認行動の不備で患者誤認事例が発生しておりさらなる患者確認行動の徹底を啓蒙していく必要があると考えられた。他方、直接医療行為“以外”での患者誤認の多くは、診療情報、事務処理、案内で医療職員の患者誤認も目立つ。直接的な医療行為でなくても患者誤認は患者の信頼を失ってしまう事から、全職員がさらに指さし呼称および患者に名乗ってもらう事を基本とした患者確認行動を行っていく必要がある

次に医師のインシデント・アクシデント報告の増加に関しては、例年 30 件未満であったが 45 件まで増加した。今後も医師のインシデント・アクシデント報告を増加させていく必要がある。

さらに、2022 年度はインシデント・アクシデント報告から医療機器、材料の取扱いに関する事例の中に重大案件も存在、今後これらについて取扱や確認方法の教育と危険予測を行っていくことが重要と考えられた。

最後に、転倒転落では、過去を振り返っても 2022 年度が最も転倒転落件数および転倒率が高かった。これは患者の年齢層であったり、併存疾患であったり、多くの因子の影響を受けるが、中でもスリッパや踵の無い靴による転倒が見られ、また 3 b 以上の影響度の事例 9 例中 2 例はスリッパが原因の一つと考えられた。その為、再度院内でのスリッパ使用率を振り返ってスリッ

パの危険性と踵のある靴をキチンと履くことを周知していく。

よって、2023 年度の目標は以下の通りとなった。

1. 患者確認行動のさらなる徹底。患者誤認件数“0（ゼロ）”を目標とする。
2. 医師のインシデント・アクシデント報告数を看護師の報告件数の 5%以上（90 件程度以上）に増加させる。
3. 医療機器、材料の取扱と操作後の確認行動の徹底。
4. 転倒転落防止対策では、危険予測を行い被害の大きくならない予防対策を実施し現状を維持する。またスリッパの使用禁止と靴の履き方を再度周知していく。

以上

教育研修推進室

<スタッフ>

神田 直樹（副院長兼教育研修推進室長）
松田 好正（事務部長）
大中 玄彦（総合診療科部長）
北 英夫（呼吸器科部長）
小林 稔弘（乳腺外科部長）
小島 一晃（薬剤部長）
高橋 晶子（看護部 看護副部長）
濱田 健司（研修課長）
佐橋 克哉（人事課 人事課長補佐兼人事係長）
岩見 知樹（研修課 主事）

<異 動>

令和5年2月
研修課長 濱田 健司 退任

<令和4年度活動実績>

- （1）新規採用職員研修会 開催
- （2）研修管理委員会 開催（計2回 書面会議：11月、ハイブリッド会議：3月）
- （3）研修運営委員会 開催（計12回 毎月第二水曜日）
- （4）ミニレクチャー・レジデント勉強会 開催（毎週水曜日）
- （5）初期研修医採用活動 3名採用（定員3名 応募者17名）
- （6）内科系専攻医採用活動 1名採用（定員2名 応募者1名）
- （7）医学部生病院見学受入（延べ50名受入）

<令和5年度活動目標>

- （1）新規採用職員研修会 開催
- （2）研修管理委員会 開催（3回を予定）
- （3）研修運営委員会 開催（12回を予定）
- （4）ミニレクチャー・レジデント勉強会 開催
- （5）初期研修医・内科系専攻医採用活動
- （6）ホームページリニューアル
- （7）医学部生病院見学受入（50名程度）

事 務 部

<スタッフ> 令和4年4月1日付

事務部長	松田 好正
事務副部長	欠
事務部長補佐	片岡 幹夫 杉山 乙矢
課 長 職	8 名
総務管理課長	萩原 大介
人事課長	片岡 幹夫 (兼)
研修課長	濱田 健司
財務課長	片岡 幹夫 (兼)
企画情報課長	杉山 乙矢 (兼)
医事課長	浦手 悟
用度課長	渡部 悟
診療支援課長	上成 弥生
病床管理担当課長	日高 利明
係 長 職	14 名

<組織編成>

人事課から研修業務を独立させ、研修課を設置する。

<令和4年度活動状況>

1. 経営健全化に向けた取り組み

- 1) 高槻赤十字病院経営戦略プロジェクトを設置し、病院が健全経営のもとに地域住民に選ばれる病院として運営継続するための戦略について検討を行った。
- 2) 本社医療事業推進本部との定例(月1回)web会議を行い、コロナ対応状況、経営状況等の情報交換を行った。
- 3) 診療科との院長ヒアリングを実施し、各診療科の課題等について協議を行った。
(5月～7月、11月～12月の2回実施)
- 4) 令和4年度診療報酬改定に対応すべく検討作業部会を設置し、新規施設基準の取得に取り組んだ。
- 5) 予算作成にあたり前年度同様、各所属長に支出抑制の意識づけを行い、費用の予算内執行に務めた。

2. 事務部の組織編成を行い人材の適正配置、生産性の向上を図った。

- 1) 事務部に事務部長補佐2名を配置、それぞれ担当課を分担し、業務管理を行った。
- 2) 事務職員の夜勤業務の委託化を検討し、令和5年4月から委託を実施した。
- 3) Jcep(卒後臨床研修評価機構)施設認定を受審、令和5年2月1日認定。

- 4) 病院機能評価の受審申し込み、受審に向け委員会を設置（令和6年5月受審予定）
3. 新型コロナウイルス感染症対策
 - 1) 令和3年度に引き続き、高槻市保健所との連携による「帰国者・接触者外来」「地域外来検査センター」の運用を行った。
 - 2) 新型コロナウイルス感染症患者等受入にかかる「重点医療機関」として、令和3年度に引き続き、「軽・中等症患者」を対象に入院患者を受け入れを行った。

<令和5年度 重点課題>

1. 病院収支黒字化の継続
 - 1) 新規患者の獲得
 - 2) 地域医療連携の推進
 - 3) 救急応需体制の強化
 - 4) 広報活動の強化
 - 5) 予算に基づいた支出管理の徹底、無駄な支出（投資）の抑制
2. 病院機能評価の受審
 - 1) 病院機能評価受審のための体制整備
 - 2) TQM 活動を推進による人材育成
 - 3) 研修体制の整備

以上

VII 委員会活動

目 的

標準的な診断及び治療方法に基づいた適切なコーディング（適切な診断を含めた診断群分類の決定をいう。）を行う体制を確保すること、及び、診療情報及び診療記録に関する事項を検討・討議する。

委員会開催

第 1 回

開催日：令和 4 年 4 月 5 日

議 題：①ポリペクのコーディングについて
②敗血症、DIC の病名について

第 2 回

開催日：令和 4 年 7 月 8 日

議 題：①ペースメーカー留置術施行時のコーディングについて
②機能評価係数Ⅱについて

第 3 回

開催日：令和 4 年 11 月 2 日

議 題：①入院診療計画書について
②機能評価係数Ⅱについて

第 4 回

開催日：令和 5 年 2 月 7 日

議 題：①複数病態を有する腹水穿刺患者コーディングについて
②内視鏡レポートの病名について

ICT 委員会

目 的

院内分離菌の把握、抗菌薬使用状況の把握など院内感染防止対策の啓蒙活動。

毎週木曜日、約 60 分間の ICT ラウンド（環境）を実施。

今年度目標 ① WHO 手指衛生のガイドライン 5 つのタイミングが周知・遵守できる
② 経路別感染予防策が遵守できる

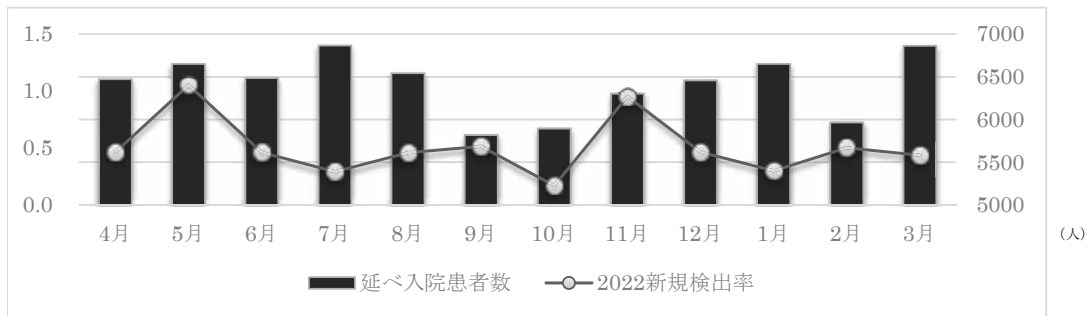
委員会開催

定例会議 毎月第 1 木曜日 16 時 00 分～（AST 委員会と合同開催）
議 題 MRSA 検出状況、耐性菌出現状況、環境調査、抗菌薬使用状況、その他

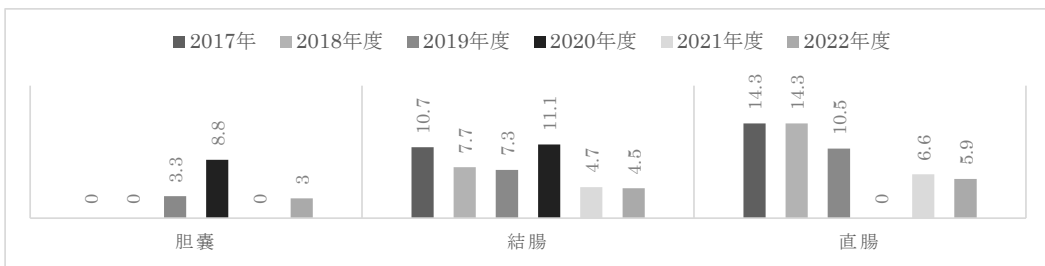
開催日	議 題
令和 4 年 4 月 7 日	・ ICT/AST 委員会の活動内容についての提案
5 月 12 日	・ ICT ラウンドについて ・ 環境培養スケジュールについて ・ PPE 等在庫について
6 月 2 日	・ 北摂四医師会感染対策ネットワークについて ・ 感染管理部門活動計画について
7 月 2 日	・ COVID-19 院内感染状況についての情報共有（職員・患者） ・ 院内感染防止対策研修会について ・ 面会再開について
8 月 4 日	・ 院内感染防止対策研修会について ・ COVID-19 院内感染状況についての情報共有（職員・患者）
9 月 1 日	・ 院内感染防止対策研修会について ・ COVID-19 院内感染状況についての情報共有（職員・患者）
10 月 6 日	・ 院内感染防止対策研修会について ・ PPE 等在庫状況について ・ COVID-19 病床数、診療体制等についての情報共有
11 月 10 日	・ 院内感染防止対策研修会について ・ 一体型バルンカテーテルの在庫状況について ・ COVID-19 病床数、診療体制等についての情報共有
12 月 8 日	・ COVID-19 病床数、診療体制等についての情報共有 ・ 院内感染防止対策研修会について
令和 5 年 1 月 12 日	・ COVID-19 院内感染状況についての情報共有（職員・患者）
2 月 9 日	・ 院内感染防止対策研修会について

◆各種サーベイランスの結果

① MRSA 新規検出率（延べ入院患者数と新規検出率の推移）

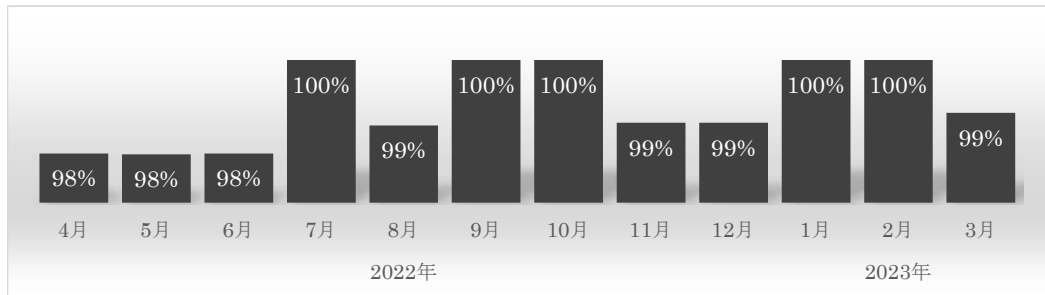


② SSI（手術部位感染）年次推移
外科（%）

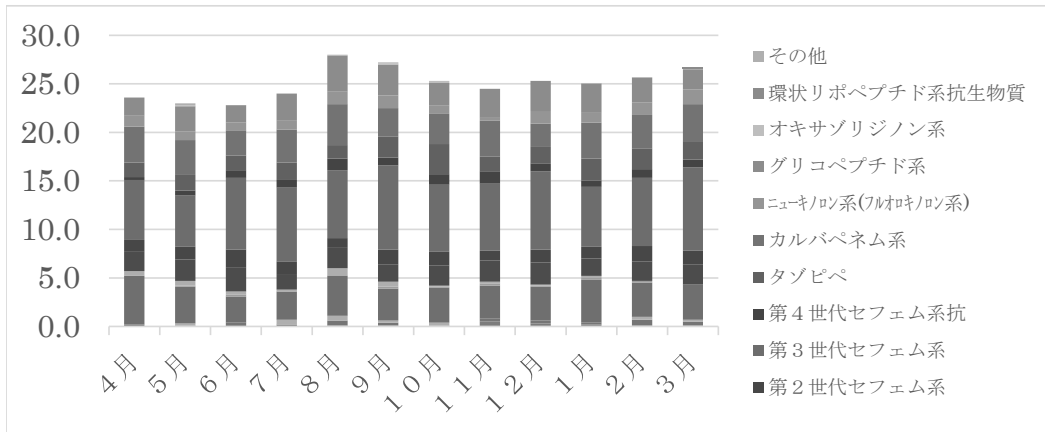


◆抗菌薬適正使用の推進結果

① 抗菌薬使用報告書提出率（%） 平均：98.7%



② 抗菌薬使用量月別 AUD（DDD / 1000bed-days）



◆院内研修会

開催日	テーマ	対象	参加人数
4月 2日	新採用者研修会	新採用職員	
10月18日 オンデマンド研修	輸入感染症	全職員	454名
2月27日 オンデマンド研修	化学療法と感染予防	全職員	461名

◆広報と啓蒙活動

ICT 院内ラウンド	週1回、全病棟と外来、その他の各部門 延べ	43回実施
COVID-19 対策	対策本部会議の実施、各種フローチャートの作成	

NST 委員会

目 的

医療の質と向上のために、全ての治療の基盤である栄養管理を促進する。

委員会の開催

なし

勉強会開催

N S T 勉強会

令和 4 年 8 月 29 日（参加者 医師 16 名）

「早期経腸栄養プロトコール及びリフィーディング症候群について」

講師 N S T 専任医師 岡田睦実 血液腫瘍内科副部長

SPD・診療材料購入審査委員会

目 的

新規診療材料の採用の可否・SPD活動（不動産在庫削減・診療材料の購入コスト低減・業務の効率化）の推進による病院経営の合理化を目的とする。

委員会開催

第1回

開催日：令和4年4月5日（火）16時00分～16時30分

議 題：①新規材料について
②サンプル品使用について
③エム・シー・ヘルスケアから

第2回

開催日：令和4年5月10日（火）16時00分～16時30分

議 題：①新規材料について
②サンプル品使用について
③エム・シー・ヘルスケアから

第3回

開催日：令和4年6月7日（火）16時00分～16時30分

議 題：①新規材料について
②サンプル品使用について
③エム・シー・ヘルスケアから

第4回

開催日：令和4年7月5日（火）16時00分～16時30分

議 題：①新規材料について
②サンプル品使用について
③エム・シー・ヘルスケアから

第5回

開催日：令和4年8月2日（火）16時00分～16時40分

議 題：①新規材料について
②サンプル品使用について
③共同購入品のサンプル結果について（手術用手袋）
④エム・シー・ヘルスケアから

第6回

開催日：令和4年9月6日（火）16時00分～16時40分

議 題：①新規材料について
②サンプル品使用について
③エム・シー・ヘルスケアから

第7回

開催日：令和4年10月4日（火）16時00分～16時30分

- 議 題：①新規材料について
②サンプル品使用について
③用度課から（日赤共同購入品・サンプル申請前使用について）
④エム・シー・ヘルスケアから

第8回

開催日：令和4年11月1日（火）16時00分～16時35分

- 議 題：①新規材料について
②サンプル品使用について
③エム・シー・ヘルスケアから

第9回

開催日：令和3年12月6日（火）16時00分～16時30分

- 議 題：①新規材料について
②サンプル品使用について
③エム・シー・ヘルスケアから

第10回

開催日：令和5年1月17日（火）16時00分～16時30分

- 議 題：①新規材料について
②サンプル使用について
③エム・シー・ヘルスケアから

（※令和5年2月のSPD委員会は新規申請無しのため、非開催）

第11回

開催日：令和5年3月7日（火）16時00分～16時30分

- ①新規材料について
②サンプル品使用について
③共同購入品について（ディスプレイザブル蘇生バッグ）

がん診療関連機能充実委員会

目 的

「がん診療連携拠点病院の整備に関する指針」に則して、当院におけるがん診療関連機能の充実を図ることについて討議する

活動実績

令和４年度は計１２回開催した。委員会開催日と議題は以下のとおりである。

第１回

開催日：令和４年４月２６日（火）

議 題：１．委員の変更について

２．「緩和ケア研修会」の開催にかかる施設意向調査について

３．令和４年５月２６日（木）三島医療圏がん診療ネットワーク協議会の開催について（WEB開催）

４．がん相談支援センターから

５．PDCAサイクルの評価について

６．令和３年度がん患者指導管理料の実績について

７．その他 高槻第二中学校生涯教育への講師派遣（高槻市教育委員会からの要請）

第２回

開催日：令和４年５月３１日（火）

議 題：１．PDCAサイクルの評価について

２．当院の緩和ケア研修の受講状況について

３．第１回三島医療圏がん診療ネットワーク協議会の報告（５月２６日開催）

４．がん相談支援センターから

５．その他（大阪府がん診療連携協議会緩和ケア部会 ６月１６日（木）開催予定）

第３回

開催日：令和３年６月２８日（火）

議 題：１．当院の緩和ケア研修の受講状況について

２．令和４年度第１回大阪府がん診療連携協議会報告

３．今後の協議会開催予定

４．その他（緩和的放射線照射の案内について）

第４回

開催日：令和４年７月２６日（火）

議 題：１．当院の緩和ケア研修の受講状況について

２．令和４年度第１回大阪府がん診療連携協議会（報告）

３．今後の協議会予定

４．その他

①がん相談支援センターの設置基準等について→未定。

②がん登録者の研修について。候補者検討中。

③放射線治療についての周知案内。

第5回

開催日：令和4年8月30日（火）

- 議 題：1. 令和4年度第1回大阪府がん診療連携協議会（報告）
2. 令和4年度に国立がん研究センターが実施するがん診療に携わる医療従事者等に対する研修について
3. 令和4年度厚生労働省委託事業「人生最終段階における医療・ケア体制整備事業」「本人の意向を尊重した意思決定のための研修会」の周知
4. 本年度のPDCA サイクル報告について
5. その他（研修案内）

第6回

開催日：令和4年9月27日（火）

- 議 題：1. 令和4年度大阪府がん拠点病院現況報告について
2. がん診療連携拠点病院の指定要件の見直しについて
3. がん検診ポスターについて（厚生労働省からの協力依頼）
4. 第27回三島圏域がん研究会幹事会について
5. 当院における医療・ケア意思決定の指針について
6. その他（オンラインがん患者サロン実施報告）

第7回

開催日：令和4年10月25日（火）

- 議 題：1. 令和4年度大阪府がん拠点病院現況報告について
2. 大阪府がん診療連携協議会「第1回希少がん部会」開催について
3. 第28回三島医療圏がん研究会への発表の依頼について
4. 第3回三島医療圏合同市民公開セミナーの開催について
5. 「がん相談支援センター」の組織上の位置づけについて
6. その他（がん教育講演会への講師派遣について）

第8回

開催日：令和4年11月29日（火）

- 議 題：1. 令和4年度大阪府がん拠点病院現況報告について
2. がん相談支援センターに係る広報物等の取り扱いについて
3. 三島医療圏がん診療ネットワーク協議会の開催について
4. その他
①がん教育講演会報告
②5病院合同がん患者サロン報告
③希少がん部会報告
④第3回三島医療圏合同市民公開セミナー報告

第9回

開催日：令和4年12月27日（火）

- 議 題：1. がん拠点病院訪問事業について
2. 第4回大阪府がん地域連携部会促進会議報告
3. 今後の予定
①三島医療圏がん診療ネットワーク協議会の開催について
②第4回大阪府がん診療協議会地域連携部会

第10回

開催日：令和5年1月24日（火）

- 議 題：1. がん拠点病院施設見学についての準備事項当確認
2. 今後の予定
①三島医療圏がん診療ネットワーク協議会の開催について
②令和4年度第2回大阪府がん診療協議会の各部会（WE開催）

第11回

開催日：令和5年2月28日（火）

- 議 題：1. がん拠点病院施設見学にかかる意見交換会内容確認について
2. 三島医療圏がん診療ネットワーク協議会の報告について
3. 令和4年度第2回大阪府がん診療協議会の各部会報告について
4. 今後の予定
①がん相談支援センター相談員研修：3月5日
②大阪府がん診療連携協議会本会：3月14日
5. その他（がん患者サロン・図書コーナー再開について検討していく）

第12回

開催日：令和5年3月28日（火）

- 議 題：1. 令和4年度第2回大阪府がん診療連携協議会（本会）の報告について
2. 都道府県がん診療連携拠点病院連絡会議「情報提供・相談支援部会提言書」
3. 病院組織再編に伴う事務局の変更について
4. その他
①第29回三島医療圏がん研究会 5月18日（木） 18：30～20：10
②院内がん登録のオプトアウトについて
③放射線科より、放射線治療についての周知案内
④がん相談支援センターより、患者図書コーナーの再開について。
⑤ホームページの改定による化学療法室のページのリニューアル。

キャンサーボード委員会

目的

大阪府指定がん診療拠点病院として、患者に適切ながん診療を提供するためにキャンサーボードの体制を整備することを目的とする。

委員会開催

委員会：必要に応じて開催する

キャンサーボード開催 50回

検討症例：5 名 / 回 程度の新規消化器がん治療開始患者、術後患者

内 容：新規治療開始患者の治療方針の決定及び経過報告、術後患者の経過報告及び今後の治療方針の決定を行う

クリニカルパス委員会

目 的

クリニカルパスを活用し、医療の質の向上、患者満足度の向上、EBMに基づいた標準的医療の実施、資源の効果的使用を実現することを目的として、クリニカルパス委員会を設置する。

委員会開催

第 1 回

開催日：令和 4 年 10 月 18 日

議 題：①大腿骨近位部骨折パスの新規申請について

②パス適用率について

③診療報酬改定に伴うパス日数見直しの報告について

④その他

令和 4 年度クリニカルパス新規承認パスは 1 件であった。

No.	委員会開催（書面審議）月	令和 4 年度新規申請パス
1	令和 4 年 10 月	大腿骨近位部骨折パス

図書委員会

目 的

図書室の運用及びそれに関する事項について審議する。

委員会開催

第 1 回

開催日 令和 4 年 10 月 7 日（金）

議 題

- I 来年度予算案について
 - 1. 洋雑誌の選定について
 - 2. 和雑誌の選定について
 - 3. 文献検索等データベースについて
 - 4. 文献取り寄せについて
 - 5. 臨時購入について
- II 今年度予算外事業について

業務改善委員会

目 的

高槻赤十字病院における医療従事者の負担軽減及び処遇の改善を図り、医療事業の円滑な運営及び推進に資すること

委員会開催

第 1 回

開催日 令和 4 年 9 月 14 日（水）

- 議 題：1. 医師事務作業補助体制加算に係る、『医療従事者にかかる負担軽減の取り組み計画及び経年評価』について
2. 地域医療体制確保加算に係る、『医師の労働時間短縮計画』について
3. その他

第 2 回

文書審議

- 議 題：1. 「令和 4 年度 医療従事者にかかる負担軽減の取組計画及び経年評価」について令和 4 年度評価
2. 「令和 5 年度 医療従事者にかかる負担軽減の取組計画及び経年評価」について令和 5 年度計画
3. その他

医療ガス安全管理委員会

目 的

高槻赤十字病院において使用する医療ガス（診察の用に供する酸素、各種麻酔ガス、吸引、医療用圧縮空気、窒素ガス等をいう。）設備の安全を図り、患者の安全を目的とする。

委員会開催

第 1 回

開催日：令和 5 年 3 月 15 日（水）

- 議 題：1. 令和 4 年度 医療ガス保守点検実績について
2. HCUアウトレット（酸素、吸引、圧縮空気）修繕について
3. 酸素が投与出来なかった事例（2 例）
4. その他（酸素供給業者の変更について）

医療安全管理委員会

目 的

安全かつ適切な医療ができる体制を確立すること。

委員会開催

第1回：令和4年4月15日（金）

議 題：1. 報告事項

①インシデントレポート（3月）

2. 検討事項

・報告書管理体制について

第2回：令和4年5月20日（金）

議 題：1. 報告事項

①インシデントレポート（4月）

2. 検討事項

・2021年度インシデントアクシデント報告と2022年度目標

・2021年度医療安全研修会 参加率報告と2022年度テーマ

・報告管理体制加算にかかる報告

第3回：令和4年6月17日（金）

議 題：1. 報告事項

①インシデントレポート（5月）

2. 検討事項

・医療安全管理マニュアルの更新

・報告管理体制加算にかかる報告

第4回：令和4年7月15日（金）

議 題：1. 報告事項

①インシデントレポート（6月）

2. 検討事項

・報告管理体制加算にかかる報告

・公表基準について

第5回：令和4年8月19日（金）

議 題：1. 報告事項

①インシデントレポート（7月）

2. 検討事項

・報告管理体制加算にかかる報告

・公表基準について

第6回：令和4年9月16日（金）

議 題：1. 報告事項

①インシデントレポート（8月）

2. 検討事項

・報告管理体制加算にかかる報告

第7回：令和4年10月21日（金）

議 題：1. 報告事項

①インシデントレポート（9月）

2. 検討事項

・報告『インシデント アクシデントレポートを増やそう』キャンペーンの結果

・報告管理体制加算にかかる報告

第8回：令和4年11月18日（金）

議 題：1. 報告事項

①インシデントレポート（10月）

2. 検討事項

・報告体制加算にかかる報告

第9回：令和4年12月16日（金）

議 題：1. 報告事項

①インシデントレポート（11月）

2. 検討事項

・医療安全マニュアル「IV -4. 携帯電話端末使用の院内ルール」改訂について

・報告体制加算にかかる報告

第10回：令和5年1月20日（金）

議 題：1. 報告事項

①インシデントレポート（12月）

2. 検討事項

・携帯電話端末使用の院内ルールについて

・報告体制加算にかかる報告

第11回：令和5年2月17日（金）

議 題：1. 報告事項

①インシデントレポート（1月）

2. 検討事項

・医薬品の安全使用のための業務手順書の改訂（案）

・医療安全研修会2回以上参加率と見逃し配信、視聴依頼

・報告体制加算にかかる報告

第12回：令和5年3月17日（金）

議 題：1. 報告事項

①インシデントレポート（2月）

2. 検討事項

- ・「医師のための院内ルール 一覧」について
- ・医療安全管理マニュアル「患者誤認防止対策」の改訂
- ・報告体制加算にかかる報告

院内感染防止対策委員会

目 的

院内感染の防止対策及び予防活動に関する事案を審議する。実働部隊としての ICT・AST から各サーベイランスの報告を受け、院内感染防止対策の監視と啓発活動を行う。

委員会開催

定例会議 毎月第 4 木曜日 16 時 30 分～

議 題 MRSA 検出状況、耐性菌出現状況、抗菌薬使用状況について報告と審議

開催日	議 題
令和 4 年 4 月 28 日	①感染対策向上加算について ② J-SIPHE 参加について
6 月 3 日 (5 月開催分)	①「日本赤十字社医療施設等食中毒防止対策実施要領」のいつ部改訂について ②サル痘について ③バルンカテーテルの欠品について ④院内感染防止対策研修会について
6 月 23 日	① COVID-19 院内発生状況について (8 病棟) ②保健所合同結核ミーティングについて
7 月 28 日	①院内感染防止対策研修会について
8 月 25 日	①クリーニングタワー冷却水と水道水のレジオネラ属検査について ②結核接触者検診について
9 月 22 日	① COVID-19 院内発生状況について (6 病棟、7 病棟、8 病棟)
10 月 27 日	①院内感染防止対策研修会について
11 月 24 日	①院内感染防止対策研修会について ②インフルエンザについて
12 月 22 日	①年末年始の COVID-19 対応について (発熱外来) ② COVID-19 院内発生状況について (6 病棟)
令和 5 年 1 月 26 日	①新型コロナウイルス感染症 5 類移行に係る診療体制の検討について
2 月 24 日	①院内感染防止対策研修会について ②院内清掃薬品の一部変更について ③感染対策向上加算 1-1 相互ラウンドについて ④新型コロナウイルス感染症 5 類移行に係る検査体制について
3 月 23 日	①新型コロナウイルス感染症患者の喀痰・咽頭培養検査の取り扱いについて ②次年度の感染対策部門体制について ③院内感染防止対策研修会について ④感染対策向上加算要件についての報告

化学療法委員会

目 的

安全で効果的ながん化学療法を行うことを目的として、外来のがん化学療法に関する審議・検討を行う。

委員会開催

第 1 回

開催日：令和 4 年 9 月 8 日（木）17：00 ～ 18：00

- 議 題：①外来化学療法室利用状況報告
②仮登録されたレジメンの報告
③新規や変更レジメンの承認と報告
④「血管外漏出時対応マニュアル」修正案報告と承認
⑤事例共有（TS－1）
⑥その他

第 2 回

開催日：令和 5 年 3 月 9 日（木）17：00 ～ 18：00

- 議 題：①外来化学療法室利用状況報告
②仮登録されたレジメンの報告
③新規や変更レジメンの承認と報告
④病院ホームページ（外来化学療法）について
⑤その他

救急委員会

目 的

救急搬送増加と、円滑な受入体制の強化、断診の防止対策の為検討・討議を行う。

委員会開催

開催日

令和 4 年 5 月 16 日：平日の職員の救急外来受診について

令和 4 年 6 月 20 日

令和 4 年 8 月 19 日：CPA 発生時のブリーフィングシート作成し院内にて掲示
診療依頼時の救急要請受付メモの改訂

令和 4 年 9 月 20 日：委員長の引き継ぎについて
高エネルギー外傷・精神疾患患者への断診対応について
当直前ミーティングでの病床確認について

令和 4 年 10 月 17 日：10 月より委員長変更
手術・処置・内視鏡時に対応できない場合について

令和 4 年 11 月 21 日

令和 4 年 12 月 19 日：年末年始に向けての救急対応について

令和 5 年 1 月 16 日：救急室の血ガスの機械導入について
救急カートへのシリンジ追加について

令和 5 年 2 月 20 日：ミニトラック製造中止について

令和 5 年 3 月 20 日：ミニトラックの代替の製品について

議 題

1. 1 月々の救急件数報告
 - ・統計データの共有や分析
2. 月々の断診件数報告
 - ・受入困難症例について討議
3. その他
 - ・上記参照

給食委員会

目 的

患者の栄養管理ならびに給食サービスの円滑な運営とその向上を図る

委員会開催

なし

研修運営委員会

目 的

「研修管理委員会」の下部委員会として、研修医師の研修内容及び関係分門並びに院外の協力施設との研修に関わる事項や運営について検討する。

委員会開催

開催日：令和4年4月13日（水）

- 議 題：1. 新研修医の紹介
2. 研修進捗状況
3. 研修医の外来診療について
4. その他

開催日：令和4年5月11日（水）

- 議 題：1. 研修進捗状況
2. 採用試験（令和5年4月研修開始）について
3. その他

開催日：令和4年6月8日（水）

- 議 題：1. 研修進捗状況
2. JCEP 受審について
3. その他

開催日：令和4年7月13日（水）

- 議 題：1. 研修進捗状況
2. 採用試験応募状況について
3. CVC 研修会について
4. 研修医のインシデントレポート作成について
5. その他

開催日：令和4年8月10日（水）

- 議 題：1. 研修進捗状況
2. 採用試験応募状況について
3. その他

開催日：令和4年9月14日（水）

- 議 題：1. 研修進捗状況
2. 採用試験について
3. その他

開催日：令和4年10月12日（水）

- 議 題：1. 研修進捗状況
2. 研修医採用（定員数）に係る3ヵ年計画（案）
3. JCEP について
4. 研修管理委員会の開催について（書面）
5. その他

開催日：令和4年11月9日（水）

- 議 題：1. 研修進捗状況
2. 令和5年度研修開始の研修医におけるマッチング結果について
3. その他

開催日：令和4年12月14日（水）

- 議 題：1. 研修進捗状況
2. JCEP 評価受審について
3. その他

開催日：令和5年1月11日（水）

- 議 題：1. 研修進捗状況
2. 各種委員会・チーム医療活動への参加について
3. その他

開催日：令和5年2月8日（水）

- 議 題：1. 研修進捗状況
2. JCEP について（報告）
3. 令和5年度開始の研修医のローテーションについて
4. その他

開催日：令和5年3月8日（水）

- 議 題：1. 研修進捗状況
2. 2年目研修医の修了式について
3. 令和5年度開始の研修医のローテーションについて
4. その他

研修管理委員会

目 的

臨床研修指定病院として、研修医師の研修内容及び関係部門並びに院外の関連施設との研修に関わる事項や運営について検討する。

書面会議

令和4年度 第1回 研修管理委員会

開催日：令和4年11月

- 議 題：1. 令和5年度研修開始 研修医採用試験結果について（報告）
2. 研修医の研修進捗状況について（報告）
3. 令和5年臨床研修プログラム（案）について
4. 研修医採用に関する事業計画について
5. 当院研修プログラム等の共有について

委員会開催（ハイブリット）

令和4年度 第2回 研修管理委員会

開催日：令和5年3月7日（金）

- 議 題：1. NPO 法人卒後臨床研修評価機構（通称 JCEP）の臨床研修評価受審について
2. 令和5年4月採用予定研修医の紹介
3. 次年度の研修について
4. 1 年目 研修状況報告
5. 2 年目 修了判定
6. その他

個人情報保護委員会

目 的

病院における個人情報保護の利用目的、運営及び管理に関すること、固有個人情報の開示等の決定判断に関すること、その他病院における個人情報保護に関することを審議する。

委員会開催

[第1回]

開催日：令和4年6月23日

- 議 題：①個人情報記載の書類を紛失した事例について
②業務外の電子カルテ閲覧にかかる注意喚起について
③個人情報保護にかかる研修会の実施について
④その他（外来診察時の名前の呼び出しについて）

[第2回]

開催日：令和5年2月15日

- 議 題：①個人データの漏えい等の報告について（紛失事例1件、誤交付事例2件）
②個人のスマホ等で患者の身体等診療情報を撮影することについて
③正当な理由のない電子カルテの閲覧に関する注意喚起について
④その他（個人情報保護にかかる研修会の開催について（報告））

研修会開催

[第1回]

開催日：令和4年4月1日

医療機関における個人情報の保護について

講 師：総務管理課長 萩原大介

[第2回]

開催日：令和4年12月8日

個人情報にかかる研修会

講 師：森脇雅典法律事務所 森脇雅典弁護士

広報委員会

目 的

病院の広報に関することを検討する。

主に院内広報誌、院外広報誌、Web サイトの掲載内容について検討する。

委員会開催

第 1 回

開催日：令和 4 年 5 月 30 日

議 題：①病院 Web サイトトップページデザインの選定について
②病院パンフレットの内容について

第 2 回

開催日：令和 4 年 6 月 22 日

議 題：①院外広報誌（日赤の森）113 号の掲載記事について
②病院 Web サイト新デザイン案について
③新病院 Web サイトに掲載するクローズアップ記事について

第 3 回

開催日：令和 4 年 11 月 10 日

議 題：①院外広報誌（日赤の森）114 号の掲載記事について
②病院 Web サイト進捗報告
③地域医療連携だよりの発行報告

活動実績

- ・ 令和 4 年 3 月 30 日 病院 Web サイトリニューアル実施
- ・ 院外広報誌（日赤の森）113 号、114 号発行
- ・ 院内広報誌（にっせきたかつき）263 号発行

購買委員会

目 的

各部署から提出された医療用機械備品・その他器械備品等（原則、購入予定価格が160万円以上の物品）の整備依頼調書に基づき、各部署のヒアリングを行い、購入の是非を検討する。

委員会開催

第1回

開催日：日 時 令和4年10月14日（木）14：30～17：00

議 題：令和5年度入備品の検討

連番	議題内容	申請部署	本委員会での結果
1	Fusion システム	消化器内科	承認
2	CORTRAKE2 Enteral Accss System	HCU・NST ・消化器内科	承認
3	地域医療連携部門システム	地域医療連携課	保留
4	コルポカメラ	婦人科	承認
5	放射線治療計画システム 「Eculipse」「ARIA」Ver.up	放射線科	保留
6	放射線治療情報ソリューション 「COCOA」Ver.up	放射線科	保留
7	防護着	放射線科	別枠会計で順次更新
8	被ばく管理システム	放射線科	保留
9	勤怠管理システム	人事課	保留（再検討）
10	肺機能検査装置 チェスタック 8900	呼吸器科	承認
11	GE 社 Vivid iq Ultra Edition	循環器科・検査部	保留
12	Aplio i700cv	循環器科・検査部	保留
13	病理支援システム Path Window	病理診断部	保留
14	ティッシュ・テック TEC6 (包埋ブロック作成装置)	病理診断部	承認

ME 関連

1	自己血回収システム	臨床工学技術課	承認
2	麻酔器 Atlan	臨床工学技術課	承認
3	電気メス Vallylab FT10	臨床工学技術課	1台のみ承認
4	超音波吸引装置 CUSA	臨床工学技術課	承認

5	電気メス テスタ	臨床工学技術課	保留
6	IABP	臨床工学技術課	承認
7	医用テレメーター・送信機	臨床工学技術課	送信機 3 台のみ承認
8	統合型臨床情報システム	臨床工学技術課	承認
9	保育器 インキュ i 新	臨床工学技術課	保留
10	個人用透析装置 DBB-200Si	臨床工学技術課	1 台のみ承認
11	個人用 RO 装置 (WRO)	臨床工学技術課	保留
12	血液浄化装置 AcuFil Multi 55X- III	臨床工学技術課	1 台のみ更新

施設関連

1	中央監視室 空調機更新	総務管理課	承認
2	手術棟 GHP (外科・化学療法・生理検査系統)	総務管理課	承認
3	5 号井戸浚渫工事	総務管理課	承認
4	手術棟 UPS 装置更新	総務管理課	承認

支部 令和 5 年度救急医療体制の整備にかかる補助金 申請済

1	Aplio a Verifia	乳腺外科・検査部	申請済
2	ポータブルエコー SonoSite Edge II	臨床工学技術課	申請済

160 万円以下物品

1	メディマップ	地域医療連携課	保留
2	オージオメーター	検査部	承認
3	オージオメーター及び専用プリンター	人事課	承認
4	自動視力計 NV-350	人事課	承認

治験審査委員会

目 的

新規治験の実施および進行中の治験の継続について、科学面・安全面・倫理面から適正に審議することが目的。

GCP（医薬品の臨床試験の実施に関する省令）に準拠した委員会であり、構成人員・審議書類・記録方法等が詳細に規定されている。

併せて、GPPS（医薬品の製造販売後の調査および試験の実施の基準に関する省令）に準拠した製造販売後調査・副作用報告に関する審議・報告等も必要に応じ実施している。

委員会開催

第1回

開催日：令和4年4月15日（ハイブリッド開催）

- 議 題：1. 新規治験の実施の可否を審議
2. 迅速審査・報告
3. 委員会審議（治験の継続を審議）
4. 安全性情報（治験の継続を審議）
5. 製造販売後調査の実施の可否を審議

【新規承認試験】

◇NN1535-4592 第Ⅲ相試験（糖尿病・内分泌・代謝内科／2型糖尿病）

第2回

開催日：令和4年5月20日（ハイブリッド開催）

- 議 題：1. 迅速審査・報告
2. 委員会審議（治験の継続を審議）
3. 安全性情報（治験の継続を審議）

第3回

開催日：令和4年6月17日（現地開催）

議 題：第2回と同様

第4回

開催日：令和4年7月15日（現地開催）

議 題：第2回と同様

第5回

開催日：令和4年8月19日（ハイブリッド開催）

- 議 題：1. 新規治験の実施の可否を審議
2. 迅速審査・報告
3. 委員会審議（治験の継続を審議）
4. 安全性情報（治験の継続を審議）

【新規承認試験】

◇LY3209590（BDCY）第Ⅲ相試験（糖尿病・内分泌・代謝内科／1型糖尿病）

第6回

開催日：令和4年9月16日（ハイブリッド開催）

議 題：第2回と同様

第7回

開催日：令和4年10月21日（現地開催）

議 題：第2回と同様

第8回

開催日：令和4年11月18日（現地開催）

- 議 題：1. 迅速審査・報告
2. 委員会審議（治験の継続を審議）
3. 安全性情報（治験の継続を審議）
4. 製造販売後調査の実施の可否を審議

第9回

開催日：令和4年12月16日（ハイブリッド開催）

議 題：第8回と同様

第10回

開催日：令和5年1月20日（現地開催）

議 題：第8回と同様

第11回

開催日：令和5年2月17日（現地開催）

議 題：第8回と同様

第12回

開催日：令和5年3月17日（現地開催）

- 議 題：1. 迅速審査・報告
2. 委員会審議（治験の継続を審議）
3. 安全性情報（治験の継続を審議）
4. 製造販売後調査の実施の可否を審議
5. その他（製造販売後調査・副作用報告 実施状況についての報告）

治験・製造販売後調査等の終了報告

【治験】

T4288-306 第Ⅲ相試験 呼吸器内科

ETC-1002 第Ⅱ相試験 循環器内科

TM5614 第Ⅱ相試験 呼吸器内科

NN1436-4477 第Ⅲ相試験 糖尿病・内分泌・代謝内科

RPC01-3103 第Ⅱ / Ⅲ相試験 消化器内科

【製造販売後調査】

サークリサ点滴静注 血液内科
ファセンラ皮下注 30mgシリンジ 呼吸器内科
グラザレックス点滴静注 100mg、400mg 血液内科
アイクルシグ錠 15mg 血液内科
ゼルヤンツ錠 5mg 消化器内科
オルドレブ点滴静注用 150 m g 呼吸器内科
エドルミズ錠 消化器内科
ヴァンフリタ錠 17.7mg、26.5mg 血液内科
タフィンラーカプセル メキニスト錠 呼吸器内科
ノクサフィル錠 100mg、ノクサフィル点滴静注 300mg 血液内科
デュピクセント皮下注 300mg シリンジ 皮膚科
デュピクセント皮下注 呼吸器内科

令和4年度の振り返り

委員の方々や治験事務局員、治験コーディネーター、メディカルスタッフの協力を得て、大過なく治験を進めることができた。

新型コロナウイルス感染症の流行が終息に向かう中、昨年6月以降は現地開催を基本とし、安全に留意しつつ、安定した委員会を開催できたと感じている。

また糖尿病・内分泌・代謝内科責任医師の退職に伴い、各治験の治験責任医師・分担医師の大幅な変更を余儀なくされたが、引き続きどのような状況下でも治験審査委員会を定期的に関催し、被験者が安全に治験に参加できるよう適切な審議を継続していきたい。

以 上
幹事 仲 忠士

手術室運営委員会

目 的

高槻赤十字病院における手術室運営に関する諸問題の協議・調整を行い、安全かつ適切な手術が行える体制を確立する。

4月22日(金)	- 統計報告 令和4年3月手術件数 - マーキングチェックワーキンググループ発足・活動報告 - その他 - 令和3年度手術件数報告 - 術後疼痛管理加算申請について
5月27日(金)	- 統計報告 令和4年4月手術件数 - マーキングチェックワーキンググループ活動報告 - 術後疼痛管理加算について - その他 全身麻酔3列以上はできない。時間調整をお願いする。
6月24日(金)	- 統計報告 令和4年5月手術件数 - 術後疼痛管理加算について - 手術室ME業務について - 医療材料関連について(欠品あり) - その他 麻酔科面談枠の変更(火曜日)
7月22日(金)	- 統計報告 令和4年6月手術件数 - 術後疼痛管理加算について - マーキングチェックについて - バイオ電メについて
8月26日(金)	- 統計報告 令和4年7月手術件数 - 術後疼痛管理加算について - アフターコロナ患者の手術のタイミングについて - 麻酔科面談枠の変更(金曜日)
9月30日(金)	- 統計報告 令和4年8月手術件数 - 術後疼痛管理加算について - アフターコロナ患者の手術時期について - マーキングチェック実施手順改訂について - その他 術前PCR検査同意書について(COVID会議で検討)
10月28日(金)	- 統計報告 令和4年9月手術件数 - 術後疼痛管理加算について - COVID19関連手術について - 体内遺残防止対策について(線ガーゼ使用手術の拡大)
11月25日(金)	・休会
12月23日(金)	- 統計報告 令和4年11月手術件数 - その他: COVID19陽性患者の手術を実施(外来)

1 月 27 日 (金)	1. 統計報告 令和 4 年 12 月手術件数 2. 周術期薬剤管理加算について 3. 術後疼痛管理加算運用マニュアルについて 4. その他：手術時の PCR 検査について、医療器材契約更新について
2 月 17 日 (金)	1. 統計報告 令和 5 年 1 月手術件数 2. その他：S P D 関連について
3 月 24 日 (金)	1. 統計報告 令和 5 年 2 月手術件数 2. その他：手術前 COVID19 検査について

令和 4 年度 手術室手術件数・手術点数【月別・科別統計】

	内科	腎臓内科	消化器科	循環器科	泌尿器科	呼吸器科	呼吸器外科	外科	脳神経外科	整形外科	眼科	皮膚科	形成外科	耳鼻咽喉科	泌尿器科	全科	差分
手術件数	R 3.4							8	26		38				16	169 R 3.4	0
	R 4.4							13	33		56				20	20 196 R 4.4	27
	R 3.5							4	20		3				14	144 R 3.5	0
	R 4.5							8	36		45				12	190 R 4.5	46
	R 3.6							9	35		2				9	166 R 3.6	0
	R 4.6							6	51		43				20	229 R 4.6	63
	R 3.7							7	38		35				17	181 R 3.7	0
	R 4.7							11	49		34				19	182 R 4.7	0
	R 3.8							6	18		45				12	189 R 3.8	1
	R 4.8							11	41		63				17	221 R 4.8	32
	R 3.9							7	33		2				15	194 R 3.9	0
	R 4.9							3	29		43				12	182 R 4.9	-12
	R 3.10							2	41		3				20	196 R 3.10	0
	R 4.10							6	32		34				19	186 R 4.10	-10
	R 3.11							10	28		44				19	204 R 3.11	0
	R 4.11							9	43		59				18	212 R 4.11	8
	R 3.12							10	42		46				9	187 R 3.12	0
	R 4.12							5	38		54				12	214 R 4.12	27
	R 4.1							4	33		42				11	165 R 4.1	0
	R 5.1							6	38		64				14	178 R 5.1	13
手術点数	R 4.2							11	28		36				21	164 R 4.2	0
	R 5.2							11	47		46				11	194 R 5.2	30
	R 4.3							8	43		49				18	196 R 4.3	0
	R 5.3							9	40		57				21	205 R 5.3	9
	R3年度	2			14			86	385		538				172	2,155 R3年度	0
	R4年度	7			101			101	477		631				190	2,389 R4年度	234
	R 3.4							56	77		57				24	577 R 3.4	0
	R 4.4							56	77		57				24	577 R 4.4	0
	R 3.5							22,100	832,070		858,730				409,250	432,820 R 3.5	432,930
	R 4.5										756,720				343,350	3,759,540 R 4.5	0
	R 3.6										875,490				168,420	2,819,300 R 3.6	0
	R 4.6										866,995				326,810	3,530,645 R 4.6	711,345
	R 3.7										849,770				192,050	3,069,130 R 3.7	0
	R 4.7										747,840				502,560	4,259,805 R 4.7	1,190,675
	R 3.8										612,370				371,550	3,599,020 R 3.8	0
	R 4.8										815,730				387,690	3,974,560 R 4.8	375,540
	R 3.9										776,548				176,260	2,968,893 R 3.9	0
	R 4.9										1,197,330				328,070	4,031,010 R 4.9	1,062,117
	R 3.10										902,110				207,140	3,267,930 R 3.10	0
	R 4.10										839,435				216,070	2,675,100 R 4.10	-592,830
	R 3.11										977,870				384,540	3,556,345 R 3.11	0
	R 4.11										792,920				268,135	2,979,470 R 4.11	-576,875
	R 3.12										997,710				316,370	3,937,040 R 3.12	0
	R 4.12										809,800				217,240	3,802,470 R 4.12	-134,570
	R 3.1										711,190				285,860	3,400,370 R 3.1	0
	R 4.1										744,170				146,180	3,670,600 R 4.1	270,230
	R 3.2										643,910				244,490	2,929,675 R 3.2	798,045
	R 4.2										508,400				142,170	3,725,720 R 4.2	0
	R 3.3										631,710				318,330	2,891,370 R 3.3	793,590
	R 4.3										574,620				257,490	3,684,960 R 4.3	0
	R 5.3										736,700				469,700	3,809,518 R 5.3	-316,038
	R3年度	0									8,210,750				3,567,530	39,575,201 R3年度	0
	R4年度	0									8,210,750				3,488,955	43,587,260 R4年度	4,012,159
	令和4年度 令和3年度	0									1,863,600				0	-78,575	4,012,159
	前年度比率	0.0%									83.2%				0.0%	97.8%	110.1%

地域医療支援病院運営委員会

目 的

委員会は、地域における医療の確保・向上のために必要な支援に係る業務に関し、当該業務が適切に行われるために必要な事項を審議することを目的とする。

委員会開催

第1回	令和4年6月21日	Web会議
第2回	令和4年9月20日	Web会議
第3回	令和4年11月15日	Web会議
第4回	令和5年2月21日	Web会議

内 容

- ・紹介患者実績、紹介率・逆紹介率、救急搬入件数、セミナーなど、地域医療支援病院承認要件の報告。その後、当院の現状・活動について、今後当院との連携強化に向けて各委員（院外委員）と意見交換を実施。

患者支援センター運営委員会

目 的

本院を利用する患者が円滑に診療を受けられるように支援するとともに、地域包括ケアシステム推進に向け病院と地域を繋ぐ役割を果たすため設置された「患者支援センター」の運営に関する問題点や課題を改善するとともに、より一層の地域との機能連携を推進することを目的とする。

委員会開催

- 第 1 回 令和 4 年 4 月 20 日
- 第 2 回 令和 4 年 5 月 18 日
- 第 3 回 令和 4 年 6 月 15 日
- 第 4 回 令和 4 年 7 月 20 日
- 第 5 回 令和 4 年 8 月 17 日
- 第 6 回 令和 4 年 9 月 21 日
- 第 7 回 令和 4 年 10 月 19 日
- 第 8 回 令和 4 年 11 月 16 日
- 第 9 回 令和 4 年 12 月 21 日
- 第 10 回 令和 5 年 1 月 18 日
- 第 11 回 令和 5 年 2 月 15 日
- 第 12 回 令和 5 年 3 月 15 日

内 容

月ごとの紹介率・逆紹介率、紹介不応需状況、営業活動、患者支援センターに関する患者相談ミーティングでの報告事項。高槻赤十字病院地域連携の会開催について など。

認知症ケアサポートチーム委員会

目 的

認知症ケアサポートチームは、病棟における認知症患者へのケアの実施状況を把握するとともに、専門スタッフが病棟職員、家族・家族等に助言等を行い、拘束患者の早期離脱をすすめ、認知症患者への理解を深めながら療養環境の改善を目的とします。

委員会開催

2 回／年開催（必要時に開催）

活動実績

- ・ 毎週火曜日にミーティング及び、各病棟のラウンドを行い状況の確認・対応方法の検討と対策を行った。
- ・ 認知症患者の人数を把握し、各病棟の状況等の把握し、拘束患者の介入を行い拘束からの解放を行っている。
- ・ ミーティングなど認知症・せん妄の状況を把握し判定を行い、対応方法など検討を行った。
- ・ 院内研修会：令和 4 年 8 月 24（水）17：30 ～ 18：00

題 名：「認知症について」

講 師：神経内科 副部長 中川 朋一 先生 <参加人数：265 名>

※認知症ケア加算：8262 件（令和 3 年度）

9192 件（令和 4 年度）

AST 委員会

目 的

院内分離菌の把握、抗菌薬使用状況の把握など抗菌薬適正使用の推進。

毎週火曜日・木曜日、約 30 分間の抗菌薬ラウンド（カルテラウンド）を実施。

今年度目標 ①抗菌薬使用状況の把握

委員会開催

定例会議 毎月第 1 木曜日 16 時 00 分～（ICT 委員会と合同開催）

議題 MRSA 検出状況、耐性菌出現状況、環境調査、抗菌薬使用状況、その他

◆院内研修会

開催日	テーマ	対象	参加人数
4 月 5 日	新採用者研修会	新採用職員	
3 月 8 日 オンデマンド研修	AMR 対策	全職員	437 名
3 月 19 日 オンデマンド研修	救急での抗菌薬治療	全職員	420 名

◆抗菌薬適正使用の推進に係る取り組み

抗菌薬ラウンド 週 1 回 抗菌薬長期使用患者、許可抗菌薬使用患者等のカルテラウンド

病床管理運営委員会

理 念

病床は経営における重要な資源である。原則、全病床は全科共通のものであることを認識し、医師及び看護師は常に効率的な入退院を心掛けなければならない。

目 的

病床を一元管理し、入院から退院まで円滑かつ効果的に運用することを目的とする。

日 時：令和4年4月14日（木）

- 1 イントラトップページについて
- 2 一般病床の稼働推移について
- 3 クリーン病床の稼働推移について
- 4 コロナ病床の稼働推移について
- 5 HCU 病床の稼働推移について
- 6 緩和ケア病床の稼働推移について
- 7 月別一日平均新入院患者数推移について
- 8 病棟別入院稼働率について
- 9 病床逼迫時と空床増加時の、入院基準について
- 10 新病床管理室長から今後の方針等について
- 11 次回からの開催日時について
- 12 その他

日 時：令和4年5月12日（木）

- 1 4月の利用率と稼働率の実績について
- 2 一般病床 205 床の利用率と稼働率について
- 3 一般病床 255 床の利用率と稼働率について
- 4 一般病床の稼働推移について
- 5 クリーン病床の稼働推移について
- 6 コロナ病床の稼働推移について
- 7 HCU 病床の稼働推移について
- 8 緩和ケア病床の稼働推移について
- 9 病棟別入院稼働率について
- 10 月別一日平均新入院患者数推移について
- 11 イントラ情報について
- 12 その他

日 時：令和4年6月9日（木）

- 1 一般病床 205 床の利用率と稼働率について
- 2 5月の利用率と稼働率の実績について
- 3 9病棟の一般病床稼働推移について
- 4 一般病床（クリーン含む）と全体病床の一日平均稼働数推移について

- 5 クリーン病床の稼働推移について
- 6 HCU 病床の稼働推移について
- 7 緩和ケア病床の稼働推移について
- 8 病棟別入院稼働率について
- 9 予約入院数等の動向について
- 10 月別一日平均新入院患者数推移について
- 11 新入院の内訳について（予約入院と当日入院）
- 12 新入院の内訳について（診療科別）
- 13 その他

日 時：令和4年7月14日（木）

- 1 一般病床 205 床の利用率と稼働率について
- 2 6月の利用率と稼働率の実績について
- 3 9病棟の一般病床稼働推移について
- 4 一般病床（クリーン含む）と全体病床の一日平均稼働数推移について
- 5 クリーン病床の稼働推移について
- 6 HCU 病床の稼働推移について
- 7 緩和ケア病床の稼働推移について
- 8 病棟別入院稼働率について
- 9 予約入院数等の動向について
- 10 月別一日平均新入院患者数推移について
- 11 新入院の内訳について（予約入院と当日入院）
- 12 新入院の内訳について（診療科別）
- 13 その他

日 時：令和4年8月18日（木）

- 1 一般病床 205 床の利用率と稼働率について
- 2 235 床の利用率と稼働率について
- 3 一般病床（クリーン含む）と全体病床の一日平均稼働数推移について
- 4 クリーン病床の稼働について
- 5 HCU 病床の稼働推移について
- 6 緩和ケア病床の稼働推移について
- 7 コロナ陽性の稼働推移について
- 8 病棟別入院稼働率について
- 9 月別一日平均新入院患者数推移について
- 10 一般病棟の回転数について
- 11 一般病棟の稼働率について
- 12 一般病棟の DPC 入院期間Ⅰ＋Ⅱ率について
- 13 その他

日 時：令和4年9月8日（木）

- 1 一般病床 205 床の利用率と稼働率について
- 2 235 床の利用率と稼働率について

- 3 一般病床（クリーン含む）と全体病床の一日平均稼働数推移について
- 4 クリーン病床の稼働について
- 5 HCU 病床の稼働推移について
- 6 緩和ケア病床の稼働推移について
- 7 コロナ陽性の稼働推移について
- 8 病棟別入院稼働率について
- 9 月別一日平均新入院患者数推移について
- 10 その他

日 時：令和4年10月13（木）

- 1 上半期一般病床（205 床）病棟別稼働率について
- 2 入院患者延数推移（2021 年度から）について
- 3 外来患者数推移（2021 年度から）について
- 4 月別一日平均新入院患者数推移について
- 5 10 月の一般病床（205 床）について
- 6 10 月の病棟別稼働率について
- 7 クリーン病床の稼働率について
- 8 10 月のコロナ陽性の稼働推移について
- 9 10 月の HCU 病床の稼働推移について
- 10 10 月の緩和ケア病床の稼働推移について
- 11 一般病床（クリーン含む）と全体病床の一日平均稼働数推移について
- 12 DPC 入院期間Ⅰ＋Ⅱについて
- 13 病棟別 DPC 入院期間Ⅰ＋Ⅱ（2021 年度から）について
- 14 その他

日 時：令和4年11月10（木）

- 1 病棟別稼働率について
- 2 コロナ院内発生による影響について
- 3 月別一日平均新入院患者数推移について
- 4 月別クリーン病床の稼働について
- 5 月別 HCU 病床の稼働推移について
- 6 月別緩和ケア病床の稼働推移について
- 7 コロナ陽性の稼働推移について
- 8 その他

日 時：令和4年12月15日（木）

- 1 病棟別稼働率について
- 2 月別クリーン病床の稼働について
- 3 月別 HCU 病床の稼働推移について
- 4 月別緩和ケア病床の稼働推移について
- 5 コロナ陽性の稼働推移について
- 6 月別一般病床（クリーン含む）と全体病床の一日平均稼働数推移について
- 7 月別一日平均新入院患者数推移について

- 8 平均在院日数について
- 9 DPC 退院情報について
- 10 診療科別曜日別の新入院と入院患者延数について
- 11 その他

日 時：令和5年1月12日（木）

- 1 病棟別稼働率について
- 2 月別クリーン病床の稼働について
- 3 月別 HCU 病床の稼働推移について
- 4 月別緩和ケア病床の稼働推移について
- 5 コロナ陽性の稼働推移について
- 6 月別一般病床（クリーン含む）と全体病床の一日平均稼働数推移について
- 7 月別一日平均新入院患者数推移について
- 8 平均在院日数について
- 9 DPC 退院情報について
- 10 その他

日 時：令和5年2月9日（木）

- 1 病棟別稼働率について
- 2 月別クリーン病床の稼働について
- 3 月別 HCU 病床の稼働推移について
- 4 月別緩和ケア病床の稼働推移について
- 5 コロナ陽性の稼働推移について
- 6 月別一般病床（クリーン含む）と全体病床の一日平均稼働数推移について
- 7 月別一日平均新入院患者数推移について
- 8 平均在院日数について
- 9 その他

日 時：令和5年3月9日（木）

- 1 月別一日平均新入院患者数推移について
- 2 平均在院日数について
- 3 病棟別稼働率について
- 4 月別クリーン病床の稼働について
- 5 月別 HCU 病床の稼働推移について
- 6 月別緩和ケア病床の稼働推移について
- 7 コロナ陽性の稼働推移について
- 8 9病棟一般病床の使用状況について
- 9 月別一般病床（クリーン含む）と全体病床の一日平均稼働数推移について
- 10 来年度の病床数の考え方について
- 11 その他

保険委員会

目 的

診療報酬請求の査定状況報告、返戻状況・再審査請求状況の報告、医師への情報 提供、医事課勉強会の報告等を行い、正確な診療報酬請求に繋げる。

委員会開催

開催日 令和 4 年 6 月 29 日

- 議 題 ①審査機関による審査結果集計
②診療科別等査定内訳入外別
③その他

開催日 令和 4 年 10 月 26 日

- 議 題 ①審査機関による審査結果集計
②診療科別等査定内訳入外別
③その他

開催日 令和 4 年 12 月 28 日

- 議 題 ①審査機関による審査結果集計
②診療科別等査定内訳入外別
③その他

開催日 令和 5 年 1 月 31 日

- 議 題 ①審査機関による審査結果集計
②診療科別等査定内訳入外別
③その他

開催日 令和 5 年 3 月 3 日

- 議 題 ①審査機関による審査結果集計
②診療科別等査定内訳入外別
③その他（薬剤部よりリコモジュリン投与時の DIC スコア廃止について）

放射線安全委員会

目 的

放射線障害の発生を防止し、あわせて公共の安全を確保する目的として、当委員会では放射線被ばく等に関する必要な事項を企画、審議する。

委員会開催

開催日：令和4年12月5日

議 題：

- ①放射線治療における放射線業務従事者の教育訓練について
- ②漏洩線量測定の結果
- ③その他

開催日：令和5年3月23日

議 題：

- ①放射線障害防止法に基づく定期検査及び定期確認について
- ②第1種放射線取扱主任者の講習について
- ③漏洩線量結果について
- ④その他

防火防災・災害対策委員会

目 的

当院における防火防災の徹底を図り、火災その他の災害による人的及び物的被害を軽減すること、および日本赤十字社災害救護体制要綱、日本赤十字社大阪府支部災害救護体制要綱、高槻赤十字病院BCP災害対策ガイドライン及び高槻赤十字病院災害救護要綱の定めるところに基づき、災害時における災害救護体制に関する事項を審議することを目的とする。

委員会開催

第 1 回

開催日：令和 5 年 2 月 20 日（月）

議 題：①前回訓練（2021.12.16）の振り返りについて

②次年度のスケジュールについて報告

- ◆ 防火防災・災害対策委員会 5 月・10 月（予定）
- ◆ BCP 災害対策 WG 年間 3-4 回程度
- ◆ 実訓練 4 月 自衛消防（新人研修と兼ねて）
10-11 月 自衛消防 + 災害対策

③今年度 BCP 災害対策WGのメンバーについて

④今年度訓練について

- ◆夜間想定（救急玄関付近にて）
- ◆被災者受け入れ（トリアージ訓練）

⑤栄養課より備蓄食料について

- ・現在の備蓄量基準が 10 年前と古いため、見直しを考えている。
- ・近隣日赤の備蓄情報を調べ、5 月の委員会にて再検討。

消防訓練開催

第 1 回 新入職員対象消防訓練

開催日：令和 4 年 4 月 4 日（月）9 時～ 11 時 30 分

目 的：新入職員に対し消火・避難訓練を行い自衛消防意識の向上を図る

内 容：①消火器を使用しての消火訓練

②屋内消火栓を使用しての放水訓練

③担架・毛布を使用しての応急救護・避難訓練

第 2 回 全職員対象消防訓練（高槻北消防署予防係）

開催日：令和 5 年 3 月 13 日（月）15 時～ 16 時

目 的：①地震により発生した出火及び閉じ込めを想定した自衛消防活動訓練

（本部・地区隊における消火、救出、避難誘導）を実施し手順の確認を行う。

②夜間帯における災害対策本部の設置・運用。

- 内 容：Ⅰ．出火時における初期消火の実施
- Ⅱ．閉じ込め発生時における救出の実施
- Ⅲ．出火上階病棟における避難誘導の実施
- Ⅳ．夜間帯における被災者受け入れの体制を整える
- Ⅴ．トリアージエリアの区分けと被災者の誘導
- Ⅵ．携帯無線（トランシーバー）の実践訓練

薬事委員会

目 的

医薬品や検査試薬等の採用や削除について、医師の依頼に基づいて適正に審議することが目的。

不良在庫の見直しによる採用薬品数の削減も、薬剤部の提案により本委員会で検討される。

後発品への切り替えは、DPC 導入もあり病院経営の観点からも重要である。後発品の品質・供給体制等を考慮し、薬剤部より提案のうえ本委員会にて審議している。

委員会開催

< 第 1 回 >

開催日 令和 4 年 4 月 1 日

- 議 題
1. 仮採用依頼品目の審議
 2. 院外採用依頼品目の審議
 3. 採用中止候補品目の審議
 4. 仮採用品目の本採用審議
 5. 特定患者用薬品の使用状況報告
 6. 6 ヶ月院内に処方がない品目の採用中止報告
 7. 5 ヶ月院内に処方がない品目の報告

< 第 2 回 >

開催日 令和 4 年 5 月 6 日

- 議 題
1. 仮採用依頼品目の審議
 2. 院外採用依頼品目の審議
 3. 採用中止候補品目の審議
 4. 仮採用品目の本採用審議
 5. 特定患者用薬品の使用状況報告
 6. その他の承認依頼事項
 7. 6 ヶ月院内に処方がない品目の採用中止報告
 8. 5 ヶ月院内に処方がない品目の報告
 9. 後発品切替についての審議

< 第 3 回 >

開催日 令和 4 年 6 月 3 日

- 議 題
1. 仮採用依頼品目の審議
 2. 院外採用依頼品目の審議
 3. 採用中止候補品目の審議
 4. 仮採用品目の本採用審議

5. 特定患者用薬品の使用状況報告
6. 6ヶ月院内に処方がない品目の採用中止報告
7. 5ヶ月院内に処方がない品目の報告
8. 後発品切替についての審議

< 第4回 >

開催日 令和4年7月1日

議 題 1. - 8. 第3回と同様

< 第5回 >

開催日 令和4年8月5日

議 題 1. - 9. 第2回と同様

< 第6回 >

開催日 令和4年11月4日

- 議 題
1. 仮採用依頼品目の審議
 2. 院外採用依頼品目の審議
 3. 採用中止候補品目の審議
 4. 仮採用品目の本採用審議
 5. 特定患者用薬品の使用状況報告
 6. その他の承認依頼事項
 7. 6ヶ月院内に処方がない品目の採用中止報告
 8. 5ヶ月院内に処方がない品目の報告
 9. 後発品切替についての審議
 10. 国内承認薬の適応外使用についての審議 [糖尿病・内分泌・代謝内科]
 11. 国内承認薬の適応外使用についての審議 [血液腫瘍内科]

< 第7回 >

開催日 開催日 令和4年12月2日

議 題 1. - 8. 第3回と同様

< 第8回 >

開催日 令和5年1月6日

議 題 1. - 7. 第1回と同様

< 第 9 回 >

開催日 令和 5 年 3 月 3 日

- 議 題
1. 薬事委員会規程の改訂について
 2. 2023 年 1 月薬事委員会の保留案件について
 3. 仮採用依頼品目の審議
 4. 院外採用依頼品目の審議
 5. 採用中止候補品目の審議
 6. 仮採用品目の本採用審議
 7. 特定患者用薬品の使用状況報告
 8. その他の承認依頼事項
 9. 6 ヶ月院内に処方がない品目の採用中止報告
 10. 5 ヶ月院内に処方がない品目の報告

令和 4 年度の振り返り

令和 4 年度は、令和 3 年度に引き続き、新型コロナウイルスの診療に関連した医薬品の対応と、製薬会社の出荷制限・停止等に対する対応が中心であった。各診療科に供給状況を伝え、協力を得ながら、通常診療への影響は最小限に留めることができた。

特に昨年度は、後発品への切り替えは、医薬品供給へのリスクがあるので、医薬品の供給安定を最優先にした為、薬事委員会での後発品への変更の提案が少なくなった。

今年度は、薬剤部内のマンパワーを見ながら、抗がん剤などの高額医薬品を中心に、後発品に切り替えることにより、病院経営に貢献したい。

以 上

幹事 美和 孝之

輸血療法委員会

目 的

輸血療法の適応、血液製剤の選択、輸血用血液の検査項目・検査術式の選択と精度管理、輸血実施時の手続き、血液の使用状況調査、症例検討を含む適正使用推進の方法、輸血療法に伴う事故・副作用・合併症の把握方法と対策、輸血関連情報の伝達方法、院内採血の基準や自己血輸血の実施方法についての検討するとともに、改善状況について定期的に検証する。

委員会開催

第 1 回

開催日：令和 4 年 4 月 6 日（水）

- 議 題：① FFP・アルブミン製剤の使用状況報告（3 月分）
②輸血副作用報告（2 月分）
③ 2001 年度血液製剤破棄報告
④委員変更報告

第 2 回

開催日：令和 4 年 5 月 11 日（水）

- 議 題：① FFP・アルブミン製剤の使用状況報告（4 月分）
②輸血副作用報告（3 月分）
③血液製剤破棄報告

第 3 回

開催日：令和 4 年 6 月 1 日（水）

- 議 題：① FFP・アルブミン製剤の使用状況報告（5 月分）
②輸血副作用報告（4 月分）
③遡及調査依頼報告（2021 年 11 月 30 日供給分）

第 4 回

開催日：令和 4 年 7 月 6 日（水）

- 議 題：① FFP・アルブミン製剤の使用状況報告（6 月分）
②輸血副作用報告（5 月分）
③輸血療法に関する保険点数の査定報告（令和 4 年 1 月～ 3 月分）

第 5 回

開催日：令和 4 年 8 月 3 日（水）

- 議 題：① FFP・アルブミン製剤の使用状況報告（7 月分）
②輸血副作用報告（6 月分）
③血液型検査依頼時のアラート設定について

第6回

開催日：令和4年9月7日（水）

- 議 題：① FFP・アルブミン製剤の使用状況報告（8月分）
②輸血副作用報告（7月分）
③輸血関連検査用採血管の変更について

第7回

開催日：令和4年10月5日（水）

- 議 題：① FFP・アルブミン製剤の使用状況報告（9月分）
②輸血副作用報告（8月分）
③輸血開始前・輸血終了時の生理食塩水使用について

第8回

開催日：令和4年11月2日（水）

- 議 題：① FFP・アルブミン製剤の使用状況報告（10月分）
②輸血副作用報告（9月分）
③輸血後感染症発症事例報告
④院内輸血マニュアル変更について

第9回

開催日：令和4年12月7日（水）

- 議 題：① FFP・アルブミン製剤の使用状況報告（11月分）
②輸血副作用報告（10月分）
③血液製剤破棄報告

第10回

開催日：令和5年1月4日（水）

- 議 題：① FFP・アルブミン製剤の使用状況報告（12月分）
②輸血副作用報告（11月分）
③血液製剤破棄報告

第11回

開催日：令和5年2月1日（水）

- 議 題：① FFP・アルブミン製剤の使用状況報告（1月分）
②輸血副作用報告（12月分）
③照射赤血球液 (RBC) の有効期限変更について

第12回

開催日：令和5年3月1日（水）

議 題：① FFP・アルブミン製剤の使用状況報告（2月分）

②輸血副作用報告（1月分）

参考資料：令和3年度年報

第1回

開催日：令和4年10月18日（火）

令和4年11月 8日（火）

令和4年11月 9日（水）

令和4年11月10日（木）

令和4年11月11日（金）

テーマ：安全な輸血の取扱いについて

倫理委員会

目 的

当院で行われるヒトを対象とした医学の研究及び臨床応用についての「医の倫理」に関する事項をヘルシンキ宣言（2013 年 WMA フォルタレザ総会修正）の趣旨に添い審議することを目的とする。

委員会開催

第 1 回

開催日：令和 4 年 6 月 29 日

- 議 題：①造血幹細胞移植後の重症ウイルス感染症に対するシドフォビルの有効性と安全性の評価（血液腫瘍内科）
②糖尿病教育入院患者の入院前後の療養行動の変化（看護部）
③倫理委員会規定変更にかかる要望（薬剤部）

書類審議

第 1 回

開催日：令和 4 年 6 月 20 日

- 議 題：①プロトンポンプ阻害薬中止による胃過形成ポリープ縮小効果に関する他機関共同前向き観察研究（消化器内科）
②突発性肺線維症における白血球テロメア長と血中バイオマーカーおよび臨床指標の関連についての検討（呼吸器内科）

第 2 回

開催日：令和 4 年 8 月 1 日

- 議 題：①大腸内視鏡研修における ADR.AADR.SOR の経時重化の検討（消化器内科）
②栄養摂取がサーカディアンリズムを介して糖代謝に及ぼす影響の検討
（糖尿病・内分泌・生活習慣科）
③患者レジストリを利用した IgG4 関連疾患の診断基準ならびに治療指針の確立を目指す研究（消化器内科）

第 3 回

開催日：令和 4 年 8 月 18 日

- 議 題：①アミロイドーシス剖検症例に関する全国調査（病理診断科）

第 4 回

開催日：令和 4 年 9 月 30 日

- 議 題：①外来医療から在宅医療への移行期における患者・家族支援と多職種連携の実態（看護部）

- ②胆道狭窄症の診断における新デバイスの有用性に関するランダム化比較試験 - 他施設共同前向き研究（消化器内科）

第5回

開催日：令和4年11月24日

- 議 題：①高齢者骨髄系造血器腫瘍に対するフルタビラン＋ブスルファン＋メルファランを前処置にした同種造血幹細胞移植の治療効果、安全性についての後方視的研究（血液腫瘍内科）
- ②慢性心不全患者に対する外来における療養支援のエビデンス構築のための実証事業申請について～対面及び電話による支援の効果検証～（看護部）
- ③当院における急性白血病に対する白血球アフェレシスの有用性の検討（単施設後方視的研究）（血液腫瘍内科）

第6回

開催日：令和5年1月6日

- 議 題：①IMP3を軸とした多重免疫染色を用いた血管内大細胞型B細胞リンパ腫の病理診断（病理診断科）

第7回

開催日：令和5年2月1日

- 議 題：①関節リウマチに伴う気管支拡張症の全国調査研究（呼吸器内科）

目 的

臨床検査の適性なる運営を推進すること

第 241 回

開催日 令和 4 年 4 月 12 日（火）

1. 3 月分 院内測定項目 実績件数
2. 保険査定が多い検査項目の監視
3. 外部委託項目新規のお知らせ
4. 外部委託検査中止のお知らせ
5. CK-MB 法の診療点数引き下げについて
6. その他

第 242 回

開催日 令和 4 年 5 月 17 日（火）

1. 4 月分 院内測定項目 実績件数
2. 保険査定が多い検査項目の監視
3. 新規外部委託項目
4. 採血管欠品について

第 243 回

開催日 令和 4 年 6 月 14 日（火）

1. 5 月分 院内測定項目 実績件数
2. 保険査定が多い検査項目の監視
3. 院内で実施している高コストな採血検査項目一覧
4. 外部委託項目中止のお知らせ
5. 外部委託項目 変更のお知らせ
6. 外部委託項目 新規のお知らせ
7. 採血管欠品について

第 244 回

開催日 令和 4 年 7 月 12 日（火）

1. 6 月分 院内測定項目 実績件数
2. 外部委託項目 新規のお知らせ
3. 採血管欠品について
4. 保険査定が多い検査項目の監視
5. 検査機器更新作業について
6. その他

第 245 回

開催日 令和 4 年 8 月 9 日 (火)

1. 7 月分 院内測定項目 実績件数
2. 外部委託項目 新規のお知らせ
3. 保険査定が多い検査項目について
4. 検査機器更新作業について
5. その他

第 246 回

開催日 令和 4 年 9 月 13 日 (火)

1. 8 月分 院内測定項目 実績件数
2. 外部委託項目 新規、変更のお知らせ
3. 令和 4 年度日臨技精度管理調査報告
4. 検査機器更新の進捗

第 247 回

開催日 令和 4 年 10 月 11 日 (火)

1. 9 月分 院内測定項目 実績件数
2. 外部委託項目について
3. NUDT15 遺伝子多型 査定のポップアップ要望
4. 検査機器更新の進捗

第 248 回

開催日 令和 4 年 11 月 8 日 (火)

1. 10 月分 院内測定項目 実績件数
2. 外部委託項目について
3. 計画停電時の対応
4. 検査機器更新の進捗
5. その他

第 249 回

開催日 令和 4 年 12 月 13 日 (火)

1. 11 月分 院内測定項目 実績件数
2. 外部委託項目について
3. 検査部年末年始 業務体制について
4. 日臨技 精度管理調査結果 (POCT 感染症項目) について
5. 検査機器更新の進捗

第 250 回

開催日 令和 5 年 1 月 10 日 (火)

1. 12 月分 院内測定項目 実績件数
2. 外部項目について
3. 日臨技 精度管理調査結果
4. カリニ PCR 検査エビデンスについて
5. カード式血液ガス分析装置 救急室設置検討について一度デモをしてもらい、見積りを出してもらってください。(神田)
6. BRCA 遺伝子検査の病理検査室によるオーダー一括管理について
7. 検査機器更新の進捗

第 251 回

開催日 令和 5 年 2 月 14 日 (火)

1. 1 月分 院内測定項目 実績件数
2. 外部項目、他
3. 保険査定の多い項目について
4. 検査機器更新の進捗

第 252 回

開催日 令和 5 年 3 月 14 日 (火)

1. 院内測定項目実績件数比較
2. 保険査定の多い項目について
3. 免疫検査機器入れ替えに伴う測定値, 基準値範囲変更について
4. 第 56 回日本医師会精度管理調査報告
5. PIVKA- II 院内化準備
6. カード式血ガス分析装置 救急室設置について
7. 検査機器更新の進捗

労働安全衛生委員会

日 時 令和4年4月19日（火）16：30～

- 議 案 1. 時間外勤務45時間超 職種別人数について
2. 職員定期健康診断について
3. その他

日 時 令和4年5月24日（火）16：30～16：50

- 議 案 1. 時間外勤務45時間超 職種別人数について
2. 職員定期健康診断について
3. その他

日 時 令和4年6月21日（火）16：30～16：40

- 議 案 1. 時間外勤務45時間超 職種別人数について
2. 職員定期健康診断について
3. その他

日 時 令和4年7月19日（火）16：30～16：40

- 議 案 1. 時間外勤務45時間超 職種別人数について
2. 職員定期健康診断について
3. その他

日 時 令和4年8月16日（火）16：35～16：45

- 議 案 1. 時間外勤務45時間超 職種別人数について
2. 職員コロナワクチンについて
3. その他

日 時 令和4年9月20日（火）16：30～16：43

- 議 案 1. 時間外勤務45時間超 職種別人数について
2. 職員コロナワクチンについて
3. その他

日 時 令和4年10月17日（月）16：30～16：40

2. ストレスチェックについて
3. 職員インフルエンザワクチンについて
4. その他

日 時 令和4年11月15日（火）16：30～16：50

- 議 案 1. 時間外勤務45時間超 職種別人数について
2. ストレスチェックについて
3. 職員インフルエンザワクチンについて
4. 作業環境測定の報告
5. その他

日 時 令和4年12月20日（火）16：30～16：55

- 議 案 1. 時間外勤務45時間超 職種別人数について
2. ストレスチェックについて
3. 冬の健康診断について
4. その他

日 時 令和5年1月17日（火）16：30～16：50

- 議 案 1. 時間外勤務45時間超 職種別人数について
2. ストレスチェックについて
3. 職員コロナワクチンについて
4. 冬の健康診断について
5. その他

日 時 令和5年2月21日（火）16：30～16：50

- 議 案 1. 時間外勤務45時間超 職種別人数について
2. ストレスチェックについて
3. 深夜業務者等特定業務従事者の定期健康診断の実施について
4. その他

日 時 令和5年3月16日（木）16：30～16：35

- 議 案 1. 時間外勤務45時間超 職種別人数について
2. メンタルヘルス研修について
3. その他

褥瘡委員会

目 的

高槻赤十字病院において褥瘡対策を円滑に推進するため、院内褥瘡対策について討議検討し、その効果的な推進を図ることを目的とする。

委員会

褥瘡対策の実際としては毎週、褥瘡対策チームが回診を行い、ベッドサイドカンファレンスでケアの評価、及び処置を実施・指導している。褥瘡委員会の下部組織として、褥瘡リンクナース会を設置し、各病棟にリンクナースを配置して褥瘡対策に取り組んでいる。

院内発生褥瘡について DESIGN-R ○ R2020 で深さ d2 以上の褥瘡発生件数は 30 件で、推定発生率は 1.01%、褥瘡有病率は 2.7%であった。深さ d2 以上の持ち込み褥瘡は 48 件あり、部位は仙骨部と踵部が多かった。

MDRPU（医療関連機器圧迫創傷）に関しての院内発生は 3 件で、NPPV マスクと固定バンドによるもの、酸素チューブによるもの、オルソグラスの固定によるものがそれぞれ 1 件ずつであった。COVID-19 関連の褥瘡はなかった。

褥瘡ハイリスク患者ケア加算は 939 件算定した。

患者サービス向上委員会

目 的

患者サービス向上委員会は医療や患者へのサービスの充実を図り、患者の満足度や職員のモラルを高めることを目的とします。

委員会開催

原則月 1 回、第 4 水曜日 15 時開始

○第 41 回患者サービス向上委員会（今年度 1 回目）

令和 4 年 6 月 1 日（水）

今年度の計画・委員会の運営について検討

○第 42 回患者サービス向上委員会（2 回目）

令和 4 年 6 月 22 日（水）

令和 3 年度患者満足度調査から、今年度取り組む課題の決定

令和 3 年度入院および職員満足度調査結果の考察・院外広報誌掲載内容について検討

○第 43 回患者サービス向上委員会（3 回目）

令和 4 年 9 月 28 日（水）

令和 4 年度患者満足度調査についての検討

※日本ホスピタルアライアンス（NHA）事務局より調査について説明。

○第 44 回患者サービス向上委員会（4 回目）

令和 4 年 10 月 26 日（水）

令和 4 年度患者満足度調査の日程について検討

今年度研修会の実施について検討

職員満足度調査についての検討

○第 45 回患者サービス向上委員会（5 回目）

令和 4 年 12 月 5 日（水）

令和 4 年度研修会実施内容について確認

第一部：医療従事者としての基本的な待遇マナー（視聴）

第二部：アクセーヌ（株）によるメイクアップ講座

○第 46 回患者サービス向上委員会（6 回目）

令和 5 年 1 月 25 日（水）

令和 4 年度研修会結果の報告

検食について日程調整

令和 4 年度職員満足調査の実施形式を検討

○第 47 回患者サービス向上委員会（7 回目）

令和 5 年 2 月 22 日（水）

令和 4 年度職員満足度調査の結果フリーコメントの分類および考察

○第 48 回患者サービス向上委員会（8 回目）

令和 5 年 3 月 22 日（水）

令和 4 年度入院患者満足度調査

※日本ホスピタルアライアンス（NHA）事務局より説明

今年度委員会の振り返り

その他の活動実績

○入院満足度調査の実施

調査期間：令和 4 年 11 月 9 日（火）～ 300 部配布終了まで（11 月末日必着）

調査対象者：令和 4 年 11 月 9 日時点の在院患者

○職員満足度調査の実施

調査期間：令和 5 年 2 月 6 日（月）～令和 5 年 2 月 19 日（日）

○研修会の実施

開催日：令和 4 年 12 月 19 日（月）

第一部：医療従事者としての基本的な待遇マナー（視聴）

第二部：アクセース（株）によるメイクアップ講座

血液浄化療法委員会

目 的

血液浄化療法室および病棟等で行われる血液浄化療法の運営と管理に必要な事項を審議する。

委員会開催

第 1 回

開催日：令和 5 年 3 月 29 日

議 題

- ①「血液浄化療法における収益について」報告
- ②「血液浄化療法室の今後の運用について」審議

臨床倫理委員会

目 的

臨床における倫理的な判断が困難な症例、病院としての見解が必要と判断されること、その他、臨床における倫理的判断が困難事例に関することを審議する。

委員会開催

第 1 回

開催日：令和 4 年 4 月 8 日（金）

議 題：HCU 治療継続について

医療放射線管理委員会

目 的

医療法施行規則 第一条の十一に則り、放射線に関わる検査の適性な運営を推進する

委員会開催

開催日：令和 4 年 12 月 2 日（金）

1. 医療放射線管理委員会振り返り
2. 線量管理部会、MRI 安全管理部会からの報告
3. 本年度研修会の実施について

研修会の実施

開催日：① 上映会

日時：令和 4 年 12 月 12 ～ 14 日 9：30 ～ 18：00

場所：232 会議室

② オンデマンド配信

期間：令和 4 年 12 月 12 ～ 25 日

医療安全研修枠での開催

正当性：後藤公男 約 7 分

最適化：松山佳央 約 8 分

MRI 安全管理：VIDEO 約 15 分

※医師・看護師 全員対象

病床再編成検討・検証委員会

目 的

当院の将来構想に基づき、短期・中期の病棟再編成を検討・検証する。

委員会開催

令和 4 年度開催実績なし。

ハラスメント防止委員会

委員会開催

開催日：令和4年10月20日（木）15：30～16：30

- 議 題：1. ハラスメント事例について
2. ハラスメント研修について
3. その他

VIII 誌上・講演発表

《誌 上》

外科

ORIGINAL ARTICLE

著 者	題 名	誌名・巻（号）：頁	発 行
Toshiaki Shichinohe Hiroshi Date Satoshi Hirano Eiji Kobayashi Yoshimitsu Izawa Yasuhiro Shirakawa Masako Hiramatsu Mitsuhito Mase Hiroshi Taneichi Hiroyuki Yaginuma Toyoshi Fujimoto Toshiyuki Tsurumoto Masahiko Watanabe Hiroshi Kurita Naohito Hato Tomoyasu Kato Hiroomi Kanayama Takane Suzuki Kumiko Yamaguchi Yoshimasa Takeda	Usage of cadavers in surgical training and research in Japan over the past decade.	Anatomical Science International97:241-250	2022 年 4 月

症 例

著 者	題 名	誌名・巻（号）：頁	発 行
小林 稔弘 坂根 純奈、平松 昌子、 川口 佳奈子、恒松 一郎、 渡邊 千尋	乳腺被包型乳頭癌の 8 例	日本臨床外科学会雑誌 83(5) : 838-843	2022 年 5 月

会員へのメッセージ

著 者	題 名	誌名・巻（号）：頁	発 行
平松 昌子	邦文誌編集委員会の歴史とこれから	日本外科学会雑誌 123(5) : 374-375	2022 年 9 月

看護部

著 書

著 者	題 名	誌名・巻（号）：頁	発 行
原田 かおる 工藤 ゆかり	外来での入院前支援を病棟での退院支援に生かすための体制づくり	月間ナースマネージャー 24(2)10-16	2022 年 4 月
(編集) 鈴木 久美、簗持 知恵子、 佐藤 直美 (分担執筆) 今戸 美奈子、他 32 名	(分担箇所) 第Ⅰ章－6. 災害時における慢性疾患を有する人の看護 第Ⅱ章－2. 慢性疾患を有する人の心理的特徴	看護学テキスト NiCE 成人看護学 慢性期看護 (改訂第 4 版) p.48-52, 66-71	2023 年 2 月

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	発 行
原田 かおる 編集：桑田 美代子、 吉岡 佐知子、西山 みどり	超高齢者の緩和ケアを実現するために 場の違いからみる緩和ケア	超高齢者の緩和ケア p209-212・ 南山堂	2022 年 10 月
原田 かおる 編集：湯浅 美千代	在宅で長期に療養している高齢者の変化に気づき、治療につなげた事例	看護判断のための気づきとアセスメント 老年看護・p144-151・中央法規	2022 年 5 月
原田 かおる 長畑 多代	COVID-19 感染流行期における高齢者への訪問看護で訪問看護ステーション管理者が感じた困難	日本在宅ケア学会誌・26(2) p120-127	2023 年 3 月
原田 かおる 編集：認知症の緩和ケアに関する研究会	認知症 plus 緩和ケア. 第 5 章 高齢者施設で展開する認知症の人を支える緩和ケア 6. 緩和ケアの視点で認知症の人を支える多職種連携システム	超高齢者の緩和ケア p209-212・ 南山堂	2023 年 1 月

その他(学会マニュアル)

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	発 行
(編集) 3 学会合同セルフマネジメント支援マニュアル作成ワーキンググループ、 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会呼吸リハビリテーション委員会ワーキンググループ、 日本呼吸理学療法学会ワーキンググループ、 日本呼吸器学会呼吸管理学会部会ワーキンググループ (分担執筆) 今戸 美奈子、他 41 名	呼吸器疾患患者のセルフマネジメント支援マニュアル(分担箇所) II—21 地域包括ケアにおけるセルフマネジメント支援	日本呼吸ケア・リハビリテーション学会誌、第 32 巻 特別増刊号、 p.222-227	2022 年 9 月

皮膚科

単行本

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	発 行
Siying Zhang Yuko Ishida, Akiko Ishigami, Mizuho Nosaka, Yumi Kuninaka, Satoshi Hata, Hiroki Yamamoto, Yumiko Hashizume, Jumpei Matsuki, Haruki Yasuda, Akihiko Kimura, Fukumi Furukawa, Toshikazu Kondo	Forensic Application of Epidermal Ubiquitin Expression to Determination of Wound Vitality in Human Compressed Neck Skin,	SKIN LESION VITALITY ASSESSMENT FOR FORENSIC SCIENCE: CURRENT RESEARCH AND NEW PERSPECTIVES 編集 Stefano Bacci, Vittorio Fineschi, Isabel Legaz, Burkhard Madea, Apple Books 328-360, 2022 doi: 10.3389/fmed.2022.867365	2022 年 4 月

原 著

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	発 行
Siying Zhang Yuko Ishida, Akiko Ishigami, Mizuho Nosaka, Yumi Kuninaka, Satoshi Hata, Hiroki Yamamoto, Yumiko Hashizume, Jumpei Matsuki, Haruki Yasuda, Akihiko Kimura, Fukumi Furukawa, Toshikazu Kondo	Forensic application of epidermal ubiquitin expression to determination of wound vitality in human compressed neck skin.	Front Med (Lausanne). 2022; 9: 867365. doi: 10.3389/fmed.2022.867365	2022 年 4 月
Yoshinobu Murakami Seisho Azuma, Kimiye Baba, Masahiko Taniguchi, Fukumi Furukawa	Activation of proteinase-activated receptor-2 (PAR-2) simultaneously induces interleukin 8 (IL-8) and suppresses monocyte chemoattractant protein-1 (MCP-1) in HaCaT cells.	Trends in Immunotherapy 2022; 6 doi:10.24294/ti.v6.i1.1472	2022 年 6 月
Jumpei Matsuki Akiko Ishigami, Motonari Tanaka, Satoshi Hata, Yuko Ishida, Mizuho Nosaka, Yumi Kuninaka, Hiroki Yamamoto, Emi Shimada, Yumiko Hashizume, Tatsunori Takayasu, Akihiko Kimura, Fukumi Furukawa, Toshikazu Kondo	A case of necrotizing fasciitis following intra-articular injections - Iatrogenic or spontaneous?	Leg Med (Tokyo) 2022; 54: 101989. doi: 10.1016/j.legalmed.2021.101989.	2022 年
Yumi Kuninaka Yuko Ishida, Akiko Ishigami, Mizuho Nosaka, Jumpei Matsuki, Haruki Yasuda, Ayumi Kofuna, Akihiko Kimura, Fukumi Furukawa, Toshikazu Kondo	Macrophage polarity and wound age determination,	Scientific Reports 2022 Nov 25;12(1) :20327. doi: 10.1038/s41598-022-24577-9.	2022 年 11 月
園村 真美 奥野 愛香、古川 福実	急速かつ広範囲に出現した顔面の囊腫性瘡瘡の 1 例	皮膚の科学 21: 91-97	2022 年 6 月

短報原著

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	発 行
Fukumi Furukawa	Autoinflammatory disease, Nakajo-Nishimura syndrome and further perspective	Trends in Immunotherapy. 2022: Volume 6 Issue 2, doi:10.24294/ti.v6.i2.1710	2022 年 10 月

分担執筆 著書

著 者	題 名	誌名・巻（号）：頁	発 行
古川 福実	蝶形紅斑および類似の症状を呈する疾患	今日の皮膚疾患治療指針 第5版、佐藤伸一、藤本 学、門野岳史、梶島健治編医学書院、49 - 52	2022 年

雑 報

著 者	題 名	誌名・巻（号）：頁	発 行
古川 福実	本部管理病院の泣き笑い	院長連盟通信 71（602号）：82-87	2022 年

論 説

著 者	題 名	誌名・巻（号）：頁	発 行
古川 福実	「隔離」ということ	大阪府病院協会ニュース、616:4-5	2022 年

解説 ネット

著 者	題 名	誌名・巻（号）：頁	発 行
古川 福実	疾患 ひょう疽 疾患 爪甲剥離症	medical note https://medicalnote.jp/diseases/	2022 年

記 録

著 者	題 名	誌名・巻（号）：頁	発 行
古川 福実	第 16 回和歌山県皮膚科医会医学奨励賞受賞記念講演	和歌山県皮膚科医会会誌 15:31-32	2022 年

Greeting

著 者	題 名	誌名・巻（号）：頁	発 行
Fukumi Furukawa	Message to Prof Seung-Chul Lee	Memorial of Prof Seung-Chul Lee Chonnam National University Medical School	2022 年

短 報

著 者	題 名	誌名・巻（号）：頁	発 行
Fukumi Furukawa	News About the Awarding of Master of Dermatology,	Trends in Immunotherapy https://systems.enpress-publisher.com/index.php/ti/announcement/view/220	2022 年

医療安全

機 関 誌

著 者	題 名	誌名・巻（号）：頁	発 行
中田 祐二	ME 機器の院内研修会の実際と開催のコツ・工夫 【除細動器】	Clinical Engineering Vol.33 No.7 p.647-654	2022 年 7 月

消化器内科

原 著

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	発 行
Naoki Kanda Yoshiro Izumi	A case of pseudomelanosis duodeni that disappeared after discontinuation of iron	Gastrointestinal Endoscopy; 97(3):597-598.	2023 年 3 月
Munehiro Ikeda Takashi Tamada, Risa Takebayashi, Gaku Okuno, Iori Yagura, Shohei Nakamori, Taishiro Matsumura, Takuto Yoshioka, Shizuka Kaneko, Naoki Kanda	Development of Fulminant Type 1 Diabetes Mellitus in the Course of Treatment with Atezolizumab for Hepatocellular Carcinoma: A Case Report	Internal Medicine 62 巻 12 号 p. 1775-1779	2022 年 10 月
Takuto Yoshioka Gaku Okuno, Yamamoto Y, Takebayashi R, Yagura I, Nakamori S, Matsumura T, Ikeda M,	A Rare Case of ARDS: Combination of G-CSF and Chemotherapy for Pancreatic Cancer	Annals of Gastroenterology, Liver & Pancreatic Diseases Vol. 2 page 1-7	2022 年 8 月

呼吸器外科

原 著

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	発 行
武田 翔 佐藤 澄、花岡 伸治	左肺手術時に発見された心膜全欠損症に対する心膜形成術の 1 例	胸部外科 76 巻 2 号 161-164. 2023	2023 年 2 月

循環器科

原 著

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	発 行
森 京子 平野 玄起、土居 裕幸、 木澤 隼、岡本 文雄、 大中 玄彦	老年期に心臓超音波で偶発的に診断された僧帽弁副組織の 1 例	超音波医学 (1346-1176) 49 巻 4 号 page 341-344	2022 年 7 月

整形

原 著

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	月 日
伊丹 康夫 長谷川 彰彦、清水 博之、 徳山 文人	一次修復可能な腱板断裂に対する鏡視下腱板修復術の治療成績 肩上方関節包再建術による補強を含めて	中部日本整形外科災害外科学会雑誌 65 (4) : 531-532	2022 年 7 月
Yasuo Itami Limpisvasti O, McGarry MH, Patel NA, Lin CC, Dooney T, Mihata T, Neo M, Lee TQ	Biomechanical Characterization of a New Locking Loop Stitch for Graft Fixation versus Krackow Stitch	Clin Orthop Surg. Epub DOI: 10.4055/cios22134	2023 年 3 月

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	月 日
Akihiko Hasegawa Mihata T, Fukunishi K, Itami Y, Uchida A, Neo M	Structural and clinical outcomes after superior capsule reconstruction using an atleast 6-mm-thick fascia lata autograft including intermuscular septum	J Shoulde Elbow Surg. 2023 Feb;32(2) e48-59. DOI: 10.1016/j.jse.2022.07.010	2023年3月

呼吸器内科

原 著

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	月 日
Nagata Kazuma Horie T, Chohnabayashi N, Jinta T, Tsugitomi R, Shiraki A, Tokioka F, Kadowaki T, Watanabe A, Fukui M, Kitajima T, Sato S, Tsuda T, Kishimoto N, Kita H, Mori Y, Nakayama M, Takahashi K, Tsuboi T, Yoshida M, Hataji O, Fuke S, Kagajo M, Nishine H, Kobayashi H, Nakamura H, Okuda M, Tachibana S, Takata S, Osoreda H, Minami K, Nishimura T, Ishida T, Terada J, Takeuchi N, Kohashi Y, Inoue H, Nakagawa Y, Kikuchi T, Tomii K. Am J Respir Crit Care MedTomii K.	Home High-Flow Nasal Cannula Oxygen Therapy for Stable Hypercapnic COPD: A Randomized Clinical Trial.	Am J Respir Crit Care Med2022 Dec 1;206(11):1326-1335	2022年12月
野溝 岳 山本 晴香、村山 恒峻、 深田 寛子、中村 保清、 北 英夫	当院におけるオンコマインDx Target TestマルチCDxの診断ま での時間とその結果について(会 議録)	肺癌(0386-9628)62巻6号 Page751	2022年11月
山本 晴香 野溝 岳、中村 保清、 深田 寛子、村山 恒峻、 北 英夫、豊原 功侍	食道狭窄を伴う悪性中皮腫に対 しニボルマブ、イピリムマブで の治療において部分奏功を認め た1例(会議録)	肺癌(0386-9628)62巻3号 Page246+I38:I43	2022年6月
大井 一成 伊藤 功朗、富井 啓介、 江村 正仁、遠藤 和夫、 杉田 孝和、長谷川 吉則、 高橋 憲一、北 英夫、 小嶋 徹、土谷 美知子、 山田 孝、福井 基成、 富岡 洋海、藤田 浩平、 中治 仁志、赤井 雅也、 西村 尚志、大塚 浩二郎、 安井 浩明、石田 直、 加持 雄介、寺田 悟、 濱尾 信叔、平井 豊博、 関西COVID-19研究チーム	レムデシビル/ステロイド療法の 本邦の新型コロナ肺炎に対する 有効性の検討(会議録)	日本呼吸器学会誌(2186- 5876)11巻増刊 Page260	2022年4月

著 者	題 名	誌名・巻（号）：頁	月 日
村山 恒峻 北 英夫、山本 晴香、 野溝 岳、深田 寛子、 中村 保清	COVID-19パンデミックが COPD患者の入院に与えた影響 についての検討(会議録)	日本呼吸器学会誌(2186- 5876)11巻増刊 Page200	2022年4月
林 康之 伊藤 功朗、小嶋 徹、 富井 啓介、中川 淳、 大塚 浩二郎、杉田 孝和、 福井 基成、井上 大生、 長谷川 吉則、安井 浩明、 藤田 浩平、石田 直、 伊藤 明広、北 英夫、 加持 雄介、土谷 美知子、 富岡 洋海、西村 尚志、 平林 正孝、遠藤 和夫、 江村 正仁、山本 舜悟、 塚尾 仁一、平井 豊博、 関西COVID-19研究チーム	クラスター解析による新型コロ ナウイルス患者の分類(会議録)	日本呼吸器学会誌(2186- 5876)11巻増刊 Page187	2022年4月
西岡 憲亮 伊藤 功朗、石田 直、 伊藤 明広、小嶋 徹、 富井 啓介、中川 淳、 大塚 浩二郎、杉田 孝和、 福井 基成、井上 大生、 長谷川 吉則、安井 浩明、 藤田 浩平、北 英夫、 加持 雄介、土谷 美知子、 富岡 洋海、平井 豊博、 平林 正孝、遠藤 和夫、 江村 正仁、山本 舜悟、 塚尾 仁一、赤井 雅也、 大井 昌寛、高橋 憲一、 山田 孝、中治 仁志、 白石 祐介、山添 正敏、 大木元 達也、細谷 和貴、 味水 瞳、寺田 悟、島 寛、 大井 一成、濱尾 信叔、 白田 全弘、林 康之、 田辺 直也	市中肺炎全体における新型コロ ナウイルス肺炎の位置付け 細菌性肺炎との比較による検討 (会議録)	感染症学雑誌(0387-5911)96巻 臨増 Page112	2022年3月
林 康之 伊藤 功朗、富井 啓介、 江村 正仁、杉田 孝和、 長谷川 吉則、北 英夫、 小嶋 徹、土谷 美知子、 福井 基成、富岡 洋海、 藤田 浩平、西村 尚志、 大塚 浩二郎、安井 浩明、 石田 直、加持 雄介、 中川 淳、井上 大生、 平井 豊博、寺田 悟、 濱尾 信叔、橋本 健太郎、 前谷 知毅、山添 正敏、 白石 祐介、大木元 達也、 細谷 和貴、味水 瞳、島 寛、 白田 全弘、西岡 憲亮、 塚尾 仁一、大井 昌寛、 伊藤 明広、田辺 直也	COVID-19肺炎におけるプロカ ルシトニン測定は予後予測に有 用か(会議録)	感染症学雑誌(0387-5911)96巻 臨増 Page93	2022年3月

著 者	題 名	誌名・巻（号）：頁	月 日
伊藤 功朗 石田 直、伊藤 明広、 遠藤 和夫、平林 正孝、 江村 正仁、山本 舜悟、 小嶋 徹、塚尾 仁一、 富井 啓介、中川 淳、 大塚 浩二郎、赤井 雅也、 大井 昌寛、杉田 孝和、 福井 基成、井上 大生、 長谷川 吉則、高橋 憲一、 安井 浩明、藤田 浩平、 北 英夫、加持 雄介、 土谷 美知子、富岡 洋海、 山田 孝、寺田 悟、 中治 仁志、西村 尚志、 大井 一成、濱尾 信叔、 白田 全弘、西岡 憲亮、 林 康之、山添 正敏、 白石 祐介、大木元 達也、 細谷 和貴、味水 瞳、島 寛、 長谷川 浩一、田辺 直也、 平井 豊博	COVID-19肺炎の臨床像 多施設共同研究から見えてきたもの (会議録)	日本化学療法学会雑誌(1340-7007)70巻2号 Page275-276	2022年3月

《講 演》

MSW

シンポジウム

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
梅本 豊・榎本 絵里子（藍野病院）、阿閉 誠一（ほうせんか病院）、志水 陽子（高槻赤十字病院）	医療と介護との連携～各病院の機能・特徴を知る～ ～在宅のケアマネジャーとの連携など～	天兆園地域包括支援センター および清溪・山手台・忍頂寺 地域包括支援センター合同研修会	大 阪	2022年 4月28日

薬 剤 部

一般演題

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
濱武 清範 小西 史子、野間 敏也、 橋本 仁美、松田 ちひろ、 福井 美礼、仲 忠士、 美和 孝之、小島 一晃、 北 英夫	当院におけるニボルマブ＋イ ピリムマブ併用療法の実態調 査	日本臨床腫瘍薬学会学術大会 2023	名古屋	2023年 3月1日
宮西 将之 奥村 優介、中西 輝、 松本 弘誠、仲 忠士、 美和 孝之、小島 一晃、 北 英夫	メトホルミン服用中の COVID-19患者に対して介 入した1症例	第58回 日本赤十字社医学 会総会	旭 川	2022年 10月1日

講 演

濱武 清範	消化器レジメン#1	高槻赤十字病院 第4回化学 療法レジメン研修会	WEB開催	2022年 6月29日
小島 一晃	病院薬剤師の魅力徹底解説講 座	薬学生のためのサマーイン ターシップ・業界研究セミ ナー	大 阪	2022年 8月14日
松本 弘誠	知っておきたい新興感染症	高槻赤十字病院 市民公開講 座	高 槻	2022年 11月19日
濱武 清範	進化するがん化学療法	高槻赤十字病院 市民公開講 座	高 槻	2022年 11月19日
岩井 真里絵	薬剤師としてのコミュニ ケーション	第3回 共感を生む為の対話 コミュニケーション	大 阪	2022年 11月23日
小西 史子	良好な連携充実加算取得に向 けて	三島医療圏 がん専門・認定 薬剤師の会	WEB開催	2022年 12月6日
小島 一晃	一般・急性期病院の魅力	大阪府病院薬剤会 学生向け 合同研究会	WEB開催	2022年 12月11日
濱武 清範	消化器レジメン#2	高槻赤十字病院 第5回化学 療法レジメン研修会	WEB開催	2022年 12月13日
小島 一晃	抗血栓薬（DOAC）	MISHIMA Pharmacy Director Seminar	WEB開催	2022年1月 20日

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
小島 一晃	トラスツズマブデルクステカンの胃がんガイドラインの位置づけと臨床成績	薬剤師がん診療Webセミナー	WEB開催	2023年 1月25日

血液内科

一般演題

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
丹羽 諒太郎 坂本 宗一郎、恩田 佳幸、 岡田 睦実、池田 宗弘、 神田 直樹、安齋 尚之	ホジキンリンパ腫に対して臍帯血移植施行後に致死的経過を辿った胆管消失症候群の1例	第44回 日本造血・免疫細胞療法学会総会	横 浜	2022年 5月12～ 14日
丹羽 諒太郎 恩田 佳幸、岡田 睦実、 前迫 善智、安齋 尚之	急性骨髄性白血病患者における致死的経過をたどった播種性トリコスボロン感染症の1例	第84回日本血液学会学術集会 JSH2022	福 岡	2022年 10月14～ 16日
岡田 睦実 安齋 尚之	当院における急性白血病に対する白血球アフェレシスの有用性の検討(会議録)	第43回日本アフェレシス学会学術大会	金 沢	2022年 11月11～ 12日
丹羽 諒太郎 恩田 佳幸、岡田 睦実、 前迫 善智、安齋 尚之	ルキソリチニブが有効と考えられたTAFRO症候群の1例	第117回 近畿血液学地方会	神 戸	2022年 11月26日
恩田 佳幸 丹羽 諒太郎、坂本 宗一郎、 岡田 睦実、前迫 善智、 安齋 尚之	70歳以上の高齢者骨髄系腫瘍に対するFlu+BU+L-PAMを前処理にした同種移植の治療成績の解析	第45回 日本造血・免疫細胞療法学会総会	名古屋	2023年 2月10～ 12日

外科

映像による私の手術手技

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
平松 昌子	食道癌手術における、回結腸動静脈を温存した有茎回結腸再建術	第122回日本外科学会	熊 本	2022年 4月15日

研修医の発表セッション

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
矢子 昌美 川口 佳奈子、園村 純、 虫明 修、恒松 一郎、 小林 稔弘、平松 昌子	腸閉塞を引き起こした再発乳癌の腹腔播種の2例	第122回日本外科学会	熊 本	2022年 4月15日
矢子 昌美 川口 佳奈子、園村 純、 虫明 修、恒松 一郎、 小林 稔弘、平松 昌子	乳腺腺様嚢胞癌の1例	第84回日本臨床外科学会	福 岡	2022年 11月24日

E-poster

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
小林 稔弘 川口 佳奈子、平松 昌子	CDK4/6阻害剤2剤の治療効果と末梢血+B377:J377パラメータ（好中球・リンパ球比、リンパ球絶対数）との関連性	第30回日本乳癌学会	横 浜	2022年 6月30～ 7月2日
川口 佳奈子 小林 稔弘、平松 昌子	CDK4/6阻害剤投与中の再発乳癌患者における血清KL-6値と治療効果の関連性	第30回日本乳癌学会	横 浜	2022年 6月30～ 7月2日

一般講演

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
サンフォード 舞子 平松 昌子、小林 稔弘、 恒松 一郎、川口 佳奈子、 園村 純	急速に肉眼形態が変化し、術前診断が困難であった胃GISTの1例	第33回近畿GIST研究会	大 阪	2022年10 月5日
有馬 純 李 相雄、・・・平松 昌子	新たな変異型を確認した家族性多発性GISTの1例	第33回近畿GIST研究会	大 阪	2022年10 月5日
川口 佳奈子	当院での乳管腺葉区域切除術	第13回大阪医科薬科大学（OMPU）関連施設手術手技研究会	大 阪	2023年3月 25日

一般演題（示説）

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
虫明 修 平松 昌子、小林 稔弘、 恒松 一郎、 サンフォード 舞子、 川口 佳奈子、園村 純	外科的切除を施行し得た後腹膜脂肪肉腫の2例	第84回日本臨床外科学会	福 岡	2022年 11月25日
園村 純 平松 昌子、小林 稔弘、 恒松 一郎、 サンフォード 舞子、 川口 佳奈子、虫明 修	単孔式腹腔鏡下手術にて解除したS状結腸間膜窩ヘルニアによる絞扼性イレウスの1例	第84回日本臨床外科学会	福 岡	2022年 11月26日

神経内科

一般演題

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
中川 朋一	最近のてんかんの話題	高槻赤十字病院 地域連携の会	京 都	2023年 2月28日

看護部

一般演題

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
今戸 美奈子 北 英夫	COPD患者における在宅酸素療法導入後初回外来時からのセルフマネジメント支援の評価	第32回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会	千 葉	2022年 11月12日

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
高橋 晶子 秋山 由衣	認知症出前研修実践報告	第58回日本赤十字社医学会 総会	北海道	2022年 10月6日

シンポジウム

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
今戸 美奈子	高齢者に対する共同意思決定 支援：慢性疾患看護専門看護師 からの活動報告	日本老年看護学会 専門看護 師・認定看護師 交流会	WEB開催	2023年 2月12日
今戸 美奈子	ハイフローセラピー ～院内 から在宅へ～ 看護師の立場 から	第30回大阪呼吸ケア研究会	大 阪	2023年 3月4日
余谷 暢之・桑田 美代子 笹月 桃子、宮本 二郎、 伊藤 麻衣、吉岡 佐知子	言葉で意向を伝えることが難 しい患者の意思決定について考 える～小児と高齢者における 意思決定の類似点と違い～	第27回日本緩和医療学会学 術集会	神 戸	2022年 7月1日

形成外科

一般演題

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
田嶋 晴香 櫛田 哲史	左大腿部に発生したSFTの一 例	第132回関西形成外科学会学 術集会	大 阪	2022年 11月26日

検査部

一般演題

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
山田 桂実 荒木 孝一郎、山本 翔、 廣田 智美、渡邊 千尋	食道EUS-FNAにより診 断した上皮型中皮腫の一例	第61回日本臨床細胞学会秋 期大会	宮 城	2022年 11月5日
奥洞 智太 扇田 裕允、本橋 理雅	急変時に採取された血液 培養よりStaphylococcus arugenteusを検出した一例	第61回日臨技近畿支部医学 検査学会	兵庫県	2022年 12月4日
扇田 裕允 奥洞 智太、本橋 理雅	当院におけるSARS-CoV-2 PCRの検査体制について	第71回日本医学検査学会	WEB開催	2022年 5月21日～ 22日
扇田 裕允 奥洞 智太、本橋 理雅	SARS-CoV-2 PCR検査の キャリーオーバーコンタミ ネーションによる偽陽性を経 験して	第71回日本医学検査学会	WEB開催	2022年 5月21日～ 22日
吉田 桂 坂口 絵美、駒井 祐子、 中森 翔平、神田 直樹、 森 京子、北 英夫	コントラスト心エコー検査に て早期に診断できた肝肺症候 群の一例	第23回日赤検査学術大会	京 都	2022年 9月11日
亀山 雅貴 古川 理奈、森 京子、 木澤 隼、大中 玄彦	血行動態の変化により左室流 出路の圧較差増大を認めた僧 帽弁副組織の1例	一般社団法人日本心エコー図 学会第33回学術集会	鳥 取	2022年 4月9日
古川 理奈 亀山 雅貴、森 京子、 土居 裕幸、木澤 隼、 大中 玄彦	僧帽弁逸脱症および心尖部瘤 を合併した肥大型心筋症の1 例	一般社団法人日本心エコー図 学会第33回学術集会	鳥 取	2022年4月 9日

皮膚科

受賞記念講演 令和4年度 Master of Dermatology (Maruho)

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
古川 福実	ループスエリテマトーデスの皮膚病変に対する発症機序の解明と治療方法の確立に関する一連の研究	第121回日本皮膚科学会総会	京 都	2022年 6月2日

一般演題

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
古川 福実 奥野 愛香、橋本 典夫、 金村 誠哲、秋山 由衣、 岸 恵美	高槻赤十字病院緩和ケア病棟における皮膚悪性腫瘍の死亡退院例	第78回日本皮膚科学会高知 地方会	高知市	2022年 4月2日～ 3日
園村 真美 奥野 愛香、古川 福実	皮膚生検より診断に至った肺クリプトコッカス症の1例	第121回日本皮膚科学会総会	京都市	2022年 6月2日
園村 真美 島本 純子、古川 福実、 六車 光英	陰嚢内硬化性脂肪肉芽腫の1例	第495回日本皮膚科学会大阪 地方会	WEB開催	2023年 2月4日
Yumiko Hashizume Fukumi Furukawa, Takao Tachibana, Toshikazu Kondo	A retrospective study on forensic autopsy cases with pressure ulcers	The 12th Asian Dermatological Congress,	東 京	2022年 8月4日～ 5日
大迫 彩乃 大江 秀一、荒金 布真、 爲政 大幾、園村 真美	認知症のため治療に難渋した左母指メルケル細胞癌の1例	第115回近畿皮膚科集談会兼 第492回日本皮膚科学会大阪 地方会	大 阪	2022年 7月10日
村上 能庸 吾妻 正章、馬場 きみ江、 谷口 雅彦、古川 福実	柑橘ジャバラ果皮成分による黄色ブドウ球菌細胞壁成分誘導性炎症反応の抑制	日本生薬学会第68回年会	愛 媛 (松山)	2022年 9月10日～ 11日
佐賀 昭子 平松 晶子、古川 福実、 江口 英希、松本 紘誠、 奥洞 智太、三明 葵	COVID-19に対する病院を挙げての取り組み—持続可能な体制構築—	第58回日本赤十字社医学会 総会	北海道 (旭川)	2022年 10月6日～ 7日
村上 能庸 鳶 幸生、馬場 きみ江、 谷口 雅彦、古川 福実	オゾン水による黄色ブドウ球菌由来有害物質の失活	日本薬学会第143年会	北海道 (札幌)	2023年 3月25日～ 28日

特別講演

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
古川 福実	コロナ禍でのマスクとニキビ	第11回日本痤瘡研究会学術 大会	東 京	2022年 8月7日
古川 福実	膠原病と光線過敏Up Date	第5回 日本フォトダーマト ロジー学会学術大会	東 京	2022年 11月18日
古川 福実	皮膚ループスエリテマトーデスの治療、Otsuka Web Conference in Miyagi	Otsuka Web Conference in Miyagi	宮 城 (仙台)	2022年 7月14日

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
古川 福実	心と肌の健康 潤いの肌を保つために10年若さを保つ秘伝はあるか	真如苑講演会	大 阪	2022年 7月18日
古川 福実	ヒドロキシクロロキン物語	浜松皮膚科 SLE/CLE連携講演会	静 岡 (浜松)	2022年 9月7日
古川 福実	心と肌の健康 潤いの肌を保つために10年若さを保つ秘伝はあるか	北広島病院職員研修会	広 島	2022年 10月21日
古川 福実	皮膚科医がアホにならないための塗布巡礼三都ものがたり	外用剤プロフェッショナルセミナー	愛 知 (名古屋)	2022年 11月25日
古川 福実	My Road Leads to Derma Dream	Dermatology Academic Seminar	岡 山	2022年 12月10日

医療安全

一般演題

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
中田 祐二	安全な中心静脈カテーテル挿入の取決めと報告書作成の試み	第58回日本赤十字社医学会総会	北海道 (旭川)	2022年 10月6日

緩和

一般演題

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
阿部 博昭	がん患者のQOL向上のために用いたい視点～ビックデータ解析から考えるPAMORAの有用性～	れ°オト`鎮痛薬の適正使用を考える会Ⅱ	大 阪	2022年 4月8日
式見 良博	胃がん術後の食事療法	第26回三島圏域がん研究会	WEB開催	2022年 5月26日
橋本 典夫	全人的苦痛に対する緩和ケア	市立ひらかた病院緩和ケア研修会	大 阪 (枚方)	2022年 6月25日
岡村 宏美	同種幹細胞移植患者に対する臨床心理士の介入 『あそび』の持ち味をもつ患者への関わり	第27回 日本緩和医療学会学術大会	兵 庫 (神戸)	2022年 7月2日
谷向 仁	身体疾患患者に見られる様々な認知機能障害 がん医療を中心に～	第32回大阪緩和医療フォーラム	WEB開催	2022年 7月23日
橋本 典夫	全人的苦痛に対する緩和ケア	箕面市立病院緩和ケア研修会	大 阪 (箕面)	2022年 12月17日

消化器内科

一般演題

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
神田 直樹	消化管腫瘍の内視鏡治療 TOPICS	第7回高槻茨木連携WEB会		2022年 12月15日
神田 直樹	大腸がんの内視鏡治療	第3回三島医療圏がん診療連携拠点病院合同市民公開セミナー	大 阪	2022年 11月26日
吉岡 拓人	安全な人工胸腹水作成下 RFAの導入について～15G Gangi-HydroGuardの使用経験～	第1回日本アブレーション研究会		2023年 2月5日
吉岡 拓人	当院における肝性脳症の診断・治療～改訂ガイドラインを踏まえた治療戦略～	大阪WEBカンファレンス	WEB開催	2023年 3月2日
池田 宗弘	北摂地区IBD診療を考える	IBD診療と医療連携について～症例提示を例示して逆紹介のタイミングを検討～		2022年 6月21日
池田 宗弘	当院における内視鏡治療～高齢者早期胃癌を中心に～	Oncology Total Care Seminar		2023年 2月22日
松村 大志郎 奥野 岳、中森 翔平、 池田 宗弘、神田 直樹	当院のcolonoscopyトレーニングにおける病変サイズ別 Adenoma detection rate の研究による上昇効果の検討	第109回日本消化器内視鏡学会 近畿支部例会		2022年 11月5日
中森 翔平	便秘治療の現況～新規治療薬の使い分け	三島消化器疾患WEBセミナー	WEB開催	2022年 6月8日
武林 里沙	肺癌化学療法中にG-CSFが誘因と考えられ急性呼吸促進症候群(ARDS)を発症した1例	第238回近畿地方会		2022年 12月10日
山本 悠生 中森 翔平、吉岡 拓人、 神田 直樹、山本 晴香、 北 英夫	食道狭窄を来した悪性中皮腫 食道浸潤をEUS-FNAにて診断できた1例	第109回 日本消化器内視鏡学会 近畿支部例会	京 都	2022年 11月5日
蟻本 紘平 山口 真理子、吉岡 拓人、 山本 悠生、武林 里沙、 奥野 岳、矢倉 伊織、 中森 翔平、松村 大志郎、 池田 宗弘、玉田 尚、 神田 直樹	食道癌化学放射線療法後にダビガラン起因性食道潰瘍による高度食道狭窄を来した1例	第109回 日本消化器内視鏡学会 近畿支部例会	京 都	2022年 11月5日
吉岡 拓人 池田 宗弘、玉田 尚、 神田 直樹	肝炎ウイルスコントロール下における課題へのアプローチ 当院におけるB型肝炎ウイルス再活性化の背景因子の検討	第116回日本消化器内視鏡学会 近畿支部例会		2022年 2月5日

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
山添 沙希 中西 裕貴、内海 貴裕、 我妻 信和、樋口 浩和、 黄 宣輔、奥野 岳、 水越 健太、山川 剛、 夜久 大晃、熊谷 健、 平松 由紀子、二階堂 光洋、 清水 孝洋、横山 顕礼、 妹尾 浩	コンピュータ診断支援システムが見逃しを防いだ大腸ポリープの検討	第116回日本消化器内視鏡学会 近畿支部例会		2022年 2月5日

シンポジウム

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
吉岡 拓人 中森 翔平、松村 大志郎、 池田 宗弘、神田 直樹	当院の肝門部領域に対するステンティング現況	第109回日本消化器内視鏡学会 近畿支部例会	京 都	2022年 11月5日

経営企画課

一般演題

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
大川 健	コロナ禍における本部管理病院としての経営改善と職員教育	第58回日本赤十字社医学会 総会	北海道	2022年 10月6日

呼吸器外科

一般演題

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
武田 翔 佐藤 澄、花岡 伸治	右気胸を契機に発見されたペースメーカーリードによる右房壁心膜穿孔の一例	第39回呼吸器外科学会	東 京	2022年 5月20日
豊原 功侍 佐藤 澄、花岡 伸治	解剖学的異常血管を有する肺癌に対して胸腔鏡下で上中葉を一括切除した一例	第39回呼吸器外科学会	東 京	2022年 5月20日

整形外科

シンポジウム（主題およびパネルディスカッション）

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
伊丹 康夫 長谷川 彰彦、清水 博之、 徳山 文人	一次修復可能な腱板断裂に対する鏡視下腱板修復の治療成績 肩上方関節包再建術による補強を含めて	第138回 中部日本整形外科災害外科学会・学術集会	名古屋市	2022年 4月8日

一般演題

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
徳山 文人 伊丹 康夫、高島 雅俊、 永田 大貴	PLIFの隣接椎間への除圧術付加が隣接椎間障害（ASD）発生に及ぼす影響についての検討	第139回 中部日本整形外科災害外科学会・学術集会	大 阪	2022年 10月29日
伊丹 康夫 長谷川 彰彦	肩上方関節包再建術後のスポーツおよび肉体労働復帰に関する検討	第49回 日本肩関節学会・学術集会	横浜市	2022年 10月7日

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
伊丹 康夫 高島 雅俊、永田 大貴、 徳山 文人	肩関節前方脱臼に伴う方上方 懸垂複合体重複損傷の1例	第139回 中部日本整形外科 災害外科学会・学術集会	大阪市	2022年 10月28日
Yasuo Itami Akihiko Hasegawa	Return to Sports and Physical Labor After Arthroscopic Superior Capsule Reconstruction for Irreparable Rotator Cuff Tears	The Combined Meeting of TOSSM & APKASS 2022	Pattaya, Thailand	2022年 9月30日
Yasuo Itami Akihiko Hasegawa	Return to Sports and Physical Labor After Arthroscopic Superior Capsule Reconstruction for Irreparable Rotator Cuff Tears	The Combined Meeting of TOSSM & APKASS 2022	Seoul, Korea	2023年 3月31日

呼吸器科

座 長

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
北 英夫	Innovative Diagnosis and treatment of Leaders Circle			2022年 1月12日
北 英夫	『間質性肺炎と人工知能 (AI) の現状と展望』	第8回 Clinical Forum of Interstitial Lung Disease		2022年 5月20日
北 英夫		Web Semina in 阿武山	WEB開催	2022年 9月21日
北 英夫		重症喘息Symposium in 高 槻	大 阪 (高槻)	2022年 11月4日

座長演者

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
北 英夫	Nucala Severe Asthma Multi-Network Conference 0320			2022年 3月20日
北 英夫	『喘息治療の現状と課題』	北摂 ASTHMA Seminar		2022年 5月21日

講 演

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
北 英夫	悪性胸膜中皮腫・肺癌複合免 疫療法セミナー		大 阪 (高槻)	2022年 2月3日
北 英夫	テリルジーセミナー		西神戸	2022年 3月31日
北 英夫	バイオ製剤100例の使用経 験からMepolizumabの可能 性を再考する ～在宅自己 注射による新たな治療戦略～	GSK Severe Asthma Seminar	WEB開催	2022年 5月27日

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
野溝 岳		悪性胸膜中皮腫・肺癌複合セミナー	大 阪 (高槻)	2022年 2月3日

講 師

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
北 英夫	Severe Asthma Seminar 基礎と臨床から			2022年 3月3日
北 英夫	好酸球	Web Symposium	WEB開催	2022年 9月27日
野溝 岳		Immuno-Online Seminar 2022		2022年 10月12日
野溝 岳		第4回 Next Generation NSCLC Conference		2022年 11月25日
野溝 岳		TXI治療のstrategy		2022年 12月8日
野溝 岳		Awareness Lung cancer Knowledge CONFERENCE		2022年 12月9日
北 英夫	Novartis 社内講演会三島地区の吸入指導連携の取り組み～コロナ禍での吸入指導の現状～			2022年 4月20日
北 英夫	『コロナ禍での吸入指導と喘息咳嗽治療の新展開』	茨木市薬剤師会		2022年 6月18日
北 英夫	特別講演：慢性呼吸不全診療の新展開 ～在宅ハイフローセラピーのエビデンスと実際～	第29回医療でつなぐ地域連携ネットワーク（SOCC）		2022年 8月20日
北 英夫	『喘息治療のパラダイムシフト』～臨床経験から見えてきたテリルジールのポジショニング～	北摂Asthma Web講演会		2022年 8月27日
北 英夫	難治性の慢性咳嗽について	杏林製薬 社内Web 勉強会		2022年 4月25日

演 者

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
北 英夫	北摂Asthma Meeting web			2022年 3月26日
北 英夫	Sanofi 社内講演会 新規作用機序の薬剤を踏まえた気管支喘息の治療戦略～当院でのdupilumab使用経験の統報			2022年 4月19日

Group Discussion ファシリテーター

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
北 英夫	喘息診療の多職種連携を考える	喘息吸入療法のさらなる向上に向けて	大 阪	2022年 10月15日
北 英夫	三島医療圏における吸入指導連携の取り組み	吸入指導連携と喘息治療		2022年 10月20日

パネリスト

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
野溝 岳		AstraZeneca Lung Cancer Summit 2022	WEB開催	2022年 2月16日
野溝 岳		第6回がん免疫療法実践セミナー		2022年 6月24日
野溝 岳		高槻ポータルラザWebセミナー		2022年 8月5日
野溝 岳		Small Cell Lung Cancer Academy		2022年 12月16日

司 会

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
山本 晴香		アンダープライベートグループ内におけるオンライン配信		2022年 3月5日
山本 晴香		Current Decision Support オンライン勉強会40		2022年 7月19日
山本 晴香		CDS オンライン勉強会		2022年 8月26日
山本 晴香		CDS オンライン勉強会		2022年 11月21日
山本 晴香		CDS オンライン勉強会		2022年 2月18日

令和4年度 病院年報

発行日 令和6年3月

発行者 **高槻赤十字病院**

院長 玉田 尚

〒569-1096

高槻市阿武野一丁目1番1号

☎ (072) 696-0571

編集者 経営企画課

印刷所 株式会社 一心社